

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第550集

ころも せき みち

衣の関道遺跡第1・2次発掘調査報告書

一関遊水地事業衣川左岸築堤工事関連遺跡発掘調査

2010

国土交通省東北地方整備局
岩手河川国道事務所
(財)岩手県文化振興事業団

衣の関道遺跡第1・2次発掘調査報告書

一関遊水地事業衣川左岸築堤工事関連遺跡発掘調査

序

岩手県には、旧石器時代から全時代を通じて数多くの遺跡、埋蔵文化財があります。これら先人が残した文化遺産を保存し、後世に伝えていくことは、私たち県民に課せられた重大な責務であります。その一方で地域開発などの社会資本の充実も欠くことのできない題目であります。

このような埋蔵文化財の保護、保存と開発との調和も今日的な課題であり、当(財)岩手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センターの創立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、記録保存する措置をとって参りました。

本書は、一関遊水地事業に関連して平成17年度と20年度に行った衣の関道遺跡の調査成果をまとめたものであります。この調査により衣川の北岸に12世紀の遺跡が存在することが明らかになり、奥州藤原氏の活躍した時代の都市平泉を考えるうえで貴重な資料を提供することが可能となりました。

この調査成果が、本書とともに広く活用され、考古学研究に寄与すると同時に埋蔵文化財に対する理解と关心をより深めることに役立つこと切に願う次第です。

最後になりましたが、これまでの発掘調査および報告書作成に際し、ご援助とご協力を賜りました国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所・奥州市（旧衣川村）教育委員会をはじめとする多くの関係諸機関、関係各位に心より感謝申し上げます。

平成22年2月

財団法人 岩手県文化振興事業団

理事長 武田牧雄

例　　言

- 1 本書は、岩手県奥州市衣川区下衣川字閑谷起ほかに所在する衣の関道遺跡において、平成17年度に実施した第1次発掘調査、ならびに平成20年度に実施した第2次発掘調査の成果を収録したものである。
- 2 調査は・閑遊水地事業衣川左岸築堤工事に伴い、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課の調整を経て、国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所の委託を受けた(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した緊急発掘調査である。
- 3 衣の関道遺跡は岩手県遺跡登録台帳番号NE65-2351に該当し、調査略号はKSM-05・KSM-08である。
- 4 第1次調査の発掘調査面積は14,800m²、発掘調査期間は平成17年4月11日～11月14日、整理作業期間は平成17年11月1日～平成18年3月31日である。発掘調査および整理作業は、福島正和・須原拓が担当した。
- 5 第2次調査の発掘調査面積は7,600m²、発掘調査期間は平成20年4月11日～7月22日、整理作業期間は平成20年11月1日～3月31日である。発掘調査および整理作業は、村上拓・駒木野智寛が担当した。
- 6 本書の執筆はIを国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所、II～IVを福島・須原、Vを村上が行った。編集・校正是II～IVを福島、その他を村上が行った。
- 7 第1次調査に際する航空写真撮影は、東邦航空株式会社に、遺構実測図はすべてデジタルカメラによる撮影をおこない作図を(株)セビアスに、池状遺構の花粉分析はパリノ・サーヴェイ(株)にそれぞれ業務委託した。第2次調査では、放射性炭素年代測定を稼加速度器研究所に、火山灰同定分析と炭化種実同定分析をパリノ・サーヴェイ㈱に委託した。
- 8 発掘調査においては、国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所、衣川村教育委員会(現奥州市衣川区)、近隣住民の方々のご理解とご協力をいただいた。
- 9 発掘調査および報告書作成にあたり、以下の方々のご教示をいただいた。(敬称略)
足立佳代、飯村均、五十嵐和博、伊藤博幸、稻野祐介、井上雅孝、岩渕耐、岩田貴之、入間田宣夫、及川司、及川真紀、大石直正、大澤伸啓、岡田茂弘、岡田清一、岡陽一郎、鹿野里絵、河原純之、菅野成寛、工藤雅樹、熊谷公男、小岩直人、国生尚、斎藤邦雄、齊藤利男、坂井秀弥、佐川正敏、佐藤嘉広、菅原計二、杉本宏、鈴木江利子、鈴木靖民、瀬川司男、高橋一浩、高橋千晶、田中哲雄、中井淳史、中村英俊、仁木宏、沼山源喜治、平川南、藤本史子、本澤慎輔、本堂寿一、松本秀明、水澤幸一、宮本長二郎、本中真、百瀬正恒、八重樫忠郎、八木光則、吉田歓、吉田亮。
- 10 本書では、国土地理院発行「1:50,000」地図を使用した。
- 11 検出遺構の土層注記における土色および出土土器の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局・財團法人日本色彩研究所色票監修『新版 標準土色帖』2002年度版に準拠した。
- 12 調査で出土した遺物および実測図と写真等の各種記録の一切は、岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。
- 13 本書発行以前に現地説明会、各種報告会等で調査成果を公表したが、公表内容と本書記載事実との不一致、相違に関しては整理作業期間を経ている本書をもって正とする。

目 次

I 調査に至る経過	1
II 遺跡の立地と環境	
1 地理的環境	2
2 歴史的環境	2
III 調査の方法	
1 発掘調査の方法	8
2 整理作業の方法	8
3 本書記載の方法	8
IV 第1次調査(平成17年度)の成果	
1 基本層序と遺構配置	9
2 検出遺構	13
3 出土遺物	123
4 衣の関道遺跡の古植生について	154
5 まとめ	159
V 第2次調査(平成20年度)の成果	
1 調査要項	161
2 野外調査と室内整理	161
3 層序と微地形	169
4 調査成果	176
5 まとめ	217
附編1 放射性炭素年代測定(AMS法)	222
附編2 火山灰同定分析	226
附編3 炭化種実同定分析	230
報告書抄録	323

図版目次

〈第1次調査〉

第1図 遺跡の位置	1	第41図 大形柱穴群	83
第2図 地形分類	3	第42図 SN01~04カマド状遺構・焼土遺構	84
第3図 周辺の遺跡および伝承地	4	第43図 SN05~07カマド状遺構・焼土遺構	85
第4図 遺跡全体図	10	第44図 SN08~14カマド状遺構・焼土遺構	86
第5図 基本層序断面	11	第45図 SZ01~06中・近世墓	89
第6図 SB01掘立柱建物	14	第46図 SG01池状遺構	92
第7図 SB02掘立柱建物	15	第47図 SG01池状遺構東側	93
第8図 SB03掘立柱建物	16	第48図 SG01池状遺構・SD02~04断面	94
第9図 SB04掘立柱建物	18	第49図 SG01池状遺構断面図	95
第10図 SB05掘立柱建物	19	第50図 SM01テラス状遺構平面	99
第11図 SB06掘立柱建物	20	第51図 SM01テラス状遺構平面	100
第12図 SB07掘立柱建物	22	第52図 遺跡分割図	101
第13図 SB08・09掘立柱建物	23	第53図 分割図1	102
第14図 SB10掘立柱建物	25	第54図 分割図2	103
第15図 SB11掘立柱建物	26	第55図 分割図3	104
第16図 SB12掘立柱建物	27	第56図 分割図4	105
第17図 SB13掘立柱建物	29	第57図 分割図5	106
第18図 SB14・15掘立柱建物	30	第58図 分割図6	107
第19図 SB16掘立柱建物	32	第59図 分割図7	108
第20図 SB17掘立柱建物	33	第60図 分割図8	109
第21図 SB18・19掘立柱建物	35	第61図 分割図9	110
第22図 SB20・21掘立柱建物	36	第62図 分割図10	111
第23図 SB22掘立柱建物	38	第63図 分割図11	112
第24図 SB23掘立柱建物	39	第64図 分割図12	113
第25図 SB24掘立柱建物	40	第74図 出土遺物（かわらけ1）	123
第26図 SB25・26掘立柱建物	42	第75図 出土遺物（かわらけ2）	125
第27図 SB27・28掘立柱建物	44	第76図 出土遺物（かわらけ3）	127
第28図 SB29・30掘立柱建物	45	第77図 出土遺物（古代土器1）	129
第29図 SK01~08土坑	48	第78図 遺構（SP、SD、SK、SG）	
第30図 SK09~19土坑	52	出土国産陶器1	130
第31図 SK20~28土坑	55	第79図 遺構（SM、SZ）出土国産陶器2	133
第32図 SK29~40土坑	59	第80図 包含層出土国産陶器3	135
第33図 SK41~52土坑	63	第81図 遺構外出上国産陶器4	137
第34図 SK53~62土坑	66	第82図 出土遺物（中国産磁器）	138
第35図 SK63~72土坑	69	第83図 出土遺物（中・近世陶磁器）	139
第36図 SK73~84土坑	74	第84図 出土遺物（石製品1）	141
第37図 SK85~86土坑	75	第85図 出土遺物（石製品2）	142
第38図 SD07~08溝	77	第86図 出土遺物（木製品）	143
第39図 SD09・10溝	78	第87図 出土遺物（金属製品）	144
第40図 SD11・12溝	79	第88図 出土遺物（礫石器）	145

〈第2次調査〉

第II-1図 衣の関道遺跡第2次調査図		162
全体図	
第II-2図 衣の関道遺跡第2次調査		
分割図1	163
第II-3図 衣の関道遺跡第2次調査		
分割図2	164
第II-4図 衣の関道遺跡第2次調査		
分割図3	165
第II-5図 衣の関道遺跡第2次調査		
分割図4	166
第II-6図 衣の関道遺跡第2次調査		
分割図5	167
第II-7図 衣の関道遺跡第2次調査		
分割図6	168
第II-8図 基本土層断面(1)	170
第II-9図 基本土層断面(2)	171
第II-10図 基本土層断面(3)	172
第II-11図 基本層序模式図	173
第II-12図 調査区内の微地形	174
第II-13図 堆積過程・地形変遷模式図	175
第II-14図 建物跡(1)	182
第II-15図 建物跡(2)	183
第II-16図 建物跡(3)	184
第II-17図 建物跡(4)	185
第II-18図 建物跡(5)	186
第II-19図 建物跡(6)	187
第II-20図 建物跡(7)	188
第II-21図 肇穴状遺構SI II 01と土坑群(1)	193
第II-22図 肇穴状遺構SI II 01と土坑群(2)	194
第II-23図 土坑	195
第II-24図 カマド状遺構(1)	199
第II-25図 カマド状遺構(2)、溝跡	200
第II-26図 出土遺物(1)	212
第II-27図 出土遺物(2)	213
第II-28図 出土遺物(3)	214

表 目 次

〈第1次調査〉

第1表 柱穴一覧	114	第2表 遺物観察表(土器・陶磁器)	146
----------	-------	-----	-------------------	-------	-----

〈第2次調査〉

第II-1表 第2次調査 柱穴一覧表	201	第II-3表 第2次調査 遺物一覧	215
第II-2表 新旧遺構名対応表	210			

写真図版目次

〈第1次調査〉

写真図版1 遠景	234	写真図版12 SB07~09	245
写真図版2 基本層序断面	235	写真図版13 SB10~12	246
写真図版3 SG01(1)	236	写真図版14 SB13~15	247
写真図版4 SG01(2)	237	写真図版15 SB16~18	248
写真図版5 SG01(3)	238	写真図版16 SB19~21	249
写真図版6 SG01(4)	239	写真図版17 SB22~24	250
写真図版7 SG01(5)	240	写真図版18 SB25~27	251
写真図版8 SG01(6)	241	写真図版19 SB28~30	252
写真図版9 SG01(7)	242	写真図版20 SK01~04、作業風景	253
写真図版10 SB01~03	243	写真図版21 SK05~08	254
写真図版11 SB04~06	244	写真図版22 SK09~12	255

写真図版23	SK13~16、作業風景	256	写真図版49	SN08~14、作業風景	282
写真図版24	SK17~20	257	写真図版50	SZ01~06	283
写真図版25	SK21~25	258	写真図版51	調査区全景 (直上から、写真上が西)	284
写真図版26	SK26~29	259	写真図版52	出土遺物 (かわらけ 1)	285
写真図版27	SK30~33	260	写真図版53	出土遺物 (かわらけ 2)	286
写真図版28	SK34~37	261	写真図版54	出土遺物 (かわらけ 3)	287
写真図版29	SK38~41	262	写真図版55	出土遺物 (かわらけ 4)	288
写真図版30	SK42~45	263	写真図版56	出土遺物 (かわらけ 5)	289
写真図版31	SK46~49	264	写真図版57	出土遺物 (土師器 1)	290
写真図版32	SK50~53	265	写真図版58	出土遺物 (土師器 2)	291
写真図版33	SK54~57	266	写真図版59	出土遺物 (国産陶器 1)	292
写真図版34	SK58~61	267	写真図版60	出土遺物 (国産陶器 2)	293
写真図版35	SK62~65	268	写真図版61	出土遺物 (国産陶器 3)	294
写真図版36	SK66~69	269	写真図版62	出土遺物 (中国陶磁器 4)	295
写真図版37	SK70~73	270	写真図版63	出土遺物 (国産陶器 5)	296
写真図版38	SK74~76	271	写真図版64	出土遺物 (中国陶磁器)	297
写真図版39	SK78~81	272	写真図版65	出土遺物 (中・近世陶磁器 1)	298
写真図版40	SK82~88	273	写真図版66	出土遺物 (中・近世陶磁器 2)	299
写真図版41	SD02~06	274	写真図版67	出土遺物 (石製品 1)	300
写真図版42	SD07~08	275	写真図版68	出土遺物 (石製品 2)	301
写真図版43	SD09~12	276	写真図版69	出土遺物 (土製品)	302
写真図版44	SM01 (1)	277	写真図版70	出土遺物 (金製品)	303
写真図版45	SM01 (2)	278	写真図版71	出土遺物 (古錢)	304
写真図版46	SM01 (3)	279	写真図版72	出土遺物 (石器)	305
写真図版47	SN01~04	280	写真図版73	出土遺物 (火打ち石)	306
写真図版48	SN05~07	281			

〈第2次調査〉

写真図版II-1	調査区全景	309	写真図版II-8	堅穴状遺構SI II 01及び 周辺土坑群 (2)	316
写真図版II-2	調査再開時の状況	310	写真図版II-9	その他の土坑	317
写真図版II-3	基本土層 (1)	311	写真図版II-10	溝跡 (1)	318
写真図版II-4	基本土層 (2)	312	写真図版II-11	溝跡 (2)、カマド状遺構 (1)	319
写真図版II-5	建物跡・柱穴群 (1)	313	写真図版II-12	カマド状遺構 (2)	320
写真図版II-6	建物跡・柱穴群 (2)	314	写真図版II-13	出土遺物 (1)	320
写真図版II-7	堅穴状遺構SI II 01及び 周辺土坑群	315	写真図版II-14	出土遺物 (2)	322

I 調査に至る経過

衣の関道遺跡は、北上川上流改修一関遊水地事業・衣川左岸上流地区の事業区域内に位置しているため、当該事業の施行にともない、発掘調査を実施することになったものである。

一関遊水地事業・衣川左岸上流地区は、奥州市衣川区大字下衣川の延長約1.4kmの築堤工事等を行うこととし、平成15年度に用地取得を始めとし、事業着手しており、周辺地域を洪水から守るために堤防整備を進めていくこととしている。

当該事業区域の埋蔵文化財包蔵地については、当該事業の施行主体である岩手河川国道事務所の依頼を受け、平成15・16年度に岩手県教育委員会が試掘調査を実施しており、その結果を踏まえ岩手県教育委員会事務局との協議により平成16年度・17年度・20年度、財団法人岩手県文化振興事業団に調査を委託することとなったものである。

(国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所)



第1図 遺跡位置 (1 : 50,000)

II 遺跡の立地と環境

1 地理的環境

衣の関道遺跡は、岩手県奥州市衣川区（旧胆沢郡衣川村）大字下衣川字関谷起に所在する。

平成17年度の調査時には胆沢郡衣川村に属していたが、平成18年2月の「いわゆる平成の大合併」により胆沢郡衣川村は、近隣市町村と市町村合併された。この市町村合併は水沢市、江刺市、胆沢郡胆沢町、胆沢郡前沢町、胆沢郡衣川村の2市2町1村でおこなわれ、新たに奥州市が誕生した。これにより遺跡の所在する胆沢郡衣川村は奥州市衣川区と名称変更され、今日に至っている。この衣川区は奥州市の最南端に位置し、南側は衣川を挟んで西磐井郡平泉町と接する。また、衣川区東部を南北に貫く国道4号付近も平泉町と接している。奥州市の中で衣川区は、東側および北側の一部で前沢区（旧胆沢郡前沢町）と、西側および北側の一部で胆沢区（旧胆沢郡胆沢町）とそれぞれ隣接している。

衣川区は衣川上流部の上衣川地区と下流部の下衣川地区に大きく分かれ、衣の関道遺跡は下衣川地区に位置する。この衣川は北東より北上川へ注ぎ込む。この北上川へ注ぐ下流地域は水田地帯が広がり、衣の関道遺跡が立地する関谷起地区も水田域である。衣川を隔てて対岸の平泉町側は中尊寺の寺域が広がっている。遺跡の標高は約24mである。

遺跡は衣川北岸の河岸段丘上に立地し、近在する接待館遺跡よりも一段低くなっている。この段丘は衣川の開拓と密接に関係し、一部氾濫原を有しながら東西へ広がっている。遺跡と衣川はほぼ接しており、遺跡南側は衣川による浸食崖が連続している。遺跡の約4m下方が衣川の河面にあたり、周辺域でもっとも低い地点である。そのため衣川の氾濫によりたびたび冠水や浸食が繰り返されている地点でもある。また、遺跡の東側は衣川が大きく屈曲する地点となっており、北東に位置する接待館遺跡側へ向けてやや北流する箇所である。さらに、遺跡西側は衣川の流路が度々変化している場所であり、そのため現在の衣川の中洲のように見える泉ヶ城と呼ばれる地域は平泉町域である。ここは、衣川が北から南への流れが西から東への流れへと変化する場所である。

遺跡に立つと、北には衣川区と前沢区の境となる丘陵がみられ、南には東西方向に流れる衣川とその対岸にある中尊寺が位置する山林を見ることができる。また、晴天時には西方遠くに奥羽山脈を眺望できる。

(福島)

2 歴史的環境

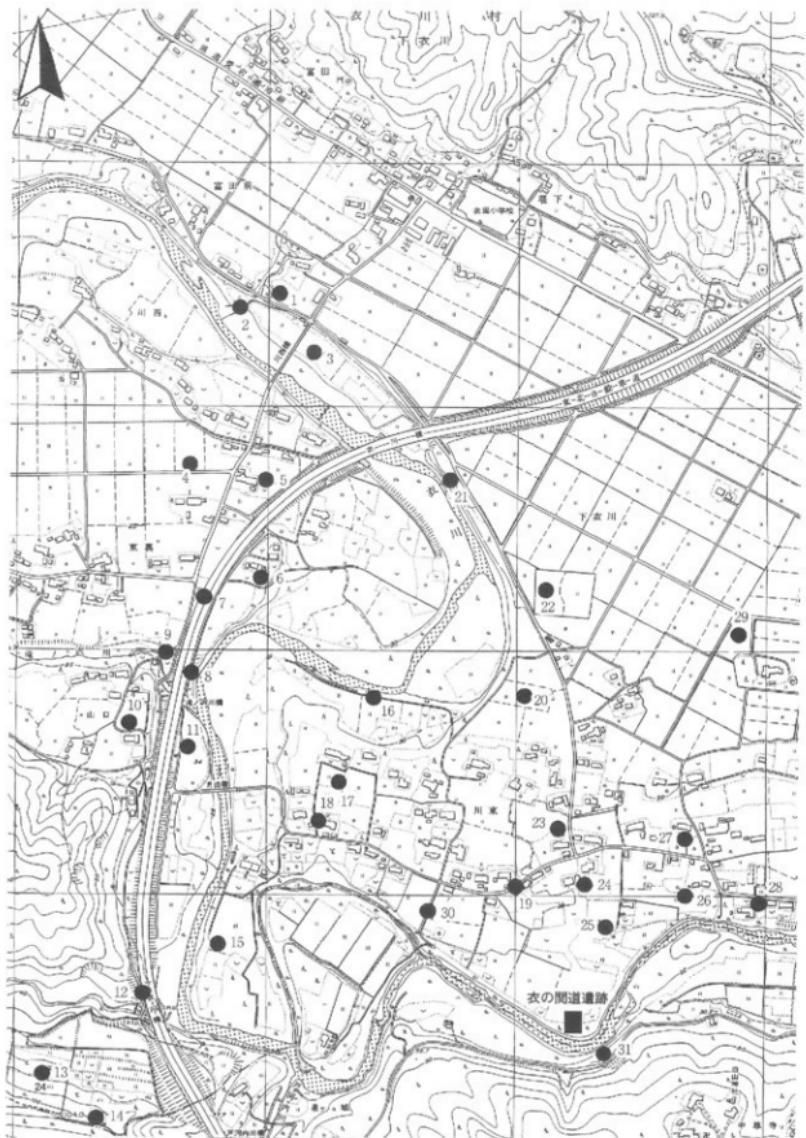
衣の関道遺跡が立地する下衣川地区には、50あまりの遺跡が分布している。時代は縄文時代から近世までであり、遺跡の性格および内容も多岐にわたる。これら遺跡のうち、発掘調査等がなされ詳細のわかる遺跡は多くない。本節ではこれら詳細のわかる主要な遺跡について記述する。また、当地域は11世紀の安倍氏および12世紀の奥州藤原氏に纏わる伝承地が多く存在する地域でもある。これら伝承は大半が近世に整理されたもので、内容は今後十分に吟味し、正否を確認する必要があるが、現段階でのおもな伝承地を紹介する。

遺跡

縄文時代の遺跡として晩期の集落である東裏遺跡（5）がある。住居等はみられないが、遺物包含



第2図 地形分類



第3図 周辺の遺跡および伝承地

表1 周辺の遺跡および伝承地（図範囲内）

番号	遺跡・伝承地名	種別	時代	伝承の時代(権力者)	備考
1	向館	館跡？	不明	安倍氏の頃	
2	湯薫	湯場	近世～近代		
3	八日市場	市場跡	不明	藤原氏の頃	
4	上西谷坊屋敷	屋敷跡	不明	藤原氏の頃	
5	石食・東裏	敷布地	縄文時代晚期		一部発掘調査済み
6	姥神	祠跡	不明		
7	北館	集落・散布地	縄文時代・古代・近世		一部発掘調査済み
8	人手門	門？	不明	藤原氏の頃	
9	横造下	散布地	縄文時代		
10	倅（山口館）	居館跡	不明	安倍氏の頃	一部発掘調査済み
11	小松館（小松樹）	居館跡	不明	安倍氏の頃	
12	衣川閑	廻跡	不明		一部発掘調査済み
13	松下	散布地	縄文時代		
14	経塚（南経塚）	経塚	不明		
15	琵琶池	推跡	不明	安倍氏の頃	
16	桜瀬	伝承地	不明	安倍氏の頃	
17	衣川瀬	居館跡	不明	安倍氏の頃	
18	火手	門？	不明	安倍氏の頃	
19	椿森	伝承地	不明	安倍氏・藤原氏の頃	
20	御蔵場	師蔵場	近世	伊達氏の頃	
21	渡船場	船着き場	不明		一部調査済み
22	長者ヶ原庵寺	寺院跡・屋敷跡	古代	藤原氏の頃	継続発掘調査中
23	宿	宿場跡	不明	安倍氏の頃	
24	七日市場	市場跡	不明	安倍氏の頃	
25	衣の関通	道路跡	平安時代	藤原氏の頃	
26	接待館	居館跡	平安時代	藤原氏の頃	一部発掘調査済み
27	下宿	宿場跡	不明	安倍氏の頃	
28	細田	集落	平安時代・近世		一部発掘調査済み
29	家の樹	伝承地	不明	藤原氏の頃	
30	潤端	集落	縄文時代中期		一部発掘調査済み
31	たら右	伝承地	不明	藤原氏の頃	

図の範囲外に位置するもの

32	六日市場	市場跡	平安時代	藤原氏の頃	
33	押切	集落	近代		一部発掘調査済み
34	池の辺坊屋敷	屋敷跡	不明	藤原氏の頃	
35	九輪塔	墳墓	不明	安倍氏か藤原氏の頃	
36	折形森	鐘楼跡？	不明	藤原氏の頃	一部発掘調査済み
37	陣場山	陣場跡？	不明	安倍氏の頃	
38	鉄造場	鉄砲場跡？	近世	伊達氏の頃	
39	木戸御擬定地	廻舍跡？	不明	藤原氏の頃	
40	足輕屋敷	屋敷跡	近世	伊達氏の頃	

層より多量の遺物が出土している。衣の関道遺跡のさらに西側に位置する淵端遺跡（30）では縄文時代中期の集落が確認されている。

古代の寺院として、国指定史跡の長者ヶ原廃寺跡（22）がある。この遺跡は、建物の礎石や時域を区画する土壘状の高まりが良好に残存している。また、発掘調査によって、土壘状の高まりが築地塀であることが確認されている。この遺跡からの出土遺物は10世紀後半～11世紀前半のものとみられ、安倍氏がこの地に勢力を誇る時期よりもやや古い時期の遺跡であることが判明している。現在も調査が進められており、今後も新知見が得られるものと思われる。

また、奥州藤原氏の全盛期である12世紀の遺跡も発掘調査によって明らかになりつつある。本書に所収の衣の関道遺跡と同一事業で調査された押切遺跡（33）では12世紀の遺構はみられないが、12世紀のかわらけが出土している。また、同様にこの遺跡の西側に連続する六日市場遺跡（32）・細田遺跡（28）・接待館遺跡（26）についても調査がなされ、12世紀の遺構や遺物が確認されている。

近世の遺跡として、北館遺跡が発掘調査されており、ここでは据立柱建物等の遺構が検出されている。

伝承地

衣の関道遺跡周辺には、11世紀に奥六郡を支配した安倍氏の伝承が残る場所は、下記の通り多数存在する。以下、列記する。

向館（1）は安倍頼時の一族に関連する居館とされている。大手門（8）は安倍頼時の頃、衣川櫛の大手門とされている。館（10）は安倍頼時の居館との伝承がある。小松館（11）は一説には小松櫛ではないかとされている。これは安倍貞任の叔父官照の居館の名称と一致する。衣川門（12）磐井郡から奥六郡へ抜ける関所であったとされている。琵琶櫛（15）は安倍貞任の庶兄である成道の居館とされている。桜瀬（16）は安倍頼時が桜を植樹したとされている伝承が残っている。衣川櫛（17）は安倍氏の主要居館であったとされている。土壘状の高まりや方形の区画が現地形で残っている。別称として並木屋敷という呼称も存在する。大手（18）は安倍頼時の頃に衣川櫛の大手門があったとされる場所である。宿（23）・下宿（27）は安倍氏の頃設置された宿場とされる。陣場山（37）は前九年合戦時、源頼義が陣を張ったとされる場所である。

次に、12世紀奥州藤原氏に関する伝承が残る場所は下記の通りである。

吉次屋敷（22）は藤原氏の御用商人とされる金丸り吉次の屋敷であるとされているが、現在「長者ヶ原廃寺跡」という遺跡名で発掘調査がなされており、10～11世紀の寺院であることが判明している。七日市場（24）・六日市場（32）・八日市場（3）はいずれも藤原氏の頃に設置された市場であるとされている。衣の関道（25）は藤原氏の頃、関山（中尊寺）より通じる交通路があったとされる場所である。現在は接待館遺跡と衣の関道遺跡の間にある水田の畦道が伝承地とされている。接待館（26）は藤原秀衡の母の居館とされ、遠方からの来客をここで迎えたとされる伝承が残っている。現在は接待館遺跡として発掘調査がおこなわれ、12世紀の重要な遺跡であることが確認されたため遺跡の保存が決定している。室の樹（29）は藤原氏の頃、庭園とした整備したとされる。池の辺坊屋敷（34）中尊寺の属寺が存在したとされており、「池の辺坊」はその呼称とされている。九輪塔（35）は藤原清衡が建立した塔とされる。栢形森（36）は藤原秀衡の頃、置かれた鐘楼の所在地とされている。木戸側（39）は藤原氏のころ馬数百匹を擁したとされる場所である。また、本遺跡の南に位置する衣川の川中には、たたら石（31）という巨石が点々と存在する。これは関山中尊寺より衣川を渡るための踏み石であったとされている。

その他、近世の伊達氏関連の伝承等もみられるがここでは割愛する。

以上のように、現在にまで残る安倍氏・藤原氏に関連する伝承地を列記したが、いずれも伝承で定かなものはない。また、これら伝承を概観すると、安倍氏に関連するものが多く、藤原氏に関連するものはそれよりもやや少なく、なおかつ具体性に欠けるものが多い傾向である。また、両時代のものが混在する伝承地もみられることも特徴の一つである。

衣の関道に関する伝承

「衣の関道」とは衣闌を通じ、奥大道に通じる道路であるという意味のようである。いつから伝わるものなのか判然としないものの、藤原氏の時代、たたら石を踏んで平泉から衣川を越え、奥大道に通じたとされている。闌を通過し主要幹線道路に通じる道を特別な名称が与えられていることに違和感を覚えるが、闌そのものに大きな意味合いがあったのかもしれない。先述した通り、現在は水田脇の小さな畦道でしかないが、今後周辺の調査を踏まえ考察する必要がある。なお、これを示す現代の標柱は接待館脇に設置されている。

(福島)

参考文献

- 衣川村 1984 『衣川村史Ⅲ』
- 衣川村 1988 『衣川村史Ⅳ』
- 衣川村 1989 『衣川村史Ⅴ』
- 鈴木武夫片 1975 『復刻版仙台叢書 封内風土記』
- 岩手県教育委員会 1980 『東北自動車道関連遺跡発掘調査報告書V』
- 岩手県教育委員会 1980 『東北自動車道関連遺跡発掘調査報告書VI』
- 衣川村教育委員会 1974 『衣川渡船場跡—岩手県胆沢郡衣川村所在—』
- 衣川村教育委員会 2004 『長者ヶ原廃寺跡発掘調査報告書第－6次発掘－』
- 大谷女子大学博物館 2003 『衣川・柳形森遺跡—発掘調査報告書一』
- (財)岩手県文化振興事業団 岩手県文化財センター 2007 『第494集 押切遺跡発掘調査報告書』
- (財)岩手県文化振興事業団 岩手県文化財センター 2008 『第523集 六日市市場・細田・接待館遺跡発掘調査報告書』

III 調査の方法

1 発掘調査の方法

調査開始時、試掘トレーナーを掘削し、その土層断面によって調査区全域での遺構検出面を確認した。その後表土をバックホーにより除去し、それ以降の掘削作業は人力でおこなった。調査中は適宜、写真撮影および実測をおこない記録の保存に努めた。遺構実測作業は、デジタルカメラによる撮影をおこない、その画像データをもとに図化をおこなった。これに係る機材は(株)セビアスから貸与されたものを用いた。また、図化から遺構図版編集までを同社に委託した。

調査区割とグリッドの設定および遺構名称は、同一の事業で調査がおこなわれた押切遺跡の方針に従っている。正方形グリッド最小単位を $5 \times 5\text{ m}$ とした。グリッドの設定および実測に用いた基準点は表のとおりである。

遺構出土遺物は遺構・位置・層位の各単位で取り上げ、包含層出土遺物はグリッド・層位単位で取り上げた。

遺構名は遺跡内統一の連番であるため、調査時に付与したものが欠番になることもあったが、統一連番にするべく新しい遺構名・番号を与え報告した。遺構名略号は、掘立柱建物 (SB)・土坑 (SK)・墓塚 (SZ)・池状遺構 (SG)・テラス状遺構 (SM)・柱穴 (SP)・性格不明遺構、その他 (SX) である。本文中の記載については略号のみの表現で統一した。

2 整理作業の方法

発掘調査中に作成した遺構実測図は必要に応じて合成および修正をおこない、浄書し版下作成をおこなった。遺構名は、発掘調査時のものと整理作業・報告書用のものとで新旧の対応表を作成した。

発掘調査中に撮影した遺構写真は、35mmモノクロ・35mmカラーリバーサル・ 6×7 版モノクロを使用し、それぞれファイルに整理し台帳を作成した。本書では、そのうち必要な遺構写真について紙焼き、トリミングをおこない写真図版に掲載した。

出土した遺物は、水洗した後注記・接合し、必要な遺物に関しては石膏による復元をおこなった。それら作業過程中、本書に掲載するものを選出し実測および写真撮影を実施した。実測した遺物は浄書をおこない挿図版として掲載し、撮影した遺物写真についてもすべてを写真図版に掲載した。掲載した遺物は、原則的に実測に堪え得るもの、体部のみの破片は器壁の傾きが厳格に判明する遺物のみを選出した。また、陶磁器等の特殊な遺物に関してはこの限りでない。遺物写真は、立面での撮影が不可能な破片が大勢を占めるため、平面的な俯瞰撮影をおこなった。

3 本書の記載方法

本書では、第1次調査である平成17年度調査分をIV章で報告し、第2次調査である平成20年度調査分をV章で報告する。

遺構は個別の図を掲載し、遺構種別ごとに縮尺を統一した。また、全体図では小さな遺構が表現できないため、別途主要部分の拡大図を掲載した。

遺物の実測図は、土器類が3分の1、鉄製品・石製品・土製品が2分の1で掲載した。なお、人形の石製品は4分の1での掲載である。遺物は観察表を掲載し、図および写真の番号を示した。

IV 第1次調査(平成17年度)の成果

1 基本層序と遺構配置

今回の調査区は東西に長く、カーブの緩やかな逆「へ」の字形である。堆積状況および地形の変化により、西・中央・東・東端の4地区に区分することができる。4地区とも基本的に南側にある衣川に向か、北から南へ緩やかに傾斜している。調査区全体での統一基本層序は第5図の通りである。

調査区西側（グリッドC・D）

調査区西側は、削平されている北西隅以外は概ね良好な堆積状況である。Ⅲ層はみられなかつたが、Ⅱ層の層厚がかなり厚く、細分可能であるため、Ⅱ層の中にⅢ層相当層が存在する可能性がある。また、池状造構の窓み上に層厚30~40cmの砂が堆積しており、Ⅲ層相当の可能性がある。Ⅳ層は削平を免れた大半のエリアで層厚10~35cm存在しており、層中よりかわらけ・輸入磁器・国産陶器の破片が出土した。V層は南西隅に分布しており、層厚5~30cmであると考えられる。層中より土師器・須恵器・灰釉陶器片が出土した。また、まばらに十和田a陣下火山灰と思われる火山灰が認められる。削平を受けている北西隅は、VI層ですら残存しておらず、VI層より下層に当たる砂礫層がみられる。

調査区中央（グリッドE）

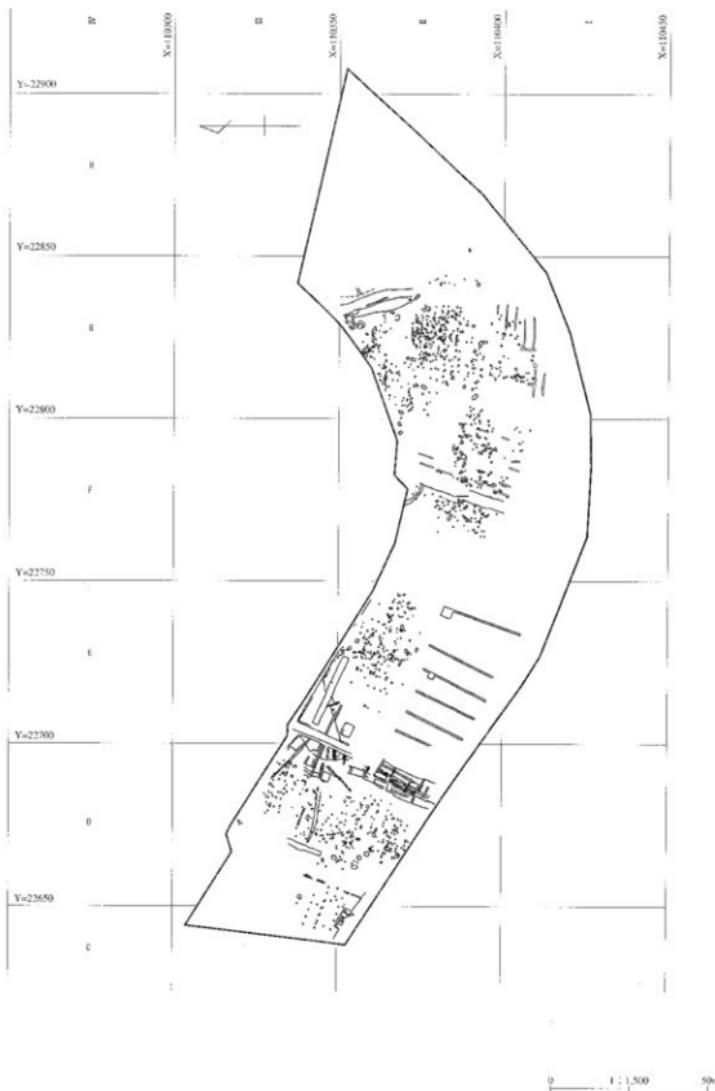
調査区中央はほぼ全面で近世～現代に削平を受けており、Ⅲ～V層は残存していない。そのためほぼ全域でVI層が露出した状態である。しかし、より下面が露出しているにもかかわらず調査区西側との比高差はほとんどない。したがって、このエリアは旧地形の微高地に属しており、そのため後後に削平されたものと考えられる。

調査区東側（グリッドF・G西半）

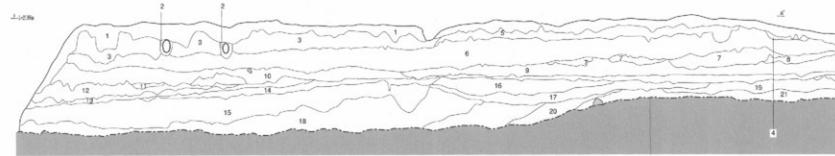
調査区東側はⅢ層がほぼ全面で認められるが、IV層は北端と南端で残存していない。Ⅲ層は層厚10~40cmで下位より中世陶磁器や近世陶磁器が出土した。IV層は層厚数cm~30cm程度で、分布に偏りなく層中よりかわらけ・輸入磁器・国産陶器の破片が出土した。V層はIV層が残存するエリアで重なつて認められる。遺構面1の遺構を掘削すると遺構壁面にこのV層がみられ、土師器が出土している。

調査区東端（グリッドG東半・H）

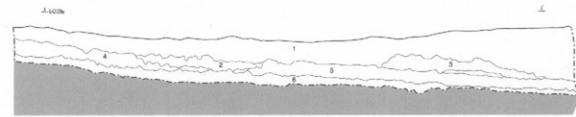
調査区東端はその他の地区と異なり、大量の洪水砂が堆積している。Ⅲ層相当と考えられる砂層が厚いところで約3.5m堆積している。IV層は東に向か急激に落ち込む斜面堆積である。斜面上部のみ掘削したが、かわらけ・輸入磁器・国産陶器・土師器などの破片が出土した。斜面に堆積しているIV層は斜面下部になるほど厚みが増し、約60cmの層厚を持つ。VI層は遺構面1で検出した遺構の壁面のみ確認している。



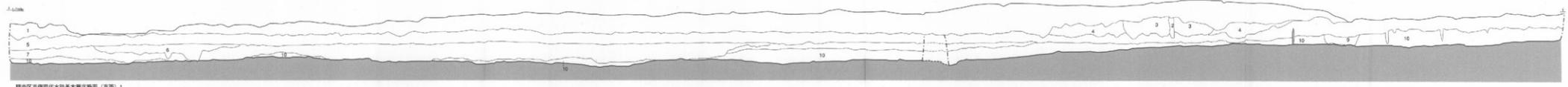
第4図 遺跡全体図



調査区内地質図
 1 HOYR01 黒褐色シルト (根縫多い) 砂土 (樹上)
 2 HOYR01 黒褐色シルト (根きりブロック土含む) 破壊層土
 3 HOYR02 黒褐色シルト (樹木・ブロック多量含む) 破壊層土
 4 HOYR03 黒褐色シルト (根きり・根縫多く含む) 破壊層土
 5 HOYR02 黒褐色シルト (根きりブロック多量含む) 破壊層土
 6 HOYR01 シルト 砂土
 7 HOYR01 黒褐色シルト (根縫多く含む) 破壊層土
 8 HOYR02 シルト (根縫多く含む) 破壊層土
 9 HOYR02 シルト (根きりブロック少含む) 破壊層土
 10 HOYR02 シルト (根きり少含む) 破壊層土
 11 HOYR02 黑褐色シルト (根縫少含む) 破壊層土
 12 HOYR03 に高い黒褐色シルト (根きりブロック含む) 破壊層土
 13 HOYR03 黒褐色シルト (根縫少含む) 破壊層土
 14 HOYR03 黒褐色シルト (根縫少含む) 12-13含む
 15 HOYR03 に高い黒褐色シルト (根縫少含む) 古代堆積層
 16 HOYR06 黑褐色シルト (中央砂少量混じる) 地山沢跡
 17 HOYR01 黑褐色シルト (根縫少含む) 地山沢跡
 18 HOYR08 黄褐色シルト (根縫少含む) 地山沢跡
 19 HOYR21 黑褐色シルト (やや粘性) 地山
 20 HOYR04 シルト 黃砂 地山
 21 HOYR06 サークル (シルト混じる) 地山



調査区内地質図
 1 10YR23 黑褐色シルト (根きなブロック少含む)
 2 7.5YR41 黑褐色シルト (根少含む)
 3 10YR22 黑褐色シルト (樹木ブロック少く含む)
 4 10YR23 黑褐色シルト (樹木ブロック少く含む)
 5 10YR31 黑褐色シルト (根縫少含む) 12-13含む
 6 10YR31 黑褐色シルト (やや粘性)



調査区内地質図
 1 10YR40 黑褐色シルト
 2 10YR40 黑褐色シルト 樹木
 3 10YR40 に高い黒褐色シルト 古代堆積層
 4 10YR40 黑褐色シルト
 5 10YR31 に高い黒褐色シルト (ブロック少含む)
 6 10YR60 黑褐色シルト 近地面層
 7 10YR60 黑褐色シルト
 8 10YR31 黑褐色シルト (根縫含む、やや粘性)
 9 10YR22 黑褐色シルト (樹木ブロック少含む) 破壊層土
 10 10YR60 に高い黒褐色シルト 古代堆積層 (古代堆積層に含む、微粒砂混じる)

第5図 基本層序断面

2 検出遺構

掘立柱建物

本遺跡から30棟検出した。

S B01掘立柱建物（第6図、写真図版10）

【位置】調査区西端、ⅢD 0 j ~ ⅢD 0 a グリッドに位置する。

【検出状況】V層上面で、黄褐色ロームを多量に含んだ黒褐色シルトの広がりが約2m間隔で、並んでいたことから掘立柱建物と判断した。

【重複関係】S B02と重複する。S B02の柱穴との切り合い関係はみられないが、本遺構の柱穴の方が若干、検出面が上で、本遺構柱穴が検出した段階ではまだS B02の柱穴は確認されていなかった。従って本遺構の方が新しいと思われる。

【平面形式】梁間は484cm、桁行きは1011cmを測る。面積は49.5m²である。使用した柱穴は12個であり、2間4間である。

【建物方位】桁行きの軸方向はN-70°-Wである。

【柱穴堆積土】残りが良く、検出面から深さ1mを超える。堆積土は5層に分層でき、3層が柱痕と思われる。

【出土遺物】柱穴の堆積土中からかわらけと国産陶磁器が出土している。

【建物の性格】遺構の性格は不明である。

【年代】出土遺物から12世紀ごろと思われる。

S B02掘立柱建物（第7図、写真図版10）

【位置】調査区西端、ⅢC 1 i ~ ⅢD 1 a グリッドに位置する。

【検出状況】V層上面で、黄褐色ロームを多量に含んだ黒褐色シルトの広がりが約2m間隔で並んでいたことから掘立柱建物と判断した。

【重複関係】S B01と重複する。本遺構の方が古いと思われる。

【平面形式】梁間386cm、桁行き893cmを測る。面積は34.7m²である。使用した柱穴は10個であり、1間4間である。

【建物方位】桁行きの軸方向はN-71°-Wである。

【柱穴堆積土】残りが良く、検出面から深さ1mを超える。堆積土は4層に分層でき、1・2層が柱痕と思われる。

【出土遺物】柱穴堆積土よりかわらけ片が少量出土した。

【建物の性格】遺構の性格は不明である。

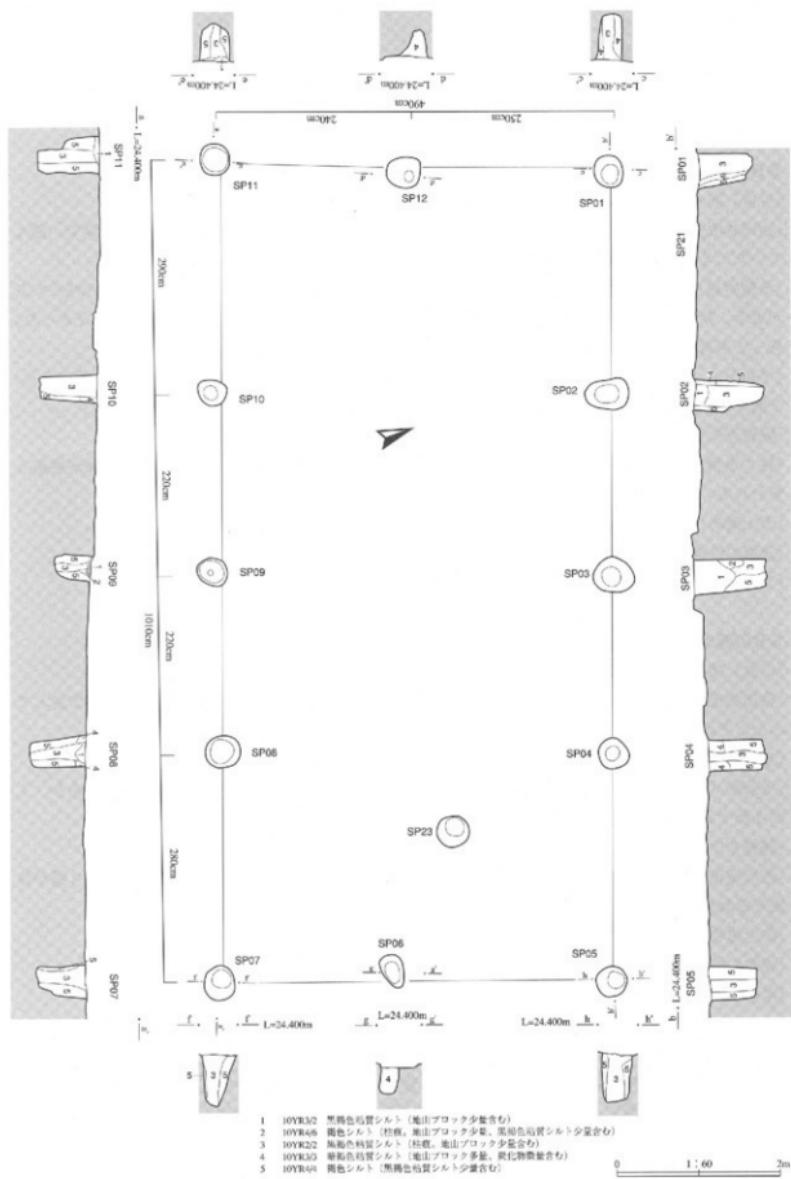
【年代】出土遺物と検出面から12世紀頃であると考えられる。

S B03掘立柱建物（第8図、写真図版10）

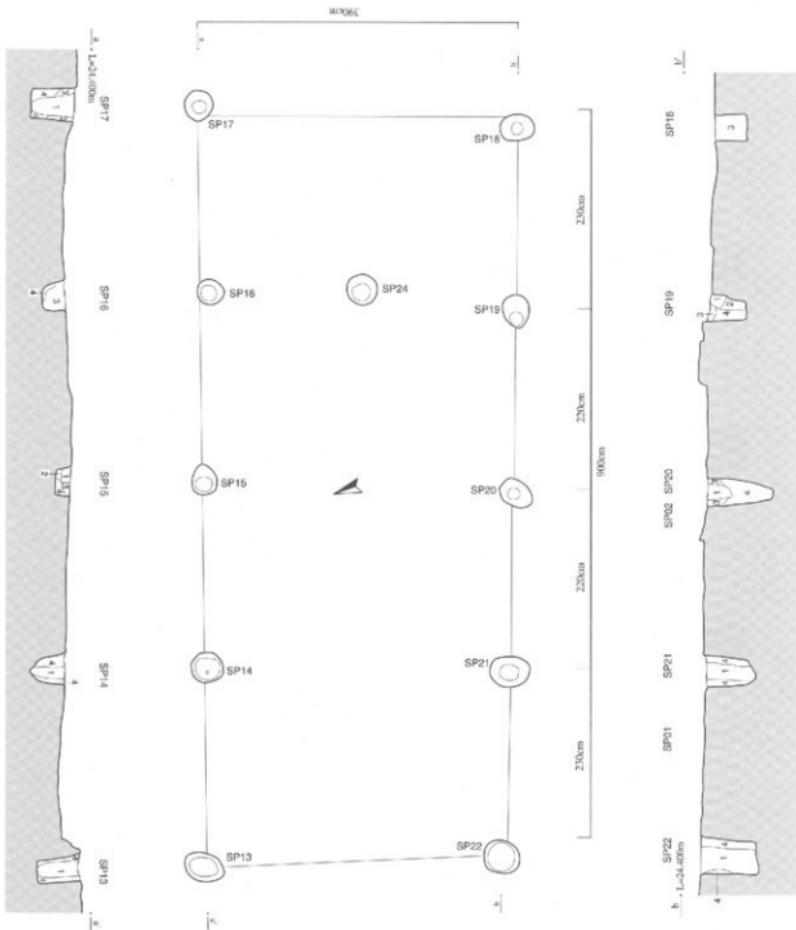
【位置】調査区南西側、ⅡD 6 d ~ ⅡD 7 d、ⅡD 7 e グリッドに位置する。

【検出状況】V層上面で、黒褐色シルトの広がりが約2m間隔で並んでいたことから掘立柱建物と判断した。

【重複関係】S B07、SK09と重複している。本遺構の柱穴は、これらの遺構と切り合っていないので、

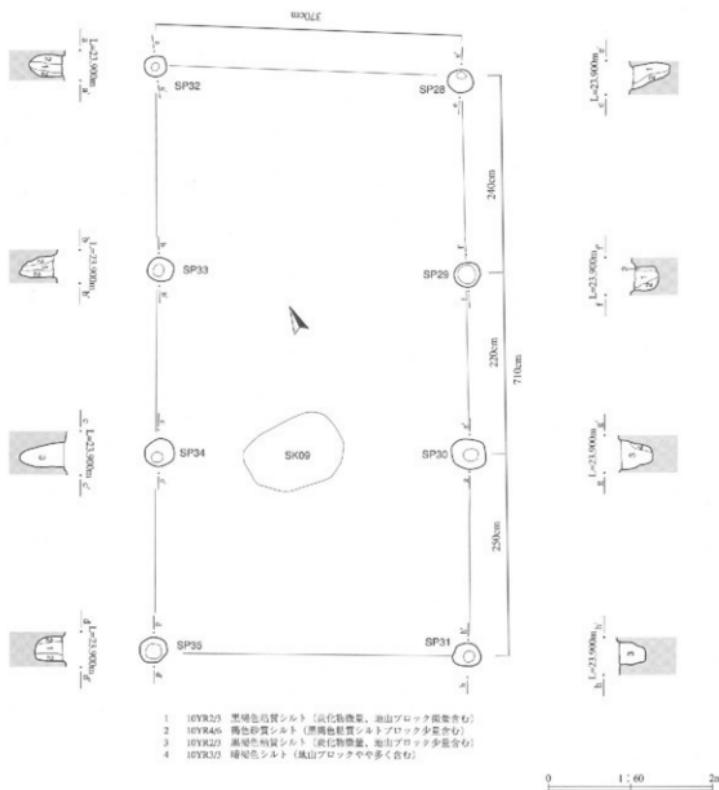


第6図 S B01掘立柱建物



- 1 10YR2/3 黒褐色熱質シルト〔柱頭。迫山ブロック多く含む〕
- 2 10YK3/4 黒褐色熱質シルト〔柱頭。迫山多く、黒褐色粘性シルト少量含む〕
- 3 10YR2/2 黑褐色熱質シルト〔迫山ブロック少含む〕
- 4 10YR4/6 開色シルト〔黒褐色粘性シルト少量含む〕

第7図 S B 02掘立柱建物



第8図 S B03握立柱建物

新旧関係は不明である。

【平面形式】 梁間370cm、桁行き713cmを測る。面積は26.6m²である。使用した柱穴は8個であり、1間3間である。

【建物方位】 桁行きの軸方向はN-24°-Eである。

【柱穴堆積土】 黒褐色粘質シルトを主体とし、4層に分層できる。1層が柱痕と思われ、柱痕が確認できる柱穴(S P 28・29・32・33・35)と、確認できない柱穴(S P 30・31・34)に分かれる。

【出土遺物】

【建物の性格】 遺構の性格は不明である。

【年代】 不明である。

S B04掘立柱建物（第9図、写真図版11）

【位置】 調査区南西側、Ⅱ D 9 d ~ Ⅱ D 9 e、Ⅱ D 8 e グリッドに位置する。

【検出状況】 V層上面で、暗褐色シルトの広がりが約2m間隔で並んでいたことから掘立柱建物と判断した。

【重複関係】 なし。

【平面形式】 梁間237cm、200cm、桁行きは593cmを測る。面積は14.2m²である。使用した柱穴は8個であり、1間3間である。

【建物の軸方向】 桁行きの軸方向はN-38°-Wである。

【柱穴堆積土】 暗褐色粘質シルト～褐色シルトを主体とし、3層に分けられる。1層は柱痕にもみえるが不明である。

【出土遺物】 なし。

【年代】 詳細な時期は不明である。

S B05掘立柱建物（第10図、写真図版11）

【位置】 調査区北西側、Ⅱ D 3 f ~ Ⅱ D 3 h グリッドに位置する。

【検出状況】 V層上面で、黒褐色シルトの広がりが約2m間隔で並んでいたことから掘立柱建物と判断した。

【重複関係】 S B06と重複する。柱穴の切り合い関係は認められなかったので、新旧関係は不明である。

【平面形式】 梁間332cmと368cm、桁行き602cmを測る。面積は22.2m²である。使用した柱穴は8個であり、1間3間である。

【建物の軸方向】 桁行きの方向はN-86°-Wである。

【柱穴堆積土】 黒褐色粘質シルトを主体とし、4層に分けられる。柱痕を確認できた柱穴は4個(S P 44~46・49)で、他は4層による単層が多いので、柱は抜き取られた可能性が考えられる。

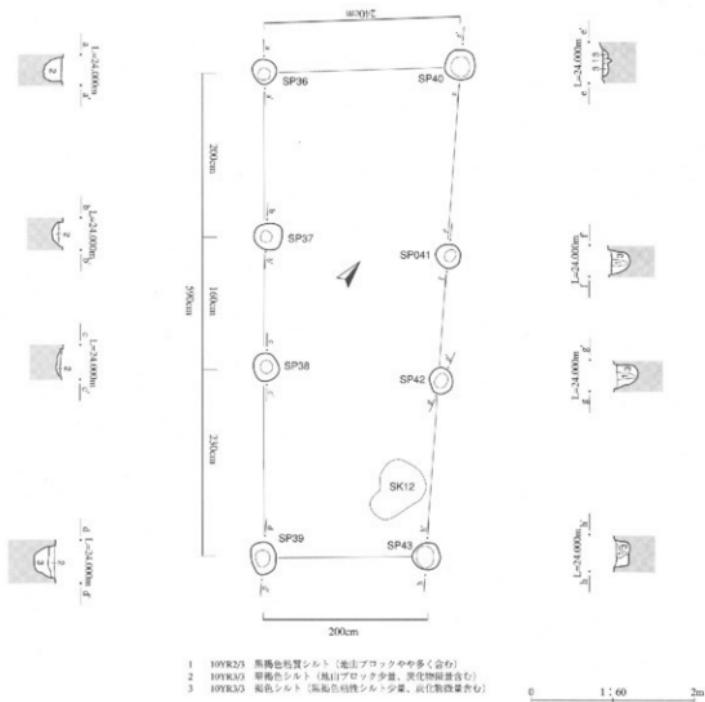
【出土遺物】 なし。

【年代】 詳細な時期は不明である。

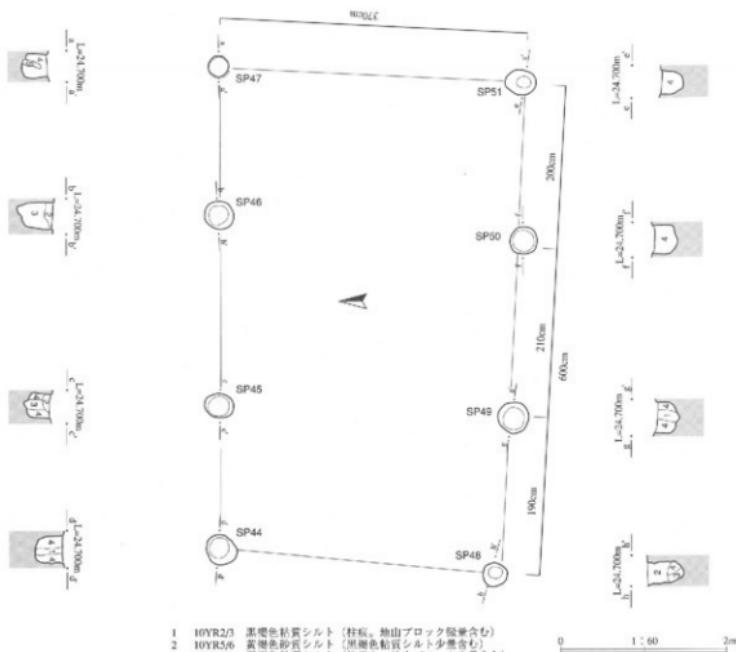
【備考】 重複するS B06は、平面形、規模、建物の軸方向とも本遺構と類似しており、どちらかが建て直された建物の可能性が高い。

S B06掘立柱建物（第11図、写真図版11）

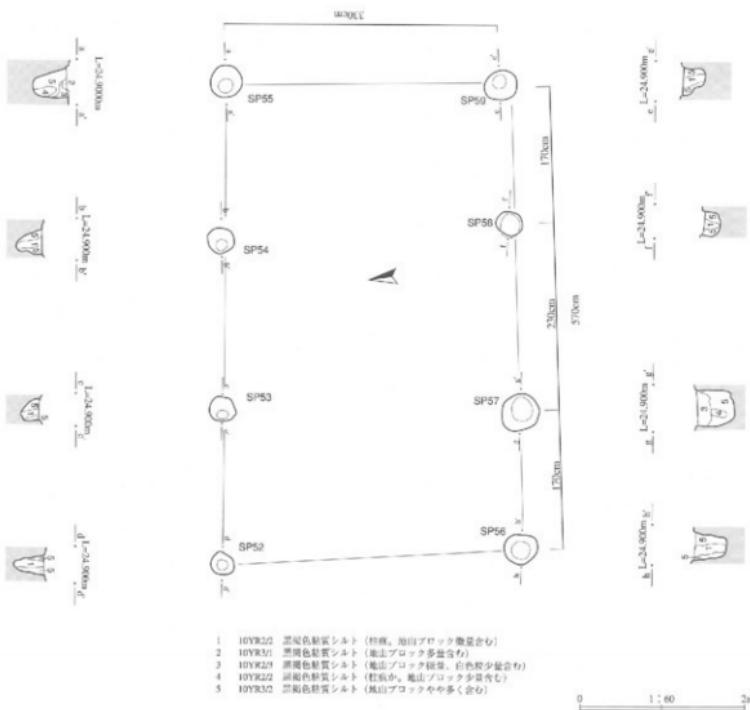
【位置】 調査区北西側、Ⅲ D 3 f ~ Ⅲ D 3 h グリッドに位置する。東側にはS G01が隣接する。



第9図 S B04掘立柱建物



第10図 S B 05据立柱建物



第11図 S B 06掘立柱建物

【検出状況】 V層上面で、黒褐色シルトの広がりが約2m間隔で並んでいたことから掘立柱建物と判断した。

【重複関係】 S B05と重複する。柱穴の切り合い関係は認められなかったので、新旧関係は不明である。
【平面形式】 桁行き574cm、梁間は362cmと332cmを測る。面積は20.5m²である。使用した柱穴は8個であり、1間3間である。

【建物の軸方向】 桁行きの軸方向はN-86°-Wである。

【柱穴堆積土】 黒褐色粘質シルトを主体とし、5層に分けられる。1層が柱痕と思われ、柱穴6個(S P52~54・56・58・59)で認められた。

【出土遺物】 なし。

【年代】 詳細な時期は不明である。

S B07掘立柱建物（第12図、写真図版12）

【位置】 調査区南西側、II D 6 d グリッドに位置する。

【検出状況】 V層上面で、褐色シルトの広がりが3m四方に並んでいたことから、掘立柱建物と判断した。

【重複関係】 S B03と重複する。柱穴の切り合い関係は認められなかったので、新旧関係は不明である。

【平面形式】 本遺構は、確認された形状からみて、建物の桁行きき方向が調査区外にのびる可能性が高い。従って、正確な桁行きの規模は不明である。確認できた範囲から450cm以上であると推定される。梁間は286cmを測る。面積は13.1m²以上と推定される。

【建物の軸方向】 桁行きの軸方向はN-28°-Eである。

【柱穴堆積土】 褐色シルト～暗褐色粘質シルトを主体とし、4層に分けられる。地山土に類似しているが、炭化物の混入がみられ区別される。柱痕は確認できなかった。

【出土遺物】 なし。

【年代】 詳細な時期は不明である。

S B08掘立柱建物（第13図、写真図版12）

【位置】 調査区南西側、II D 7 f ~ II D 7 g グリッドに位置する。東側でS D04~06と隣接する。

【検出状況】 V層上面で、黒褐色シルトの広がりが2m間隔で見うけられたことから、遺構と判断した。

【重複関係】 SK15と重複する。柱穴との切り合い関係は認められなかったので、新旧関係は不明である。

【平面形式】 梁間316cm、桁行き606cmを測る。面積は19.5m²である。使用した柱穴は8個で、1間3間である。

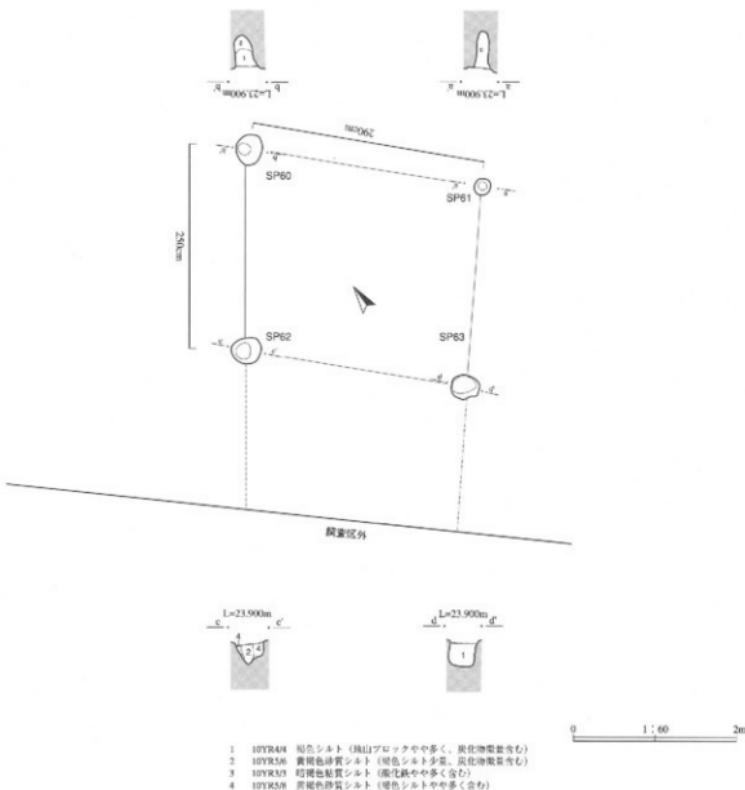
【建物の軸方向】 桁行きの軸方向はN-70°-Wである。

【柱穴堆積土】 黒褐色粘質シルトを主体とし、3層に分けられる。1層が主體となり、2、3層は抜き取り痕の可能性が考えられる。断面形態は比較的細く、堀りかたがみうけられない。

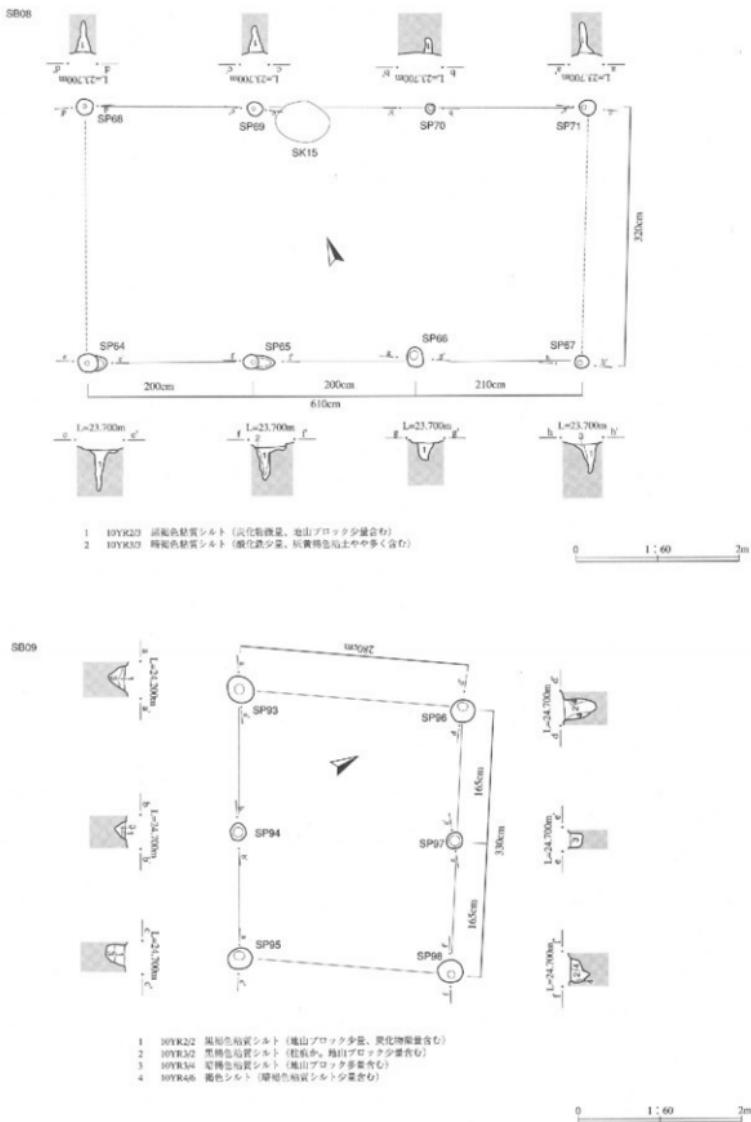
【出土遺物】 なし。

【年代】 詳細な時期は不明である。

【備考】 本遺構は、他の建物と比べ、柱穴の規模が20cm以下と小さく、また、堆積土に掘りかたと思われる層が確認されなかった。従って穴を掘って柱を埋めたのではなく、直接柱を地面に刺したと推定される。このような建物の構築方法は稀であり、本遺構は2重の櫛列である可能性も考えられる。



第12図 S B 07掘立柱建物



第13図 S B 08・09掘立柱建物

S B09掘立柱建物（第13図、写真図版12）

【位置】調査区北西側、Ⅲ D 2 g ~ Ⅲ D 2 h グリッドに位置する。東側に S G01が隣接する。

【検出状況】V層上面で、暗～黒褐色シルトの広がりが並んでいるのを確認し、掘立柱建物と判断した。

【重複関係】なし

【平面形式】梁間280cm、桁行き329cmを測る。面積は9.0m²である。使用した柱穴は6個で、1間2間である。

【建物の軸方向】桁行きの軸方向はN - 62° - Wである。

【柱穴の堆積土】黒褐色粘質シルトを主体とし、4層に分けられる。2層は柱痕と考えられ、柱穴2個（S P96・98）で認められた。

【出土遺物】なし。

【年代】詳細な時期は不明である。

S B10掘立柱建物（第14図、写真図版13）

【位置】調査区北西側、Ⅱ D 9 e ~ Ⅱ D 9 f、Ⅲ D 0 e ~ Ⅲ D 0 f グリッドに位置する。

【検出状況】V層上面で、暗～黒褐色シルトの広がりが並んでいるのを確認し、掘立柱建物と判断した。

【重複関係】なし。

【平面形式】本遺構は南側の桁行き方向に庇を有する。母屋の規模は、梁間382cmと337cm、桁行きは654cmを測り、庇は母屋との連結部は135cm、桁行きは782cmを測る。使用した柱穴は庇も含め15個で、1間4間の母屋に1間分の庇が付く。

【建物の軸方向】桁行きの軸方向はN - 47° - Wである。

【柱穴の堆積土】黄褐色砂質シルトを主体とし、5層に分けられる。地山土に類似するが、暗褐色粘質シルトが混入し、区別される。柱痕が認められた柱穴は確認できなかった。

【出土遺物】なし。

【年代】詳細な時期は不明である。

S B11掘立柱建物（第15図、写真図版13）

【位置】調査区北西側、Ⅱ D 8 f ~ Ⅱ D 8 g グリッドに位置する。

【検出状況】V層上面で、黒褐色シルトの広がりが並んでいるのを確認し、掘立柱建物と判断した。

【重複関係】なし

【平面形式】梁間220cm、桁行き440cmを測る。面積は9.7m²である。使用した柱穴は6個で、1間2間である。

【建物の軸方向】桁行きの軸方向はN - 48° - Wである。

【柱穴の堆積土】暗～黒褐色粘質シルトを主体とし、4層に分けられる。1層は柱痕と思われるが、柱穴1個（S P90）にしか認められない。

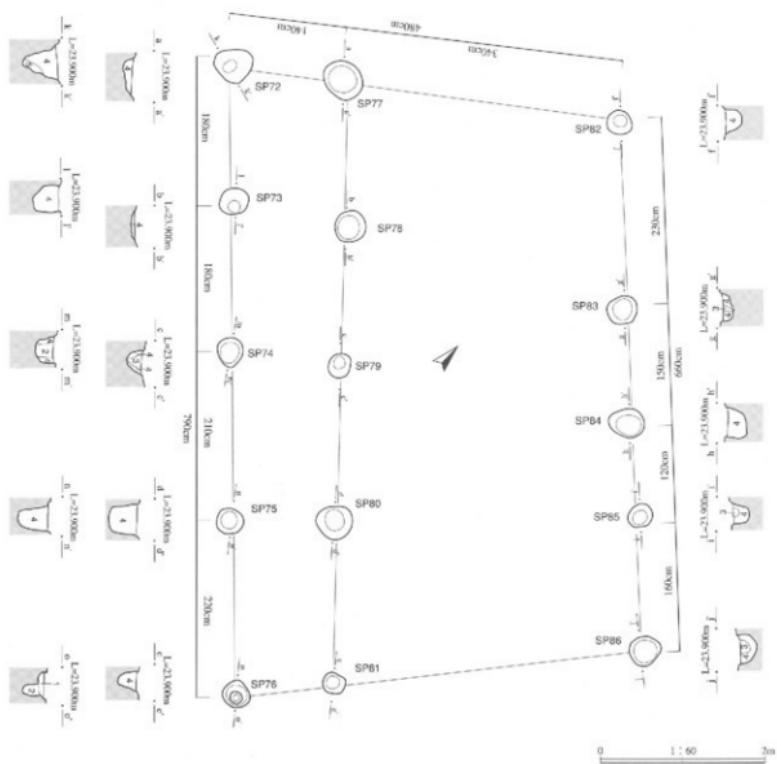
【出土遺物】なし。

【年代】詳細な時期は不明である。

S B12掘立柱建物（第16図、写真図版13）

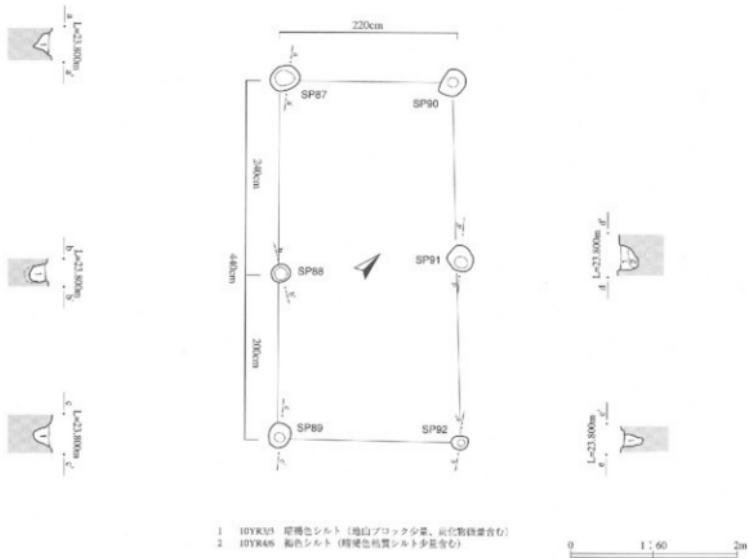
【位置】調査区中央北側、Ⅱ E 7 e ~ Ⅱ E 7 f、Ⅱ E 8 F ~ Ⅱ E 8 g グリッドに位置する。

【検出状況】V層上面で、暗褐色シルトの広がりが並んでいるのを確認し、掘立柱建物と判断した。

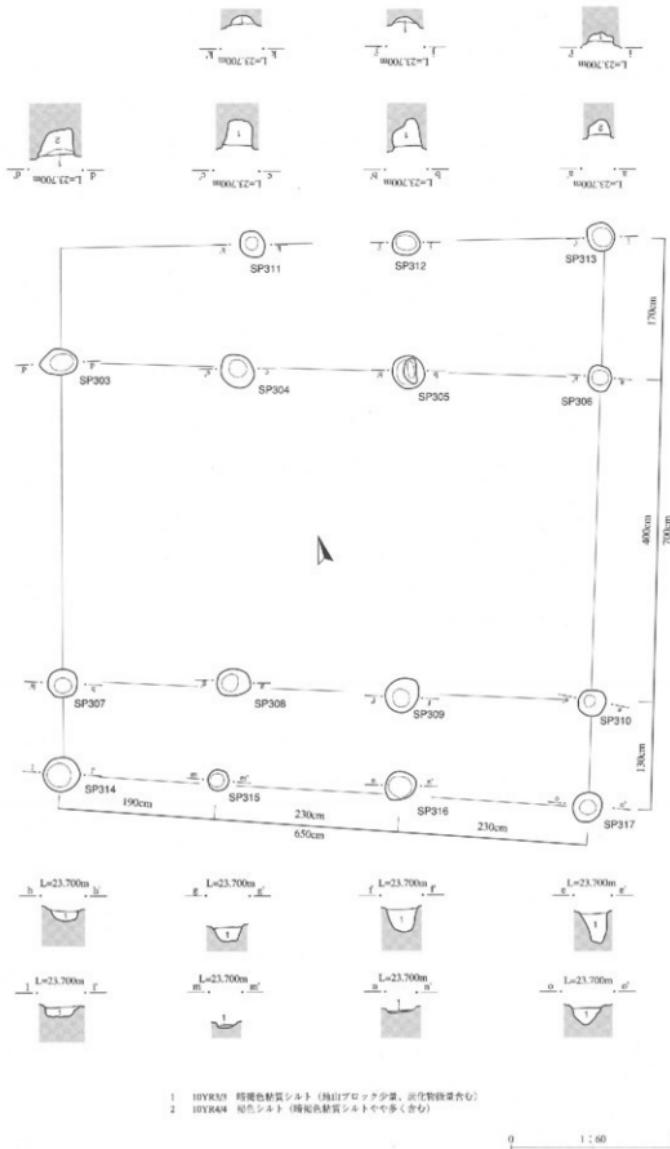


- 1 10YR3/3 褐褐色沾質シルト〔地山ブロック多量含む〕
- 2 10YR4/4 褐色粘質シルト〔暗褐色粘質シート少量含む〕
- 3 10YR4/2 褐色粘質シルト〔暗褐色粘質シート少量含む〕
- 4 10YR5/6 褐褐色粘質シルト〔深褐色粘質シート少量含む〕
- 5 10YR5/1 に近い褐色粘質シルト〔褐色粘質シート多量含む〕

第14図 S B10振立柱建物



第15図 S B11掘立柱建物



第16図 S B12掘立柱建物

〔重複関係〕 S B15と重複する。柱穴の切り合い関係は認められなかったので、新旧関係は不明である。

〔平面形式〕 本遺構は桁行き両面に庇を有する。母屋の規模は、梁間400cm、桁行き650cmを測る。庇を加えた規模は梁間700cm、桁行き650cmを測る。面積は庇を含めて46.2m²である。使用した柱穴は15個で、1間3間の母屋に庇が2面付く。北側の庇は1個柱穴が足りない。

〔建物の軸方向〕 桁行きの軸方向はN-71°-Wである。

〔柱穴の堆積土〕 暗褐色粘質シルトを主体とし、3層に分けられる。柱痕が認められた柱穴は確認されなかった。母屋の柱穴は比較的しっかりしているのに対し、庇部分の柱穴は浅い。

〔出土遺物〕 なし。

〔年代〕 詳細な時期は不明である。

S B13掘立柱建物（第17図、写真図版14）

〔位置〕 調査区中央北側、II E 6 d～II E 8 d、II E 7 eグリッドに位置する。

〔検出状況〕 VI層上面で、暗褐色シルトの広がりが並んでいるのを確認し、掘立柱建物と判断した。

〔重複関係〕 なし。

〔平面形式〕 梁間400cm、桁行き600cmを測る。面積は23.2m²を測る。使用した柱穴は8個で、1間3間である。

〔建物の軸方向〕 桁行きの軸方向はN-24°-Wである。

〔柱穴の堆積土〕 暗褐色粘質シルトを主体とし、2層に分けられる。柱痕が認められた柱穴は確認されなかった。

〔出土遺物〕 なし。

〔年代〕 詳細な時期は不明である。

S B14掘立柱建物（第18図、写真図版14）

〔位置〕 調査区中央北側、II E 8 g、II E 8 hグリッドに位置する。

〔検出状況〕 V層上面で、黒褐色シルトの広がりが並んでいるのを確認し、掘立柱建物と判断した。

〔重複関係〕 S B15と重複している。柱穴の切り合い関係は認められなかったので、新旧関係は不明である。

〔平面形式〕 梁間330cm、桁行き420cmを測る。面積は13.5m²である。使用した柱穴は6個で、1間2間である。

〔建物の軸方向〕 桁行きの軸方向はN-76°-Wである。

〔柱穴の堆積土〕 黒褐色粘質シルトを主体とし、3層に分けられる。柱痕が認められた柱穴は確認されなかった。

〔出土遺物〕 なし。

〔建物の性格〕 不明である。

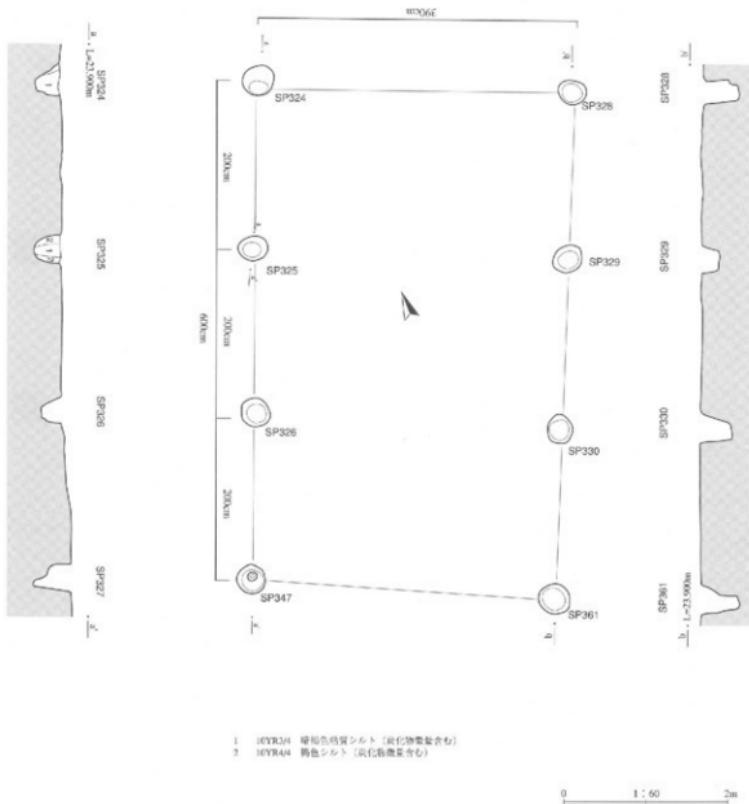
〔年代〕 詳細な時期は不明である。

S B15掘立柱建物（第18図、写真図版14）

〔位置〕 調査区中央北側、II E 7 f、II E 7 g、II E 8 f、II E 8 gグリッドに位置する。

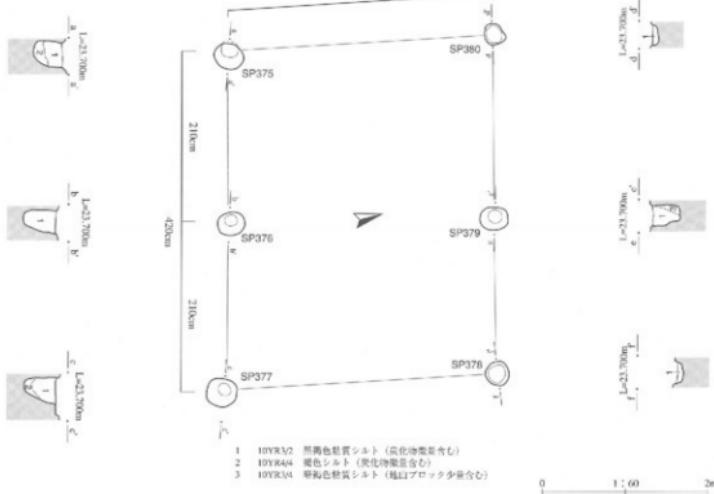
〔検出状況〕 V層上面で、暗褐色シルトの広がりが並んでいるのを確認し、掘立柱建物と判断した。

〔重複関係〕 S B12・14と重複する。柱穴に切り合い関係が認められないで、新旧関係は不明である。

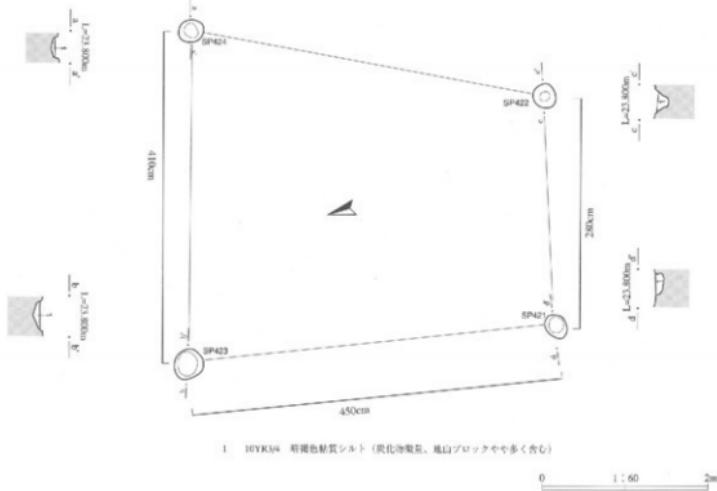


第17図 S B 13掘立柱建物

SB14



SB15



第18図 S B 14・15掘立柱建物

[平面形式] 本遺構は平面形が台形状を呈し、建物としてはやや亞である。したがって、梁桁を決めるのは難しいが、柱間が長い南北方向を桁行きとすれば、梁間は280cmと410cm、桁行きは450cmを測る。面積は15.1m²である。使用した柱穴は4個である。

[建物の軸方向] 桁行きの軸方向はN-11°-Eである。

[柱穴の堆積土] 暗褐色粘質シルトを主体とし、いずれも单層である。検出面から浅いものが多く、削平によるものか、元々、浅かったかは定かではない。

[出土遺物] なし。

[建物の性格] 不明である。

[年代] 詳細な時期は不明である。

S B16掘立柱建物（第19図、写真図版15）

[位置] 調査区中央北側、II E 5 h ~ II E 8 h、II E 5 i ~ II E 8 i グリッドに位置する。

[検出状況] VI層上面で、褐色シルトの広がりが並んでいるのを確認し、掘立柱建物と判断した。

[重複関係] S K22~24が重複する。柱穴の切り合い関係は認められないので、新旧関係は不明である。

[平面形式] 本遺構は北東側に付属施設を有する。母屋部分はやや亞で、東側の桁行きの軸方向がやや内側に傾いている。母屋の規模は梁間420cm、桁行き990cm、付属施設は接続部分が200cm、桁行きが300cmを測る。面積は45.3m²である。使用した柱穴は12個で、母屋は1間5間である。

[建物の軸方向] 母屋の桁行きの軸方向はN-20°-Eである。

[柱穴の堆積土] 褐色シルトを主体とし、3層に分けられる。地山土と類似するが、炭化物や暗褐色粘質シルトの混入により区別される。いずれも浅い。

[出土遺物] なし。

[建物の性格] 不明である。

[年代] 詳細な時期は不明である。

S B17掘立柱建物（第20図、写真図版15）

[位置] 調査区中央北側、II F 3 e ~ II F 4 e に位置する。

[検出状況] VI層上面で、暗褐色シルトの広がりが並んでいるのを確認し、掘立柱建物と判断した。

[重複関係] なし。

[平面形式] 梁間350cm、桁行き470cmを測り、面積16.5m²である。使用した柱穴は6個であり、2間2間と思われるが、東側の桁、南側の梁で1個ずつ柱穴がない。

[建物の軸方向] 桁行きの軸方向はN-21°-W

[柱穴の堆積土] 暗褐色粘質シルトを主体とし、3層に分けられる。柱痕が認められた柱穴は確認されていない。

[出土遺物] なし。

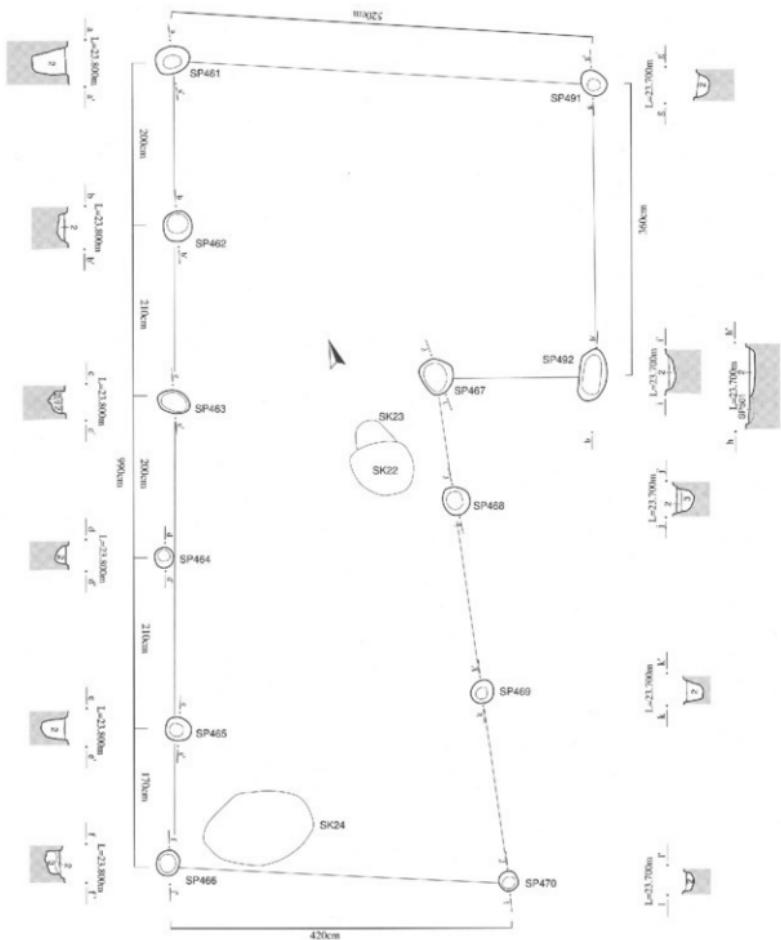
[建物の性格] 不明である。

[年代] 詳細な時期は不明である。

S B18掘立柱建物（第21図、写真図版15）

[位置] 調査区東側、II F 1 i、II F 1 j、II F 0 j グリッドに位置する。

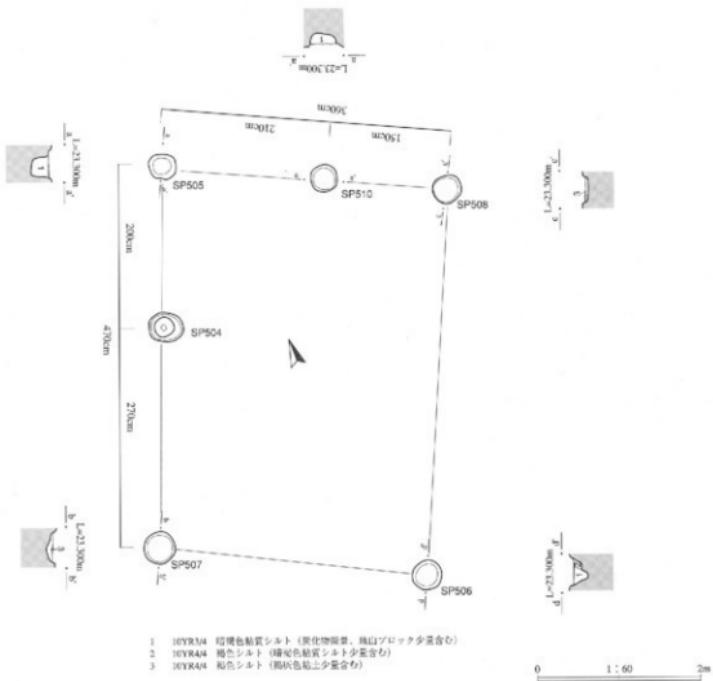
[検出状況] VI層上面で、暗褐色シルトの広がりが並んでいるのを確認し、掘立柱建物と判断した。



- 1 100KS2 天蓋穴蓋シート (底面敷蓋含む)
- 2 100KA4 薄色瓦質シート (底面敷蓋含む)
- 3 100KA44 薄荷色瓦質シート (薄灰色粘土少量、堅化微微量含む)

第19図 S B 16掘立柱建物

SB17



第20図 S B17掘立柱建物

〔重複関係〕 S B19、S K55と重複する。柱穴との切り合い関係は認められなかつたので、新旧関係は不明である。

〔平面形式〕 梁間300cm、桁行き800cmを測り、面積は24.9m²である。使用した10個であり、1間4間である。

〔建物の軸方向〕 桁行きの軸方向はN -78° -W

〔柱穴の堆積土〕 暗褐色粘質シルトを主体とし、2層に分けられる。柱痕の認められる柱穴は確認されなかつた。

〔出土遺物〕 なし。

〔建物の性格〕 不明である。

〔年代〕 詳細な時期は不明である。

S B19掘立柱建物（第21図、写真図版16）

〔位置〕 調査区東側、II F 1 i、II F 1 j グリッドに位置する。

〔検出状況〕 VI層上面で、暗褐色シルトの広がりが並んでいるのを確認し、掘立柱建物と判断した。

〔重複関係〕 S B18、S K55と重複する。柱穴との切り合い関係は認められなかつたので、新旧関係は不明である。

〔平面形式〕 本遺構は平面形が正方形を呈する。従つて、桁梁方向が定かではない。若干長い南北方向を桁方向とすると、規模は梁間230cm、桁行き240cmを測る。面積5.8m²である。使用した柱穴は4個であり、1間1間である。

〔建物の軸方向〕 南北方向を桁行きとした場合、軸方向はN -10° -Eである。

〔柱穴の堆積土〕 暗褐色粘質シルトを主体とする単層である。柱痕の認められる柱穴は確認されなかつた。

〔出土遺物〕 なし。

〔建物の性格〕 小屋のような建物である可能性が考えられる。

〔年代〕 詳細な時期は不明である。

S B20掘立柱建物（第22図、写真図版16）

〔位置〕 調査区東側、II G 1 c、II G 1 d グリッドに位置する。

〔検出状況〕 V層上面で、暗褐色シルトの広がりが並んでいるのを確認し、掘立柱建物と判断した。

〔重複関係〕 なし。

〔平面形式〕 梁間210cm、桁行き570cmを測る。面積は21.5m²である。使用した柱穴は8個で、1間3間である。桁方向の柱穴で一対、不揃いのもの（S P703、706）が見うけられる。

〔建物の軸方向〕 桁行きの軸方向はN -81° -Wである。

〔柱穴の堆積土〕 暗褐色粘質シルトを主体とする単層である。柱痕の認められる柱穴は確認されなかつた。

〔出土遺物〕 なし。

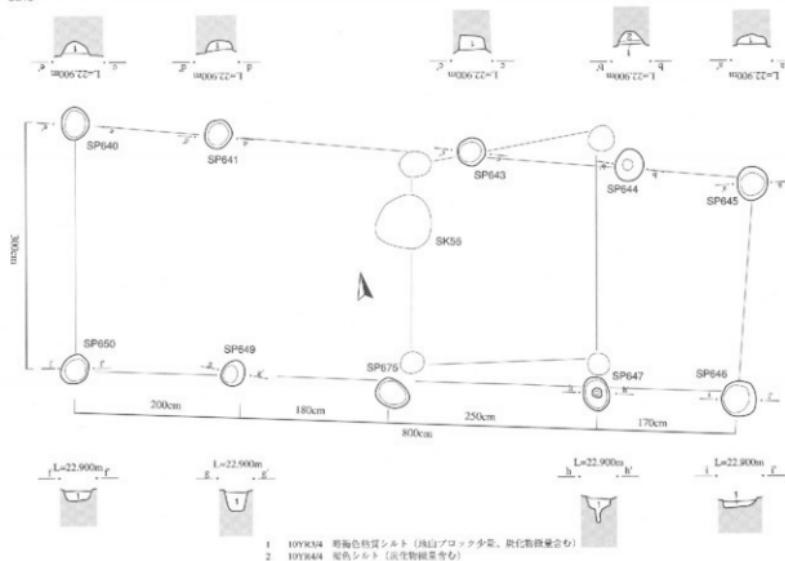
〔建物の性格〕 不明である。

〔年代〕 古代以降であると考えられる。

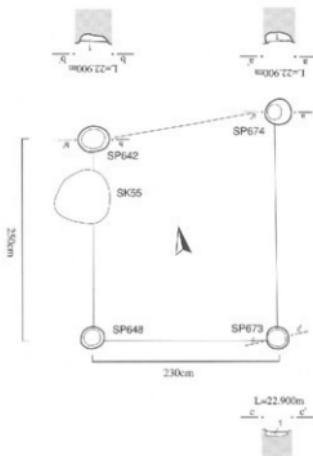
S B21掘立柱建物（第22図、写真図版16）

〔位置〕 調査区東側、I G 9 f、II G 0 f グリッドに位置する。

SB18

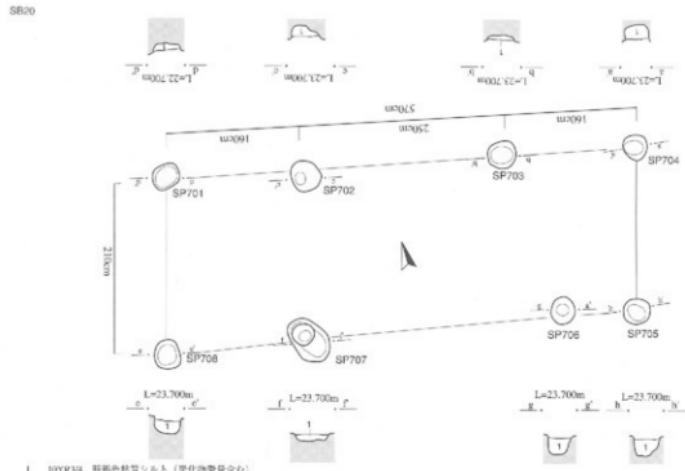


SB19

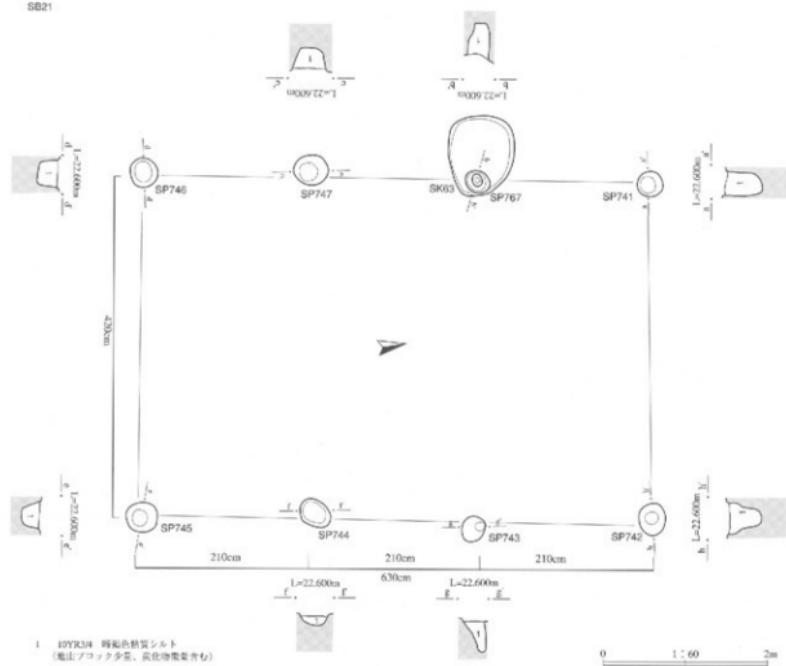


第21図 S B 18・19掘立柱建物

SB20



SB21



第22図 S B20・21掘立柱建物

[検出状況] V層上面で、暗褐色シルトの広がりが並んでいるのを確認し、掘立柱建物と判断した。

[重複関係] S K63と重複する。S P767との切り合い関係から、本遺構の方が新しい。

[平面形式] 梁間430cm、桁行き630cmを測る。面積は25.8m²である。使用した柱穴は8個で、1間3間である。

[建物の軸方向] 桁行きの軸方向N-12°-Wである。

[柱穴の堆積土] 暗褐色粘質シルトを主体とする単層である。柱痕が認められる柱穴は確認されなかつた。

[出土遺物] なし。

[建物の性格] 不明である。

[年代] 古代以降であると考えられる。

S B22掘立柱建物（第23図、写真図版17）

[位置] 調査区東側、II G 2 d、II G 2 e、II G 3 d、II G 3 eグリッドに位置する。

[検出状況] V層上面で、黒褐色シルトの広がりが並んでいるのを確認し、掘立柱建物と判断した。

[重複関係] S B24・25、S N08と重複する。柱穴との切り合い関係は認められないので、新旧関係は不明である。

[平面形式] 梁間450cm、桁行き630cmを測る。面積は28.2m²である。使用した柱穴は9個で、2間3間であるが、東側の梁方向の柱穴が1個足りない。

[建物の軸方向] 桁行きの軸方向はN-87°-Wである。

[柱穴の堆積土] 黒褐色粘質シルトを主体とし、4層に分けられる。柱痕が認められる柱穴は確認されなかつた。

[出土遺物] なし。

[建物の性格] 不明である。

[年代] 古代以降であると考えられる。

S B23掘立柱建物（第24図、写真図版17）

[位置] 調査区東側、II G 2 e～II G 2 g、II G 3 e～II G 2 gグリッドに位置する。

[検出状況] V層上面で、黒褐色シルトの広がりが並んでいるのを確認し、掘立柱建物と判断した。

[重複関係] S B27、S K72、S N10・11、S P1179と重複する。いずれの遺構とも、切り合い関係は認められないので、新旧関係は不明である。

[平面形式] 梁間390cm、桁行き1040cmを測る。面積は41.0m²である。使用した柱穴は12個で、1間5間である。

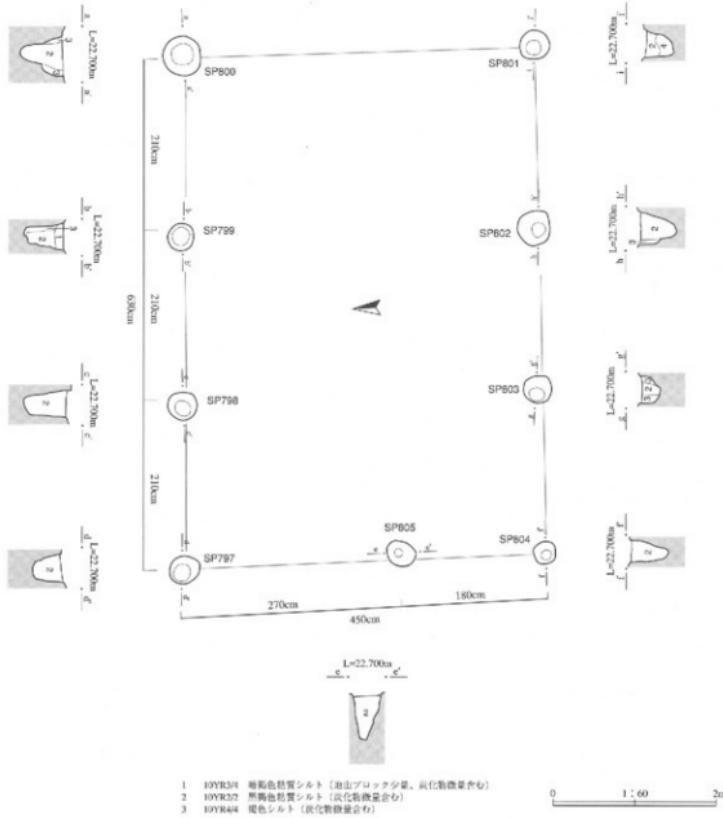
[建物の軸方向] 桁行きの軸方向はN-83°-Wである。

[柱穴の堆積土] 黒褐色粘質シルトを主体とし、2層に分けられる。柱痕が認められる柱穴は確認されなかつた。

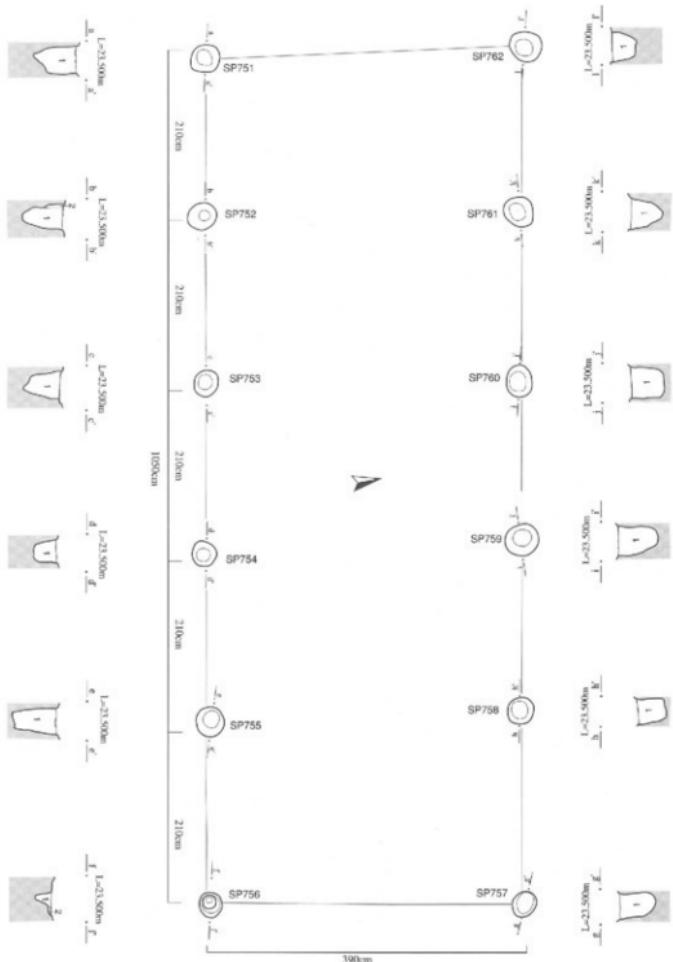
[出土遺物] なし。

[建物の性格] 不明である。

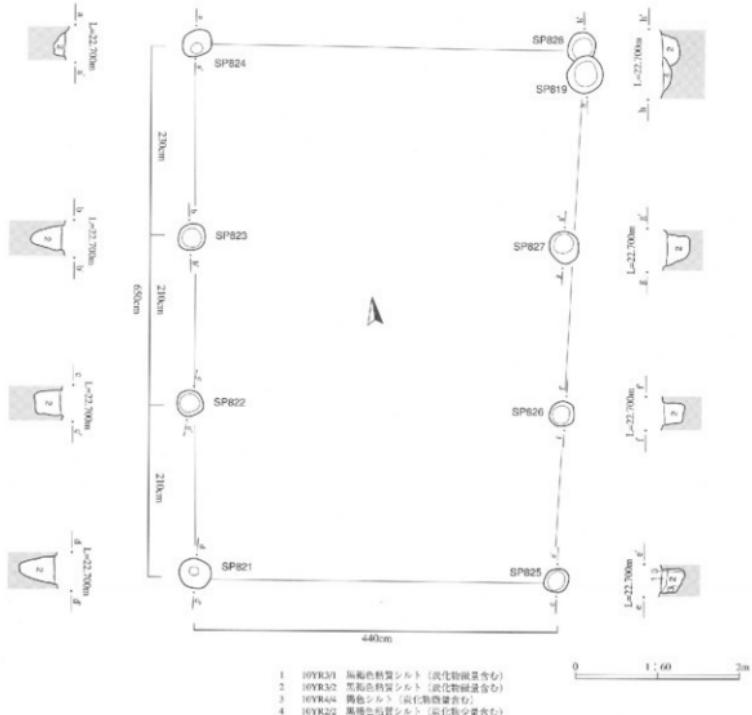
[年代] 古代以降であると考えられる。



第23図 S B22掘立柱建物



第24図 S B23掘立柱建物



第25図 SB 24掘立柱建物

S B24掘立柱建物（第25図、写真図版17）

【位置】 調査区東側、II G 3 d、II G 4 d グリッドに位置する。

【検出状況】 V層上面で、黒褐色シルトの広がりが並んでいるのを確認し、掘立柱建物と判断した。

【重複関係】 S B22、25、S K69と重複する。柱穴との切り合いは認められないので、新旧関係は不明である。

【平面形式】 梁間440cm、桁行き640cmを測る。面積は28.2m²である。使用した柱穴は8個で、1間3間である。

【建物の軸方向】 衍行きの軸方向はN - 6° - Eである。

【柱穴の堆積土】 黒褐色粘質シルトを主体とし、4層に分けられる。柱痕が認められる柱穴は確認されなかった。

【出土遺物】 なし。

【建物の性格】 不明である。

【年代】 古代以降であると考えられる。

S B25掘立柱建物（第26図、写真図版18）

【位置】 調査区東側、II G 2 e、II G 3 e グリッドに位置する。

【検出状況】 V層上面で、黒褐色シルトの広がりが並んでいるのを確認し、掘立柱建物と判断した。

【重複関係】 S B22・24と重複する。柱穴の切り合い関係は認められないので、新旧関係は不明である。

【平面形式】 梁間360cm、桁行き390cmを測る。面積は14.0m²である。使用した柱穴は6個で、1間2間である。

【建物の軸方向】 衍行きの軸方向はN - 85° - Wである。

【柱穴の堆積土】 黒褐色粘質シルトを主体とし、3層に分けられる。柱痕が認められる柱穴は確認されなかった。

【出土遺物】 なし。

【建物の性格】 不明である。

【年代】 古代以降であると考えられる。

S B26掘立柱建物（第26図、写真図版18）

【位置】 調査区東側、II G 3 f、II G 3 g、II G 4 f、II G 4 g グリッドに位置する。

【検出状況】 V層上面で、黒褐色シルトの広がりが並んでいるのを確認し、掘立柱建物と判断した。

【重複関係】 S B27、S N12と重複する。柱穴との切り合い関係は認められなかつたので、新旧関係は不明である。

【平面形式】 本造構は平面形がやや歪で、北側の衍行き方向がやや傾いている。従って、梁間は290cmと230cm、桁行きは600cmを測る。使用した柱穴は8個であり、1間3間である。

【建物の軸方向】 衍行き（南側）の軸方向はN - 85° - Wである。

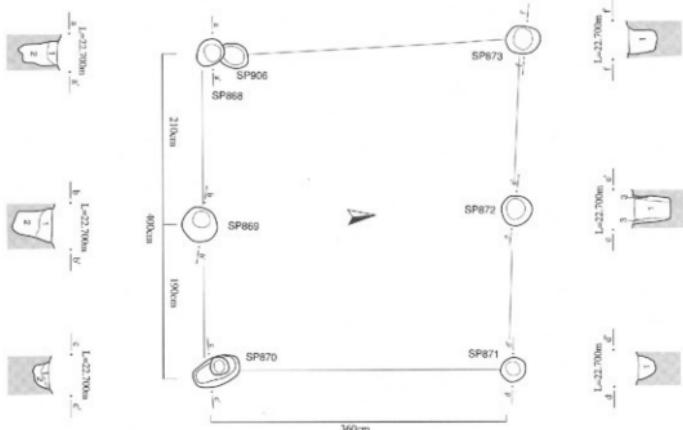
【柱穴の堆積土】 暗～黒褐色粘質シルトを主体とし、4層に分けられる。柱痕の認められる柱穴は確認されなかつた。

【出土遺物】 なし。

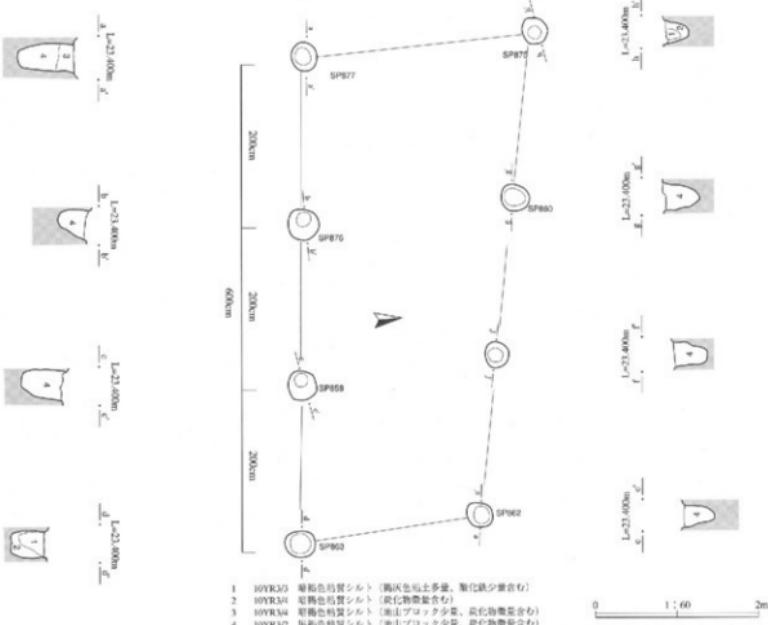
【建物の性格】 不明である。

【年代】 古代以降であると考えられる。

SB25



SB26



第26図 S B25・26据立柱建物

S B27掘立柱建物（第27図、写真図版18）

【位置】調査区東側、II G 3 f、II G 2 g、II G 3 gグリッドに位置する。

【検出状況】V層上面で、黒褐色シルトの広がりが並んでいるのを確認し、掘立柱建物と判断した。

【重複関係】S B23・26、S K70と重複している。柱穴との切り合い関係は認められないので、新旧関係は不明である。

【平面形式】梁間390cm、桁行き420cmを測る。面積は16.4m²である。使用した柱穴6個であり、1間2間である。

【建物の軸方向】桁行きの軸方向はN-8°-Eである。

【柱穴の堆積土】黒褐色粘質シルトを主体とする単層である。柱痕の認められる柱穴は確認されなかった。

【出土遺物】なし。

【建物の性格】不明である。

【年代】古代以降であると考えられる。

S B28掘立柱建物（第27図、写真図版19）

【位置】調査区東側、II G 4 f、II G 5 fグリッドに位置する。

【検出状況】V層上面で、黒褐色シルトの広がりが並んでいるのを確認し、掘立柱建物と判断した。

【重複関係】S K73・74、S N02・03と重複する。S K73・74とは遺構の切り合い関係は認められないので、新旧関係は不明。S N02・03は、本来、本遺構の柱穴があるべき所に位置しており、本遺構の柱穴を壊して構築されたこの可能性が高い。したがって、S N02・03より本遺構の方が古いと推定される。

【平面形式】梁間420cm、桁行き460cmを測る。面積19.3m²である。使用した柱穴は5個であり、1間2間と推定されるが、北西隅の柱穴がない。S N02・03に壊されたものと思われる。

【建物の軸方向】桁行きの軸方向はN-1°-Wである。

【柱穴の堆積土】黒褐色粘質シルトを主体とし、3層に分けられる。柱痕の認められる柱穴は確認されなかった。

【出土遺物】なし。

【建物の性格】不明である。

【年代】古代以降、近世以前である。

S B29掘立柱建物（第28図、写真図版19）

【位置】調査区東側、II G 7 d～II G 7 f、II G 8 d～II G 8 eグリッドに位置する。

【検出状況】V層上面で、黒褐色シルトの広がりが並んでいるのを確認し、掘立柱建物と判断した。

【重複関係】なし

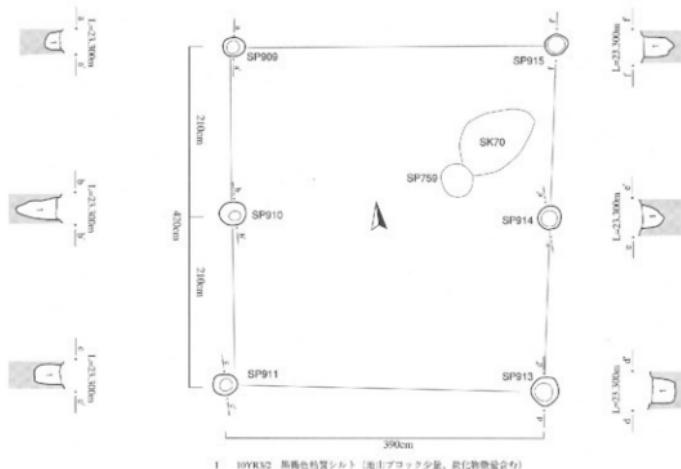
【平面形式】梁間330cm、桁行き520cmを測る。面積16.6m²である。使用した柱穴は6個であり、1間2間である。

【建物の軸方向】桁行きの軸方向はN-64°-Wである。

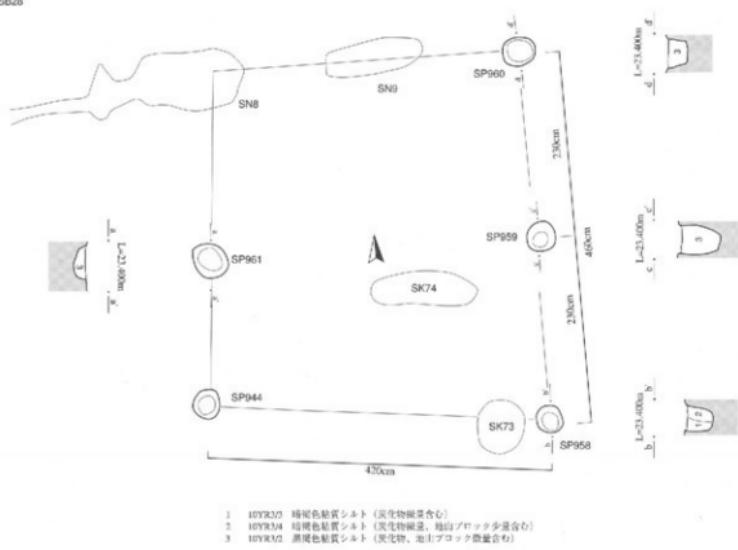
【柱穴の堆積土】黒褐色粘質シルトを主体とし、3層に分けられる。柱痕の認められる柱穴は確認されなかった。

【出土遺物】なし。

SB27

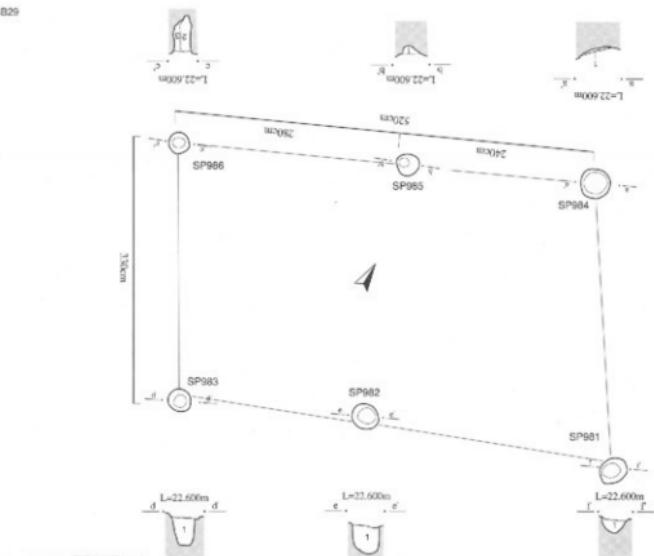


SB28

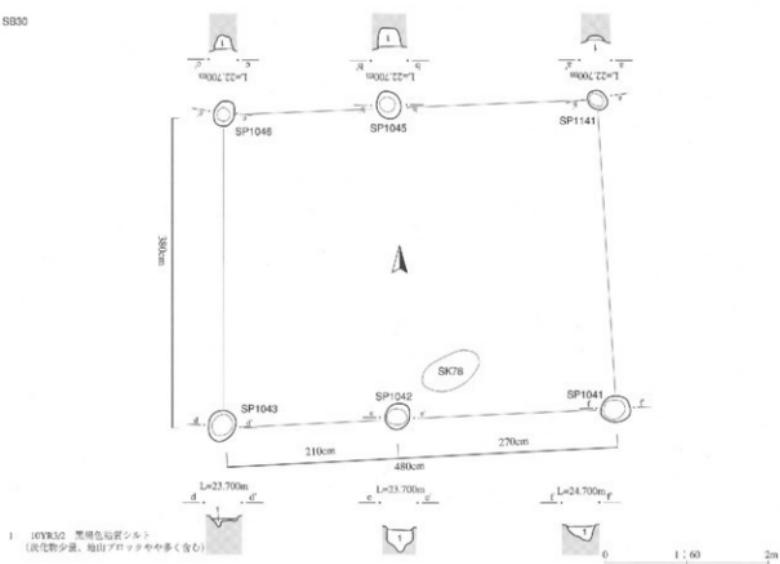


第27図 S B27・28獨立柱建物

SB29



SB30



第28図 S B 29・30標立柱建物

〔建物の性格〕 不明である。

〔年代〕 古代以降であると考えられる。

S B30掘立柱建物（第28図、写真図版19）

〔位置〕 調査区東側、II G 6 e、II G 6 d、II G 7 e、II G 7 d グリッドに位置する。

〔検出状況〕 V層上面で、黒褐色シルトの広がりが並んでいるのを確認し、掘立柱建物と判断した。

〔重複関係〕 S K78と重複する。柱穴との切り合い関係は認められないので、新旧関係は不明である。

〔平面形式〕 梁間390cm、桁行き480cmを測る。面積18.2m²である。使用した柱穴は6個であり、1間2間である。

〔建物の軸方向〕 衍行きの軸方向はN - 86° - Wである。

〔柱穴の堆積土〕 黒褐色粘質シルトを主体とする单層である。柱痕の認められる柱穴は確認されなかった。

〔出土遺物〕 なし。

〔建物の性格〕 不明である。

〔年代〕 古代以降であると考えられる。

土坑

本遺跡から86基検出している。

S K01土坑（第29図、写真図版20）

〔位置〕 調査区中央の北側、III D 4 h グリッドに位置する。

〔検出状況〕 V層上面で、黒褐色シルトの広がりを確認した。

〔重複関係〕 なし。

〔形態・規模〕 円形を呈する。径82cmで、深さ20cmを測る。

〔堆積土〕 黒褐色粘質シルトを主体とし、2層に分けられる。砂粒や地山ロームが混入する。

〔遺物〕 なし。

〔時期・性格〕 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K02土坑（第29図、写真図版20）

〔位置〕 調査区西側、III D 2 a グリッドに位置する。

〔検出状況〕 V層上面で、黒褐色粘質シルトの広がりを確認した。

〔重複関係〕 S K03と重複する。本遺構の方が新しい。

〔形態・規模〕 円形を呈する。径115cm、深さ18cmを測る。

〔堆積土〕 黒褐色粘質シルトを主体とする。炭化物や地山ブロックが混入する。

〔遺物〕 なし。

〔時期・性格〕 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K03土坑（第29図、写真図版20）

〔位置〕 調査区西側、III D 2 a グリッドに位置する。

〔検出状況〕 V層上面で、黒褐色シルトの広がりを確認した。

〔重複関係〕 S K02と重複する。本遺構の方が古い。

【形態・規模】 SK02に壊されており、全容は不明であるが、恐らく楕円形を呈する。残存する部分の規模は、63×42cmを測る。

【堆積土】 黒褐色粘質シルトを主体とする単層であり、地山ブロックが多量に混入する。

【遺物】 なし。

【時期・性格】 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

SK04土坑（第29図、写真図版20）

【位置】 調査区西側、ⅢD0 c グリッドに位置する。

【検出状況】 V層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

【重複関係】 なし。

【形態・規模】 楕円形を呈する。規模は150×130cm、深さ32cmを測る。

【堆積土】 暗褐色粘質シルトを主体とし、6層に分けられる。砂粒や地山ブロックが混入する。

【遺物】 なし。

【時期・性格】 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

SK05土坑（第29図、写真図版21）

【位置】 調査区西側、ⅡD8 c グリッドに位置する。

【検出状況】 V層上面で、褐色シルトや焼土の広がりを確認した。

【重複関係】 なし。

【形態・規模】 楕円形を呈する。規模は190×118cmで、深さ30cmを測る。

【堆積土】 褐色粘質シルトを主体とし、4層に分けられる。堆積土上位には焼土や炭化物の混入がみられる。

【遺物】 なし。

【時期・性格】 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

SK06土坑（第29図、写真図版21）

【位置】 調査区西側、ⅡD8 d グリッドに位置する。

【検出状況】 V層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

【重複関係】 なし。

【形態・規模】 楕円形を呈する。規模は130×116cmで、深さ31cmを測る。

【堆積土】 褐色粘質シルトを主体とし、3層に分けられる。

【遺物】 なし。

【時期・性格】 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

SK07土坑（第29図、写真図版21）

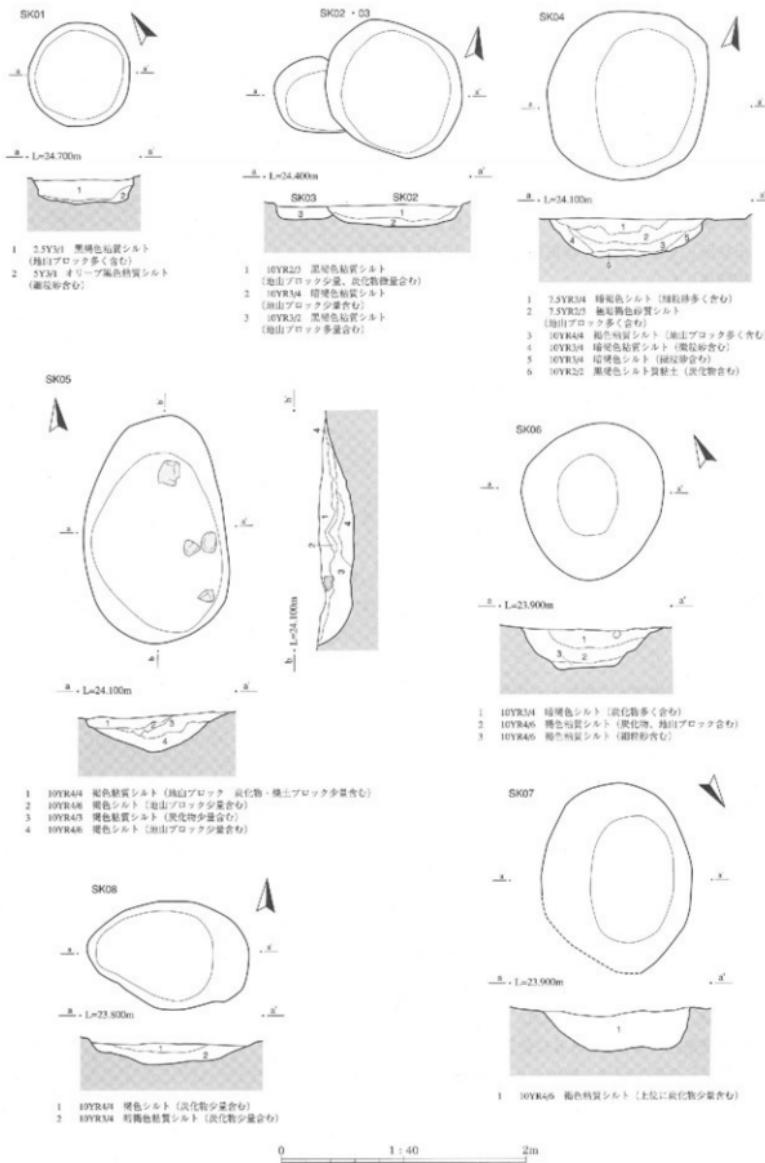
【位置】 調査区西側、ⅡD8 d に位置する。

【検出状況】 V層上面で、褐色シルトと炭化物の広がりを確認した。

【重複関係】 なし。

【形態・規模】 楕円形を呈する。規模は155×132cm、深さ31cmを測る。

【堆積土】 褐色粘質シルトを主体とする単層である。堆積土上位に炭化物が偏在している。



第29図 S K01~08土坑

[遺物] なし。

[時期・性格] 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K08土坑（第29図、写真図版21）

[位置] 調査区西側、ⅡD 7eグリッドに位置する。

[検出状況] V層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

[重複関係] なし。

[形態・規模] 楕円形を呈する。規模は133×89cmで、深さ17cmを測る。

[堆積土] 暗褐色粘質シルトを主体とし、2層に分けられる。炭化物の混入がみられる。

[遺物] なし。

[時期・性格] 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K09土坑（第30図、写真図版22）

[位置] 調査区西側、ⅡD 6 dグリッドに位置する。

[検出状況] V層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

[重複関係] SB03と重複する。遺構自体の切り合いは認められないので、新旧関係は不明である。

[形態・規模] 楕円形を呈する。規模は121×87cm、深さ10cmを測る。

[堆積土] 暗褐色粘質シルトを主体とする単層で、炭化物が混入する。

[遺物] なし。

[時期・性格] 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K10土坑（第30図、写真図版22）

[位置] 調査区西側、ⅢD 1 fグリッドに位置する。

[検出状況] V層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

[重複関係] なし。

[形態・規模] 楕円形を呈する。130×87cm、深さ25cmを測る。

[堆積土] 暗褐色粘質シルトを主体とし、2層に分けられる。炭化物が混入する。

[遺物] なし。

[時期・性格] 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K11土坑（第30図、写真図版22）

[位置] 調査区西側、ⅢD 8 gグリッドに位置する。

[検出状況] V層上面で、褐色シルトの広がりを確認した。

[重複関係] なし。

[形態・規模] 円形を呈する。径72cm、深さ11cmを測る。

[堆積土] 褐色砂質シルトを主体とする単層で、暗褐色粘質シルトや酸化鉄が混入する。

[遺物] なし。

[時期・性格] 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K12土坑（第30図、写真図版22）

【位置】 調査区西側、ⅡD 9eグリッドに位置する。

【検出状況】 V層上面で、暗褐色シルトに広がりを確認した。

【重複関係】 なし。

【形態・規模】 不整な楕円形を呈する。規模は76×60cm、深さ8cmを測る。

【堆積土】 暗褐色粘質シルトを主体とする単層で、炭化物や砂質シルトが混入する。

【遺物】 なし。

【時期・性格】 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K13土坑（第30図、写真図版23）

【位置】 調査区西側、ⅢD 1 fグリッドに位置する。

【検出状況】 V層上面で、黒褐色シルトの広がりを確認した。

【重複関係】 なし。

【形態・規模】 楕円形を呈する。規模は73×52cm、深さ23cmを測る。

【堆積土】 黒褐色粘質シルトを主体とする単層で、地山ブロックが混入する。

【遺物】 なし。

【時期・性格】 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K14土坑（第30図、写真図版23）

【位置】 調査区西側、ⅡD 8eグリッドに位置する。

【検出状況】 V層上面で、黒褐色シルトの広がりを確認した。

【重複関係】 なし。

【形態・規模】 楕円形を呈する。規模は73×55cm、深さ13cmを測る。

【堆積土】 黒褐色粘質シルトを主体とし、2層に分けられる。炭化物や地山ブロックが混入する。

【遺物】 なし。

【時期・性格】 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K15土坑（第30図、写真図版23）

【位置】 調査区西側、ⅡD 7 fグリッドに位置する。

【検出状況】 V層上面で、黒褐色シルトの広がりを確認した。

【重複関係】 S B08と重複する。遺構自体の切り合いで認められないでの、新旧関係は不明である。

【形態・規模】 楕円形を呈する。規模は66×52cm、深さ12cmを測る。

【堆積土】 黒褐色粘質シルトを主体とする単層で、炭化物が混入する。

【遺物】 なし。

【時期・性格】 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K16土坑（第30図、写真図版23）

【位置】 調査区西側、ⅡD 6 fグリッドに位置する。

【検出状況】 V層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

【重複関係】 なし。

[形態・規模] 楕円形を呈する。規模は91×47cm、深さ13cmを測る。

[堆積土] 暗褐色粘質シルトを主体とする単層で、地山ブロックが混入する。

[遺物] なし。

[時期・性格] 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K17土坑（第30図、写真図版24）

[位置] 調査区西側、ⅡE 5 f グリッドに位置する。

[検出状況] V層上面で、暗褐色シルトや焼土・火山灰の広がりを確認した。

[重複関係] なし。

[形態・規模] 楕円形を呈する。規模は115×83cm、深さ11cmを測る。

[堆積土] 暗褐色粘質シルトを主体とする単層である。堆積土上位に炭化材や焼土が混入し、火を使った形跡が見うけられる。また火山灰がブロック状で混入している。

[遺物] なし。

[時期・性格] 火山灰はおそらく十和田aテフラである。堆積様相から二次堆積と思われる。いずれ、本遺構は十和田aテフラ降下期前後のものであろう。性格は不明である。

S K18土坑（第30図、写真図版24）

[位置] 調査区中央北側、Ⅱ E 6 f グリッドに位置する。

[検出状況] V層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。溝状のプランであったが、溝と判断するほど長くはないので、土坑とした。

[重複関係] なし。

[形態・規模] 溝状の長楕円形を呈する。規模は232×56cm、深さ10cmを測る。

[堆積土] 暗褐色シルトを主体とする。炭化物や地山ブロックが混入する。

[遺物] なし。

[時期・性格] 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K19土坑（第30図、写真図版24）

[位置] 調査区中央北側、Ⅱ E 5 f グリッドに位置する。

[検出状況] V層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。柱穴状のプランであるが、周辺に対になる柱穴がなく、また堆積土に炭化物などを多く混入することから、土坑とした。

[重複関係] なし。

[形態・規模] 不整な円形を呈する。規模は径61cm、深さ25cmを測る。

[堆積土] 暗褐色粘質シルトを主体とし、2層に分けられる。炭化物が多量に混入する。

[遺物] なし。

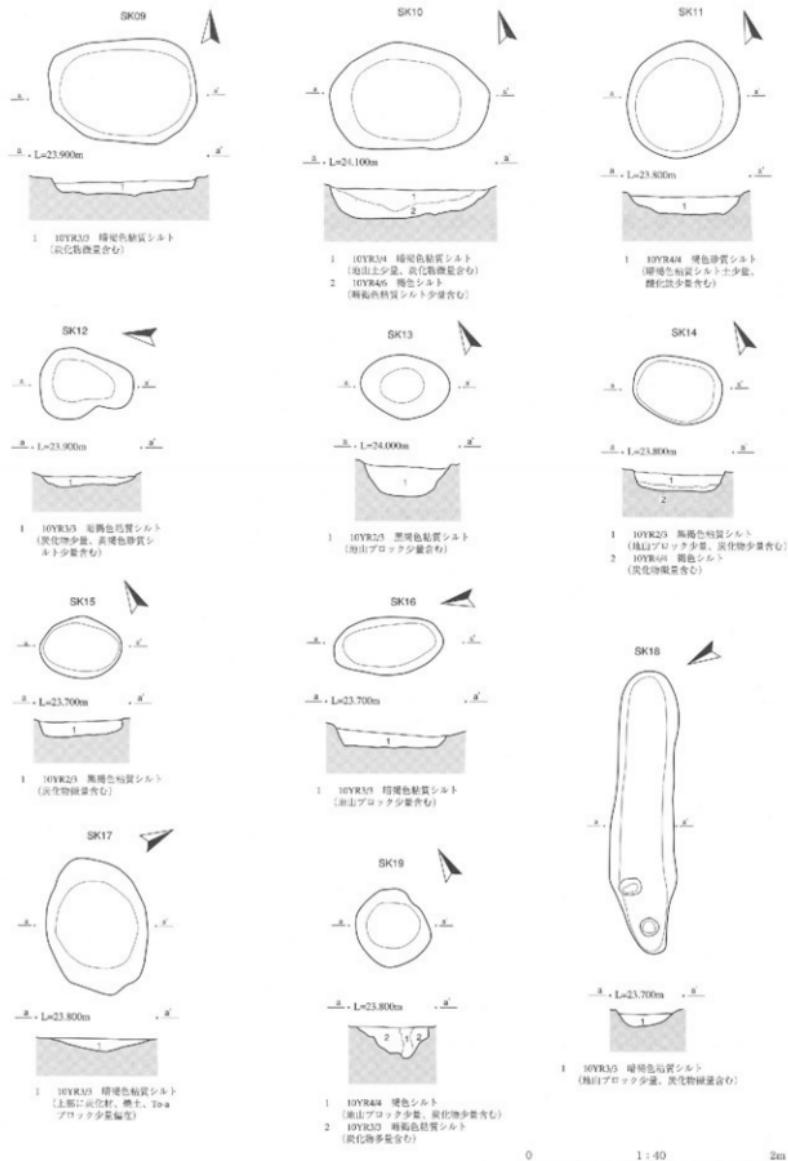
[時期・性格] 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K20土坑（第31図、写真図版24）

[位置] 調査区中央北側、ⅡF 5 f グリッドに位置する。

[検出状況] V層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

[重複関係] なし。



0 1:40 2m

第30図 S K09~19土坑

【形態・規模】 楕円形を呈する。規模は116×73cm、深さ13cmを測る。

【堆積土】 暗褐色粘質シルトを主体とし、2層に分けられる。炭化物が混入する。

【遺物】 なし。

【時期・性格】 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K21土坑（第31図、写真図版25）

【位置】 調査区中央北側、II E 6 g グリッドに位置する。

【検出状況】 V層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

【重複関係】 なし。

【形態・規模】 楕円形を呈する。規模は79×62cmで、深さ12cmを測る。

【堆積土】 暗褐色粘質シルトを主体とする単層である。炭化物や地山ブロックが混入する。

【遺物】 なし。

【時期・性格】 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K22土坑（第31図、写真図版25）

【位置】 調査区中央北側、II E 6 h グリッドに位置する。

【検出状況】 V層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

【重複関係】 SK23と重複する。本遺構の方が新しい。またS B16と重複する。遺構自体の切り合は認められないので、新旧関係は不明である。

【形態・規模】 円形を呈する。規模は径79cmで、深さ16cmを測る。

【堆積土】 暗褐色粘質シルトを主体とする単層である。炭化物や地山ブロックが混入する。

【遺物】 なし。

【時期・性格】 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K23土坑（第31図、写真図版25）

【位置】 調査区中央北側、II E 6 h グリッドに位置する。

【検出状況】 V層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

【重複関係】 SK22と重複する。本遺構の方が古い。またS B16と重複する。遺構自体の切り合は認められないので、新旧関係は不明である。

【形態・規模】 SK22に壊されていて、全容は不明であるが、残存部から椭円形を呈すると推測される。規模は残存部で46×30cm、深さ13cmを測る。

【堆積土】 褐色シルトを主体とする単層である。地山ブロックが混入する。

【遺物】 なし。

【時期・性格】 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K24土坑（第31図、写真図版25）

【位置】 調査区中央北側、II E 6 h グリッドに位置する。

【検出状況】 V層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

【重複関係】 S B16と重複する。遺構自体の切り合は認められないので、新旧関係は不明である。

【形態・規模】 楕円形を呈する。規模は137×94cm、深さ25cmを測る。

【堆積土】 暗褐色粘質シルトを主体とし、2層に分けられる。炭化物が混入し、底面付近には褐灰色の粘土が沈殿している。

【遺物】 なし。

【時期・性格】 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K25土坑（第31図、写真図版25）

【位置】 調査区中央北側、ⅡE 8 G グリッドに位置する。

【検出状況】 V層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

【重複関係】 なし。

【形態・規模】 不整な方形を呈する。規模は112×106cm、深さ11cmを測る。

【堆積土】 褐色シルトを主体とし、2層に分けられる。堆積土上位は暗褐色粘質シルトが偏在する。炭化物が混入する。

【遺物】 なし。

【時期・性格】 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K26土坑（第31図、写真図版26）

【位置】 調査区中央北側、ⅡE 9 f グリッドに位置する。

【検出状況】 V層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

【重複関係】 なし。

【形態・規模】 楕円形を呈する。規模は142×81cm、深さ23cmを測る。

【堆積土】 暗褐色粘質シルトを主体とする単層である。炭化物が混入する。

【遺物】 なし。

【時期・性格】 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K27土坑（第31図、写真図版26）

【位置】 調査区中央北側、ⅡE 9 f グリッドに位置する。

【検出状況】 V層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

【重複関係】 なし。

【形態・規模】 楕円形を呈する。規模107×56cm、深さ17cmを測る。

【堆積土】 暗褐色粘質シルトを主体とし、2層に分けられる。炭化物や地山ブロックが混入する。

【遺物】 なし。

【時期・性格】 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K28土坑（第31図、写真図版26）

【位置】 調査区中央北側、ⅡF 3 d グリッドに位置する。

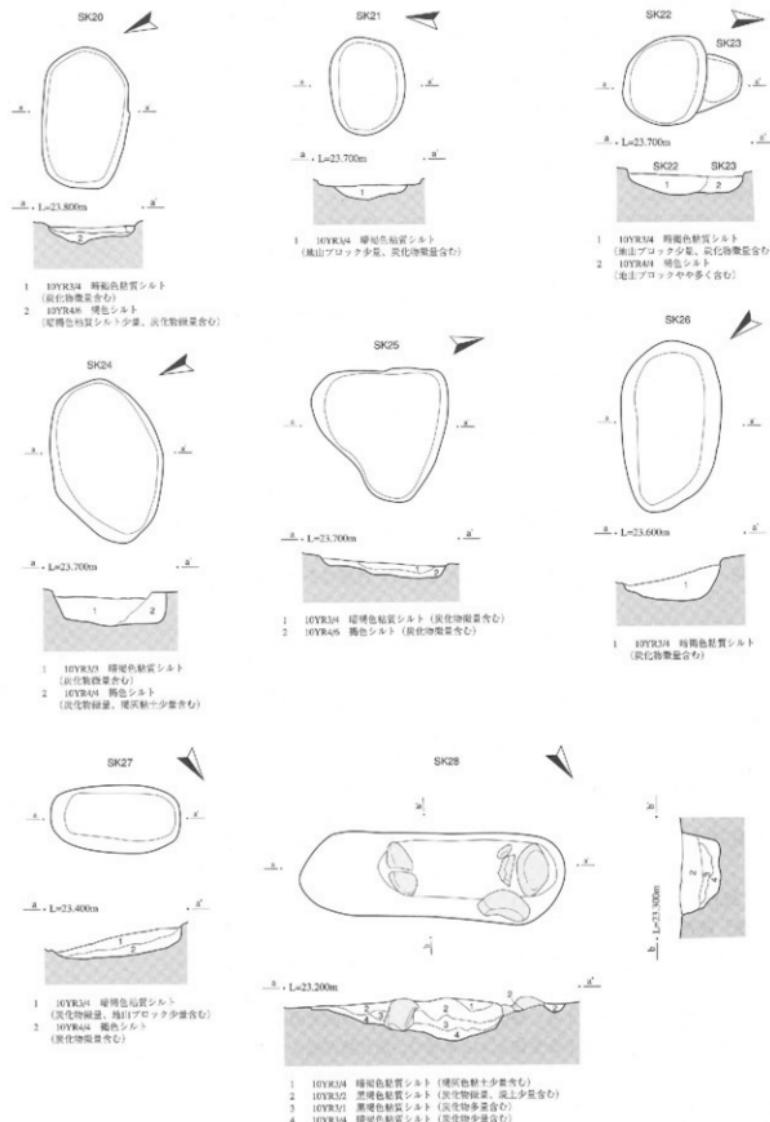
【検出状況】 V層上面で、黒褐色シルトや焼土、炭化物の広がりを確認した。

【重複関係】 なし。

【形態・規模】 楕円形を呈する。規模は218×74cm、深さ35cmを測る。

【堆積土】 黒褐色粘質シルトを主体とし、4層に分けられる。炭化物や焼土が混入する。

【遺物】 頁岩のチップが堆積土上位から出土している。



第31図 SK20~28土坑

【時期・性格】堆積土の様相から中世以降であろう。長辺の両端の底面に大縁が並んでいる。墓の可能性も考えられる。

S K29土坑（第32図、写真図版26）

【位置】調査区東側、ⅢD 1 f グリッドに位置する。

【検出状況】VI層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

【重複関係】なし。

【形態・規模】稍円形を呈する。規模は102×73cm、深さ11cmを測る。

【堆積土】暗褐色粘質シルトを主体とする単層で、炭化物が混入する。

【遺物】なし。

【時期・性格】堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K30土坑（第32図、写真図版27）

【位置】調査区東側、ⅡF 3 e グリッドに位置する。

【検出状況】VI層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

【重複関係】なし。

【形態・規模】稍円形を呈する。底面に柱穴状の掘り込みがある。規模は85×47cm、深さ27cmを測る。

【堆積土】暗褐色粘質シルトを主体とし、2層に分けられる。炭化物や地山ブロックが混入する。

【遺物】なし。

【時期・性格】堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K31土坑（第32図、写真図版27）

【位置】調査区東側、ⅡF 3 g グリッドに位置する。

【検出状況】VI層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。一部、搅乱によって壊されている。

【重複関係】なし。

【形態・規模】稍円形を呈する。規模は101×51cm、深さ4cmを測る。

【堆積土】暗褐色粘質シルトを主体とする単層で、炭化物が混入する。

【遺物】なし。

【時期・性格】堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K32土坑（第32図、写真図版27）

【位置】調査区東側、ⅡF 2 g グリッドに位置する。

【検出状況】VI層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

【重複関係】なし。

【形態・規模】稍円形を呈する。規模は93×60cm、深さ8cmを測る。

【堆積土】暗褐色粘質シルトを主体とする単層で、炭化物が混入する。

【遺物】なし。

【時期・性格】堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K33土坑（第32図、写真図版27）

[位置] 調査区東側、ⅡF 2 h グリッドに位置する。

[検出状況] VI層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

[重複関係] なし。

[形態・規模] 不整な橢円形を呈する規模は125×70cm、深さ9cmを測る。

[堆積土] 暗褐色粘質シルトを主体とする単層である。炭化物が混入する。

[遺物] なし。

[時期・性格] 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K34土坑（第32図、写真図版28）

[位置] 調査区東側、ⅡF 2 h グリッドに位置する。

[検出状況] V層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

[重複関係] なし。

[形態・規模] 不整な隅丸方形を呈する。規模は75×60cm、深さ8cmを測る。

[堆積土] 暗褐色粘質シルトを主体とする単層である。炭化物が混入する。

[遺物] なし。

[時期・性格] 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K35土坑（第32図、写真図版28）

[位置] 調査区東側、ⅡF 2 h グリッドに位置する。

[検出状況] VI層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

[重複関係] なし。

[形態・規模] 楕円形を呈する。規模は108×66cm、深さ8cmを測る。

[堆積土] 暗褐色粘質シルトを主体とする単層である。炭化物が混入する。

[遺物] なし。

[時期・性格] 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K36土坑（第32図、写真図版28）

[位置] 調査区東側、ⅡF 2 h グリッドに位置する。

[検出状況] VI層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

[重複関係] なし。

[形態・規模] 円形を呈する。規模は径92cm、深さ13cmを測る。

[堆積土] 暗褐色粘質シルトを主体とする単層である。炭化物や地山ブロックが混入する。

[遺物] なし。

[時期・性格] 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K37土坑（第32図、写真図版28）

[位置] 調査区東側、ⅡF 2 g グリッドに位置する。

[検出状況] VI層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

[重複関係] なし。

[形態・規模] 不整な方形を呈する。規模98×80cm、深さ9cmを測る。

[堆積土] 暗褐色粘質シルトを主体とする単層である。炭化物が混入する。

[遺物] なし。

[時期・性格] 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K38土坑（第32図、写真図版29）

[位置] 調査区東側、ⅡF 2 g グリッドに位置する。

[検出状況] V層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

[重複関係] なし。

[形態・規模] 楕円形を呈する。規模は70×48cm、深さ5cmを測る。

[堆積土] 暗褐色粘質シルトを主体とする単層である。炭化物や地山ブロックが混入する。

[遺物] なし。

[時期・性格] 堆積土の様相から中世以降であろう。

S K39土坑（第32図、写真図版29）

[位置] 調査区東側、ⅡF 1 f グリッドに位置する。

[検出状況] V層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

[重複関係] なし。

[形態・規模] 楕円形を呈する。規模は102×76cm、深さ13cmを測る。

[堆積土] 暗褐色粘質シルトを主体とする単層で、炭化物が混入する。

[遺物] なし。

[時期・性格] 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K40土坑（第32図、写真図版29）

[位置] 調査区東側、ⅡF 1 f グリッドに位置する。

[検出状況] V層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

[重複関係] なし。

[形態・規模] 楕円形を呈する。規模は102×52cm、深さ18cmを測る。

[堆積土] 暗褐色粘質シルトを主体とし、2層に分けられる。炭化物や地山ブロックが混入する。

[遺物] なし。

[時期・性格] 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K41土坑（第33図、写真図版29）

[位置] 調査区東側、ⅡF 0 f グリッドに位置する。

[検出状況] V層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

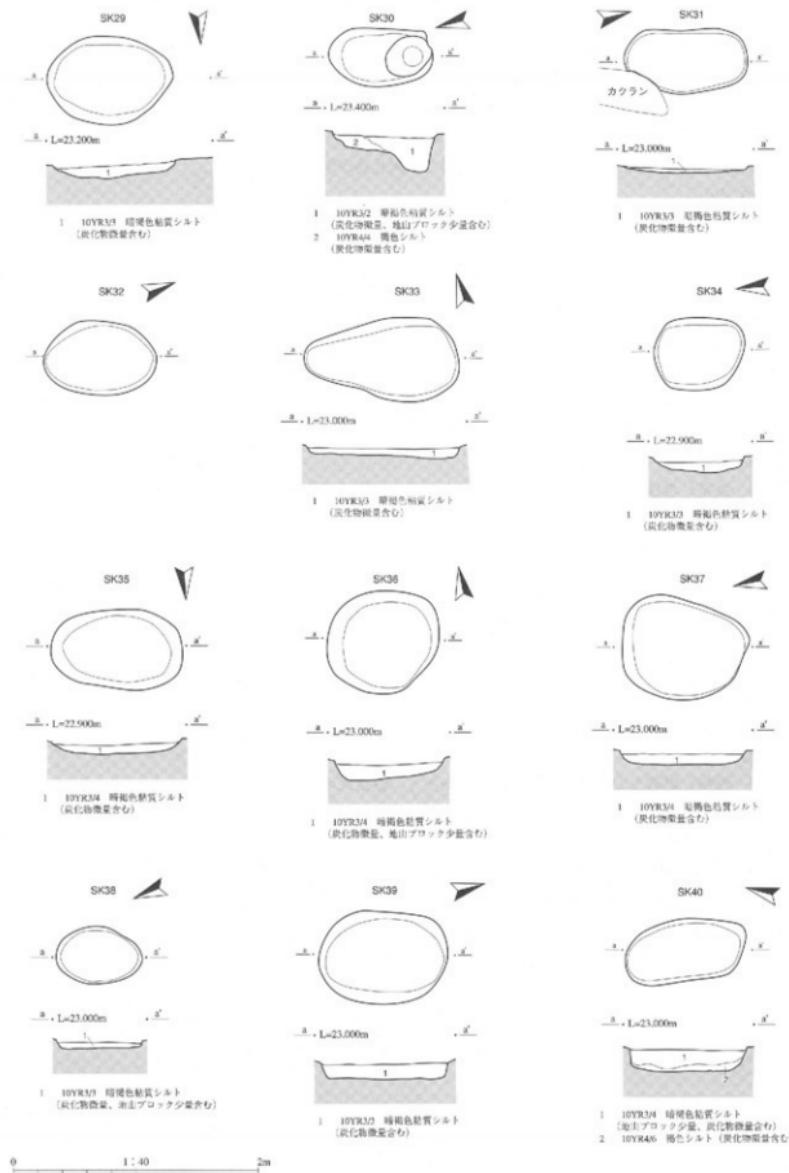
[重複関係] なし。

[形態・規模] 不整な楕円形を呈する。規模は93×55cm、深さ3cmを測る。

[堆積土] 暗褐色粘質シルトを主体とする単層で、炭化物が混入する。

[遺物] なし。

[時期・性格] 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。



第32図 S K 29~40土坑

S K42土坑（第33図、写真図版30）

[位置] 調査区東側、ⅡF2 i グリッドに位置する。

[検出状況] V層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

[重複関係] なし。

[形態・規模] 楕円形を呈する。規模は79×36cm、深さ4cmを測る。

[堆積土] 暗褐色粘質シルトを主体とする単層で、炭化物が混入する。

[遺物] なし。

[時期・性格] 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K43土坑（第33図、写真図版30）

[位置] 調査区東側、ⅡF2 i グリッドに位置する。

[検出状況] V層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

[重複関係] なし。

[形態・規模] 楕円形を呈する。規模は103×71cm、深さ11cmを測る。

[堆積土] 暗褐色粘質シルトを主体とする単層で、炭化物が混入する。

[遺物] なし。

[時期・性格] 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K44土坑（第33図、写真図版30）

[位置] 調査区東側、ⅡF1 f グリッドに位置する。

[検出状況] V層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

[重複関係] なし。

[形態・規模] 楕円形を呈する。底面に柱穴状の掘り込みが見うけられる。規模は89×62cm、深さ10cmを測る。

[堆積土] 暗褐色粘質シルトを主体とする単層で、炭化物が混入する。

[遺物] なし。

[時期・性格] 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K45土坑（第33図、写真図版30）

[位置] 調査区東側、ⅡF0 h グリッドに位置する。

[検出状況] V層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

[重複関係] なし。

[形態・規模] 不整な円形を呈する。規模は径72cm、深さ11cmを測る。

[堆積土] 暗褐色粘質シルトを主体とする単層である。炭化物や地山ブロックが混入する。

[遺物] なし。

[時期・性格] 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K46土坑（第33図、写真図版31）

[位置] 調査区東側、ⅡF0 i グリッドに位置する

[検出状況] V層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

[重複関係] S P 657と重複する。本遺構の方が古い。

[形態・規模] 楕円形を呈する。規模は85×67cm、深さ11cmを測る。

[堆積土] 暗褐色粘質シルトを主体とする単層である。炭化物が混入する。

[遺物] なし。

[時期・性格] 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K47土坑（第33図、写真図版31）

[位置] 調査区東側、II F 0 g グリッドに位置する。

[検出状況] V層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

[重複関係] なし。

[形態・規模] 不整な楕円形を呈する。規模は71×48cm、深さ11cmを測る。

[堆積土] 暗褐色粘質シルトを主体とする単層である。炭化物が混入する。

[遺物] なし。

[時期・性格] 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K48土坑（第33図、写真図版31）

[位置] 調査区東側、II F 2 i グリッドに位置する。

[検出状況] V層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

[重複関係] なし。

[形態・規模] 楕円形を呈する。規模は88×56cm、深さ17cmを測る。

[堆積土] 暗褐色粘質シルトを主体とし、2層に分けられる。炭化物が混入する。

[遺物] なし。

[時期・性格] 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K49土坑（第33図、写真図版31）

[位置] 調査区東側、II F 2 j グリッドに位置する。

[検出状況] V層上面で、黒褐色シルトの広がりを確認した。

[重複関係] なし。

[形態・規模] 楕円形を呈する。規模80×61cm、深さ18cmを測る。

[堆積土] 暗褐色粘質シルトを主体とし、2層に分けられる。上位に黒褐色粘質シルトが偏在する。炭化物の混入が見られる。

[遺物] なし。

[時期・性格] 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K50土坑（第33図、写真図版32）

[位置] 調査区東側、II F 2 j グリッドに位置する。

[検出状況] V層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

[重複関係] なし。

[形態・規模] 楕円形を呈する。規模は63×53cm、深さ10cmを測る。

[堆積土] 暗褐色粘質シルトを主体とする単層である。炭化物が混入する。

〔遺物〕なし。

〔時期・性格〕堆積土の様相から中世以降であろう。

S K51土坑（第33図、写真図版32）

〔位置〕調査区東側、II F 2 j グリッドに位置する。

〔検出状況〕V層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

〔重複関係〕なし。

〔形態・規模〕楕円形を呈する。規模は73×58cm、深さ18cmを測る。

〔堆積土〕暗褐色粘質シルトを主体とする単層で、炭化物や地山ブロックが混入する。

〔遺物〕なし。

〔時期・性格〕堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K52土坑（第33図、写真図版32）

〔位置〕調査区東側、II F 1 i グリッドに位置する。

〔検出状況〕V層上面で、黒褐色シルトの広がりを確認した。

〔重複関係〕なし。

〔形態・規模〕楕円形を呈する。規模は72×27cm、深さ7cmを測る。

〔堆積土〕暗褐色粘質シルトを主体とする単層である。炭化物や地山ブロックが混入する。

〔遺物〕なし。

〔時期・性格〕堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K53土坑（第34図、写真図版32）

〔位置〕調査区東側、II G 1 a グリッドに位置する。

〔検出状況〕V層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

〔重複関係〕なし。

〔形態・規模〕楕円形を呈する。規模は88×60cm、深さ12cmを測る。

〔堆積土〕暗褐色粘質シルトを主体とし、2層に分けられる。炭化物が混入する。底面付近に酸化鉄が偏在している。

〔遺物〕なし。

〔時期・性格〕堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K54土坑（第34図、写真図版33）

〔位置〕調査区東側、II F 2 j グリッドに位置する。

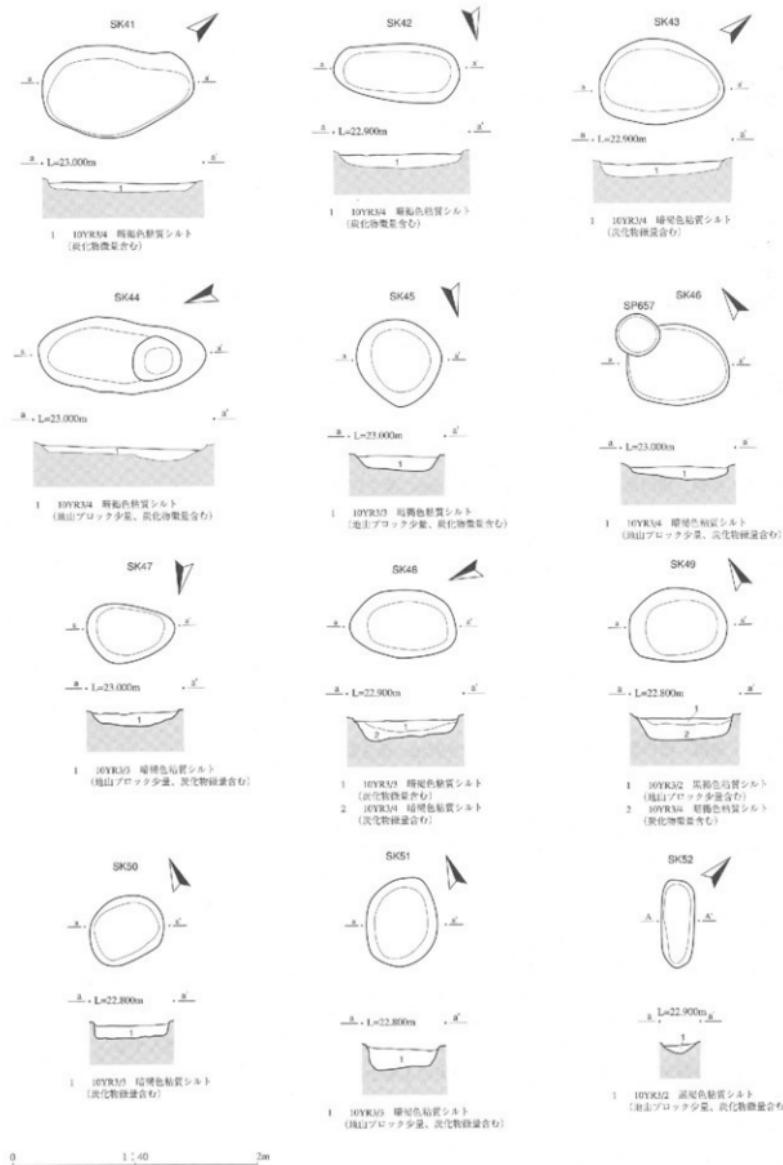
〔検出状況〕V層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。溝状のプランであるが、溝と判断するには長さがないので、土坑とした。

〔重複関係〕S P669と重複する。本遺構の方が古い。

〔形態・規模〕楕円形を呈する。南側の端部がS P669により壊されおり、正確な規模は不明である。残存部は110×36cm、深さ11cmを測る。

〔堆積土〕暗褐色粘質シルトを主体とし、2層に分けられる。炭化物が混入する。

〔遺物〕なし。



第33図 S K 41~52土坑

〔時期・性格〕 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K55土坑（第34図、写真図版33）

〔位置〕 調査区東側、ⅡF 1 i グリッドに位置する。

〔検出状況〕 V層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

〔重複関係〕 S B18・19と重複する。遺構自体の切り合いは認められないので、新旧関係は不明である。なし。

〔形態・規模〕 円形を呈する。規模は径70cm、深さ21cmを測る。

〔堆積土〕 暗褐色粘質シルトを主体とする単層である。炭化物や酸化鉄が混入する。

〔遺物〕 なし。

〔時期・性格〕 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K56土坑（第34図、写真図版33）

〔位置〕 調査区東側、ⅡG 2 b グリッドに位置する。

〔検出状況〕 V層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

〔重複関係〕 なし。

〔形態・規模〕 精円形を呈する。規模は99×73cm、深さ17cmを測る。

〔堆積土〕 暗褐色粘質シルトを主体とする単層である。炭化物が混入する。

〔遺物〕 なし。

〔時期・性格〕 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K57土坑（第34図、写真図版33）

〔位置〕 調査区東側、ⅡG 1 b グリッドに位置する。

〔検出状況〕 V層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

〔重複関係〕 なし。

〔形態・規模〕 精円形を呈する。規模は192×97cm、深さ21cmを測る。

〔堆積土〕 暗褐色粘質シルトを主体とする単層である。炭化物や地山ブロックが混入する。

〔遺物〕 なし。

〔時期・性格〕 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K58土坑（第34図、写真図版34）

〔位置〕 調査区東側、ⅡF 2 h グリッドに位置する。

〔検出状況〕 VI層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

〔重複関係〕 なし。

〔形態・規模〕 不整な精円形を呈する。規模165×147cm、深さ19cmを測る。

〔堆積土〕 暗褐色粘質シルトを主体とし、2層に分けられる。炭化物や酸化鉄が混入する。

〔遺物〕 土師器が出土している。また遺構中央の1層上面から礫が集中して出土した。礫には使用痕は見受けられない、自然礫である。

〔時期・性格〕 出土した土師器から10世紀に比定される。性格は不明である。

S K59土坑（第34図、写真図版34）

[位置] 調査区東側、II F 1 i グリッドに位置する。

[検出状況] V層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

[重複関係] なし。

[形態・規模] 円形を呈する。規模は径80cm、深さ11cmを測る。

[堆積土] 暗褐色粘質シルトを主体とする単層である。炭化物が混入する。

[遺物] なし。

[時期・性格] 堆積土の様相から中世以降であろう。

S K60土坑（第34図、写真図版34）

[位置] 調査区東側、I G 9 d グリッドに位置する。

[検出状況] V層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

[重複関係] なし。

[形態・規模] 楕円形を呈する。規模は89×61cm、深さ23cmを測る。

[堆積土] 暗褐色粘質シルトを主体とし、2層に分けられる。炭化物が混入する。

[遺物] 漆製品がみつかっている。漆製品は大きい蝶の上に置かれたような状態で出土した。赤褐色を呈し、方形の模様が確認できる。残存状態が悪く、縮み物状のものであるのか、また彫刻状に模様が刻まれた箱類で、漆部分のみが残存したものなのかどうか定かではない。

[時期・性格] 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は定かではないが、漆製品を埋納するための土坑であったと思われる。

S K61土坑（第34図、写真図版34）

[位置] 調査区東側、I G 8 c グリッドに位置する。

[検出状況] V層上面で、暗褐色粘質シルトの広がりを確認した。

[重複関係] なし。

[形態・規模] 楕円形を呈する。規模は130×65cm、深さ21cmを測る。

[堆積土] 暗褐色粘質シルトを主体とする単層である。炭化物や地山ブロックが混入する。

[遺物] なし。

[時期・性格] 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K62土坑（第34図、写真図版35）

[位置] 調査区東側、II G 1 e グリッドに位置する。

[検出状況] V層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

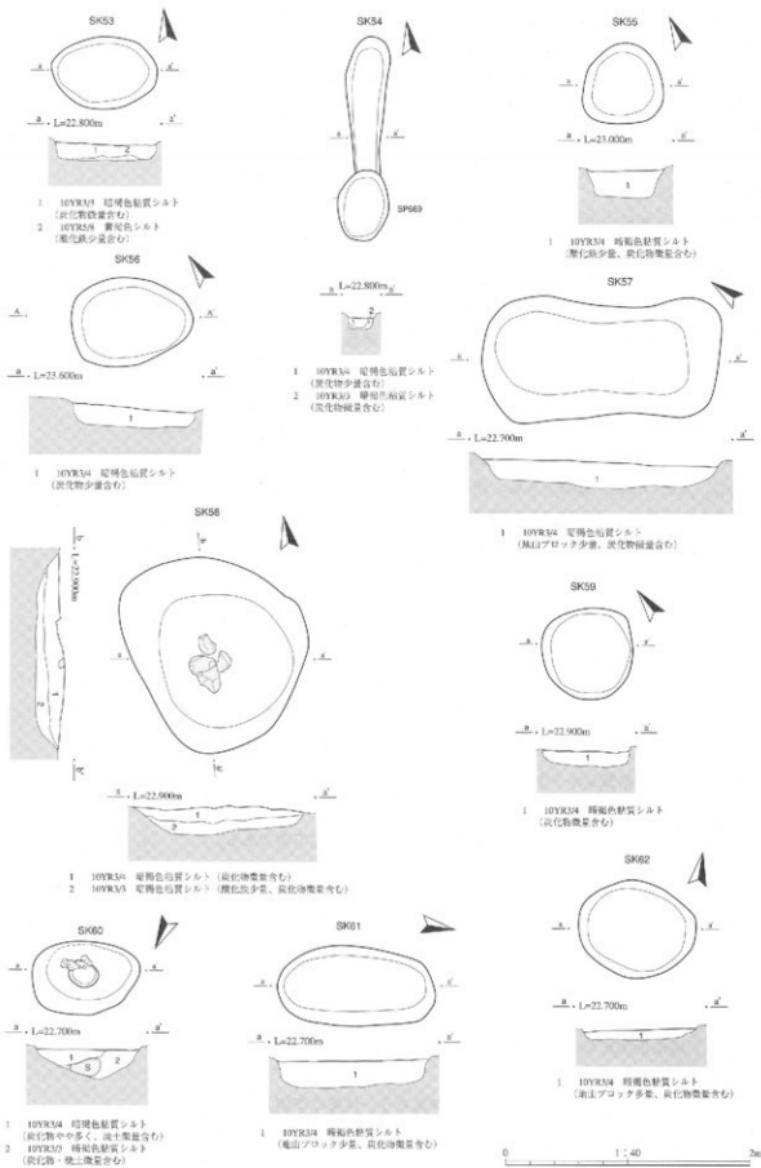
[重複関係] なし。

[形態・規模] 不整な楕円形を呈する。規模は97×80cm、深さ9cmを測る。

[堆積土] 暗褐色粘質シルトを主体とする単層で、炭化物や地山ブロックが混入する。

[遺物] なし。

[時期・性格] 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。



第34図 S K53~62土坑

S K63土坑（第35図、写真図版35）

[位置] 調査区東側、II G 0 f グリッドに位置する。

[検出状況] V層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

[重複関係] S B21の柱穴（S P767）と重複する。本遺構の方が古い。

[形態・規模] 楕円形を呈する。規模は97×81cm、深さ9cmを測る。

[堆積土] 暗褐色粘質シルトを主体とする単層で、炭化物や地山ブロックが混入する。

[遺物] なし。

[時期・性格] 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K64土坑（第35図、写真図版35）

[位置] 調査区東側、II G 1 e グリッドに位置する。

[検出状況] V層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

[重複関係] なし。

[形態・規模] 楕円形を呈する。規模は123×73cm、深さ7cmを測る。

[堆積土] 暗褐色粘質シルトを主体とする単層で、炭化物が混入する。

[遺物] なし。

[時期・性格] 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K65土坑（第35図、写真図版35）

[位置] 調査区東側、II G 4 g グリッドに位置する。

[検出状況] V層上面で、黒褐色シルトの広がりを確認した。

[重複関係] なし。

[形態・規模] 楕円形を呈する。底面に柱穴状の掘り込みが見うけられる。規模は147×130cm、深さ23cmを測る。

[堆積土] 暗褐色粘質シルトを主体とする単層で、炭化物が混入する。

[遺物] なし。

[時期・性格] 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K66土坑（第35図、写真図版36）

[位置] 調査区東側、II G 3 c グリッドに位置する。

[検出状況] V層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

[重複関係] なし。

[形態・規模] 不整な楕円形を呈する。規模は100×63cm、深さ28cmを測る。

[堆積土] 暗褐色粘質シルトを主体とする単層である。炭化物が混入する。

[遺物] なし。

[時期・性格] 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K67土坑（第35図、写真図版36）

[位置] 調査区東側、II G 5 d グリッドに位置する。

[検出状況] V層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

[重複関係] なし。

[形態・規模] 精円形を呈する。規模は97×63cm、深さ12cmを測る。

[堆積土] 暗褐色粘質シルトを主体とし、2層に分けられる。炭化物や焼土が混入する。

[遺物] なし。

[時期・性格] 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K68土坑（第35図、写真図版36）

[位置] 調査区東側、II G 2 f グリッドに位置する。

[検出状況] V層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

[重複関係] なし。

[形態・規模] 精円形を呈する。規模は116×55cm、深さ21cmを測る。

[堆積土] 暗褐色粘質シルトを主体とする単層である。炭化物が混入する。

[遺物] なし。

[時期・性格] 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K69土坑（第35図、写真図版36）

[位置] 調査区東側、II G 4 d グリッドに位置する。

[検出状況] V層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

[重複関係] S B24と重複する。遺構自体の切り合いは認められないので、新証関係は不明である。なし。

[形態・規模] 精円形を呈する。底面中央に柱穴状の掘り込みが見受けられる。断面で確認したところ、遺構上位面から切り込んでいるように見えるが、混入物の様相は類似しており、本遺構に付属するものと判断した。規模は123×56cm、深さ19cmを測る。

[堆積土] 暗褐色粘質シルトを主体とし、2層に分けられる。炭化物や地山ブロックが混入する。

[遺物] なし。

[時期・性格] 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K70土坑（第35図、写真図版37）

[位置] 調査区東側、II G 3 g グリッドに位置する。

[検出状況] V層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

[重複関係] S B23の柱穴（S P759）と重複する。本遺構の方は古い。

[形態・規模] 精円形を呈する。規模101×69cm、深さ11cmを測る。

[堆積土] 暗褐色粘質シルトを主体とする単層である。炭化物や地山ブロックが混入する。

[遺物] なし。

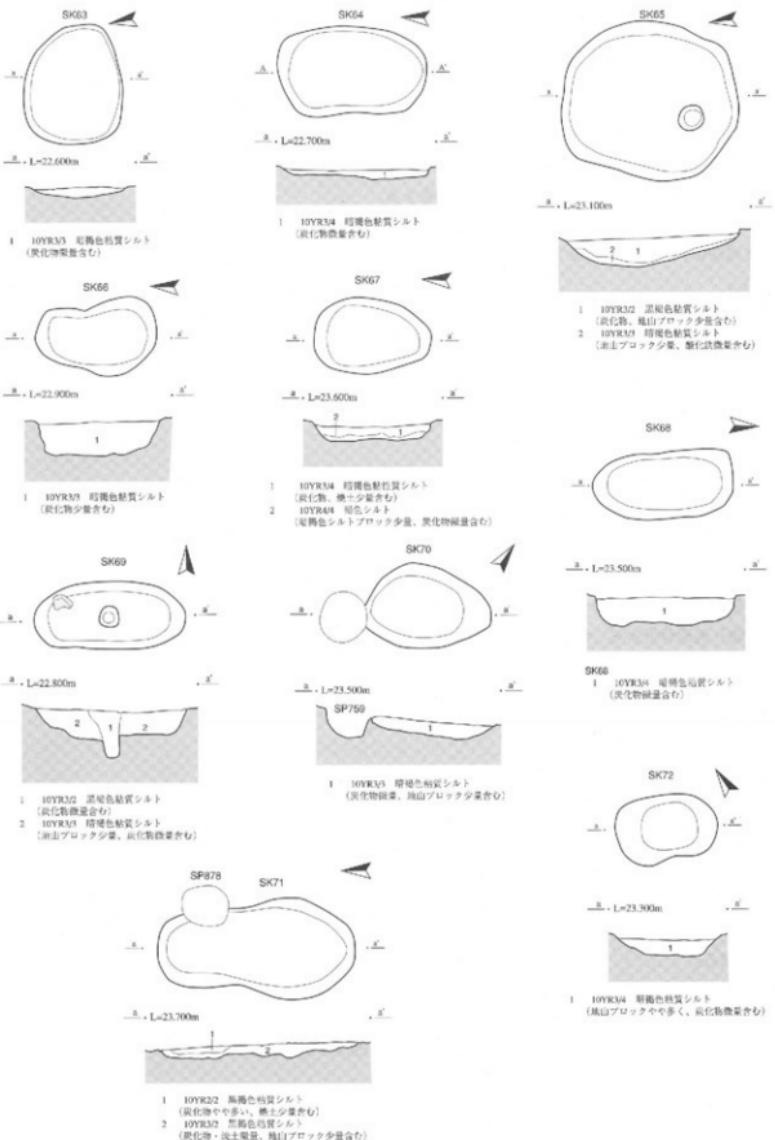
[時期・性格] S B23との重複関係から中世前後であろう。性格は不明である。

S K71土坑（第35図、写真図版37）

[位置] 調査区東側、II G 5 d グリッドに位置する。

[検出状況] V層上面で、黒褐色シルトの広がりを確認した。

[重複関係] S P878と重複する。



第35図 S K63~72土坑

[形態・規模] 條円形を呈する。規模は163×85cm、深さ11cmを測る。

[堆積土] 黒褐色粘質シルトを主体とし、2層に分けられる。炭化物や焼土が混入する。

[遺物] なし。

[時期・性格] 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K72土坑（第35図、写真図版37）

[位置] 調査区東側、Ⅱ G 2 g グリッドに位置する。

[検出状況] V層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

[重複関係] S B23と重複する。遺構自体の切り合いは認められないので、新旧関係は不明である。なし。

[形態・規模] 不整な條円形を呈する。規模は84×57cm、深さ12cmを測る。

[堆積土] 暗褐色粘質シルトを主体とする単層で、炭化物や地山ブロックが混入する。

[遺物] なし。

[時期・性格] 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K73土坑（第36図、写真図版37）

[位置] 調査区東側、Ⅱ G 4 f グリッドに位置する。

[検出状況] V層上面で、黒褐色シルトの広がりを確認した。

[重複関係] S B28・30と重複する。遺構自体の切り合いは認められないので、新旧関係は不明である。

[形態・規模] 條円形を呈する。規模は67×56cm、深さ14cmを測る。

[堆積土] 黒褐色粘質シルトを主体とする単層である。炭化物や地山ブロックが混入する。

[遺物] 底面付近から、黒色を呈する漆製品と古銭6枚がみつかっている。漆製品は残存状況が悪く、何であるかは不明である。

[時期・性格] 出土した古銭から中世と推定される。性格は不明であるが、古銭が6枚出土しており、地鎮あるいは埋葬に関わる遺構である可能性が高い。

S K74土坑（第36図、写真図版38）

[位置] 調査区東側、Ⅱ G 4 f グリッドに位置する。

[検出状況] V層上面で、黒褐色シルトの広がりを確認した。

[重複関係] S B28と重複する。遺構自体の切り合いは認められないので、新旧関係は不明である。なし。

[形態・規模] 條円形を呈する。底面に柱穴状の掘り込みが見うけられる。規模は132×42cm、深さ18cmを測る。

[堆積土] 黒褐色粘質シルトを主体とし、3層に分けられる。炭化物や地山ブロックが混入する。

[遺物] なし。

[時期・性格] 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K75土坑（第36図、写真図版38）

[位置] 調査区東側、Ⅱ G 6 a グリッドに位置する。

[検出状況] V層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

〔重複関係〕なし。

〔形態・規模〕円形を呈する。規模は径96×90cm、深さ24cmを測る。

〔堆積土〕暗褐色粘質シルトを主体とし、2層に分けられる。炭化物や焼土が混入する。上位に黒褐色粘質シルトが偏在する。

〔遺物〕なし。

〔時期・性格〕堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K76土坑（第36図、写真図版38）

〔位置〕調査区東側、II G 5 c グリッドに位置する。

〔検出状況〕V層上面で、黒褐色シルトの広がりを確認した。

〔重複関係〕なし。

〔形態・規模〕楕円形を呈する。規模は126×69cm、深さ13cmを測る。

〔堆積土〕黒褐色粘質シルトを主体とし、2層に分けられる。焼土・炭化物が混入する。

〔遺物〕なし。

〔時期・性格〕堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K77土坑（第36図、写真図版38）

〔位置〕調査区東側、II G 4 b グリッドに位置する。

〔検出状況〕V層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

〔重複関係〕なし。

〔形態・規模〕隅丸の方形を呈する。規模は170×92cm、深さ20cmを測る。

〔堆積土〕暗褐色粘質シルトを主体とし、2層に分けられる。焼土・炭化物が混入する。上位に黒褐色粘質シルトが偏在する。

〔遺物〕なし。

〔時期・性格〕堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K78土坑（第36図、写真図版39）

〔位置〕調査区東側、II G 6 c グリッドに位置する。

〔検出状況〕V層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

〔重複関係〕なし。

〔形態・規模〕楕円形を呈する。規模は73×40cm、深さ17cmを測る。

〔堆積土〕暗褐色粘質シルトを主体とする単層である。炭化物が混入する。

〔遺物〕なし。

〔時期・性格〕堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K79土坑（第36図、写真図版39）

〔位置〕調査区東側、II F 6 j グリッドに位置する。

〔検出状況〕V層上面で、黒褐色シルトの広がりを確認した。

〔重複関係〕なし。

〔形態・規模〕楕円形を呈する。規模は123×90cm、深さ24cmを測る。

〔堆積土〕 黒褐色粘質シルトを主体とする単層である。炭化物や地山ブロックが混入する。

〔遺物〕 なし。

〔時期・性格〕 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K80土坑（第36図、写真図版39）

〔位置〕 調査区東側、Ⅱ F 6 j グリッドに位置する。

〔検出状況〕 V層上面で、暗褐色シルトの広がりを確認した。

〔重複関係〕 なし。

〔形態・規模〕 不整な方形を呈する。規模は136×77cm、深さ42cmを測る。

〔堆積土〕 暗褐色粘質シルトを主体とし、3層に分けられる。焼土・炭化物が混入し、底面付近では酸化鉄が偏在する。

〔遺物〕 なし。

〔時期・性格〕 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。30cm大の躰2点が底面に突き刺さるように出土した。

S K81土坑（第36図、写真図版39）

〔位置〕 調査区東側、Ⅱ G 7 d グリッドに位置する。

〔検出状況〕 V層上面で、褐色シルトの広がりを確認した。

〔重複関係〕 なし。

〔形態・規模〕 不整な方形を呈する。規模70×54cm、深さ36cmを測る。

〔堆積土〕 褐色～黒褐色粘質シルトを主体とし、2層に分けられる。炭化物が混入する。

〔遺物〕 なし。

〔時期・性格〕 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K82土坑（第36図、写真図版40）

〔位置〕 調査区中央北側、Ⅲ D 3 i グリッドに位置する。

〔検出状況〕 V層上面で、褐色シルトの広がりを確認した。

〔重複関係〕 なし。

〔形態・規模〕 楝円形を呈する。規模は88×75cm、深さ8cmを測る。

〔堆積土〕 褐色シルトを主体とする単層である。黒褐色粘質シルトや炭化物が混入する。

〔遺物〕 なし。

〔時期・性格〕 堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K83土坑（第36図、写真図版40）

〔位置〕 調査区東側、Ⅱ G 1 i グリッドに位置する。

〔検出状況〕 V層上面で、灰黄褐色シルトの広がりを確認した。

〔重複関係〕 なし。

〔形態・規模〕 不整な楕円形を呈する。規模は100×83cm、深さ16cmを測る。

〔堆積土〕 灰黄褐色シルトを主体とする単層である。地山土と類似するが、炭化物が混入し、また本遺構の堆積土よりやや明るい色調の地山土がブロック状に混入するので、区別される。

【遺物】なし。

【時期・性格】堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K84土坑（第36図、写真図版40）

【位置】調査区東側、II G 8 f グリッドに位置する。

【検出状況】V層上面で、黒褐色シルトの広がりを確認した。

【重複関係】SK87と重複する。本遺構の方が新しい。

【形態・規模】楕円形を呈する。規模は164×129cm、深さ35cmを測る。

【堆積土】黒褐色粘質シルトを主体とし、2層に分けられる。炭化物や地山ブロックが混入する。

【遺物】底面から、54点の礫が出土している。礫は5～30cm大まで見うけられる。数点、磨痕などの使用痕が確認できた。他に多量に礫が検出した遺構ではなく、また検出面上で礫が多く検出されることも稀であり、それらの点を踏まえると、人為によるものと考えられる。

【時期・性格】堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。

S K85土坑（第37図、写真図版40）

【位置】調査区東側、II G 8 f グリッドに位置する。

【検出状況】重複するSK86の断面を確認した際、SK86の外側に、暗褐色シルトの広がりが認められ、遺構と判断した。

【重複関係】SK86と重複する。本遺構の方が占い

【形態・規模】SK86により壊されており、全容は不明であるが、不整な方形を呈するものと思われる。残存する規模は226×219cm、深さ47cmを測る。

【堆積土】暗褐色粘質シルトを主体とする単層である。炭化物や地山ブロックが混入する。

【遺物】なし。

【時期・性格】堆積土の様相から中世以降であろう。性格は不明である。本遺構はSK86を覆うような状態で存在するが、底面から礫は出土していない、という違いがみられた。

S K86土坑（第37図、写真図版40）

【位置】調査区東側、II G 9 g グリッドに位置する。

【検出状況】V層上面で、にぶい黄褐色シルトの広がりを確認した。本遺構は近世墓の密集する場所に立地するので、墓の可能性もある。ただし、形状や大きさから土坑と判断した。

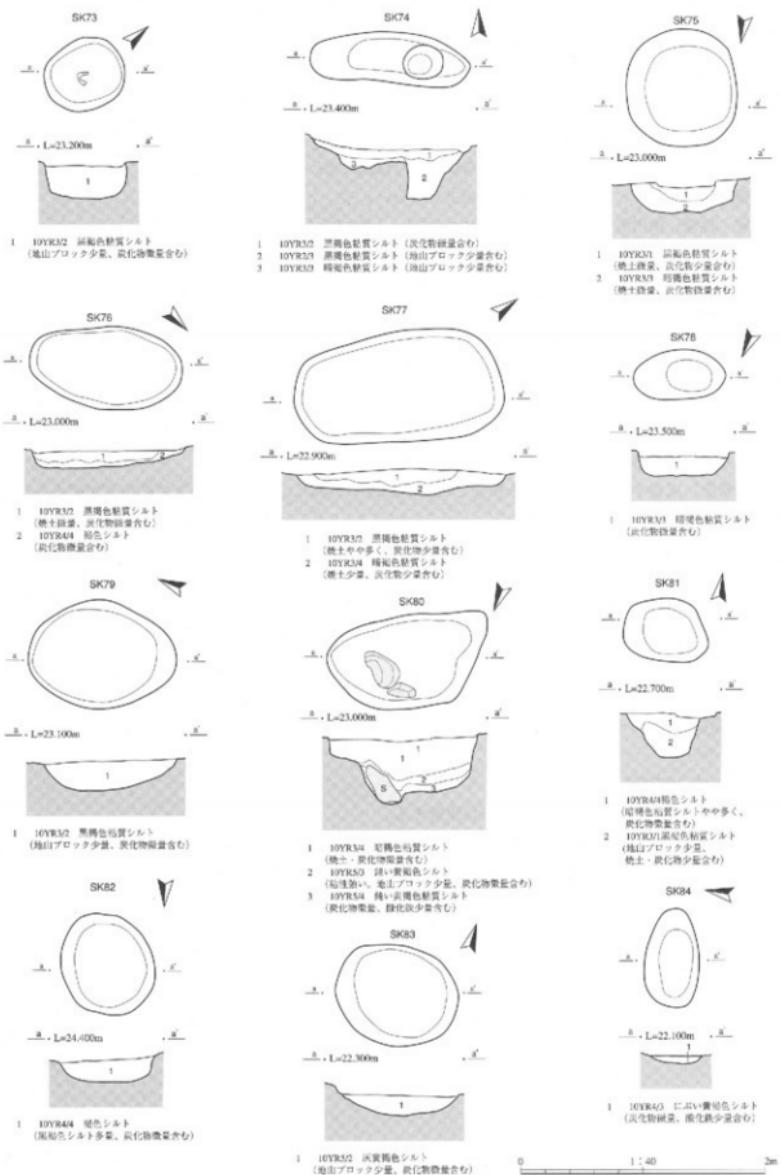
【重複関係】なし。

【形態・規模】楕円形を呈する。規模は径81×44cm、深さ6cmを測る。

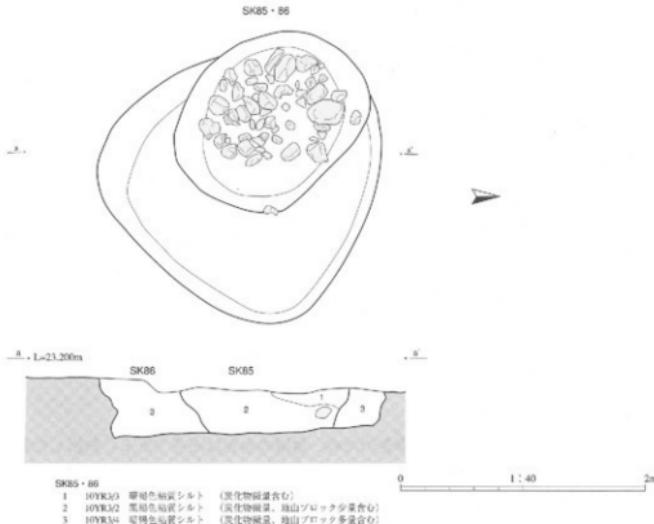
【堆積土】にぶい黄褐色シルトを主体とする単層である。炭化物や酸化鉄が混入する。

【遺物】なし。

【時期・性格】堆積土の様相から中世以降であり、おそらく近世墓の年代と近いものと思われる。性格は不明である。



第36図 S K73~84土坑



第37図 SK85・86土坑

S D07溝 (第38図、写真図版42)

[位置] 調査区西側、ⅡD 8 a、ⅡD 9 a、ⅢD 0 b、ⅢD 1 bグリッドに位置する。

[検出状況] V層上位で、黒褐色土の広がりを確認した。検出段階では数条の溝を想定していたが、同一方向に並んでいることから、1条の溝と判断した。

[重複関係] なし。

[形態・規模] 兩側の端部は試掘トレンチにより消失しており、全体の規模は不明である。検出した部分は直線的に伸び、6条に分かれている。両端までの長さは19.2m、幅15cmを測る。深さは4~6cmである。

[堆積上] 黒褐色粘質シルトを主体とする単層である。炭化物や地山ブロックが混入する。

[遺物] なし。

[時期・性格] 出土遺物がないので、時期については不明である。性格については隣接している、SB01・02の梁間と軸方向と本遺構の長軸方向とがほぼ同一であり、掘立柱建物に伴う区画溝であった可能性が考えられる。

S D08溝（第38図、写真図版42）

【位置】 調査区西側、ⅢD 0 b、ⅢD 1 b グリッドに位置する。約20cm西側にSD07が位置する。

【検出状況】 V層上位で黒褐色土の広がりを確認した。

【重複関係】 なし。

【形態・規模】 溝は直線的に伸び、3条に分かれている。両端まで6.3m、幅20cmを測る。深さは6cmである。

【堆積土】 黒褐色粘質シルトを主体とする。単層である。SD07の堆積土とほぼ同様な様相を呈する。

【遺物】 なし。

【時期・性格】 出土遺物がないので、時期については不明である。SD07と隣接し、長軸方向も同じなので、SD07の作り替えの可能性が考えられる。

S D09溝（第39図、写真図版43）

【位置】 調査区北西側、ⅢD 1 e、ⅢD 1 f、ⅢD 1 g グリッドに位置する。東側にSG01が隣接する。

【検出状況】 V層上位で黒褐色シルトの広がりを確認した。

【重複関係】 なし。

【形態・規模】 本遺構の東側は未調査のため、遺構の全容は不明である。検出した部分ではやや北側に曲がりながら、東西方向へと伸びている。西側はⅢD 1 d グリッド付近で浅くなり途切れている。検出した部分の長さは16mで、深さは深いところで27cmを測る。

【堆積土】 黒～暗褐色粘質シルトを主体とし、8層に分けられる。いずれの層にも地山土や細粒砂が混じり、人為堆積の可能性が高い。

【遺物】 なし。

【時期・性格】 出土遺物がないので、詳細な時期は不明である。

S D10溝（第39図、写真図版43）

【位置】 調査区中央北側、ⅡF 5 e、ⅡF 5 f グリッドに位置する。

【検出状況】 V層上面で、暗褐色土の広がりを確認した。

【重複関係】 SP511と重複する。本遺構の方が新しい。

【形態・規模】 本遺構は北側が調査区外へと続くため、全容は不明である。また、南側は、調査区内にある水路を境に消失している。北西方向～南東方向で弧状を呈する。両端までの長さ8.7m、深さ22cmを測る。

【堆積土】 暗褐色粘質シルトを主体とし、2層に分けられる。炭化物・焼土が混入する。

【遺物】 なし。

【時期・性格】 出土遺物がないので、詳細な時期は不明である。

S D11溝（第40図、写真図版43）

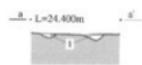
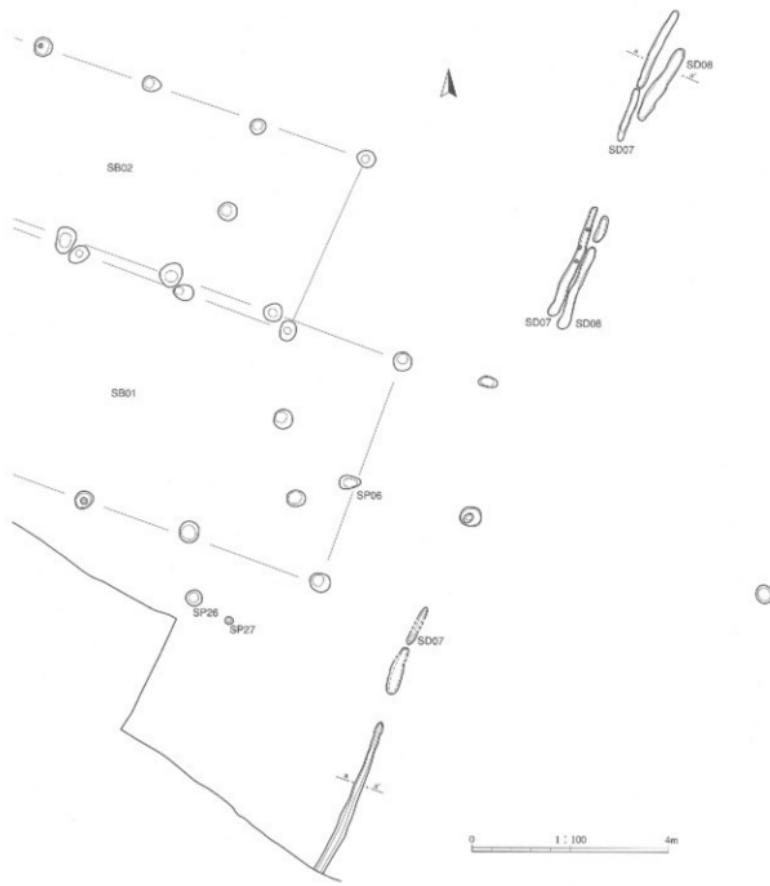
【位置】 調査区中央北側、ⅡF 2 d グリッドに位置する。

【検出状況】 V層上面で、暗褐色土の広がりを確認した。

【重複関係】 SP533と重複する。本遺構の方が古い。

【形態・規模】 北東～南西方向へ直線的に伸びる。長さ308cm、深さ7cmを測る。

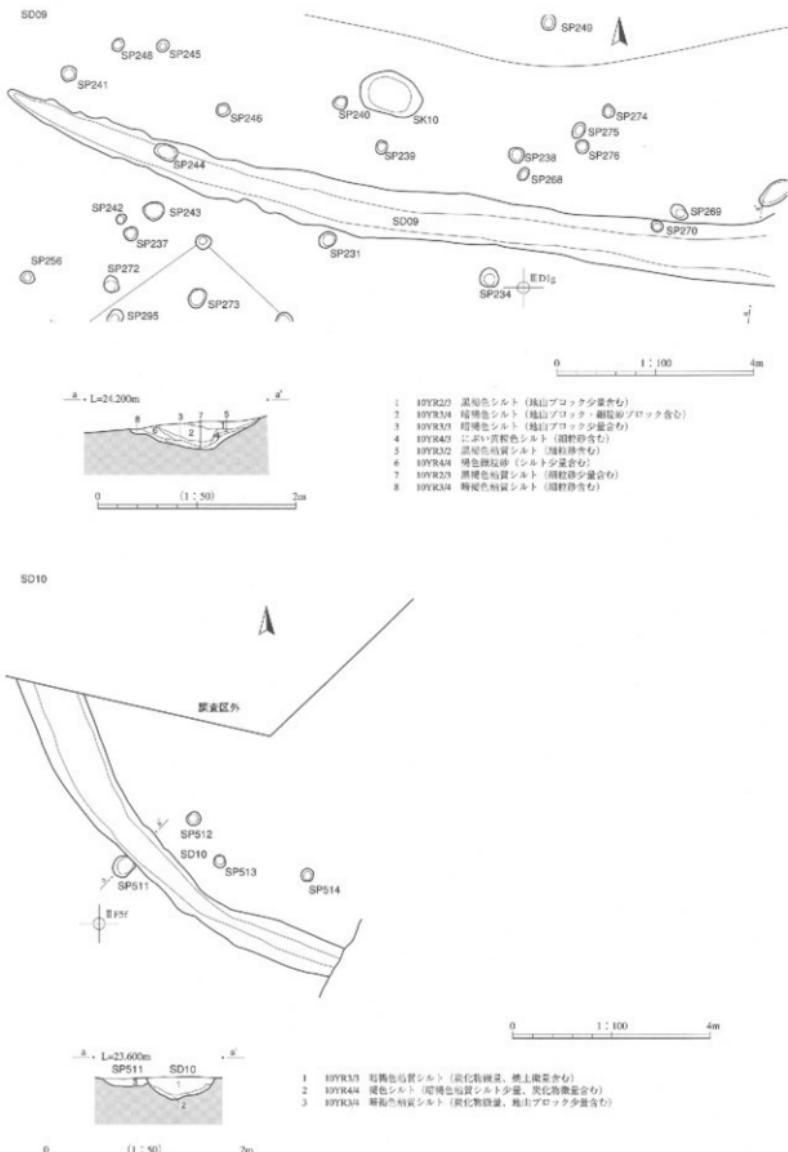
【堆積土】 暗褐色粘質シルトを主体とする単層である。炭化物や地山ブロックが混入する。



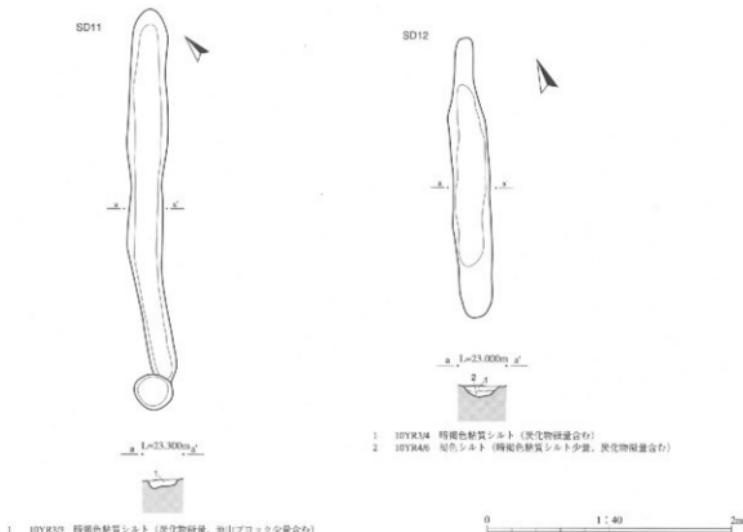
1-10YR3/2 黒褐色軟質シルト (鉄化物散在、池底プロック少含む)



第38図 S D07・08溝



第39図 SD09・10溝



第40図 S D11・12溝

〔遺物〕なし

〔時期・性格〕出土遺物がないので、詳細な時期は不明である。

S D12溝 (第40図、写真図版43)

〔位置〕調査区東側、ⅡF 1 g グリッドに位置する。

〔検出状況〕VI層上面で、暗褐色土の広がりで確認した。

〔重複関係〕なし

〔形態・規模〕北東-南西方向へ直線的に伸びる。長さ230cm、深さ9cmを測る。

〔堆積土〕暗褐色粘質シルトを主体とし、2層に分けられる。炭化物が混入する。

〔遺物〕なし

〔時期・性格〕出土遺物がないので、詳細な時期は不明である。

カマド遺構・焼土遺構

カマド状遺構と焼土遺構は合計14基検出した。

S N01カマド状遺構・焼土遺構（第42図、写真図版47）

【位置】調査区東側、ⅡG 1 e グリッドに位置する。

【検出状況】V層上面で、焼土・炭化物の広がりで確認した。

【重複関係】なし。

【形態・規模】掛け口、火床面、煙道部、煙出しで構成される。掛け口から火床面にかけて楕円形状をなし、その延長線上に煙道が割り抜かれる。掛け口の端部から煙出しまでの長さが206cm、掛け口の幅98cm、深さは28cmを測る。掛け口の底面に62×45cmの掘り込みが認められる。

【堆積土】黒褐色粘質シルトを主体とし、7層に分けられる。炭化物・焼土粒が混入する。火床面の壁面も焼き締まっており、また煙道天井部も被熱により暗赤褐色に変化している。

【火床面】掛け口端部から煙道部深くまでが燃焼する。掘り込みは認められず、約4cmの焼土堆積が確認できた。

【出土遺物】2層より陶磁器が出土している。

【時期・年代】出土した陶磁器から近世に比定される。性格は日常炊事以外で使用された「かまど屋」の可能性が高い。本遺構周辺には柱穴が巡らないので上屋があった可能性は低い。

S N02カマド状遺構・焼土遺構（第42図、写真図版47）

【位置】調査区東側、ⅡG 5 e、ⅡG 5 f グリッドに位置する。

【検出状況】V層上面で、焼土・炭化物の広がりで確認した。

【重複関係】S N03と重複する。本遺構の方が新しい。本遺構の掛け口はS N03の煙道部に当たるが、その部分から、焼土や炭化物などは検出していないので、おそらくS N03の煙道部よりも深く掘り込んで掛け口が構築されているものと推定される。

【形態・規模】掛け口、火床面、煙道部、煙出しで構成される。掛け口から火床面にかけて長方形を呈し、火床面の上部は不整な形状でやや広がり、またその延長線上に煙道が割り抜かれる。掛け口の煙部から煙出しまでの長さは303cm、掛け口の幅は73cm、深さ23cmを測る。

【堆積土】黒褐色粘質シルトを主体とし、9層に分けられ、焼土・炭化物が混入する。火床面の壁などに焼き締まりは確認できなかったが、火床面上部から煙道天井部にかけて燃焼により暗赤褐色に変化しているのを確認した。

【火床面】あまり燃焼しておらず、底面に焼土が残る程度であった

【出土遺物】なし

【時期・性格】遺物が出土していないので、詳細な時期は不明であるが、形態が類似するS N01とは同時期のものと推測される。性格は日常炊事以外で使用された「かまど屋」の可能性が高い。本遺構周辺には柱穴が巡らないので上屋があった可能性は低い。

S N03カマド状遺構・焼土遺構（第42図、写真図版47）

【位置】調査区東側、ⅡG 5 f グリッドに位置する。

【検出状況】S N02の東端に別の焼土・炭化物の広がりを確認し、トレンチで土層を確認し、別のカマド遺構であると判断した。

【重複関係】S N02と重複する。本遺構の方が古く、本遺構の煙道部がS N02によって壊されている。

[形態・規模] 掛け口、火床面、煙道部から構成される。掛け口は長楕円形を呈し、規模 $120 \times 41\text{cm}$ 、深さ 23cm を測る。火床面との間に割り貫きのトンネルがあり、また火床面は上部を不整な円形で開口する。煙道はSN02によって壊されており、形態は不明瞭であるが、天井の崩落土が確認できたので、割り貫きで構築されたものと思われる。残存する煙道部から掛け口の端部まで 223cm を測る。

[堆積土] 黒褐色粘質シルトを主体とし9層に分けられる。焼土・炭化物が混入する。火床面脇の壁などに焼き縮まりは確認できなかったが、火床面上部から煙道天井部にかけて燃焼により暗赤褐色に変化しているのを確認した。

[火床面] あまり燃焼しておらず、底面に焼土が残る程度であった。

[出土遺物] なし。

[時期・性格] 遺物が出土していないので、詳細な時期は不明であるが、形態が類似するSN01とほぼ同時期のものと推測される。性格は日常炊事以外で使用された「かまど屋」の可能性が高い。本遺構周辺には柱穴が巡らないので上屋があった可能性は低い。

SN04カマド状遺構・焼土遺構（第42図、写真図版47）

[位置] 調査区東側、Ⅱ G 5 eグリッドに位置する。北東 50cm でSN02と隣接する。

[検出状況] V層上面で、焼土・炭化物の広がりを検出した。

[重複関係] なし。

[形態・規模] 掛け口、火床面、煙道部から構成される。掛け口内に火床面が広がっており、SN01～03とは構造を異なる。掛け口の規模は $43 \times 67\text{cm}$ 、深さ 23cm を測る。煙道は上部がオーバーハングしており、割り貫きによって構築されたものの天井が崩落したものと推定される。煙道部端部から掛け口の端部までの長さは 122cm を測る。

[堆積土] 暗～黒褐色粘質シルトを主体とし、5層に分けられる。焼土・炭化物が混入する。遺構周辺の地山土は燃焼により、暗赤褐色に変色しているのが確認された。

[火床面] 掛け口内に収まっており、規模は径 40cm 、層厚 8cm を測る。

[出土遺物] なし。

[時期・性格] 遺物が出土していないので、詳細な時期は不明であるが、隣接するSN02・03とほぼ同時期のものと推測される。性格は日常炊事以外で使用された「かまど屋」の可能性が高い。

SN05カマド状遺構・焼土遺構（第43図、写真図版48）

[位置] 調査区東側、Ⅱ G 5 hグリッドに位置する。北側 30cm にSZ06が隣接する。

[検出状況] V層上面で、焼土・炭化物の広がりで確認した。

[重複関係] なし。

[形態・規模] 掛け口、火床面、煙道部、煙出しで構成される。掛け口から火床面にかけて不整な長方形をなし、その延長線上に煙道が割り抜かれる。掛け口の端部から煙出しまでの長さが 234cm 、掛け口の幅 72cm 、深さは 24cm を測る。

[堆積土] 暗～黒褐色粘質シルトを主体とし、7層に分けられる。焼土・炭化物が混入する。火床面から煙道部周辺の地山土は燃焼により、暗赤褐色に変色している。

[火床面] あまり燃焼しておらず、底面に焼土が残る程度であった。

[出土遺物] なし。

[時期・性格] 遺物が出土していないので、詳細な時期は不明であるが、形態が類似するSN02と

は同時期のものと推測される。性格は日常炊事以外で使用された「かまど屋」の可能性が高い。本遺構周辺には柱穴が巡らないので上屋があった可能性は低い。

S N06カマド状遺構・焼土遺構（第43図、写真図版48）

【位置】調査区東側、ⅡG 5 h グリッドに位置する。南側30cmにS N05が位置する。

【検出状況】V層上面で、焼土・炭化物の広がりから確認した。

【重複関係】なし。

【形態・規模】掛け口、火床面、煙道部、煙出しで構成される。掛け口内に火床面が広がるSN04と同じ構造である。掛け口から火床面にかけて幅広の不整形を呈し、規模は40×60cm、深さ26cmを測る。掛け口は底面の方が広い。煙道部は削り抜きである。掛け口の端部から煙出しまでの長さが126cmを測る。

【堆積土】掛け口内の堆積土は、黒褐～暗灰黄色粘質シルトを主体とし、4層に分けられる。炭化物・焼土が混入する。遺構周辺は被熱のため、暗赤褐色に変化している。また、煙道部も同様に周辺が暗赤褐色に変化していた。

【火床面】掛け口内に収まっている。あまり燃焼しておらず、床面に焼土が残る程度であった。

【出土遺物】なし。

【時期・性格】遺物が出土していないので、詳細な時期は不明であるが、形態が類似する S N04とはほぼ同時期のものと推測される。性格は日常炊事以外で使用された「かまど屋」の可能性が高い。本遺構周辺には柱穴が巡らないので上屋があった可能性は低い。

S N07カマド状遺構・焼土遺構（第43図、写真図版48）

【位置】調査区東側、ⅡG 6 g グリッドに位置する。

【検出状況】V層上面で、焼土・炭化物の広がりで確認した。プラン検出段階では掛け口や煙道部を有するカマド遺構が複数基重複しているものと想定して精査に取りかかったが、そのような付属施設は確認できず、大型の焼土遺構であるものと判断した。

【重複関係】なし。

【形態・規模】108×75cmの焼土・炭化物の堆積範囲の南側に浅い掘り込みが付属する。掘り込みは不整形を呈し、規模は186×139cm、深さ10cmを測る。また、北側15cm離れて南北方向に、70×38cmの格円形を呈する焼土範囲が2基付属する。この焼土範囲から掘り込みの端部までは292cmである。

【堆積土】掘り込み内の堆積土は暗褐色粘質シルトを主体とし、5層に分けられる。焼土・炭化物が混入する。底面上に褐色粘土が偏在する。

【時期・性格】出土遺物がなく、詳細は不明であるが、周辺の遺構との位置関係や堆積土の様相から古代以降と推定される。

S N08カマド状遺構・焼土遺構（第44図、写真図版49）

【位置】調査区東側、ⅡG 3 d グリッドに位置する。

【検出状況】V層上面、焼土の広がりで確認した。

【重複関係】なし。

【形態・規模】焼土範囲の形態は不整な格円形を呈し、規模は31×20cm、焼土の堆積は3cmを測る。

【堆積土】橙色の焼土を主体とする。その直下に被熱により赤色に変色した粘質シルト層が見うけら



SP895



SP924



SP1179



SP923



SP922

SP895
L=22,600m



- 1 10YR1/2 黒褐色砂質シルト
(柱底か、しまり弱い、炭化物微量含む)
- 2 10YR3/3 細褐色粘質シルト
(地山アプロック多量含む)
- 3 10YR4/4 硅化物粘質シルト
(地山アプロック多量含む)

SP924
L=23,400m



- 1 10YR1/1 黒褐色粘質シルト
(地山アプロック多量、炭化物微量含む)
- 2 10YR1/2 黑褐色砂質シルト
(炭化物微量含む)

SP1179
L=23,300m



- 1 10YR3/4 暗褐色砂質シルト
(地山アプロック多量、炭化物微量含む)
- 2 10YR4/6 暗褐色シルト
(暗褐色粘質シルト多量含む)

SP923
L=22,600m



- 1 10YR2/5 黑褐色粘質シルト
(地山アプロック多量、炭化物少量含む)
- 2 10YR3/5 暗褐色粘質シルト
(地山アプロック多量含む)

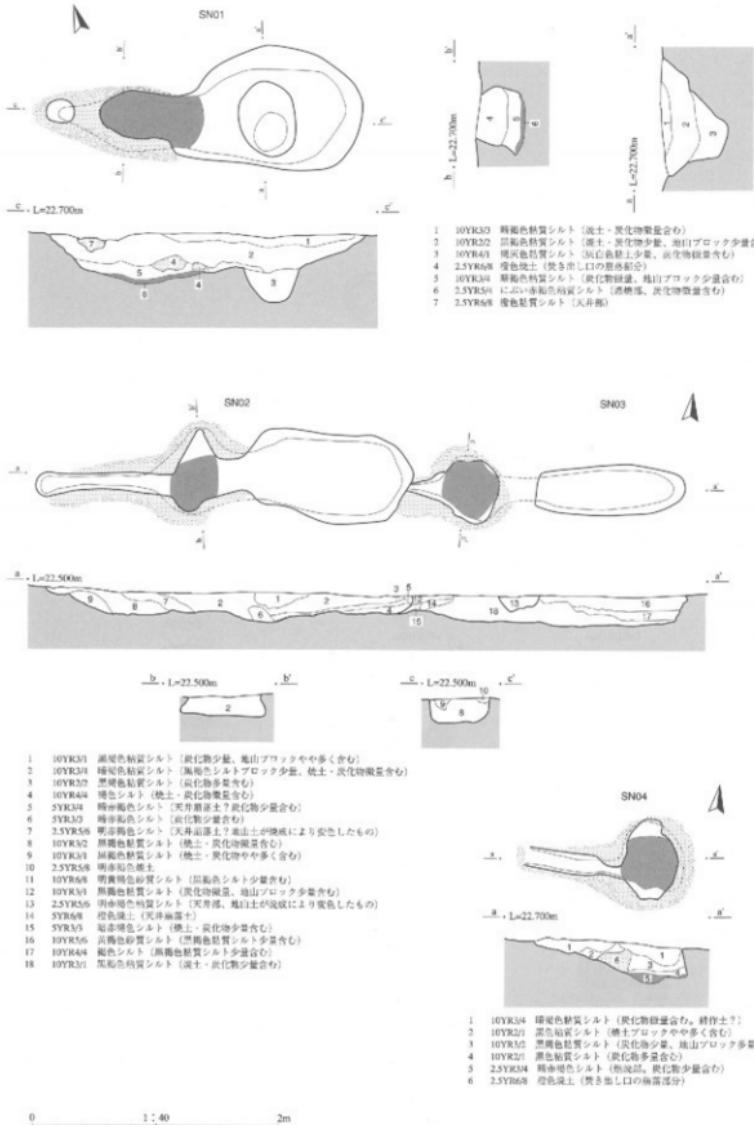
SP922
L=22,600m



- 1 10YR3/2 暗褐色砂質シルト
(地山アプロック少量含む)
- 2 10YR2/0 黑褐色粘質シルト
(柱底か、しまり弱い、地山アプロック少量含む)
- 3 10YR3/3 暗褐色砂質シルト
(地山アプロック多量含む)
- 4 10YR3/0 暗褐色粘質シルト
(地山アプロック多量含む)

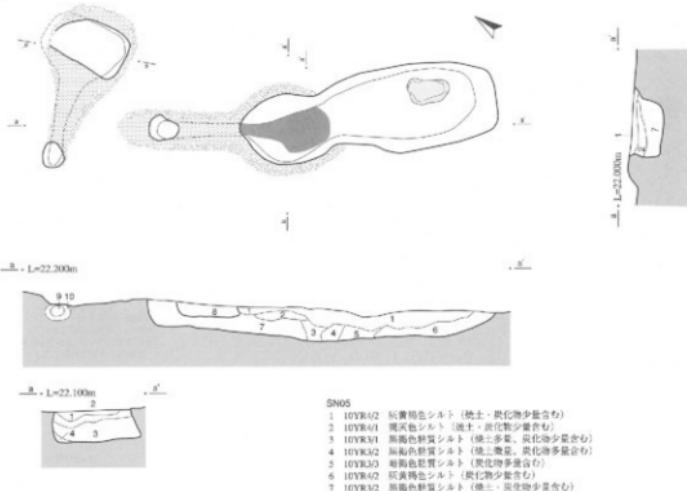
0 1 : 60 2m

第41図 大形柱穴群

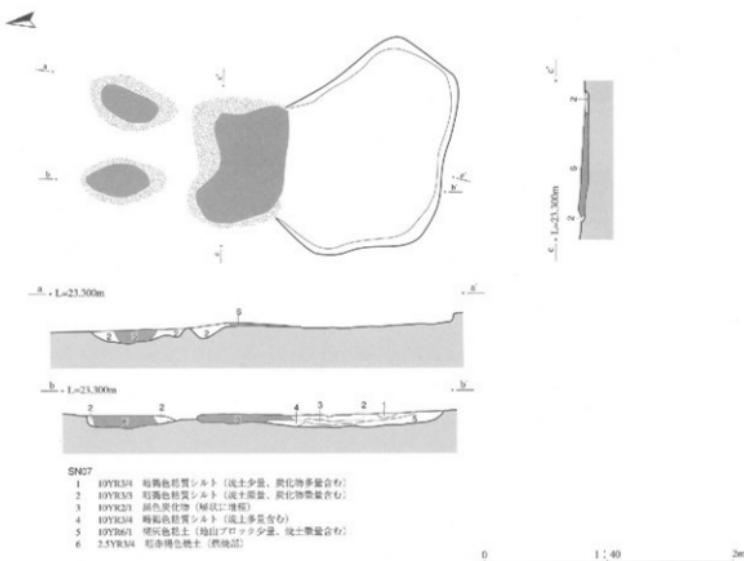


第42図 S N01~04カマド状遺構・焼土遺構

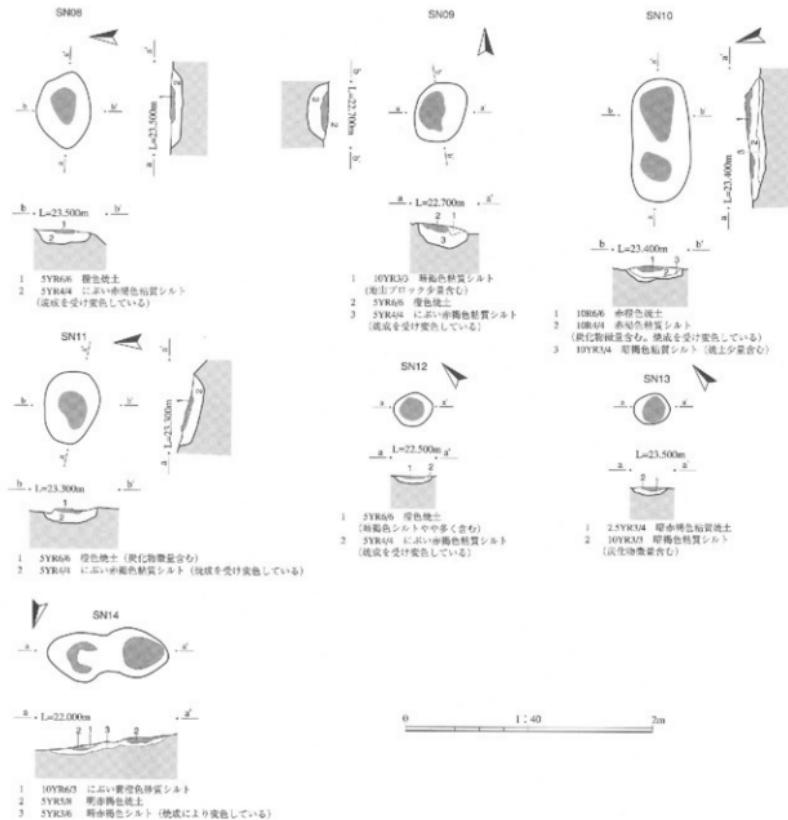
SN05・06



SN07



第43図 S N05~07カマド状遺構、焼土遺構



第44図 S N08~14カマド状遺構・焼土遺構

れる。土質は地山土とはやや様相を異にするので、遺構の掘りかたの可能性が考えられる。
 [時期・性格] 出土遺物がないので、時期は不明。周辺の遺構との位置関係から、古代以降と思われる。特にカマド遺構と隣接しており、それらの遺構に関連するものである可能性が強い。

S N09カマド状遺構・焼土遺構（第44図、写真図版49）

[位置] 調査区東側、ⅡG 4 e グリッドに位置する。
 [検出状況] V層上面、焼土の広がりから確認した。
 [重複関係] なし。
 [形態・規模] 焼土範囲の形態は不整な楕円形を呈し、規模は32×22cm、焼土の堆積は6cmを測る。
 [堆積土] 橙色の焼土を主体とする。その直下に被熱により赤色に変色した粘質シルト層が見うけられる。土質は地山土とはやや様相を異にするので、遺構の掘りかたの可能性が考えられる。
 [時期・性格] 出土遺物がないので、時期は不明。周辺の遺構との位置関係から、古代以降と思われる。特にカマド遺構と隣接しており、それらの遺構に関連するものである可能性が強い。

S N10カマド状遺構・焼土遺構（第44図、写真図版49）

[位置] 調査区東側、ⅡG 3 f グリッドに位置する。
 [検出状況] V層上面、焼土の広がりから確認した。焼土の範囲が2箇所確認されたが、両者が近いこと、また同一の掘りかた上にのっている点から、1基の遺構と判断した。
 [重複関係] なし。
 [形態・規模] 東側の焼土範囲は隅丸の三角形を呈し、規模は44×28cmを測る。西側の焼土範囲は不整な方形を呈し、規模は26×20cmを測る。両者の焼土堆積は3～4cmである。
 [堆積土] 赤橙色の焼土を主体とする。掘り込みが確認され、堆積土の様相から2層に分けることができた。2～3層は、本来、同一層であった可能性も高いが、2層は被熱により赤褐色に変色している。いずれにも焼土・炭化物が混入する。
 [時期・性格] 出土遺物がないので、時期は不明。周辺の遺構との位置関係から、古代以降と思われる。特にカマド遺構と隣接しており、それらの遺構に関連するものである可能性が強い。

S N11カマド状遺構・焼土遺構（第44図、写真図版49）

[位置] 調査区東側、ⅡG 3 g グリッドに位置する。
 [検出状況] V層上面で、焼土の広がりから確認した。
 [重複関係] なし。
 [形態・規模] 焼土範囲は不整な楕円形を呈する。規模は31×21cm、焼土の堆積は3cmを測る。
 [堆積土] 橙色の焼土を主体とする。その直下に被熱により赤色に変色した粘質シルト層が見うけられる。土質は地山土とはやや様相を異にするので、遺構の掘りかたの可能性が考えられる。
 [時期・性格] 出土遺物がないので、時期は不明。周辺の遺構との位置関係から、古代以降と思われる。特にカマド遺構と隣接しており、それらの遺構に関連するものである可能性が強い。

S N12カマド状遺構・焼土遺構（第44図、写真図版49）

[位置] 調査区東側、ⅡG 4 g グリッドに位置する。
 [検出状況] V層上面で、焼土の広がりから確認した。

〔重複関係〕なし。

〔形態・規模〕焼土範囲は円形を呈し、規模は径20cmを測る。焼土の堆積は2cmである。

〔堆積土〕橙色の焼土を主体とする。その直下に被熱により赤色に変色した粘質シルト層が見うけられる。土質は地山土とはやや様相を異にするので、遺構の掘方の可能性が考えられる。

〔時期・性格〕出土遺物がないので、時期は不明。周辺の遺構との位置関係から、古代以降と思われる。特にカマド遺構と隣接しており、それらの遺構に関連するものである可能性が強い。

S N13カマド状遺構・焼土遺構（第44図、写真図版49）

〔位置〕調査区東側、II G 4 g グリッドに位置する。

〔検出状況〕V層上面で、焼土の広がりから確認した。

〔重複関係〕なし。

〔形態・規模〕焼土範囲は円形を呈し、規模は径22cmを測る。焼土の堆積は3cmである。

〔堆積土〕橙色の焼土を主体とする。その直下に被熱により赤色に変色した粘質シルト層が見うけられる。土質は地山土とはやや様相を異にするので、遺構の掘方の可能性が考えられる。

〔時期・性格〕出土遺物がないので、時期は不明。周辺の遺構との位置関係から、古代以降と思われる。特にカマド遺構と隣接しており、それらの遺構に関連するものである可能性が強い。

S N14カマド状遺構・焼土遺構（第44図、写真図版49）

〔位置〕調査区東側、II H 2 a グリッドに位置する。

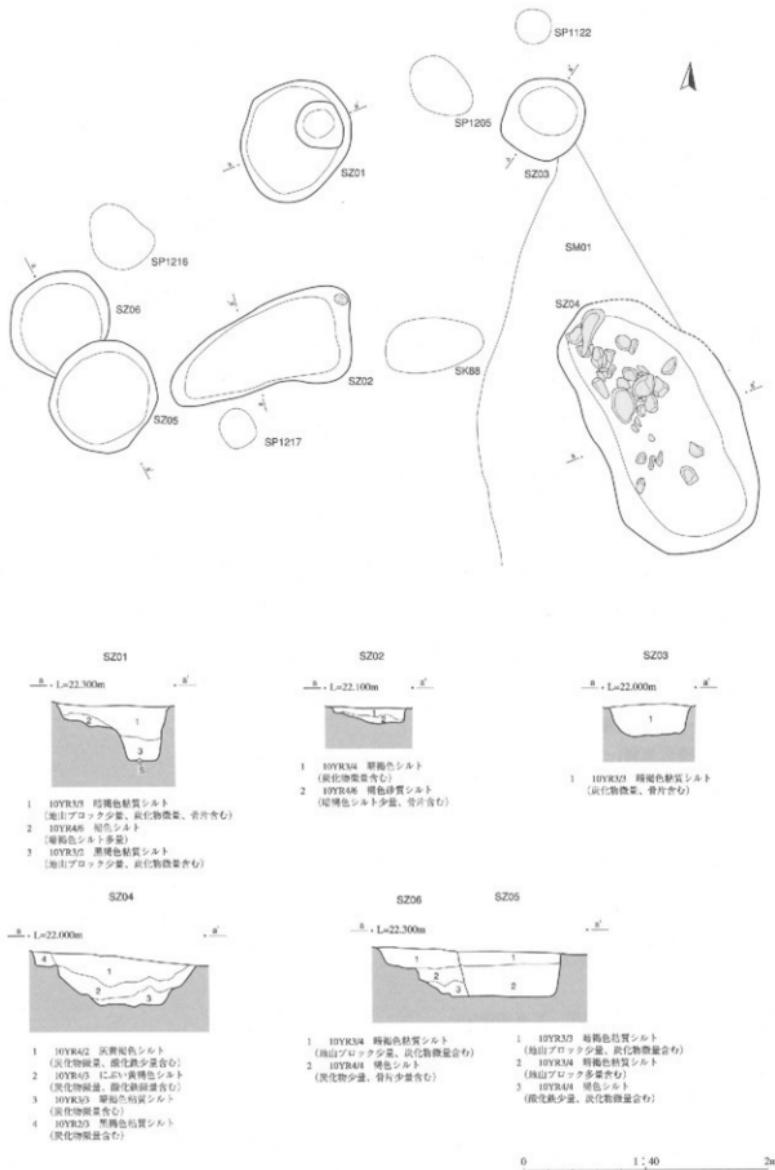
〔検出状況〕V層上面で、焼土の広がりから確認した。SN10同様、同一の掘方に2基の焼土が並んでいるので、1基の遺構として判断した。

〔重複関係〕なし。

〔形態・規模〕東側の焼土範囲は不整な梢円形を呈し、規模は32×28cmを測る。西側は後世の堆積土により、やや壊されているものの、残存部から円形を呈するものと推定される。規模は径32cmを測る。両者とも焼土の堆積は4～5cmを測る。

〔堆積土〕明赤褐色の焼土を主体とする。西側の焼土範囲上で、黄橙色砂質シルト（1層）が焼土をきっているのが確認できたが、1層は後世の堆積物と思われる。焼土直下に被熱により赤色に変色した粘質シルト層が見うけられる。土質は地山土とはやや様相を異にするので、遺構の掘りかたの可能性が考えられる。

〔時期・性格〕出土遺物がないので、時期は不明。周辺の遺構との位置関係から、古代以降と思われる。他の焼土遺構とは位置はやや離れているが、何らかの関連性があるものと思われる。



第45図 S Z01~06中・近世墓

中・近世墓

中・近世墓と考えられる遺構は合計6基検出した。いずれも調査区東側に集中して分布する。

S Z01中・近世墓（第45図、写真図版50）

[位置] 調査区東側、II G 9 f、II G 9 g グリッドに位置する。

[検出状況] VI層上面で、暗褐色土の広がりで確認した。

[重複関係] なし

[形態・規模] 円形を呈し、開口部径105cm、深さ18cmを測る。底面に径37cmの円形の掘り込みが見うけられる。

[堆積土] 暗褐色粘質シルトを主体とし、2層に分けられる。骨片や炭化物が混入する。底面下の掘り込み堆積土は黒褐色粘質シルトを主体とする。

[人骨] 1層中に骨片が混入するのみで、形状の判別できるものはみつかっていない。

[遺物] なし。

[性格・時期] 土葬墓である。出土遺物がないため、詳細な時期は不明である。

S Z02中・近世墓（第45図、写真図版50）

[位置] 調査区東側、II G 9 f、II G 9 g グリッドに位置する。

[検出状況] VI層上面で、暗褐色土の広がりで確認した。

[重複関係] なし

[形態・規模] 不整な長方形を呈し、開口部は152×79cm、深さ12cmを測る。

[堆積土] 暗褐色シルトを主体とし、2層に分けられる。骨片や炭化物が混入する。

[人骨] 底面付近から、骨片がみつかっているが、形状が判別できるものは確認されていない。

[遺物] なし。

[性格・時期] 土葬墓である。出土遺物がないため、詳細な時期は不明である。

S Z03中・近世墓（第45図、写真図版50）

[位置] 調査区東側、II G 9 g グリッドに位置する。

[検出状況] VI層上面で、暗褐色土の広がりで確認された。

[重複関係] SM01と重複する。本遺構の方が新しい。

[形態・規模] 円形を呈し、開口部径72cm、深さ24cmを測る。

[堆積土] 暗褐色粘質シルトを主体とする単層で、骨片や炭化物を含む。

[人骨] 堆積土中から骨片がみつかっているが、形状の判別できるものは確認されていない。

[遺物] なし。

[性格・時期] 土葬墓である。出土遺物がないため、詳細な時期は不明である。

S Z04中・近世墓（第45図、写真図版50）

[位置] 調査区東側、II G 8 g、II G 9 g グリッドに位置する。

[検出状況] VI層上面で、灰黄褐色土や炭化物の広がりで確認された。

[重複関係] SM01と重複する。本遺構の方が新しい。

[形態・規模] 不整な橢円形を呈し、開口部227×120cm、深さ40cmを測る。

[堆積土] 灰黄褐色シルトを主体とし、4層に分けられる。炭化物が混入し、埋土上位に酸化鉄が偏

在する。

[人骨] 堆積土中から骨片がみつかっているが、形状の判別できるものは確認されていない。

[遺物] 底面付近から鉄製品、古銭が出土している。鉄製品は火打金である。古銭は寛永通寶である。また底面から10~20cm大の礫が多量にみつかっている。礫の出土状況に規則性は見いだせず、投げ込まれたものと推定される。

[性格・時期] 土葬墓である。出土した古銭から16世紀以降に比定される。

S Z05中・近世墓（第45図、写真図版50）

[位置] 調査区東側、II G 9 f グリッドに位置する。

[検出状況] VI層上面で、暗褐色土と炭化物の広がりとして確認した。また検出面をやや掘り下げたところ、棺材の一部が検出されたので、墓と判断した。

[重複関係] SZ06と重複する。本遺構の方が新しい。

[形態・規模] 円形を呈する。開口部径92cm、深さ36cmを測る。

[堆積土] 暗褐色シルトを主体とする。本来、本遺構は棺が埋められており、したがって堆積土は棺材が腐食した後に流れ込んだものと思われる。

[人骨] 2層中に骨片が混入するが、形状の判別できるものは確認されていない。

[遺物] 棺材は桶状を呈するものと思われる。棺材の蓋部分は2枚の板材が直交するのが確認できたので、2枚の板材で構成されるものと思われる。側面部分は依存状態が悪かったが、細い方形の板材を縦に長く並べているのが確認できた。床面部分は円形の1枚の板材を用いている。

[性格・時期] 埋葬墓である。出土遺物がないので、詳細な時期は不明である。

S Z06中・近世墓（第45図、写真図版50）

[位置] 調査区東側、II G 9 f グリッドに位置する。

[検出状況] VI層上面で、暗褐色土の広がりとして確認した。

[重複関係] SZ05と重複する。本遺構の方が古い。

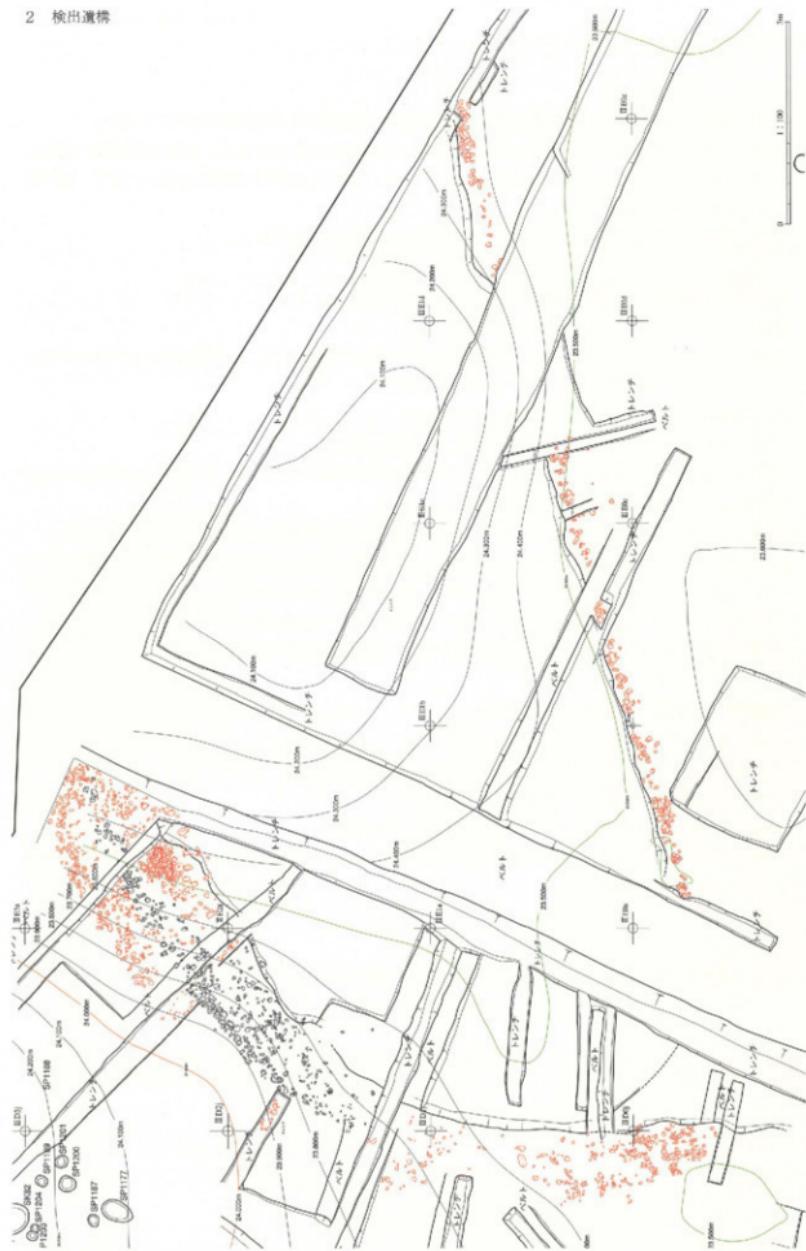
[形態・規模] 円形を呈する。開口部径85cm、深さ37cmを測る。

[堆積土] 暗褐色粘質シルトを主体とし、3層に分けられる。炭化物や地山ブロックが混入し、堆積土下位に酸化鉄が偏在する。

[人骨] なし。

[遺物] なし。

[性格・時期] 埋葬墓である。出土遺物がないので、詳細な時期は不明である。



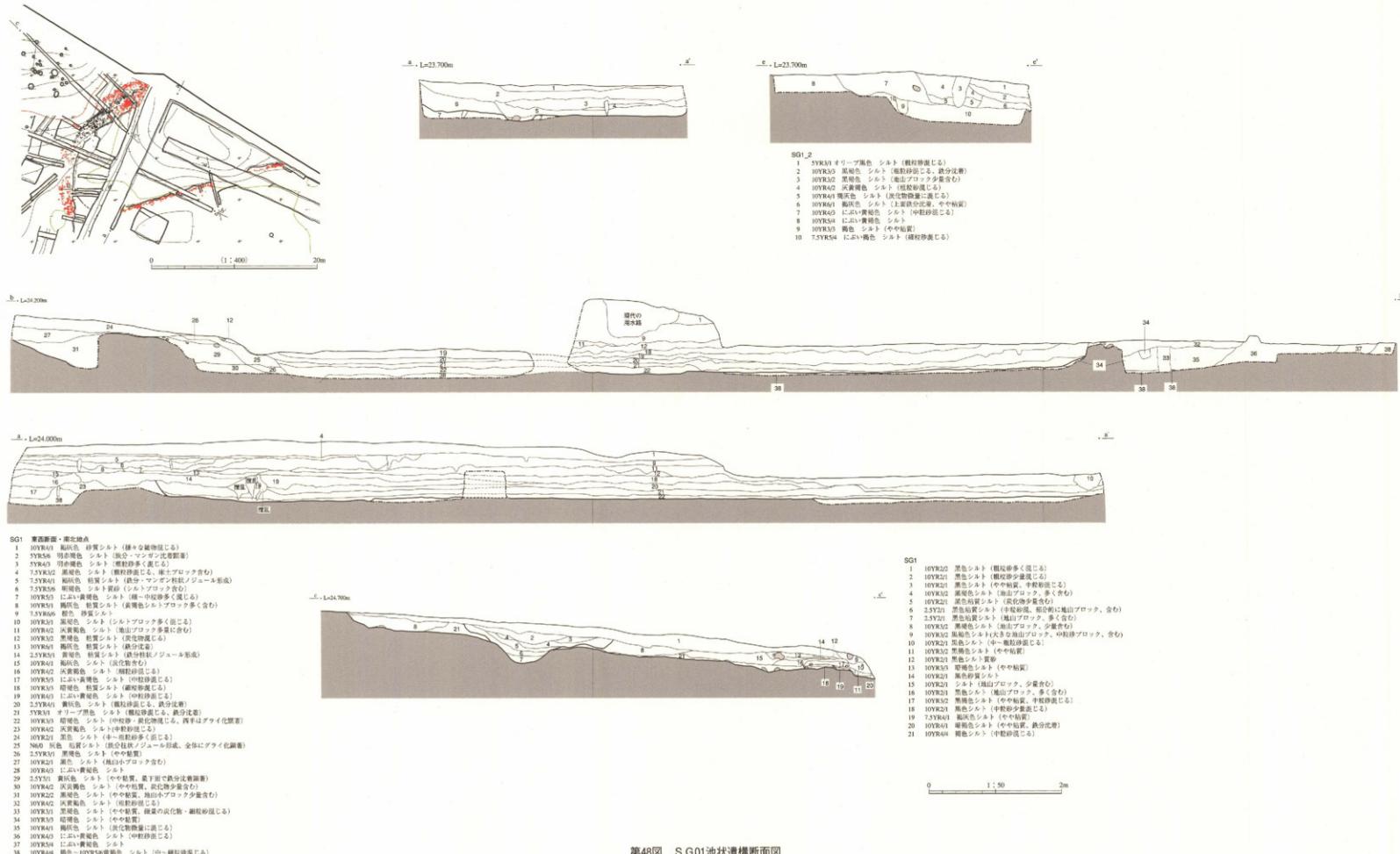
第46図 SG01池状遺構平面図



第47図 SG01池状遺構東側



第48図 S G01池状構造・S D02~04断面



第48図 SG01池状構造断面図

S G01池状遺構（第46～49図、写真図版3～9）

【位置・形状】調査区西側、II D・III D・II E・III Eグリッドに跨って位置する。平面形は中心軸が約45度東へ傾いた「U」字形を呈する。概ね南北方向に、現代の水田区画である畦畔および付隨する用水路が走っている。また、調査前の現況においても、この畦畔を境に東西で比高差が認められる。すなわち、西側が高く東側が低い状況である。なお、この東西における検出面比高は0.5mである。

【検出状況】西半はV層上面、東半はVI層上面でそれぞれ検出した。なお、落ち込み内部にはいくらくV層などもみられた。

【堆積土】大きく分けて暗褐色の粘質シルトを主体とする上層、青灰色にグラウイ化した下層から成る。堆積土中に炭化物も確認できるが、明瞭な植物遺存体等ではなかった。底面を検出すると湧水が著しい。調査区外の水田からの漏水もあったが、全体的に湿地のような堆積である。

【池状遺構西半】洲浜状汀が良好に残存する。検出した洲浜状汀は上下2面を捉えている。

上の石は人頭大～拳大のものを中心に敷かれている。これら比較的大きめの石の隙間を埋めるようにさらに小さな石が詰め込まれた状態である。ただし、石がみられない隙間が多く認められ、まばらな様相である。しかし、石の設置には規則性が認められ、周辺から流れ込んで作り出されて石敷きではないものと考えられる。この規則性とは、人頭大の礫を中心とする比較的大きめの石を汀線に平行するように列状に並べられている。特にIII D 2jグリッドの範囲では、その石列が明瞭である。また、この面においては、この右列の外側、すなわち、北西方向では石が検出されない。このことから、この面の石敷きは、この列をもっとも外側に規定しているものとみられる。なお、これより内側ではこの石列よりも小さな礫石で構成されている。III D 2j～III E 2aグリッドにかけての一部のみ、確認のため掘り下げて検出した。上面に比べると下面の石敷きは密に敷かれている。特に汀線付近と離れる一部の場所は石同士の隙間がほとんど無く、かなり密に敷かれている。石の大きさも上面に比べると揃っており、洲浜らしい状態を呈している。また、石が検出された範囲は先述した上面よりも外側へ広がっている。この広がりの外側のラインは、下面でみられたような石列による区画は存在せず。その他内側の石敷きと区別がつかない。下面石敷きは密に敷かれた箇所以外はまばらな状態で石が存在するが、本来の石敷きが失われている可能性が考えられる。

【池状遺構東半】東半は西半と全く様相が異なる。東半は西半のように石敷きがみられない。しかし、落ち込みからの遺構立ち上がりは明瞭に確認でき、現代の水田区画で西側と東側は用水路によって区画がなされているが、西側から連続する同一の遺構であることは確認できる。この遺構立ち上がりに接して礫が多くみられる。これら礫は拳大よりもやや大きいものが主体であり、面的に敷かれた状況は認められない。これらの石は、いくらか重なりを持ちながら直線的に列をなして置かれたような状況である。石が遺構立ち上がりに接して並んでいることから、この遺構と関わりがあるものとみられる。また、人為的なものである可能性も高い。

【出土遺物】遺構周辺では検出作業中に輸入磁器片やかわらけ片などが出土した。遺構西半の洲浜上面と下面との間の堆積層からは国産陶器片（涅美）が1点出土している。この遺構に伴うものかは不明だが、これらより新しい遺物は出土していない。この遺構の上に埋まっていた砂の堆積土には近世の陶磁器が含まれている。

【時期】すべて完全に調査している遺構ではないので断定はできないが、12世紀に近い時期の遺構である可能性が考えられる。

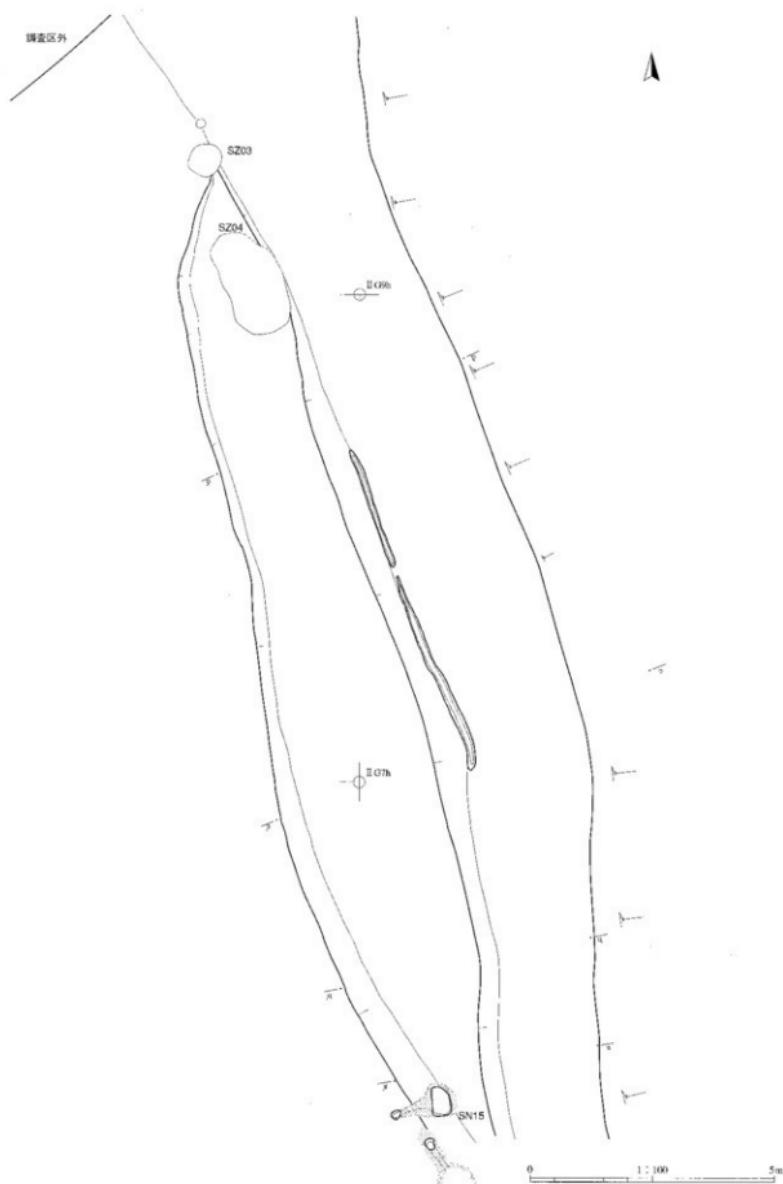
S M01テラス状遺構（第50・51図、写真図版44～46）

テラス状遺構は、調査区東端の斜面部で検出した大規模な遺構である。斜面地形の上部をカットして南北方向に帯状の平坦面を上下2段造成している。現状では適当な遺構名称がないためテラス状遺構としている。平坦面の幅は約70～2.5mで、現段階では長さ約30mを検出した。平坦面は、堅穴住居床面のように固く締まっている。

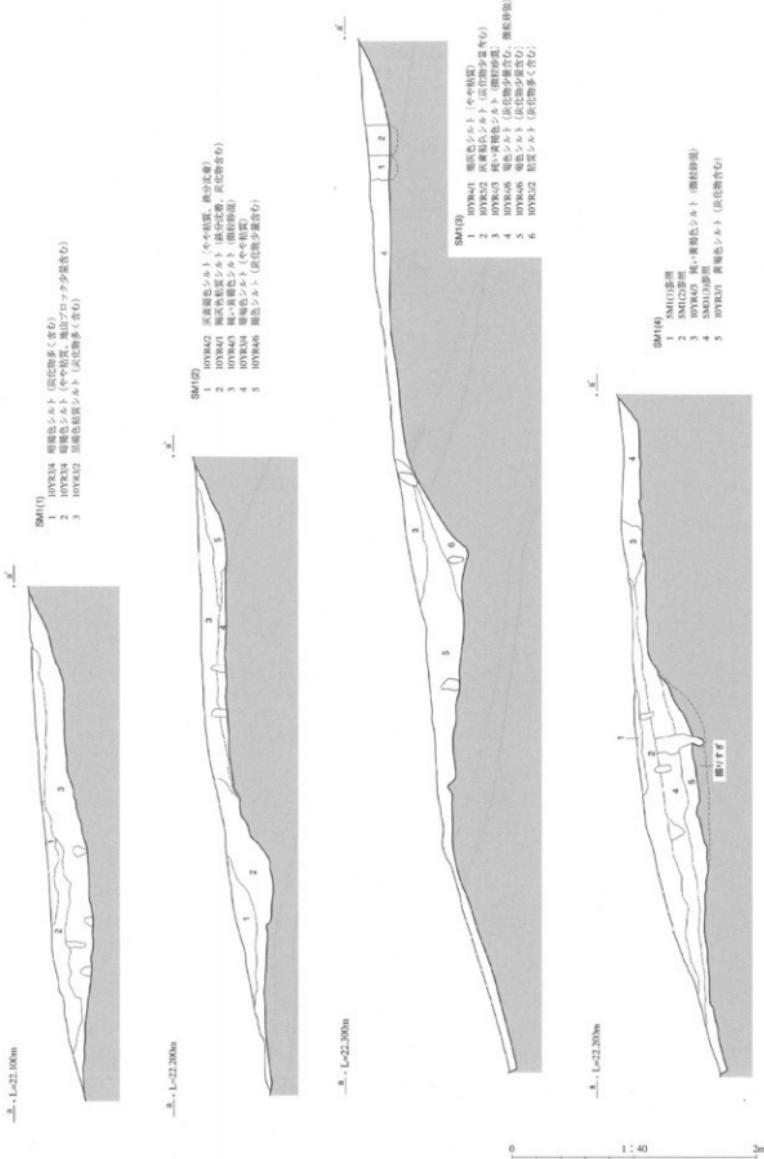
埋土は斜面に堆積したシルトであり、12世紀代の遺物を含んでいる。上段の平坦面と下段の平坦面とは10～50cm程度の落差が認められ、その間の斜面角度は10～55度程度である。遺構北端では、下段が北方向に緩やかな登りスロープを形成しており、そのため上下段が取締し、調査区外へ続く。

埋土より出土した遺物は、かわらけ片、国産陶器片、白磁碗片などである。テラス状遺構埋土上面より中・近世の遺構が掘り込まれており、さらに一部で下段の平坦面がV層（遺物包含層2）をカットして造成されていることから、概ね12世紀頃の遺構であると考えられる。

遺構の性格については不明であるが、伝承の「衣の関道」付近に位置している。「衣の関道」に付属する施設かもしれないが、現段階では考古学的に関係性を見出すことはできない。



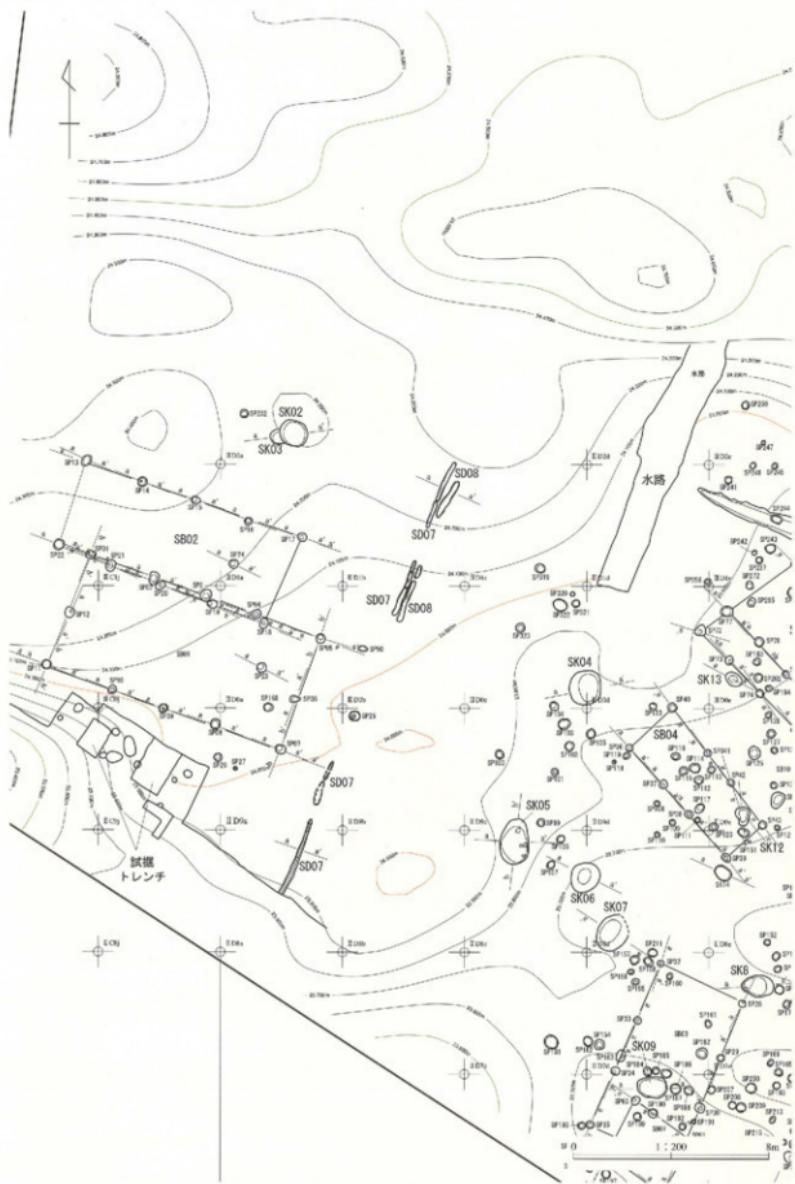
第50図 S M01テラス状造構平面



第51図 S M01テラス状遺構平面



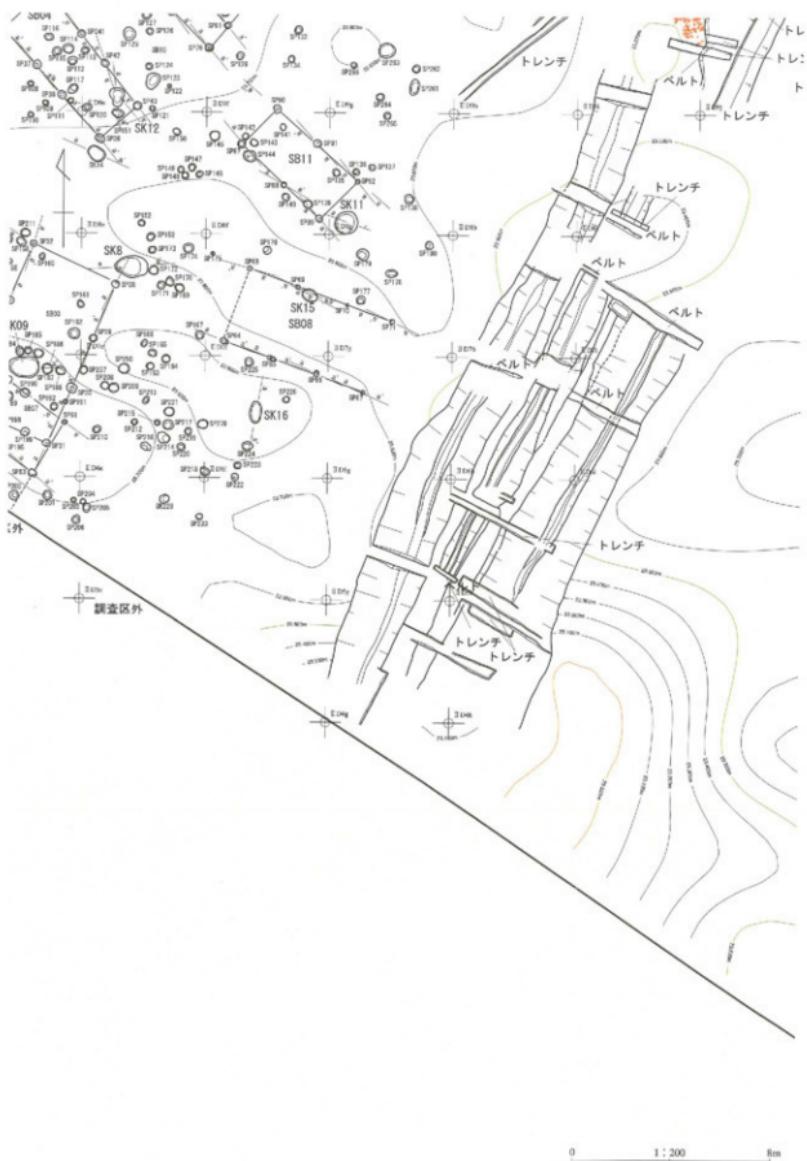
第52図 遺跡分割図剤



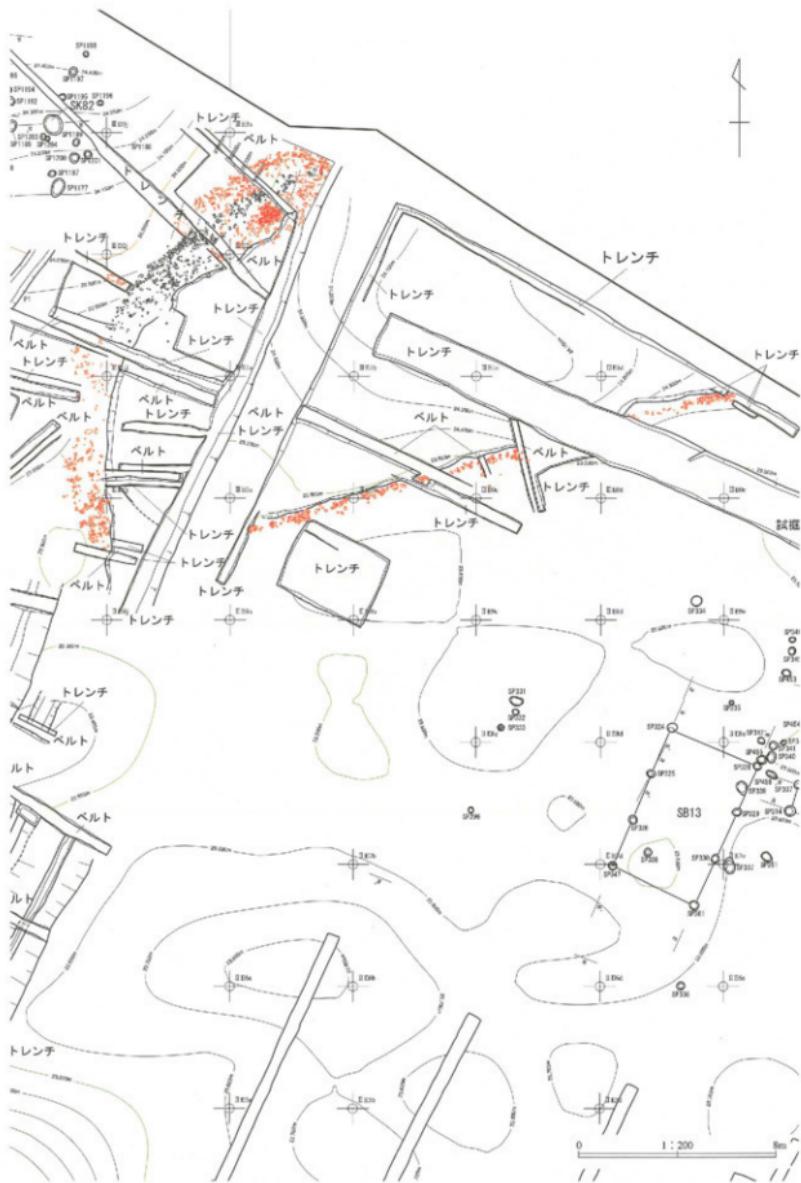
第53図 分割図1



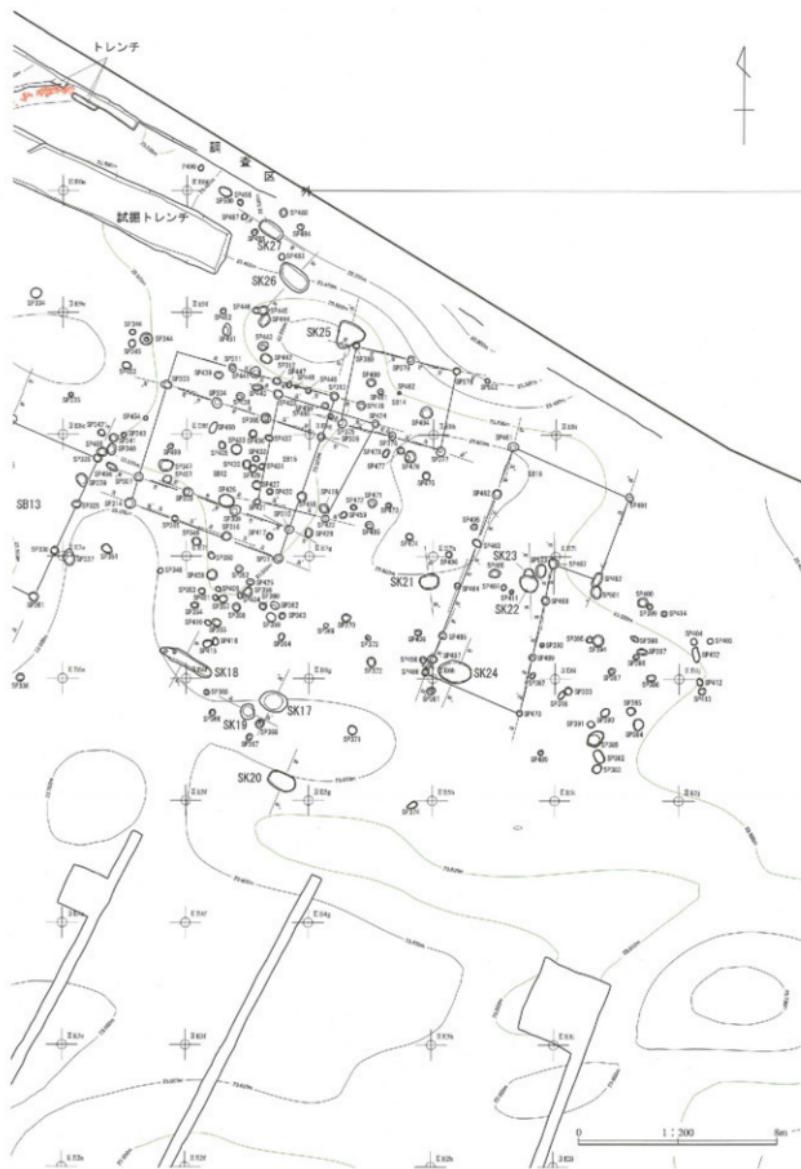
第54図 分割図2



第55図 分割図3



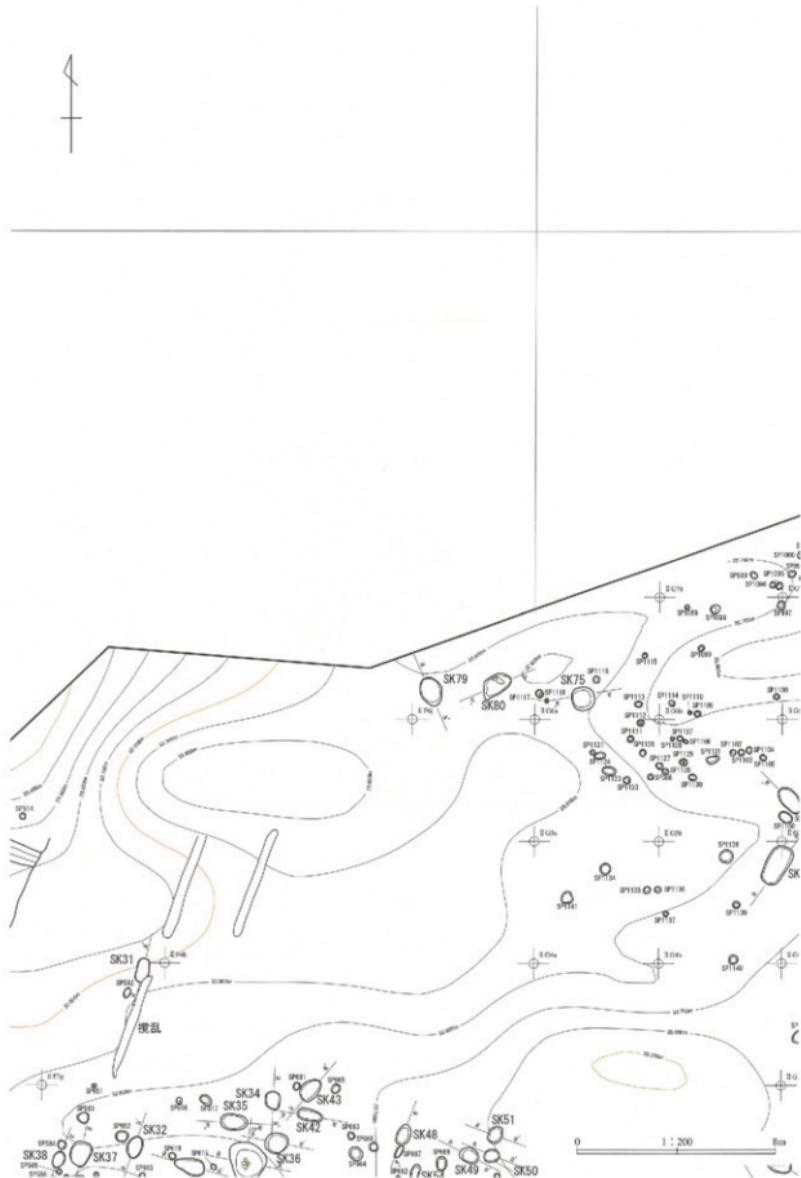
第56図 分割図4



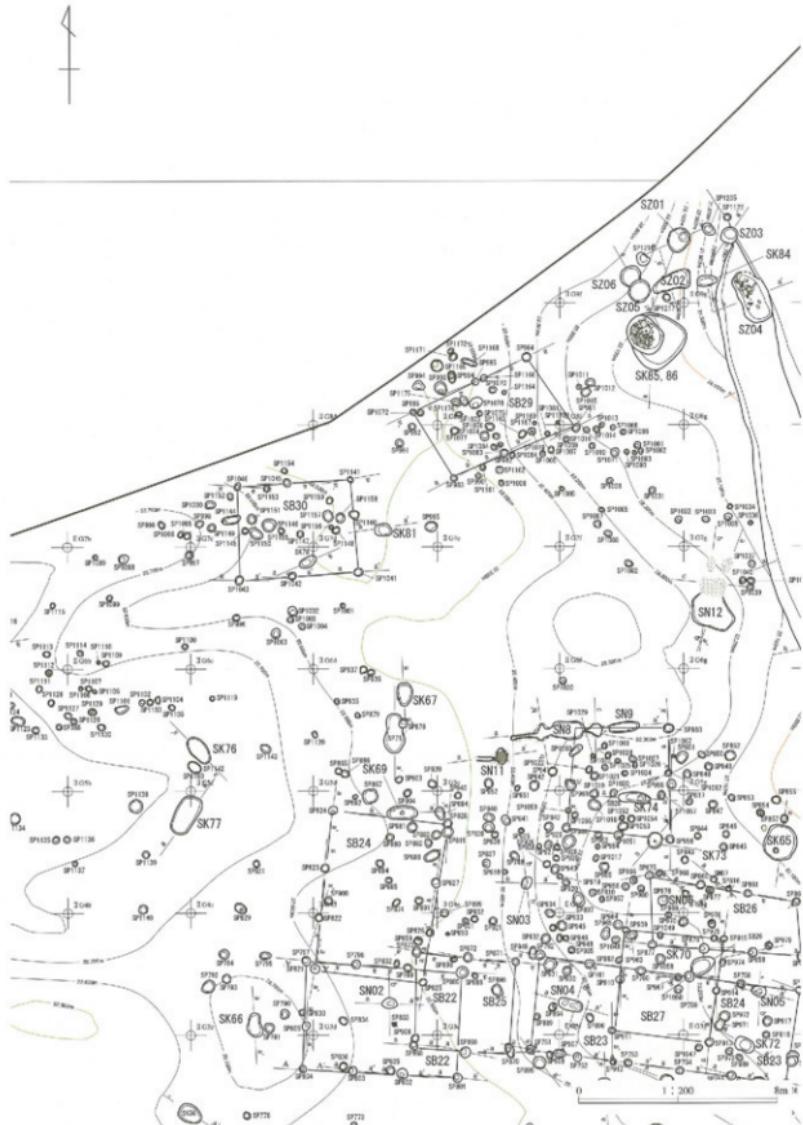
第57図 分割図5



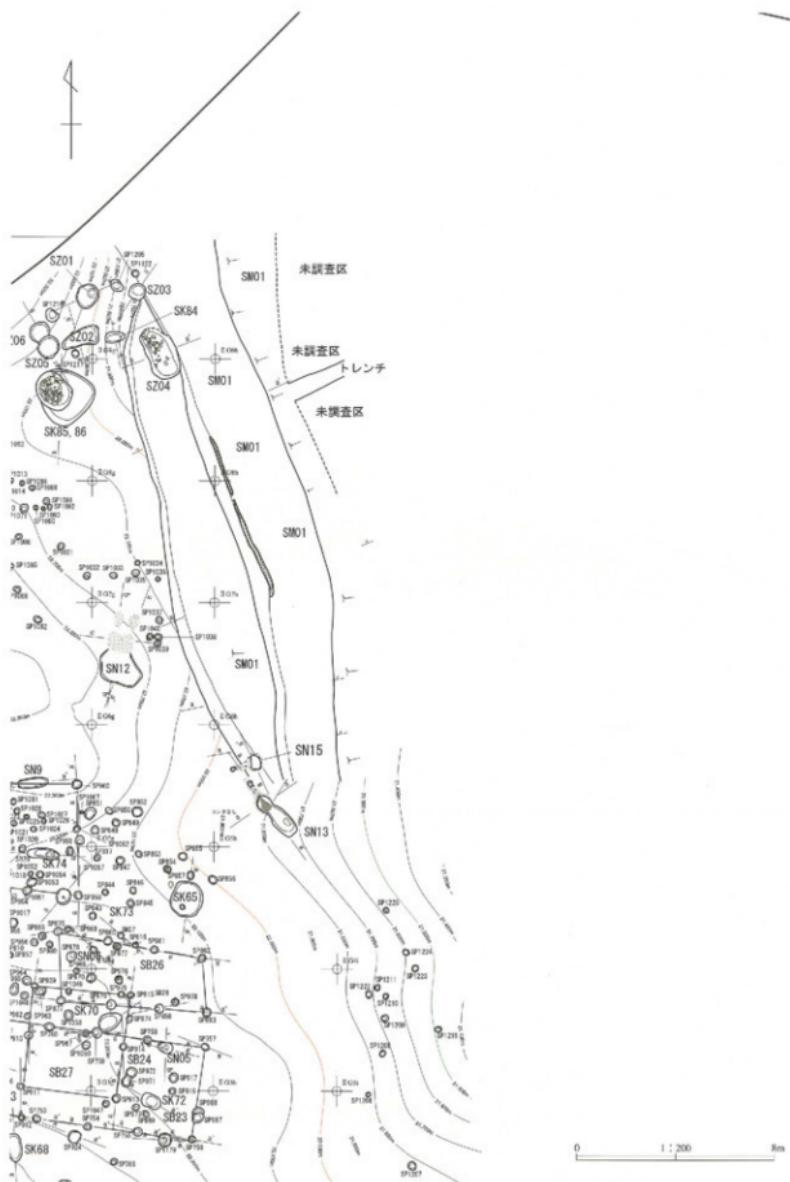
第58図 分割図6



第59図 分割図7



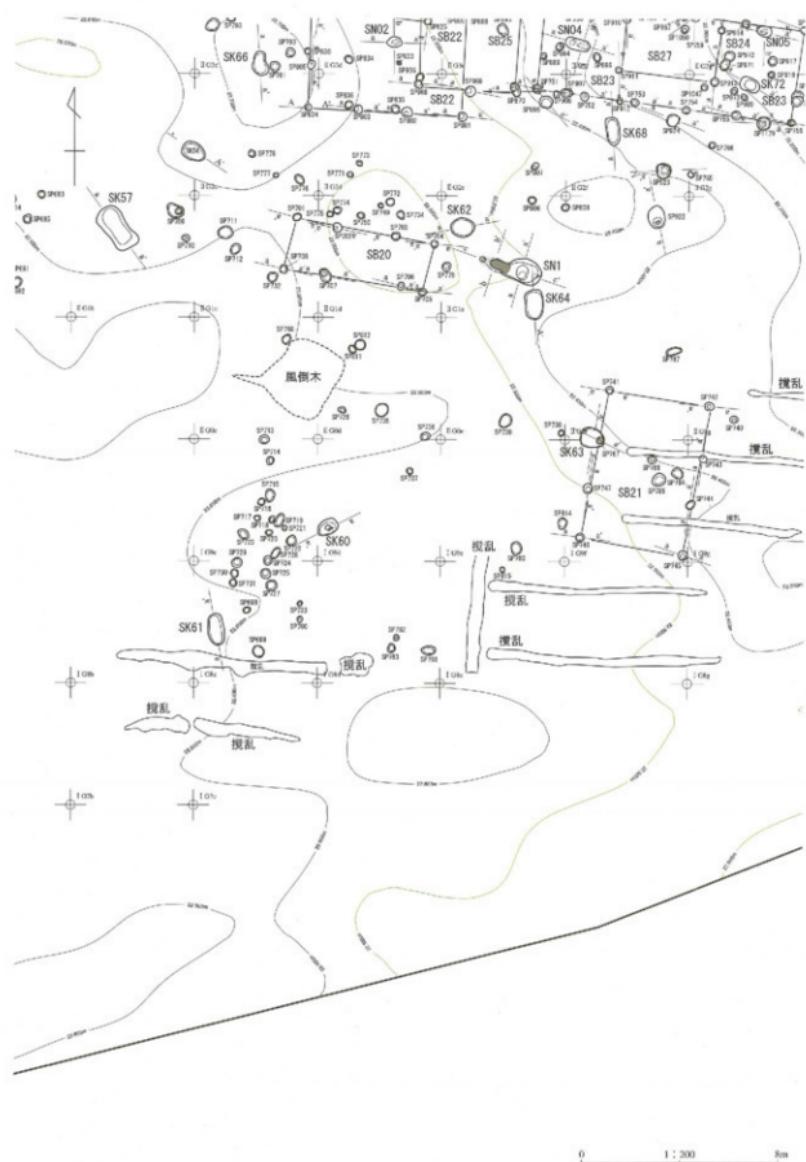
第60図 分割図8



第61図 分割図9



第62図 分割図10



第63図 分割図11



第64図 分割図12

第1表 柱穴一覽

グリッド	構造名	複数面積(m ²)	最深部	高さ(cm.)	備考
ⅢC2a	SP0013	23.938	23.645	29.3	
ⅢC2j	SP0014	24.236	23.499	73.7	
ⅢC1i	SP0022	24.266	23.611	65.5	
ⅢC1j	SP0002	24.231	23.703	52.8	
ⅢC1l	SP0014	24.106	23.818	28.8	
ⅢC1j	SP0015	24.154	23.812	34.2	
ⅢC1j	SP0020	24.221	23.891	33	
ⅢC1j	SP0021	24.211	23.616	62.5	
ⅢD2a	SP0233	24.218	23.955	26.3	
ⅢD1a	SP0016	24.051	23.732	31.9	
ⅢD1a	SP0017	24.198	23.51	68.8	
ⅢD1a	SP0024	24.177	23.581	59.6	
ⅢC0	SP0011	24.236	23.475	76.1	
ⅢC0	SP0012	24.204	23.218	38.7	
ⅢC0j	SP0003	24.363	23.481	88.2	
ⅢC0j	SP0009	23.982	23.661	32.1	
ⅢC0	SP0010	24.079	23.394	68.5	
ⅢC0j	SP0019	24.226	23.838	38.8	
ⅢC9	SP0008	24.038	23.438	59.7	
ⅢD0a	SP0004	24.042	23.34	70.2	
ⅢD0a	SP0005	24.048	23.736	31.2	
ⅢD0a	SP0006	24.014	23.468	51.6	
ⅢD0	SP0018	24.054	23.694	36	
ⅢD0a	SP0023	24.057	23.656	40.1	
ⅢD0a	SP0168	24.013	23.694	31.9	
ⅢF9a	SP0007	24.023	23.532	49.1	
ⅢD9a	SP0026	24.019	23.541	47.8	
ⅢD9a	SP0027	24.006	23.92	8.6	
ⅢD1c	SP0119	24.015	23.828	18.7	
ⅢD9t	SP0090	24.009	23.863	14.6	
ⅢD9b	SP0025	24.004	23.643	36.1	
ⅢD9c	SP0104	23.927	23.479	44.8	
ⅢD9c	SP0330	23.919	23.739	18	
ⅢD9c	SP0321	23.894	23.73	16.4	
ⅢD9c	SP0322	23.925	23.705	22	
ⅢD9c	SP0323	23.982	23.692	29	
ⅢD9c	SP0399	23.857	23.446	41.1	
ⅢD9c	SP0400	23.954	23.614	34	
ⅢD9c	SP0101	23.867	23.453	41.4	
ⅢD9c	SP0102	23.779	23.378	41.2	
ⅢD9c	SP0103	23.858	23.633	22	
ⅢD9d	SP0040	23.811	23.525	28.6	
ⅢD9d	SP0072	23.655	23.367	28.8	
ⅢD9d	SP0133	23.876	23.768	10.8	
ⅢD9d	SP0036	23.817	23.578	23.9	
ⅢD9d	SP0037	23.751	23.47	28.1	
ⅢD9d	SP0038	23.702	23.482	22	
ⅢD9d	SP0041	23.752	23.394	35.8	
ⅢD9d	SP0165	23.921	23.694	22.7	
ⅢD9d	SP0108	23.717	23.7	1.7	
ⅢD9d	SP0109	23.692	23.448	21.4	
ⅢD9d	SP0110	23.68	23.591	8.9	
ⅢD9d	SP0111	23.688	23.516	17.3	
ⅢD9d	SP0112	23.735	23.593	14.2	
ⅢD9d	SP0113	23.743	23.548	19.5	
ⅢD9d	SP0114	23.758	23.561	19.7	
ⅢD9d	SP0115	23.745	23.582	16.3	
ⅢD9d	SP0116	23.766	23.567	19.8	
ⅢD9d	SP0117	23.724	23.482	24.2	
ⅢD9d	SP0118	23.844	23.377	7.4	
ⅢD9d	SP0119	23.803	23.571	23.2	
ⅢD9c	SP0106	23.771	23.523	24.8	
ⅢD9c	SP0107	23.768	23.468	30	
ⅢD7c	SP0181	23.673	23.509	16.4	
ⅢD7c	SP0182	23.627	23.374	25.3	
ⅢD8a	SP0223	23.615	23.437	17.8	

グリッド	遺構名	標高(山根高 (m))	最深部 (m)	深さ(cm)	備考
II D7d	SP0032	23.731	23.575	15.6	
II D7d	SP0033	23.606	23.307	29.9	
II D7d	SP0034	23.743	23.373	37	
II D7d	SP0154	23.763	23.541	22.2	
II D7d	SP0155	23.718	23.563	15.5	
II D7d	SP0156	23.735	23.534	20.1	
II D7d	SP0157	23.772	23.608	16.4	
II D7d	SP0158	23.757	23.532	22.5	
II D7d	SP0160	23.711	23.503	20.7	
II D7d	SP0162	23.576	23.365	21.1	
II D7d	SP0184	23.793	23.552	24.1	
II D7d	SP0185	23.719	23.557	16.2	
II D6d	SP0030	23.734	23.341	39.3	
II D6d	SP0031	23.721	23.302	42.2	
II D6d	SP0035	23.717	23.335	38.2	
II D6d	SP0060	23.785	23.434	30.1	
II D6d	SP0061	23.762	23.357	20.5	
II D6d	SP0062	23.69	23.36	33	
II D6d	SP0063	23.722	23.431	29.1	
II D6d	SP0193	23.706	23.425	28.1	
II D6d	SP0182	23.73	23.563	16.7	
II D6d	SP0186	23.773	23.716	5.7	
II D6d	SP0187	23.727	23.508	21.9	
II D6d	SP0188	23.748	23.577	17.1	
II D6d	SP0189	23.731	23.553	17.8	
II D6d	SP0190	23.732	23.486	24.6	
II D6d	SP0191	23.726	23.664	6.2	
II D6d	SP0192	23.725	23.523	20.2	
II D6d	SP0194	23.658	23.411	24.7	
II D6d	SP0195	23.69	23.53	16	
II D6d	SP0196	23.654	23.46	19.4	
II D6d	SP0197	23.677	23.49	18.7	
II D6d	SP0198	23.727	23.488	23.9	
II D6d	SP0199	23.74	23.469	27.1	
II D5d	SP0200	23.721	23.31	41.1	
II D5d	SP0201	23.729	23.478	25.1	
II D5d	SP0203	23.706	23.518	18.8	
II D5d	SP0205	23.689	23.457	23.2	
II D5d	SP0206	23.683	23.459	22.6	
II D5d	SP0227	23.707	23.47	23.7	
II D5d	SP0228	23.736	23.552	18.4	
II D5d	SP0230	23.707	23.441	26.6	
II D5d	SP0239	23.69	23.522	16.8	
II D4g	SP0044	23.821	23.363	45.8	
II D4g	SP0278	23.83	23.473	35.7	
II D4g	SP0048	23.371	23.242	12.9	
II D4g	SP0045	23.825	23.393	43.2	
II D4g	SP0046	23.838	23.303	53.5	
II D4g	SP0267	23.77	23.565	20.5	
II D4g	SP0282	23.809	23.484	32.5	
II D4g	SP0283	23.81	23.526	27.4	
II D4g	SP0284	23.807	23.647	16	
II D4g	SP0285	23.844	23.66	18.4	
II D4g	SP0286	23.858	23.757	10.1	
II D4g	SP0287	23.835	23.715	12	
II D4g	SP0288	23.849	23.743	10.6	
II D3g	SP0049	23.651	23.34	31.1	
II D3g	SP0050	23.662	23.346	31.6	
II D3g	SP0051	23.607	23.205	40.2	
II D3g	SP0052	23.734	23.295	43.9	
II D3g	SP0056	23.614	23.157	45.7	
II D3g	SP0280	23.754	23.351	40.3	
II D3g	SP0281	23.676	23.113	26.3	
II D3g	SP0289	23.711	23.471	24	
II D3g	SP0290	23.71	23.477	23.3	
II D3g	SP0294	23.698	23.379	31.9	

グリッド	透構名稱	横断面標高 (m)	最深部 (m)	深さ(cm)	備考
ⅢD2e	SP0247	23.945	23.757	188	
ⅢD2e	SP0258	23.878	23.636	24.2	
ⅢD2e	SP0259	23.93	23.626	30.4	
ⅢD1e	SP0082	23.846	23.617	22.9	
ⅢD1e	SP0237	23.847	23.649	19.8	
ⅢD1e	SP0241	23.885	23.467	41.8	
ⅢD1e	SP0242	23.847	23.65	19.7	
ⅢD1e	SP0243	23.854	23.698	15.6	
ⅢD1e	SP0244	23.685	23.492	19.3	
ⅢD1e	SP0245	23.885	23.707	17.8	
ⅢD1e	SP0246	23.89	23.781	10.9	
ⅢD1e	SP0248	23.879	23.674	20.5	
ⅢD1e	SP0256	23.731	23.566	16.5	
ⅢD1e	SP0272	23.827	23.39	43.7	
ⅢD1e	SP0273	23.838	23.499	33.9	
ⅢD2f	SP0251	24.182	23.983	19.9	
ⅢD1f	SP0231	23.875	23.64	23.5	
ⅢD1f	SP0234	23.821	23.339	48.2	
ⅢD1f	SP0239	23.834	23.641	19.3	
ⅢD1f	SP0240	23.856	23.595	26.1	
ⅢD2g	SP0093	24.068	23.787	28.1	
ⅢD2g	SP0249	24.105	23.937	16.8	
ⅢD2g	SP0252	24.282	24.095	18.7	
ⅢD1g	SP0238	23.917	23.792	12.5	
ⅢD1g	SP0268	23.862	23.606	25.6	
ⅢD1g	SP0269	23.533	23.291	24.2	
ⅢD1g	SP0270	23.538	23.205	33.3	
ⅢD1g	SP0274	23.863	23.767	9.6	
ⅢD1g	SP0275	23.867	23.702	16.5	
ⅢD1g	SP0276	23.846	23.647	19.9	
ⅢD1g	SP0273	23.92	23.706	21.4	
ⅢD0e	SP0074	23.869	23.549	32	
ⅢD0e	SP0077	23.681	23.351	33	
ⅢD0e	SP0078	23.713	23.588	12.5	
ⅢD0e	SP0079	23.833	23.56	27.3	
ⅢD0e	SP0080	23.768	23.319	44.9	
ⅢD0e	SP0202	23.874	23.633	24.1	
ⅢD0e	SP0295	23.722	23.501	22.1	
ⅢD0e	SP0042	23.713	23.406	30.7	
ⅢD0e	SP0043	23.75	23.468	28.2	
ⅢD0e	SP0075	23.774	23.566	20.8	
ⅢD0e	SP0120	23.694	23.346	34.8	
ⅢD0e	SP0121	23.699	23.56	13.9	
ⅢD0e	SP0122	23.725	23.56	16.5	
ⅢD0e	SP0123	23.728	23.406	32.2	
ⅢD0e	SP0124	23.725	23.585	14	
ⅢD0e	SP0125	23.723	23.537	18.6	
ⅢD0e	SP0126	23.739	23.499	24	
ⅢD0e	SP0127	23.768	23.559	20.9	
ⅢD0e	SP0128	23.777	23.588	18.9	
ⅢD0f	SP0063	23.882	23.59	29.2	
ⅢD0f	SP0084	23.815	23.497	37.8	
ⅢD0f	SP0085	23.765	23.516	24.9	
ⅢD0f	SP0086	23.654	23.337	31.7	
ⅢD0f	SP0076	23.751	23.578	17.3	
ⅢD0f	SP0081	23.777	23.44	33.3	
ⅢD0f	SP0129	23.779	23.532	24.7	
ⅢD0f	SP0130	23.776	23.475	30.1	
ⅢD0f	SP0131	23.862	23.666	19.6	
ⅢD0f	SP0132	23.743	23.561	18.2	
ⅢD0f	SP0134	23.776	23.509	30.1	
ⅢD0g	SP0271	23.811	23.509	30.2	
ⅢD0g	SP0236	23.72	23.371	34.9	
ⅢD0g	SP0261	23.667	23.374	29.3	
ⅢD0g	SP0262	23.676	23.391	28.5	
ⅢD0g	SP0263	23.663	23.396	26.7	
ⅢD0g	SP0264	23.669	23.572	9.7	
ⅢD0g	SP0265	23.672	23.37	30.2	

グリッド	透構名稱	横断面標高 (m)	最深部 (m)	深さ(cm)	備考
ⅡD9g	SP0266	23.669	23.567	10.2	
ⅡD9e	SP0139	23.684	23.413	27.1	
ⅡD9e	SP0146	23.572	23.422	15	
ⅡD9e	SP0147	23.588	23.404	18.4	
ⅡD9e	SP0148	23.59	23.38	21	
ⅡD9e	SP0149	23.602	23.447	15.5	
ⅡD9e	SP0150	23.671	23.499	17.2	
ⅡD9e	SP0151	23.745	23.591	15.4	
ⅡD9e	SP0152	23.597	23.477	12	
ⅡD7e	SP028	23.616	23.32	28.9	
ⅡD7e	SP029	23.594	23.362	23.2	
ⅡD7e	SP0163	23.588	23.319	26.9	
ⅡD7e	SP0161	23.649	23.343	30.6	
ⅡD7e	SP0162	23.58	23.393	19.3	
ⅡD7e	SP0166	23.584	23.359	22.5	
ⅡD7e	SP0169	23.634	23.387	24.7	
ⅡD7e	SP0170	23.624	23.399	22.5	
ⅡD7e	SP0171	23.619	23.384	33.5	
ⅡD7e	SP0172	23.611	23.478	13.3	
ⅡD7e	SP0173	23.58	23.442	15.4	
ⅡD7e	SP0174	23.586	23.351	23.2	
ⅡD8f	SP0087	23.66	23.349	31.1	
ⅡD8f	SP0088	23.611	23.43	18.1	
ⅡD8f	SP0089	23.672	23.413	25.9	
ⅡD8f	SP0091	23.66	23.508	15.8	
ⅡD8f	SP0139	23.667	23.457	21	
ⅡD8f	SP0140	23.639	23.377	26.2	
ⅡD8f	SP0141	23.678	23.51	16.8	
ⅡD8f	SP0142	23.667	23.433	23.4	
ⅡD8f	SP0143	23.67	23.438	23.2	
ⅡD8f	SP0144	23.652	23.447	20.5	
ⅡD8f	SP0145	23.668	23.468	20	
ⅡD7f	SP0064	23.629	23.33	29.9	
ⅡD7f	SP0065	23.648	23.494	15.4	
ⅡD7f	SP0067	23.561	23.454	10.7	
ⅡD7f	SP0069	23.558	23.338	12	
ⅡD7f	SP0167	23.576	23.183	39.3	
ⅡD7f	SP0175	23.631	23.357	27.4	
ⅡD7f	SP0176	23.596	23.338	21.6	
ⅡD8g	SP0098	23.623	23.342	28.1	
ⅡD8g	SP0135	23.648	23.349	29.9	
ⅡD8g	SP0136	23.639	23.408	23.1	
ⅡD8g	SP0137	23.634	23.397	23.7	
ⅡD8g	SP0138	23.686	23.436	25	
ⅡD7g	SP0070	23.541	23.381	26	
ⅡD7g	SP0071	23.561	23.409	15.8	
ⅡD7g	SP0177	23.565	23.39	27.4	
ⅡD7g	SP0178	23.611	23.425	18.6	
ⅡD7g	SP0179	23.63	23.426	20.4	
ⅡD7g	SP0180	23.606	23.362	24.4	
ⅡD6e	SP0163	23.631	23.357	27.4	
ⅡD6e	SP0164	23.646	23.342	30.4	
ⅡD6e	SP0207	23.782	23.624	15.8	
ⅡD6e	SP0208	23.761	23.68	8.1	
ⅡD6e	SP0209	23.767	23.685	48.2	
ⅡD6e	SP0210	23.743	23.51	23.3	
ⅡD6e	SP0212	23.732	23.596	13.6	
ⅡD6e	SP0213	23.726	23.522	20.4	
ⅡD6e	SP0214	23.693	23.4	29.3	
ⅡD6e	SP0215	23.712	23.596	11.6	
ⅡD6e	SP0216	23.711	23.252	45.9	
ⅡD6e	SP0217	23.72	23.414	30.6	
ⅡD6e	SP0219	23.721	23.361	36	
ⅡD6e	SP0220	23.722	23.279	44.3	
ⅡD6e	SP0250	23.649	23.427	22.2	
ⅡD6e	SP0221	23.745	23.584	16.1	
ⅡD6e	SP0279	23.743	23.408	33.5	
ⅡD6e	SP0204	23.697	23.527	17	

グリッド	遺構名	検出面標高 (m)	最深部 (m)	深さ(cm)	備考
II D5e	SP0233	23.759	23.461	29.8	
II D6c	SP0066	23.691	23.426	26.5	
II D6f	SP0218	23.677	23.427	25	
II D6f	SP0222	23.679	23.488	19.1	
II D6f	SP0223	23.66	23.413	24.7	
II D6f	SP0224	23.678	23.372	30.6	
II D6f	SP0225	23.687	23.461	22.6	
II D6f	SP0226	23.667	23.392	27.5	
II D4b	SP0047	24.553	24.082	47.1	
II D3h	SP0053	24.507	24.222	28.5	
III D3h	SP0054	24.53	24.136	39.4	
III D3h	SP0067	24.38	23.965	41.5	
III D3h	SP0058	24.358	23.821	53.7	
III D3h	SP0297	24.498	24.319	17.9	
III D3h	SP0298	24.345	24.114	23.1	
III D3h	SP1299	24.342	21.117	22.5	
III D3h	SP0301	24.35	23.963	38.7	
III D3h	SP0302	24.427	24.258	16.9	
III D3h	SP0055	24.7	24.422	27.8	
III D3h	SP0059	24.616	24.028	58.8	
III D3i	SP1229	24.753	24.57	18.3	
III D3i	SP1232	24.383	24.167	21.6	
III D3i	SP1233	24.505	24.261	24.4	
III D3i	SP1235	24.552	24.262	29	
III D3i	SP1236	24.613	24.469	14.4	
III D3i	SP1237	24.619	24.468	15.1	
III D3i	SP1238	24.214	24.182	3.2	
III D3i	SP1239	24.022	23.865	15.7	
III D3i	SP1240	23.462	23.322	14	
III D3i	SP1241	23.473	23.261	21.2	
III D2h	SP0094	24.522	24.377	14.5	
III D2h	SP0096	24.695	24.522	17.3	
III D2h	SP0097	24.648	24.456	19	
III D2h	SP0098	24.628	24.311	31.7	
III D2h	SP0253	24.659	24.385	27.4	
III D2h	SP1254	24.638	24.396	24.2	
III D2h	SP1255	24.652	24.417	23.5	
III D2h	SP0260	24.571	24.307	26.4	
III D2h	SP0257	21.531	24.316	21.8	
III D1h	SP0095	23.974	23.583	39.1	
III D1h	SP0277	23.884	23.62	26.4	
III D1h	SP1215	23.694	23.352	34.2	
III D1h	SP1216	23.556	23.452	10.4	
III D1h	SP1223	23.897	23.714	18.3	
III D1h	SP1224	23.907	23.793	11.4	
III D1h	SP1225	23.993	23.773	22	
III D1h	SP1226	23.992	23.836	15.6	
III D1h	SP1227	23.962	23.782	17	
III D1h	SP1228	23.966	23.756	20	
III D1h	SP1247	23.946	23.805	14.1	
III D2h	SP1219	24.16	23.648	51.2	
III D2i	SP1221	24.263	23.932	33.1	
III D2i	SP1230	24.179	23.988	19.1	
III D2i	SP1242	24.255	23.952	30.3	
III D2i	SP1243	24.214	23.883	33.1	
III D2i	SP1244	24.204	24.032	17.2	
III D2i	SP1248	24.267	24.102	16.5	
III D2i	SP1249	24.263	24.128	13.5	
III E7b	SP0388	23.508	23.439	15.9	
III E8c	SP0331	23.564	23.39	17.4	
III E8c	SP0332	23.551	23.302	24.9	
III E8c	SP0333	23.547	23.206	34.1	
III E9d	SP0334	23.554	23.37	18.4	
III E9f	SP0490	23.434	23.216	21.8	
III E9f	SP0600	23.432	23.218	21.4	
III E9f	SP0445	23.485	23.201	28.4	
III E9f	SP0446	23.485	23.001	58.4	
III E9f	SP0484	23.227	23.087	14	

グリッド	遺構名	検出面標高 (m)	最深部 (m)	深さ(cm)	備考
II E9f	SP0486	23.348	23.169	7.9	
II E9f	SP0487	23.345	23.182	16.3	
II E9f	SP0488	23.208	23.11	9.8	
II E9f	SP0483	23.159	22.97	18.9	
II E9f	SP0498	23.349	23.188	16.1	
II E9d	SP0324	23.555	23.261	29.4	
II E7d	SP0325	23.575	23.38	19.5	
II E7d	SP0326	23.586	23.404	18.2	
II E7d	SP0330	23.532	23.302	23	
II E7d	SP0338	23.552	23.273	27.9	
II E8e	SP0342	23.527	23.373	15.4	
II E8e	SP0343	23.534	23.396	13.8	
II E8e	SP0344	23.62	22.905	71.6	
II E8e	SP0345	23.635	23.462	17.3	
II E8e	SP0346	23.627	23.443	18.4	
II E8e	SP0453	23.626	23.412	21.4	
II E8e	SP0454	23.535	23.431	10.4	
II E7e	SP0307	23.688	23.307	38.1	
II E7e	SP0314	23.659	23.443	21.6	
II E7e	SP0315	23.665	23.502	16.3	
II E7e	SP0328	23.712	23.255	45.7	
II E7e	SP0329	23.696	23.532	16.4	
II E7e	SP0339	23.725	23.491	23.2	
II E7e	SP0340	23.718	23.316	20.2	
II E7e	SP0341	23.528	23.373	15.5	
II E7e	SP0347	23.635	23.163	47.2	
II E7e	SP0351	23.669	23.507	16.2	
II E7e	SP0455	23.711	23.29	42.1	
II E7e	SP0456	23.72	23.477	24.4	
II E7e	SP0457	23.634	23.479	15.5	
II E7e	SP0469	23.618	23.504	11.4	
II E8f	SP0304	23.429	22.887	54.2	
II E8f	SP0305	23.475	23.288	18.7	
II E8f	SP0311	23.438	23.212	22.6	
II E8f	SP0312	23.475	23.217	25.8	
II E8f	SP0423	23.494	23.32	17.4	
II E8f	SP0438	23.417	23.122	29.5	
II E8f	SP0439	23.444	23.248	19.6	
II E8f	SP0440	23.45	23.186	26.4	
II E8f	SP0441	23.429	23.044	38.5	
II E8f	SP0442	23.449	23.291	15.8	
II E8f	SP0443	23.446	23.198	24.8	
II E8f	SP0444	23.429	23.184	24.5	
II E8f	SP0447	23.476	23.4	7.6	
II E8f	SP0448	23.47	23.364	10.6	
II E8f	SP0449	23.464	23.125	33.9	
II E8f	SP0451	23.471	23.149	32.2	
II E8f	SP0452	23.459	23.397	6.2	
II E8f	SP0460	23.443	23.355	8.8	
II E7f	SP0308	23.452	23.093	35.9	
II E7f	SP0309	23.601	23.109	49.2	
II E7f	SP0310	23.522	23.09	43.2	
II E7f	SP0316	23.526	23.362	16.4	
II E7f	SP0349	23.476	23.199	27.7	
II E7f	SP0417	23.546	23.11	43.6	
II E7f	SP0418	23.514	23.31	20.4	
II E7f	SP0420	23.577	23.301	27.6	
II E7f	SP0421	23.594	23.411	15.3	
II E7f	SP0426	23.549	23.412	13.7	
II E7f	SP0427	23.571	23.436	13.5	
II E7f	SP0429	23.569	23.419	15	
II E7f	SP0430	23.559	23.263	29.6	
II E7f	SP0431	23.569	23.409	16	
II E7f	SP0432	23.55	23.457	9.3	
II E7f	SP0433	23.548	23.363	18.5	
II E7f	SP0435	23.497	23.356	14.1	
II E7f	SP0436	23.548	23.362	18.6	
II E7f	SP0437	23.543	23.409	13.4	

グリッド	道標名称	検出面高さ (m)	最深部 (m)	深さ(cm)	備考
II E6d	SP0336	23.537	23.223	31.4	
II E6d	SP0361	23.525	23.219	30.6	
II E6d	SP0327	23.518	23.304	21.4	
II E6e	SP0337	23.597	23.461	13.6	
II E6e	SP0348	23.567	23.489	7.8	
II E6f	SP0363	23.594	23.464	13	
II E6f	SP0354	23.615	23.509	10.6	
II E6f	SP0356	23.587	23.453	13.4	
II E6f	SP0357	23.588	23.399	19	
II E6f	SP0358	23.608	23.508	10	
II E6f	SP0359	23.595	23.378	21.7	
II E6f	SP0360	23.604	23.524	6.2	
II E6f	SP0362	23.595	23.415	18	
II E6f	SP0363	23.588	23.482	9.8	
II E6f	SP0364	23.609	23.453	15.6	
II E6f	SP0401	23.591	23.575	1.6	
II E6f	SP0408	23.573	23.406	16.7	
II E6f	SP0409	23.57	23.471	9.9	
II E6f	SP0410	23.632	23.466	16.6	
II E6f	SP0425	23.573	23.462	11.1	
II E6g	SP0434	23.588	23.54	4.8	
II E6g	SP0355	23.658	23.478	18	
II E6g	SP0415	23.696	23.581	11.4	
II E6g	SP0416	23.693	23.595	9.8	
II E5f	SP0365	23.673	23.516	15.7	
II E5f	SP0366	23.638	23.471	16.7	
II E5f	SP0367	23.627	23.563	6.4	
II E5f	SP0368	23.632	23.465	16.7	
II E8g	SP0313	23.687	23.343	34.4	
II E8g	SP0375	23.668	23.207	46.1	
II E8g	SP0379	23.543	23.37	17.3	
II E8g	SP0380	23.603	23.373	23	
II E8g	SP0424	23.683	23.509	17.4	
II E8g	SP0479	23.656	23.289	36.7	
II E8g	SP0490	23.67	23.444	22.6	
II E8g	SP0480	23.621	23.449	17.2	
II E8g	SP0481	23.615	23.38	23.5	
II E8g	SP0482	23.588	23.402	18.6	
II E8g	SP0493	23.668	23.445	22.3	
II E7g	SP0306	23.35	23.043	30.7	
II E7g	SP0376	23.568	23.297	58.1	
II E7g	SP0419	23.621	23.321	40.5	
II E7g	SP0422	23.612	23.398	21.4	
II E7g	SP0428	23.618	23.334	48.4	
II E7g	SP0456	23.588	23.31	27.9	
II E7g	SP0459	23.605	23.393	21.2	
II E7g	SP0471	23.604	23.453	15.1	
II E7g	SP0472	23.596	23.48	11.6	
II E7g	SP0473	23.604	23.331	27.3	
II E7g	SP0474	23.578	23.489	8.9	
II E7g	SP0475	23.588	23.399	18.6	
II E7g	SP0476	23.596	23.404	59.2	
II E7g	SP0477	23.594	23.437	15.7	
II E7g	SP0478	23.591	23.401	19.3	
II E8h	SP0378	23.27	23.056	21.4	
II E8h	SP0494	23.279	22.743	53.6	
II E8h	SP0502	23.312	23.07	24.2	
II E7h	SP0377	23.611	23.129	48.2	
II E7h	SP0461	23.614	22.958	65.6	
II E7h	SP0462	23.607	23.199	40.8	
II E7h	SP0463	23.573	23.022	55.1	
II E7h	SP0495	23.58	23.184	39.6	
II E7h	SP0496	23.61	23.29	32	
II E7i	SP0491	23.472	23.393	7.9	
II E6g	SP0369	23.58	23.402	17.8	
II E6g	SP0370	23.588	23.457	13.1	
II E6g	SP0372	23.565	23.343	22.2	
II E6g	SP0373	23.578	23.432	14.6	

グリッド	道標名称	検出面高さ (m)	最深部 (m)	深さ(cm)	備考
II E6g	SP0406	23.558	23.463	9.5	
II E5g	SP0371	23.596	23.418	17.8	
II E5g	SP0374	23.615	23.439	17.6	
II E5g	SP0381	23.594	23.426	16.8	
II E6h	SP0405	23.416	23.133	28.3	
II E6h	SP0407	23.542	23.346	19.6	
II E6h	SP0411	23.479	23.33	14.9	
II E6h	SP0458	23.52	23.399	12.1	
II E6h	SP0464	23.566	23.206	36	
II E6h	SP0465	23.559	23.306	35.3	
II E6h	SP0466	23.539	23.265	27.4	
II E6h	SP0467	23.691	23.419	27.2	
II E6h	SP0468	23.634	23.406	22.8	
II E6h	SP0469	23.499	23.219	28	
II E6h	SP0497	23.524	23.321	20.3	
II E6h	SP0503	23.502	23.383	21.1	
II E5h	SP0466	23.563	23.461	10.2	
II E5h	SP0479	23.516	23.268	24.8	
II E6	SP0389	23.441	23.313	12.8	
II E6	SP0387	23.517	23.362	15.5	
II E6	SP0394	23.563	23.429	13.4	
II E6	SP0395	23.575	23.412	16.3	
II E6	SP0396	23.514	23.291	22.3	
II E6	SP0397	23.481	23.268	21.2	
II E6	SP0398	23.508	23.311	19.7	
II E6	SP0399	23.438	23.274	16.4	
II E6	SP0400	23.489	23.32	16.9	
II E6	SP0414	23.367	23.348	3.9	
II E6	SP0492	23.597	23.47	12.7	
II E6	SP0501	23.597	23.487	11	
II E5i	SP0317	23.598	23.451	14.7	
II E5i	SP0318	23.595	23.315	28	
II E5i	SP0382	23.532	23.28	25.2	
II E5i	SP0383	23.524	23.363	16.1	
II E5i	SP0384	23.489	23.288	20.1	
II E5i	SP0385	23.544	23.352	19.2	
II E5i	SP0389	23.539	23.363	17.6	
II E5i	SP0390	23.567	23.28	28.7	
II E5i	SP0391	23.55	23.497	5.3	
II F6	SP0404	23.488	23.308	18	
II E5j	SP0402	23.473	23.247	22.6	
II E5j	SP0403	23.508	23.33	17.8	
II E5j	SP0412	23.452	23.322	13	
II F5j	SP0413	23.464	23.275	18.9	
II F3d	SP0517	23.078	22.897	18.1	
II F3d	SP0571	23.269	23.13	13.9	
II F4e	SP0605	23.154	22.953	20.1	
II F4e	SP0673	23.11	22.806	30.4	
II F3e	SP0604	23.211	22.96	25.1	
II F3e	SP0607	23.192	22.897	29.5	
II F3e	SP0510	23.2	23.026	17.4	
II F3e	SP0664	23.109	22.932	17.7	
II F3e	SP0665	23.144	22.986	16.8	
II F3e	SP0666	23.128	22.938	19	
II F3e	SP0667	23.169	23.111	5.8	
II F3e	SP0668	23.251	23.099	15.2	
II F3e	SP0669	23.223	23.104	11.9	
II F3e	SP0670	23.194	23.06	13.4	
II F3e	SP0672	23.178	22.895	28.3	
II F3e	SP0680	23.217	22.821	39.6	
II F1c	SP0542	23.201	23.114	8.7	
II F1c	SP0543	23.243	23.123	12	
II F2d	SP0518	23.184	23.149	35	
II F2d	SP0523	23.246	23.025	22.1	
II F2d	SP0524	23.111	23.036	7.4	
II F2d	SP0625	23.092	22.851	23.8	
II F2d	SP0530	23.104	23.003	10.1	
II F2d	SP0531	23.309	23.186	12.3	

グリッド	遺漏名	検出面高さ (m)	最深部 (m)	深さ (cm)	備考
II F2d	SP0539	23.114	22.964	15	
II F2d	SP0534	23.153	23.069	84	
II F1d	SP0534	23.064	22.919	145	
II F1d	SP0535	23.073	22.85	223	
II F1d	SP0538	23.058	22.836	222	
II F1d	SP0540	23.124	23.092	32	
II F1d	SP0541	23.189	23.049	14	
II F1d	SP0544	23.033	22.789	244	
II F1d	SP0544	23.021	22.721	30	
II F1d	SP0645	23.039	22.901	138	
II F1d	SP0546	23.027	22.716	311	
II F1d	SP0547	23.01	22.76	25	
II F1d	SP0548	23.032	22.81	22	
II F1d	SP0549	23.04	22.794	246	
II F1d	SP0550	23.01	22.794	216	
II F1d	SP0555	23.034	22.942	92	
II F1d	SP0560	23.169	23.08	89	
II F2e	SP0509	23.009	22.791	218	
II F2e	SP0519	23.048	22.85	198	
II F2e	SP0520	23.971	22.773	198	
II F2e	SP0521	22.992	22.924	68	
II F2e	SP0522	23.017	22.73	287	
II F2e	SP0526	23.114	22.843	271	
II F2e	SP0527	23.167	22.9	207	
II F2e	SP0528	23.115	22.947	168	
II F2e	SP0529	23.108	22.886	222	
II F2e	SP0566	23.039	22.843	196	
II F2e	SP0567	23.051	22.863	198	
II F2e	SP0569	23.033	22.831	202	
II F2e	SP0561	23.05	22.906	144	
II F2e	SP0662	23.062	22.91	152	
II F2e	SP0563	23.059	22.891	168	
II F2e	SP0574	23.016	22.814	202	
II F2e	SP0575	23.011	22.861	15	
II F2e	SP0577	22.962	22.744	218	
II F2e	SP0578	22.991	22.897	94	
II F2e	SP0536	23.024	22.913	111	
II F1e	SP0537	23.028	22.811	217	
II F1e	SP0562	23.054	22.795	259	
II F1e	SP0563	23.051	22.802	249	
II F1e	SP0568	22.939	22.765	174	
II F0e	SP0551	23.033	22.839	214	
II F0e	SP0579	22.994	22.607	387	
II F3f	SP0511	23.212	22.178	34	
II F4f	SP0512	23.425	23.131	294	
II F4f	SP0613	23.371	23.285	86	
II F4f	SP0514	23.339	22.977	362	
II F4f	SP0515	23.336	23.132	184	
II F4f	SP0516	23.193	23.04	183	
II F3f	SP0508	23.015	22.88	135	
II F2g	SP0582	23.012	22.892	12	
II F2f	SP0520	22.955	22.847	108	
II F2f	SP0576	22.995	22.866	129	
II F2f	SP0577	22.87	22.702	168	
II F2f	SP0578	23.008	22.917	93	
II F2f	SP0590	22.864	22.571	293	
II F2f	SP0591	22.844	22.652	192	
II F2f	SP0576	23.04	22.887	153	
II F1f	SP0592	22.709	22.671	128	
II F1f	SP0596	22.786	22.602	184	
II F1f	SP0597	22.803	22.625	178	
II F2g	SP0683	22.873	22.581	292	
II F2g	SP0684	22.846	22.777	71	
II F2g	SP0685	22.835	22.548	287	
II F2g	SP0686	22.845	22.691	154	
II F2g	SP0687	22.848	22.58	268	
II F2g	SP0688	22.831	22.66	171	
II F2g	SP0689	22.851	22.66	191	

グリッド	遺漏名	検出面高さ (m)	最深部 (m)	深さ (cm)	備考
II F2g	SP0613	22.809	22.652	157	
II F2g	SP0652	22.83	22.656	174	
II F1g	SP0693	22.797	22.586	211	
II F1g	SP0694	22.801	22.561	24	
II F1g	SP0695	22.796	22.694	102	
II F1g	SP0607	22.831	22.653	176	
II F1g	SP0608	22.82	22.612	211	
II F1g	SP0609	22.833	22.606	227	
II F1g	SP0610	22.846	22.635	211	
II F2h	SP0645	22.818	22.741	77	
II F2	SP0616	22.851	22.726	125	
II F2h	SP0617	22.838	22.542	296	
II F2h	SP0618	22.844	22.677	167	
II F0f	SP0598	22.848	22.678	17	
II F0f	SP0599	22.861	22.619	242	
II F0f	SP0600	22.825	22.608	217	
II F0f	SP0601	22.86	22.691	169	
II F0f	SP0602	22.858	22.697	161	
II F0f	SP0603	22.846	22.667	176	
II F0f	SP0606	22.858	22.782	76	
II F0f	SP0604	22.837	22.653	184	
II F0f	SP0605	22.879	22.739	14	
II F0f	SP0611	22.847	22.789	58	
II F0f	SP0621	22.837	22.614	223	
II F0f	SP0622	22.857	22.739	118	
II F9f	SP0671	22.677	22.619	5.8	
II F0g	SP0625	22.83	22.763	87	
II F0g	SP0626	22.82	22.475	346	
II F0g	SP0623	22.819	22.478	341	
II F9g	SP0621	22.842	22.565	277	
II F0h	SP0638	22.825	22.634	191	
II F0h	SP0639	22.843	22.552	323	
II F9h	SP0627	22.82	22.663	16.6	
II G6a	SP1113	22.701	22.241	291	
II G6a	SP1115	22.775	22.597	17.8	
II G6a	SP1116	22.798	22.544	25.4	
II G6a	SP1117	22.891	22.777	11.4	
II G6a	SP1118	22.91	22.878	3.3	
II G6a	SP0388	22.824	22.559	265	
II G6a	SP1111	22.836	22.581	245	
II G6a	SP1112	22.819	22.58	23.9	
II G6a	SP1123	22.831	22.628	20.3	
II G6a	SP1124	22.67	22.631	3.9	
II G6a	SP1126	22.808	22.584	222	
II G5a	SP1131	22.823	22.625	19.8	
II G5a	SP1133	22.822	22.624	19.8	
II G4a	SP1151	22.873	22.767	10.6	
II G4a	SP1134	22.801	22.614	18.7	
II G4a	SP1135	22.85	22.574	276	
II G4a	SP1136	22.881	22.602	24.9	
II F2	SP0661	22.743	22.524	21.9	
II F2	SP0662	22.738	22.538	20	
II F2	SP0663	22.723	22.548	17.5	
II F2	SP0664	22.719	22.507	21.2	
II F2	SP0665	22.72	22.576	14.6	
II F2	SP0666	22.726	22.511	21.5	
II F2	SP0667	22.733	22.501	23.2	
II F2	SP0681	22.743	22.52	22.3	
II F1	SP0640	22.807	22.563	24.4	
II F1	SP0641	22.794	22.615	17.9	
II F1	SP0642	22.777	22.597	18	
II F1	SP0648	22.817	22.622	19.5	
II F1	SP0649	22.806	22.544	26.2	
II F1	SP0650	22.806	22.634	17.2	
II F1	SP0660	22.738	22.556	17.8	
II F1	SP0675	22.826	22.549	27.7	
II F1	SP0677	22.763	22.501	26.2	
II F2g	SP0678	22.785	22.604	18.1	

グリッド	遺構名	横引面積(m)	最深部(m)	溝さ(cm)	備考
II F1i	SP0679	22.828	22.675	15.3	
II F1i	SP0680	22.8	22.6	20	
II F1i	SP0697	22.818	22.656	16.2	
II F2j	SP0668	22.667	22.414	25.3	
II F2j	SP0669	22.653	22.467	18.6	
II F2j	SP0670	22.651	22.435	21.6	
II F1j	SP0668	22.644	22.423	22.1	
II F1j	SP0672	22.727	22.556	17.1	
II F1j	SP0673	22.763	22.557	20.6	
II F1j	SP0688	22.766	22.574	19.2	
II F1j	SP0693	22.777	22.688	8.9	
II G2a	SP0682	22.586	22.33	25.6	
II G2a	SP0683	22.596	22.426	14	
II G1a	SP0685	22.701	22.553	14.8	
II G1a	SP0686	22.698	22.463	23.5	
II G1a	SP0689	22.699	22.478	22.1	
II G1a	SP0690	22.68	22.543	13.7	
II G1a	SP0691	22.715	22.611	10.4	
II G1a	SP0692	22.739	22.667	13.2	
II F0i	SP0653	22.865	22.758	10.7	
II F0i	SP0654	22.866	22.715	15.1	
II F0i	SP0656	22.854	22.651	20.3	
II F0i	SP0657	22.869	22.737	13.2	
II F0i	SP0669	22.857	22.677	18	
II F0i	SP0676	22.842	22.613	22.9	
II F0i	SP0696	22.821	22.576	24.5	
I F9i	SP0628	22.835	22.672	16.3	
I F9i	SP0631	22.786	22.663	12.3	
II F0j	SP0619	22.545	22.37	17.5	
II F0j	SP0646	22.62	22.493	12.7	
II F0j	SP0647	22.663	22.388	27.5	
II F0j	SP0655	22.707	22.426	28.1	
II F0j	SP0694	22.649	22.525	12.4	
I F9j	SP0635	22.828	22.613	21.5	
I F9j	SP0636	22.733	22.582	17.1	
I F9j	SP0637	22.755	22.642	11.3	
I F8i	SP0629	22.676	22.488	18.8	
I F8i	SP0630	22.707	22.521	18.6	
I F8i	SP0632	22.74	22.55	19	
I F8i	SP0633	22.762	22.617	14.6	
I F8i	SP0634	22.733	22.553	18	
I F8i	SP0635	22.722	22.565	20.7	
II G7b	SP0999	22.77	22.512	25.8	
II G7b	SP1066	22.743	22.36	38.3	
II G7b	SP1096	22.766	22.587	17.9	
II G7c	SP0998	22.688	22.466	22.2	
II G7c	SP1000	22.647	22.47	17.7	
II G7c	SP1045	22.542	22.299	24.3	
II G7c	SP1046	22.615	22.486	12.9	
II G7c	SP1069	22.683	22.206	47.7	
II G7c	SP1177	22.634	22.463	17.1	
II G7c	SP1179	22.542	22.419	12.3	
II G7c	SP1162	22.652	22.222	43	
II G7c	SP1163	22.633	22.48	15.3	
II G7c	SP1164	22.614	22.208	40.6	
II G7c	SP1165	22.511	22.224	28.7	
II G7c	SP1175	22.616	22.233	38.3	
II G7c	SP1176	22.641	22.203	43.8	
II G7c	SP1178	22.594	22.548	4.6	
II G7c	SP1180	22.547	22.416	13.1	
II G8d	SP0986	22.511	22.216	29.5	
II G8d	SP0994	22.496	22.165	33.1	
II G8d	SP1072	22.512	22.297	21.5	
II G7d	SP0991	22.457	22.339	11.8	

グリッド	遺構名	最高位置(m)	最深部(m)	溝さ(cm)	備考
II G7d	SP0992	22.458	22.244	21.4	
II G7d	SP0995	22.474	22.006	46.8	
II G7d	SP1044	22.459	22.062	39.7	
II G7d	SP1168	22.448	22.184	26.4	
II G7d	SP1181	22.446	22.249	21.1	
II G7d	SP1182	22.456	22.26	19.6	
II G7d	SP1183	22.454	22.248	20.6	
II G7d	SP1184	22.465	22.248	21.7	
II G7d	SP1185	22.472	22.129	34.3	
II G6b	SP0997	22.583	22.354	22.9	
II G6b	SP1089	22.742	22.531	19.1	
II G6b	SP1098	22.728	22.204	52.4	
II G6b	SP1099	22.676	22.331	14.5	
II G6b	SP1100	22.51	22.321	21.9	
II G5b	SP1109	22.609	22.344	6.5	
II G5b	SP1110	22.625	22.588	37	
II G5b	SP1114	22.636	22.53	10.6	
II G5b	SP1103	22.743	22.551	19.2	
II G5b	SP1104	22.76	22.529	23.1	
II G5b	SP1105	22.781	22.628	15.3	
II G5b	SP1106	22.702	22.592	11	
II G5b	SP1107	22.708	22.395	31.3	
II G5b	SP1108	22.707	22.394	31.3	
II G5b	SP1127	22.716	22.345	37.1	
II G5b	SP1128	22.742	22.531	21.1	
II G5b	SP1129	22.712	22.376	33.6	
II G5b	SP1130	22.718	22.494	22.4	
II G6c	SP0996	22.535	22.408	12.7	
II G6c	SP1002	22.485	21.965	51.7	
II G6c	SP1003	22.481	22.261	22.5	
II G6c	SP1004	22.494	22.174	32	
II G6c	SP1042	22.408	22.075	33.3	
II G6c	SP1043	22.536	22.309	22.7	
II G6c	SP1053	22.515	22.231	28.1	
II G6c	SP1119	22.802	22.578	22.4	
II G5c	SP1160	22.822	22.662	16	
II G5c	SP1161	22.752	22.565	18.7	
II G6d	SP0996	22.514	22.26	25.4	
II G6d	SP0937	22.468	22.377	9.1	
II G6d	SP1001	22.523	22.419	10.4	
II G6d	SP1041	22.446	22.162	30.6	
II G5d	SP0820	22.615	22.319	29.6	
II G5d	SP0865	22.671	22.532	13.9	
II G5d	SP0878	22.636	22.329	32.7	
II G5d	SP0879	22.671	22.532	13.9	
II G5d	SP0903	22.689	22.523	16.6	
II G5d	SP0904	22.672	22.465	20.7	
II G5d	SP0905	22.634	22.452	20.2	
II G4b	SP1137	22.788	22.613	17.5	
II G4b	SP1138	22.804	22.668	13.6	
II G4b	SP1139	22.788	22.517	27.1	
II G4b	SP1140	22.661	22.411	25	
II G4c	SP0829	22.69	22.495	19.5	
II G4c	SP0831	22.704	22.502	20.2	
II G3c	SP0792	22.654	22.512	14.2	
II G3c	SP0793	22.642	22.432	21	
II G3c	SP0794	22.581	22.331	27.9	
II G3c	SP0791	22.68	22.414	26.6	
II G3c	SP0794	22.656	22.444	21.2	
II G3c	SP0795	22.632	22.535	9.7	
II G3c	SP0797	22.538	22.241	29.2	
II G4d	SP0823	22.588	22.441	14.7	
II G4d	SP0824	22.631	22.319	33.2	
II G4d	SP0828	22.543	22.271	27.2	
II G4d	SP0867	22.633	22.441	19.2	
II G4d	SP0874	22.565	22.401	16.1	
II G4d	SP0881	22.663	22.437	22.6	
II G4d	SP0882	22.543	22.37	17.3	

グリッド	遺構名称	横川標高 (m)	底面部 (m)	深さ(cm)	備考
II G4d	SP0883	22.545	22.293	23.2	
II G4d	SP0884	22.613	22.385	22.8	
II G4d	SP0885	22.551	22.4	15.1	
II G4d	SP0886	22.549	22.371	17.8	
II G4d	SP0899	22.537	22.2	33.7	
II G4d	SP0891	22.604	22.339	26.5	
II G4d	SP0892	22.615	22.432	18.3	
II G4d	SP0894	22.57	22.3	27	
II G4d	SP0880	22.616	22.491	12.5	
II G3d	SP0798	22.574	22.196	37.8	
II G3d	SP0799	22.511	21.971	53.7	
II G3d	SP0805	22.527	22.005	52.2	
II G3d	SP0821	22.533	21.981	55.2	
II G3d	SP0822	22.567	21.913	65.4	
II G3d	SP0825	22.504	22.093	41.1	
II G3d	SP0826	22.601	22.196	30.5	
II G3d	SP0830	22.496	22.263	23.3	
II G3d	SP0832	22.513	22.087	42.6	
II G3d	SP0833	22.536	22.365	17.1	
II G3d	SP0834	22.562	22.256	30.6	
II G3d	SP0859	22.518	21.981	53.7	
II G3d	SP0873	22.527	21.97	55.7	
II G1b	SP0709	22.559	22.333	22.6	
II G1b	SP0710	22.579	22.372	20.7	
II G2c	SP0776	22.621	22.507	11.4	
II G2c	SP0804	22.633	22.443	21	
II G1c	SP0701	22.577	22.421	15.6	
II G1c	SP0708	22.578	22.397	18.1	
II G1c	SP0712	22.597	22.482	11.5	
II G1c	SP0732	22.631	22.363	26.8	
II G1c	SP0771	22.573	22.383	19	
II G2d	SP0771	22.505	22.422	8.3	
II G2d	SP0773	22.52	22.421	9.9	
II G2d	SP0802	22.527	22.025	50.2	
II G2d	SP0803	22.551	22.214	32.7	
II G2d	SP0835	22.546	22.271	27.5	
II G2d	SP0836	22.559	22.176	38.3	
II G2d	SP0868	22.566	21.934	62.2	
II G2d	SP0906	22.59	22.042	54.8	
II G1d	SP0702	23.354	23.082	27.2	
II G1d	SP0703	23.383	23.242	14.3	
II G1d	SP0704	23.383	23.134	24.9	
II G1d	SP0705	23.375	22.966	40.9	
II G1d	SP0706	23.379	23.146	23.3	
II G1d	SP0707	23.366	23.3	6.6	
II G1d	SP0734	23.389	23.177	21.2	
II G1d	SP0749	23.37	23.286	8.4	
II G1d	SP0750	23.363	23.282	8.1	
II G1d	SP0772	23.373	23.252	12.1	
II G1d	SP0774	23.371	23.296	7.5	
II G1d	SP0775	23.367	23.301	6.6	
II G1d	SP0779	23.373	23.334	3.9	
II G0e	SP0713	22.612	23.339	27.3	
II G0e	SP0768	22.643	22.529	11.4	
II G9c	SP0714	22.569	22.439	13	
II G9c	SP0715	22.579	22.316	26.3	
II G9c	SP0716	22.585	22.413	17.2	
II G9c	SP0717	22.594	22.487	10.7	
II G9c	SP0718	22.582	22.47	11.2	
II G9c	SP0719	22.597	22.336	20.1	
II G9c	SP0720	22.576	22.457	11.9	
II G9c	SP0721	22.518	22.342	17.6	
II G9c	SP0722	22.531	22.423	28.8	
II G9c	SP0723	22.577	22.381	19.6	
II G9c	SP0724	22.53	22.389	14.1	
II G9c	SP0728	22.555	22.413	14.2	
II G0d	SP0726	22.6	22.241	19	
II G0d	SP0735	22.599	22.485	11.4	

グリッド	遺構名称	横川標高 (m)	底面部 (m)	深さ(cm)	備考
II G0d	SP0736	22.594	22.309	28.5	
II G0d	SP0811	22.562	22.422	13	
II G0d	SP0812	22.564	22.386	17.8	
II G0d	SP0737	22.531	22.409	12.2	
II G8c	SP0698	22.558	22.507	7.3	
II G8c	SP0699	22.552	22.212	34	
II G8c	SP0700	22.6	22.457	14.3	
II G8c	SP0725	22.577	22.317	26	
II G8c	SP0727	22.579	22.41	16.9	
II G8c	SP0729	22.552	22.31	24.2	
II G8c	SP0730	22.54	22.365	17.5	
II G8c	SP0731	22.574	22.492	8.2	
II G8c	SP0733	22.601	22.546	5.5	
II G8d	SP0782	22.526	22.47	5.6	
II G8d	SP0783	22.542	22.432	11	
II G8d	SP0781	22.528	22.363	26.5	
II G9c	SP1278	22.124	21.617	50.7	
II G9c	SP1279	21.934	21.828	10.6	
II G9g	SP1263	21.914	21.476	43.8	
II G9g	SP1169	21.918	21.758	16	
II G8e	SP1213	22.461	22.411	5	
II G8e	SP0864	22.238	22.181	5.7	
II G8e	SP0865	22.496	22.376	12	
II G8e	SP0693	22.514	22.159	35.5	
II G8e	SP0694	22.524	22.242	28.2	
II G8e	SP1070	22.467	22.32	14.7	
II G8e	SP1073	22.493	22.416	7.7	
II G8e	SP1075	22.459	22.214	24.5	
II G8e	SP1078	22.471	22.063	40.8	
II G8e	SP1189	22.449	22.313	13.6	
II G8e	SP1192	22.475	22.352	12.3	
II G8c	SP1196	22.474	22.222	25.2	
II G8e	SP1210	22.31	22.266	4.4	
II G8e	SP1211	22.22	22.127	9.3	
II G8e	SP1217	22.388	22.258	13	
II G8e	SP1218	22.487	22.305	18.2	
II G7e	SP0982	22.425	22.143	28.2	
II G7e	SP0983	22.542	22.353	18.9	
II G7e	SP0990	22.494	22.399	9.7	
II G7e	SP1003	22.374	22.115	22.4	
II G7e	SP1006	22.485	22.285	20	
II G7e	SP1007	22.294	22.128	16.5	
II G7e	SP1064	22.431	22.385	4.6	
II G7e	SP1065	22.334	22.216	11.8	
II G7c	SP1074	22.447	22.221	22.6	
II G7e	SP1076	22.436	22.226	21	
II G7e	SP1077	22.484	22.329	15.5	
II G7e	SP1079	22.344	22.186	15.8	
II G7e	SP1081	22.263	22.151	11.2	
II G7e	SP1083	22.436	22.367	6.9	
II G7e	SP1084	22.436	22.367	6.9	
II G7e	SP1186	22.495	22.364	13.1	
II G7e	SP1187	22.438	22.323	11.5	
II G7e	SP1188	22.408	22.321	8.7	
II G7e	SP1193	22.338	22.047	28.9	
II G8f	SP0983	23.151	22.978	17.3	
II G8f	SP1011	23.074	22.961	11.3	
II G8f	SP1012	23.077	23.035	4.2	
II G8f	SP1015	23.055	22.94	11.5	
II G7f	SP1008	23.559	23.424	13.5	
II G7f	SP1009	23.56	23.515	4.5	
II G7f	SP1010	23.533	23.486	4.7	
II G7f	SP1013	23.471	23.269	20.2	
II G7f	SP1014	23.49	23.428	6.2	
II G7f	SP1016	23.526	23.295	23.1	
II G7f	SP1031	23.474	23.379	9.5	
II G7f	SP1066	23.468	23.409	5.9	
II G7f	SP1071	23.512	23.323	18.9	

グリッド	遺構名	横断面標高 (m)	最深部 (m)	深さ(cm)	備考
II G7f	SP1085	23.577	23.482	95	
II G7f	SP1086	23.452	23.393	59	
II G7f	SP1087	23.599	23.128	47.1	
II G7f	SP1088	23.541	23.417	124	
II G7f	SP1090	23.455	23.374	81	
II G7f	SP1091	23.434	23.355	79	
II G7f	SP1092	23.438	23.393	45	
II G7f	SP1093	23.457	23.421	36	
II G7g	SP1032	23.005	22.721	281	
II G7g	SP1033	22.978	22.767	21.1	
II G7g	SP1034	22.953	22.718	235	
II G7g	SP1035	22.928	22.806	122	
II G7g	SP1036	22.917	22.811	105	
II G5e	SP0941	22.335	22.248	87	
II G5e	SP0942	22.382	22.234	148	
II G5e	SP0943	22.356	22.239	11.7	
II G5e	SP0952	22.425	22.374	91	
II G5f	SP1082	23.183	22.775	408	
II G5f	SP1021	23.125	22.982	143	
II G5f	SP1022	23.114	22.97	144	
II G5f	SP1023	23.126	22.973	153	
II G5f	SP1024	23.09	22.968	122	
II G5f	SP1025	23.197	23.066	7.1	
II G5f	SP1026	23.031	22.939	92	
II G5f	SP1027	23.114	22.873	241	
II G5f	SP1028	23.144	22.966	178	
II G5f	SP1029	23.135	22.047	88	
II G5f	SP1030	23.276	23.007	269	
II G5f	SP1069	23.153	23	153	
II G5f	SP1061	23.136	22.975	161	
II G5f	SP0960	23.248	22.782	466	
II G5f	SP1062	23.096	22.867	229	
II G5f	SP1067	23.124	23.023	10.1	
II G6g	SP1037	23.006	22.893	11.3	
II G6g	SP1038	23.042	22.829	21.3	
II G6g	SP1039	23.032	22.85	20.2	
II G6g	SP1040	23.022	22.905	11.7	
II G6g	SP0848	23.031	22.809	22.2	
II G6g	SP0849	23.017	22.731	28.6	
II G6g	SP0850	23.1	22.769	33.1	
II G5g	SP0851	23.028	22.711	31.7	
II G5g	SP0852	23.011	22.753	25.8	
II G4e	SP0748	22.391	22.129	26.2	
II G4e	SP0837	22.38	22.129	25.1	
II G4e	SP0838	22.35	22.273	7.7	
II G4e	SP0839	22.35	22.113	23.7	
II G4e	SP0840	22.326	22.185	14.1	
II G4e	SP0841	22.335	22.025	31	
II G4e	SP0818	22.371	22.247	12.4	
II G4e	SP0827	22.494	22.123	37.1	
II G4e	SP0825	22.291	22.243	48	
II G4e	SP0926	22.322	22.243	7.9	
II G4e	SP0927	22.357	22.269	8.8	
II G4e	SP0928	22.361	22.195	16.6	
II G4e	SP0934	22.367	22.15	21.7	
II G4e	SP0938	22.336	22.325	35	
II G4e	SP0939	22.356	22.228	12.8	
II G4e	SP0940	22.496	22.143	35.3	
II G4e	SP0842	22.321	21.895	42.6	
II G4e	SP0943	22.381	22.142	23.9	
II G4e	SN0003	23.091	22.941	14.7	
II G3e	SP0762	22.388	22.213	17.2	
II G3e	SP0800	22.465	22.127	33.8	
II G3e	SP0871	22.419	22.068	35.1	
II G3e	SP0872	22.444	22.311	13.3	
II G3e	SP0888	22.465	22.36	105	
II G3e	SP0889	22.373	22.237	13.6	
II G3e	SP0890	22.406	22.248	15.8	

グリッド	遺構名	突出作高 (m)	最深部 (m)	深さ(cm)	備考
II G3e	SP0898	22.475	22.417	58	
II G3e	SP0899	22.508	22.154	35.7	
II G3e	SP0901	22.449	22.339	10	
II G3e	SP0902	22.477	22.383	94	
II G3e	SP0921	22.46	22.154	30.6	
II G3e	SP0930	22.356	22.202	14.8	
II G3e	SP0931	22.382	22.227	11.2	
II G3e	SP0932	22.365	21.927	43.8	
II G3e	SP0933	22.357	22.163	19.2	
II G3e	SP0945	22.353	22.193	16	
II G3e	SP0946	22.352	22.263	89	
II G3e	SP0949	22.408	22.308	10	
II G3e	SP0950	22.517	22.435	8.2	
II G3e	SP0961	23.132	22.889	26.3	
II G4f	SP0897	22.206	22.834	37.2	
II G4f	SP0953	23.149	23.017	13.2	
II G4f	SP0954	23.117	22.972	14.5	
II G4f	SP0956	23.154	22.942	21.2	
II G4f	SP0957	23.225	23.136	8.9	
II G4f	SP0958	23.011	22.661	35	
II G4f	SP0956	23.125	22.895	23	
II G4f	SP0968	23.064	22.559	47.4	
II G4f	SP0978	23.072	22.563	50.9	
II G4f	SP0980	23.09	22.791	29.9	
II G4f	SP0920	23.236	22.921	31.5	
II G4f	SP0919	23.205	23.099	10.8	
II G4f	SP0929	23.154	22.587	56.7	
II G4f	SP0955	23.153	22.829	32.4	
II G4f	SP1017	23.124	22.952	17.2	
II G4f	SP1018	23.162	22.908	25.4	
II G4f	SP1019	23.172	22.997	17.5	
II G4f	SP1020	23.182	23.068	11.4	
II G4f	SP1051	23.1	22.738	36.2	
II G4f	SP1052	23.101	23.051	5	
II G4f	SP1053	23.11	22.756	35.4	
II G4f	SP1054	23.066	22.961	12.5	
II G4f	SP1055	23.184	22.974	21	
II G4f	SP1057	23.053	22.627	42.6	
II G4f	SP1059	23.166	23.027	13.9	
II G3f	SP0760	23.166	22.508	65.8	
II G3f	SP0761	23.164	22.529	63.5	
II G3f	SP0877	23.11	22.565	54.5	
II G3f	SP0896	23.173	22.923	23	
II G3f	SP0909	23.156	22.868	28.8	
II G3f	SP0910	23.073	22.766	30.7	
II G3f	SP0911	23.164	22.928	23.6	
II G3f	SP0935	23.15	22.977	17.3	
II G3f	SP0962	23.164	22.996	16.8	
II G3f	SP0963	23.157	22.96	19.7	
II G3f	SP0964	23.163	22.807	34.6	
II G3f	SP0965	23.157	22.971	18.6	
II G4g	SP0967	23.143	22.852	29.1	
II G4g	SP0969	23.116	22.984	13.2	
II G4g	SP1048	23.15	22.845	30.5	
II G4g	SP1049	23.12	23.062	5.8	
II G4g	SP1050	23.142	22.918	22.4	
II G4g	SP1058	23.152	22.746	40.6	
II G4g	SP0816	23.071	22.73	34.1	
II G4g	SP0817	23.113	22.637	47.6	
II G4g	SP0843	23.091	22.828	26.3	
II G4g	SP0844	23.133	22.964	16.9	
II G4g	SP0845	23.045	22.884	17.5	
II G4g	SP0846	23.046	22.849	19.7	
II G4g	SP0847	23.045	22.748	29.7	
II G4g	SP0853	23.006	22.738	26.8	
II G4g	SP0854	22.865	22.536	30.9	
II G4g	SP0855	22.843	22.394	44.9	
II G4g	SP0856	22.83	22.498	33.2	

グリッド	透過程名	側面標高 (m)	底深部 (m)	深さ(cm)	備考
II G1g	SP0857	22.82	22.639	18.3	
II G4g	SP0860	23.12	22.68	44	
II G4g	SP0861	23.064	22.72	34.4	
II G4g	SP0862	22.915	22.5	41.5	
II G4g	SP0977	23.108	22.958	15	
II G4g	SN0007	22.34	22.288	52	
II G4g	SN0006	22.34	22.273	65	
II G3g	SP0759	23.314	23.019	29.5	
II G3g	SP0858	23.039	22.739	30	
II G3g	SP0863	22.788	22.375	41.3	
II G3g	SP0876	23.333	22.801	53.2	
II G3g	SP0914	23.211	23.006	20.5	
II G3g	SP0915	23.148	22.984	16.4	
II G3g	SP0916	23.031	22.704	32.7	
II G3g	SP0917	22.976	22.488	17.6	
II G3g	SP0970	23.368	23.155	21.3	
II G3g	SP0971	23.203	22.933	27	
II G3g	SP0972	23.178	22.919	25.9	
II G3g	SP0974	23.155	22.976	17.9	
II G3g	SP0975	23.189	22.956	23.9	
II G3g	SP0976	23.228	22.986	24.2	
II G3g	SP0979	22.896	22.369	52.7	
II G3g	SN0003	22.412	22.351	61	
II G2e	SP0751	22.351	21.865	48.6	
II G2e	SP0801	22.484	22.125	35.9	
II G2e	SP0807	22.517	22.339	17.8	
II G2e	SP0869	22.486	21.932	55.4	
II G2e	SP0870	22.436	22.017	41.9	
II G2e	SP0907	22.382	21.756	62.6	
II G2e	SP0908	22.389	21.998	39.1	
II G2e	SP0985	22.422	22.357	6.5	
II G1e	SP0806	22.447	22.089	35.8	
II G1c	SP0808	22.448	22.34	10.8	
II G2f	SP0752	22.399	22.724	57.5	
II G2f	SP0753	23.21	22.67	54	
II G2f	SP0754	23.16	22.737	42.3	
II G2f	SP0765	23.308	23.023	28.5	
II G2f	SP0912	23.218	23.097	12.1	
II G2f	SP0924	22.247	21.356	89.1	
II G2f	SP0925	22.455	21.819	63.6	
II G1f	SP0922	22.44	21.445	99.5	
II G2g	SP0755	23.16	22.537	62.3	
II G2g	SP0756	23.101	22.676	42.5	
II G2g	SP0766	23.24	23.058	14.2	
II G2g	SP0913	23.082	22.785	29.7	
II G2g	SP0973	23.022	22.733	28.9	
II G2g	SP0987	23.079	22.791	28.8	
II G2g	SP0888	23.079	22.784	29.5	
II G2g	SP0989	23.092	22.932	16	
II G2g	SP1047	23.087	22.956	13.1	
II G2g	SP1222	23.142	23.099	43	
II G0f	SP0741	22.456	22.163	29.3	
II G0f	SP0738	22.361	22.225	13.6	
II G0f	SP0767	22.395	21.906	48.9	
II G0f	SP0787	22.479	22.351	12.8	
II G0f	SP0747	22.519	22.134	38.5	
II G0f	SP0746	22.554	22.213	31	
II G0f	SP0784	22.497	22.418	7.9	
II G0f	SP0785	22.484	22.354	13	
II G0f	SP0786	22.527	22.241	28.6	
II G0f	SP0814	22.524	22.312	18.2	
II G0g	SP0740	22.36	21.818	54.2	
II G0g	SP0742	22.356	21.83	54.6	
II G9g	SP0743	22.357	21.894	46.3	
II G9g	SP0744	22.308	22.21	18.8	
II G9g	SP0745	22.349	22.042	30.7	
II G8e	SP0815	22.478	22.372	10.6	
II G4i	SP1274	21.35	21.452	9.8	

グリッド	透過程名	側面標高 (m)	底深部 (m)	深さ(cm)	備考
II G4i	SP1275	21.59	21.483	10.7	
II G4i	SP1276	21.572	21.45	12.2	
II G3b	SP1269	21.714	21.579	13.5	
II G3b	SP1270	21.67	21.438	23.2	
II G3b	SP1271	21.632	21.429	20.3	
II G3b	SP1272	21.626	21.505	12.1	
II G3b	SP1273	21.66	21.476	19	
II G3b	SP1281	21.503	21.459	5	
II G2i	SP1266	21.749	21.677	7.2	
II G2i	SP1267	21.735	21.529	20.6	
II G4i	SP1280	22	21.688	31.2	
II D6g	SP0067	23.651	23.293	35.8	
III D0e	SP0159	23.569	23.475	9.4	
III D0e	SP0202	23.832	23.624	20.8	
III D5e	SP0229	23.766	23.387	47.9	
III E3i	SP0300	23.593	23.455	13.8	
III E3i	SP0489	23.561	23.396	16.5	
III F2e	SP0506	23.016	22.799	21.7	
III F1g	SP0620	22.839	22.726	11.3	
III F3g	SP0651	22.92	22.777	14.3	
III F0j	SP0696	22.647	22.556	9.1	
III G1c	SP0711	22.601	22.381	22	
III G4e	SP0819	22.524	22.303	22.1	
III G3e	SP0864	22.334	21.883	45.1	
III G5d	SP0866	23.501	23.311	19	
III G2e	SP0895	22.377	21.95	42.7	
III G4d	SP0900	22.603	22.448	15.5	
III G4f	SP0944	23.163	22.937	23.2	
III G3f	SP0948	23.196	23.073	12	
III G5d	SP1120	23.557	23.437	12	
III G9g	SP1122	21.904	21.758	14.6	
III G7e	SP1144	22.639	22.206	43.3	
III G7c	SP1145	22.62	22.427	19.3	
III G7c	SP1146	22.541	22.206	33.6	
III G7c	SP1147	22.507	22.194	31.3	
III G7d	SP1148	22.468	22.207	26.1	
III G7e	SP1149	22.678	22.24	43.8	
III G7c	SP1150	22.608	22.099	50.9	
III G7c	SP1151	22.614	22.231	38.3	
III G7c	SP1152	22.621	22.457	16.4	
III G7c	SP1153	22.584	22.442	14.2	
III G7c	SP1155	22.526	22.19	33.6	
III G7d	SP1156	22.474	22.275	19.9	
III G7d	SP1157	22.486	22.151	33.5	
III G7d	SP1158	22.473	22.268	20.5	
III G7d	SP1159	22.474	22.275	19.9	
III G8e	SP1166	22.493	22.374	11.9	
III G8e	SP1170	22.231	22.11	12.1	
III D1h	SP1173	23.666	23.458	20.8	
III D1h	SP1174	23.607	23.369	23.8	
III D3i	SP1190	24.477	24.265	21.2	
III D3i	SP1194	24.618	24.465	15.3	
III D3i	SP1195	24.354	24.179	17.5	
III D3i	SP1197	24.452	24.09	36.2	
III D1h	SP1198	24.406	24.218	18.8	
III D2i	SP1199	24.238	24.01	22.8	
III D2i	SP1200	24.189	23.888	30.1	
III D1h	SP1202	23.926	23.828	9.8	
III D2i	SP1203	24.266	24.108	15.8	
III D2i	SP1204	24.247	24.116	13.1	
III G9g	SP1205	22.022	21.476	54.6	
III G2i	SP1206	21.774	21.631	14.3	
III G2i	SP1207	21.746	21.556	19	
III G3b	SP1208	21.736	21.498	23.8	
III G3b	SP1209	21.697	21.417	28	

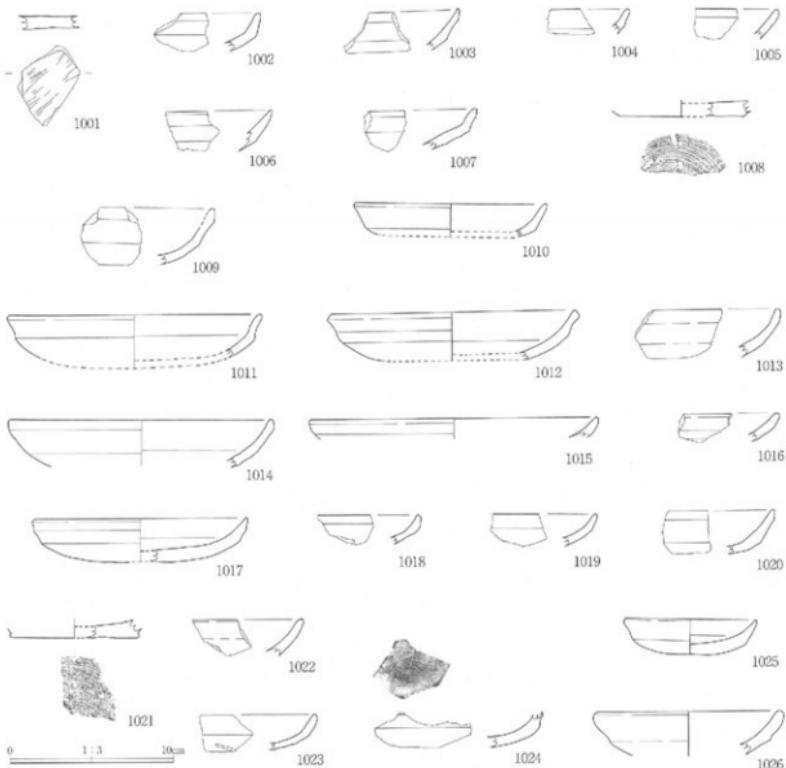
3 出土遺物

かわらけ (第74~76図 写真図版52~56)

出土したかわらけは総重量13,645gを量り、そのうち本書に掲載したかわらけは、1,390gを量る。おもに、遺構埋土や包含層1などより出土したものが大半を占める。細片となって出土したものが多く、残存率が100%の完形個体は皆無である。しかし、出土層位を考慮すれば概ね12世紀代の範疇に収まるものが大半であると考えられる。また、図化可能であったものは107点を数え、これらを掲載している。出土したかわらけは大きく分けてロクロを使用する物としない物とに分かつことが可能である。本書では前者を「ロクロかわらけ」、後者を「手づくねかわらけ」としてそれぞれ報告する。

1001~1026はいずれも遺構より出土した。

1001~1008はS P埋土、1009~1018はS K埋土、1019~1021はS D埋土、1022~26はS M01よりそれぞれ出土したかわらけである。



第74図 出土遺物（かわらけ1）

これら遺構出土のかわらけは1013・1021・1022・1026がロクロかわらけである以外は、すべて手づくねかわらけである。これら手づくねかわらけの口縁部にみられるナデ調整や、ナデ調整により生じた形態をみると、一様ではない。

1014～1016は、いずれもS K56より出土した手づくねかわらけであるが、すべて2段ナデが施されている。

1011は1段ナデでやや外反する口縁形態である。

1024は底部内面に線刻による幾何学文がみられる。幾何学文は器形の円に沿うように刻まれた大きな円の中に直線を組み合わせた「アミダクジ」のようなものが配されている。文字や絵または単なる記号とは考えられず、何か呪術的な意味合いがあるのかもしれない。この1024と1025はともにSM01埋土上層より出土したかわらけである。

1025は他のかわらけと異なり、胎土が緻密かつ精良で乳白色を呈し、さらに口径が8.1cmと小さい。線刻がある1024も口径を復元できなかったが、内底面から先の1025と同程度であると考えられる。

1025は半泉で出土するかわらけ群の中でも新しい特徴を有しており、12世紀末～13世紀のかわらけである可能性が考えられる。しかし、その他のかわらけについては、その特徴より概ね12世紀後半のものであると考えられる。なお、手づくねかわらけがロクロかわらけに比べて数量的優勢にある傾向である。

1027～1097はいずれも包含層1より出土した。

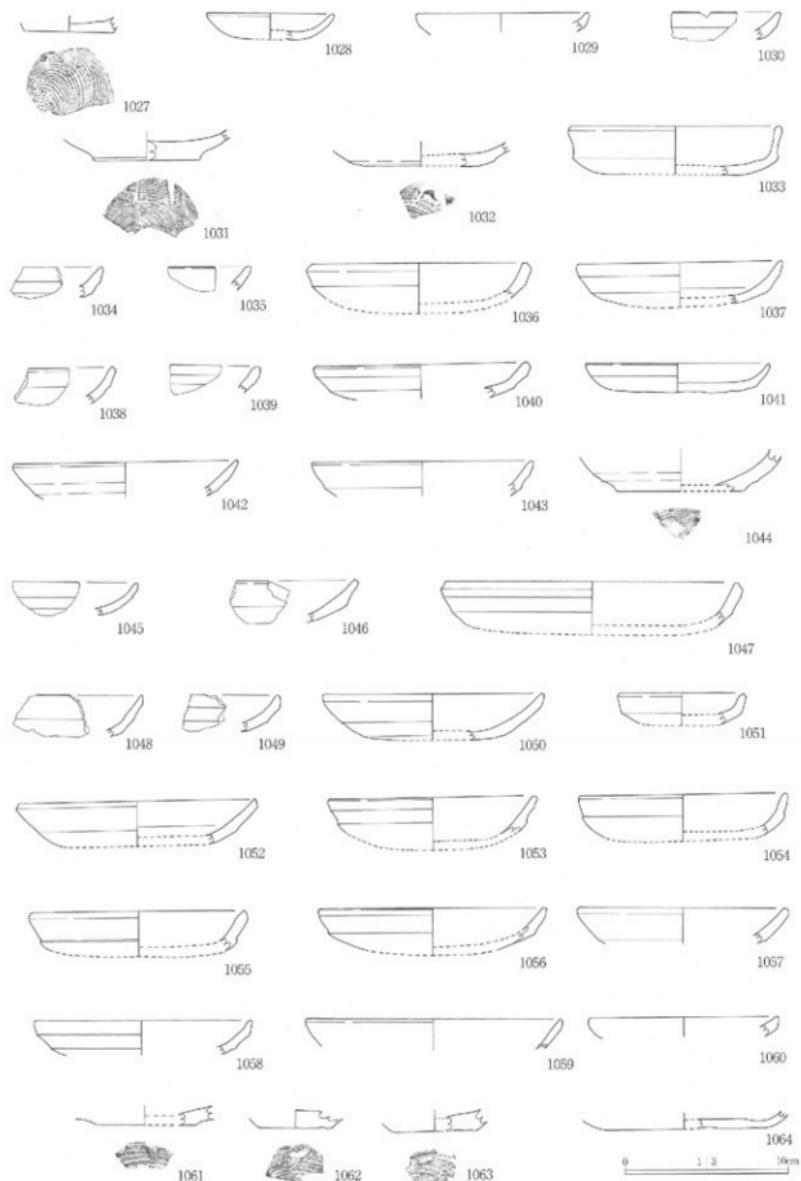
1027～1040は調査区西側、41～97は調査区東側より出土したかわらけである。これら包含層1出土のかわらけは遺構出土のかわらけに比して、点数が多いが個体の細片および摩滅度合いは顕著である。また、1027・1031・1032・1042・1044・1060～1063・1068の計10個体のロクロかわらけを除いて、その他すべてが手づくねかわらけで占められている。先述した遺構出土のかわらけ同様、形態などの諸特徴は一様ではなく、口縁部から底部まで残存するものはほとんどない。また、器表面の摩滅により調整が不明瞭なものも多い。包含層出土資料であるがゆえの状況である。

1027はすのこ痕とも考えられる痕跡がみられたが、胎土・色調は土師器坏に近い。かわらけの範疇に入れたが、土師器坏の底部であるかもしれない。

口径が復元可能であった手づくねかわらけは、口径12～15cmを測るもののがもっとも多い。その他1028・1051・1092などのように7～8cm程度の口径をもつものも存在する。さらに、口径が大きなものでは復元値が18cmを測る1047のようなものも存在する。いずれも復元値であるため土器そのものの歪みなどもあると思われる。しかしながら、先に述べた通り、ある程度の傾向は把握できる。

手づくねかわらけのうち、1069は口縁部の小破片である。2段ナデが施されていると考えられるが、端部に近い上段のナデは、ナデが強いためか大きく出み、沈線状を呈する。通常ではみられない形態である。

1094は底部片であり、外面にはわずかながらもすこの痕跡のようなものがみられる。また、胎土・色調なども手づくねかわらけと大きく変わらない。しかし、その他の通常の手づくねかわらけよりも器厚が極端に厚く、底部片であることを差し引いても違和感を覚える。また、主観的ではあるが、他のものより胎土の粉末が突出することなく硬質に焼成されている。比較資料として、通常の手づくねかわらけの底部片であると考えられる1064を掲げる。この1064の器厚は最大厚でも0.5cmを測る。一方、問題である1094は1cmを測り、1064の器厚の2倍も厚いことになる。このような特徴から通常の小皿状の形態を呈する手づくねかわらけとは多少異なる器種を想定せざるを得ない。この1094の底部片から想定される形態は、通常の小皿状器種よりも大形で、扁平な底部を持つ器種である。大形皿あるいは



第75図 出土遺物（かわらけ2）

は盤状の器種が想定される。

ロクロかわらけは出土点数が少ないが、底径に大小2種が認められる。底部の破片はすべて系切り痕およびすのこ痕がみられる。

以上、包含層1出土かわらけは、その特徴より概ね12世紀後半のものであると考えられる。なお、手づくねかわらけがロクロかわらけに比べて数量的優勢にある傾向は遺構出土のかわらけと同様である。

1098～1111は検出面1より出土した。

1098～1107は調査区西側、1108～1111は調査区東側より出土したかわらけである。106・107の2点がロクロかわらけである以外はすべて手づくねかわらけである。手づくねかわらけは、やはり口径で大小に分かれ。一方、ロクロかわらけでは、106の底部片の底径が復元値4.7cmと非常に小さい。全体の様相は、遺構埋土・包含層1出土のかわらけと変わりはない。検出面1出土かわらけは、取り上げ方法の違いであり、本来は遺構埋土、包含層1のいずれかに属していたと思われる。

1112～1119は表土・近世の包含層、試掘トレンチなどから出土した。

1112はロクロが用いられたかわらけであるが、その他のロクロかわらけと胎土などが大きく異なる。また、平泉周辺で出土する12世紀代のかわらけと比べて質異があることから、13世紀以降のかわらけである可能性が高い。現段階では、瀬戸・美濃大窯期の皿と共に伴することから15後半～16世紀のかわらけであると考えられる。

1113もロクロが用いられたかわらけであるが、1112と同じく、12世紀代のかわらけと特徴が異なり、15後半～16世紀のかわらけであると考えられる。

国産陶器（第77～80図、写真図版59～63）

出土した国産陶器は計92片であり、おもに遺構や包含層1などより出土した。大半が破片で全体の形状を推測できるものは少ない。しかし、出土層位を考慮すれば概ね12世紀代の資料であると考えられる。

3001～3038はいずれも遺構より出土した。

3001はS P 02埋土上層より出土した。外面は淡緑色の釉、内面には星状の降灰がわずかに認められる。常滑焼壺の頸部と考えられる。

3002はS P 03より埋土より出土した。外面は茶褐色、内面には濃緑色の釉が厚く認められる。常滑焼壺の体部下半と考えられる。

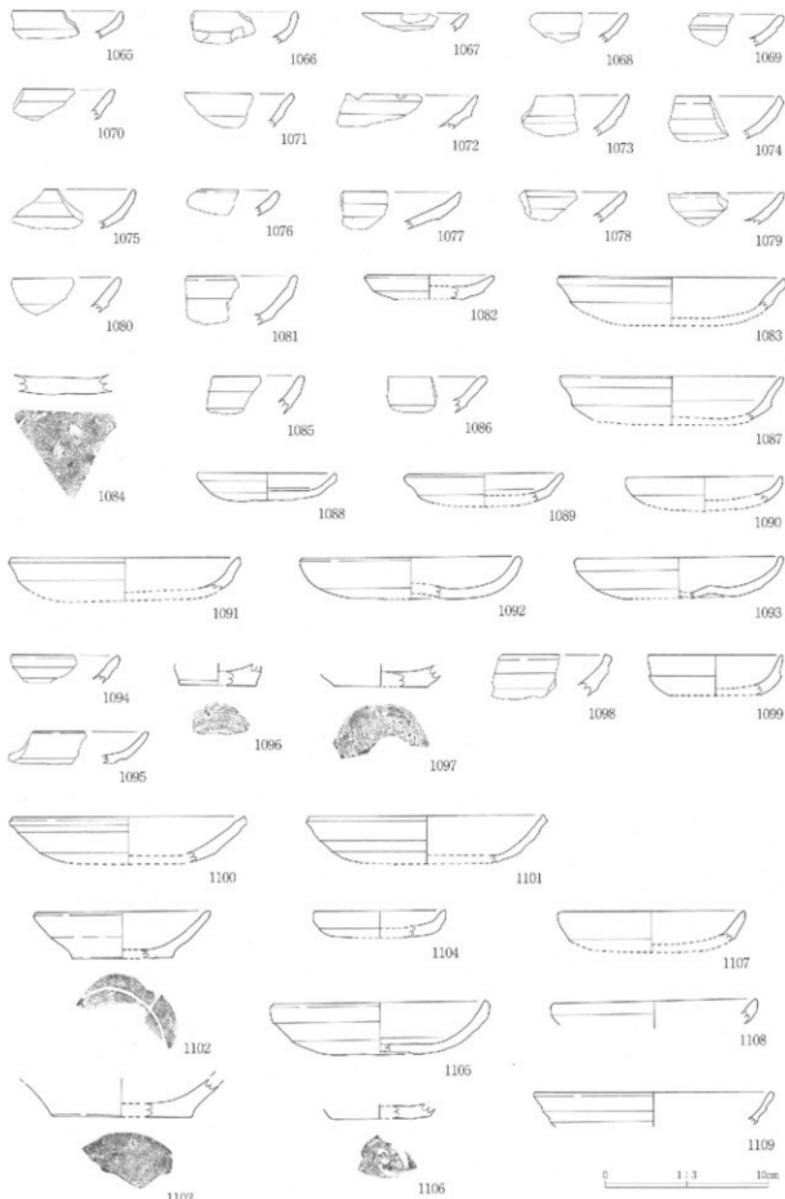
3003はS P 03埋土より出土した。外面は茶褐色に星状の降灰、内面には濃緑色の釉が認められる。また、外向には平行文の押印が施されている。常滑焼壺の体部中位から下半にかけての破片であると考えられる。

3004はS P 02埋土より出土した。外面に濃緑色の釉が厚く認められる。常滑焼壺の体部上半の小破片であると考えられる。

3005はS K 71埋土より出土した。外面は釉が認められず褐色の素地のみ、内面は星状の降灰がわずかに認められる。常滑焼壺の口縁部であると考えられる。

3006はS K 87埋土上層より出土した。外面は茶褐色、内面は黒褐色を呈する。壺などの体部片であると考えられるが、産地は不明である。常滑あるいは東北地方産壺器系陶器などが想定される。

3007はS D 04埋土上層より出土した。外面は無釉で茶褐色、内面はわずかに降灰が認められる。常滑焼壺の体部下半の小破片であると考えられる。



第76図 出土遺物（かわらけ3）

3008はS D09埋土上層より出土した。外面には平行文の押印が認められる。常滑焼窯の体部片であると考えられる。

3009はS D09埋土上層より出土した。外面はやや光沢を帯びた赤褐色、内面は茶褐色を呈する。常滑焼窯などの体部小片であると考えられる。

3010はS D09埋土上層より出土した。外面は赤褐色、内面は茶褐色を呈する。常滑焼窯などの体部片であると考えられる。

3011はS D09埋土上層より出土した。内外面ともに明るい赤褐色を呈する。陸奥産瓷器系陶器鉢の口縁部であると考えられる。諸特徴より13世紀代に属する宮城県伊豆沼産陶器と推測される。

3012はS D09埋土上層より出土した。外面は淡赤褐色を呈し、平行文の押印が認められる。押印は平行文に直交する木目が現れており擬格子状である。内面は茶褐色で粘土紐の接合部が明瞭にみられる。常滑焼窯の体部であると考えられる。

3013はS G01東半埋土より出土した。内外面ともに灰色を呈し、内面には降灰が認められる。器壁の厚さから推して、渥美焼鉢の体部下半であると考えられる。

3014はS G01西側洲浜より出土した。器表面は摩滅しているが、外面には微かに平行文の押印が認められる。内外面ともに灰色を呈する。渥美焼窯などの体部上半であると考えられる。

3015はS G01西半埋土中位より出土した。外面は光沢を帯びた赤褐色を呈し、内面は濃緑色の釉が厚く乗る。常滑焼窯の口縁部であると考えられる。口縁端部は内面側に沈線状の線が1条巡る。この特徴から12世紀代の所産であると考えられる。

3016はS G01東半埋土1層より出土した。外面は茶褐色、内面は暗茶褐色を呈する。細片ながら縱方向に曲線が認められるため、常滑焼窯の口頭部であると考えられる。

3017はS G01東半埋土1層より出土した。外面は光沢を帯びた赤褐色を呈し、平行文の押印が認められる。一方、内面は黄色味かった淡い茶褐色を呈する。常滑焼窯の体部小片であると考えられる。

3018はS G01東半埋土2層より出土した。外面は濃緑色の釉が厚く掛かっており、内面は無釉で灰黄褐色の素地である。常滑焼窯の体部片であると考えられる。

3019はS G01東半b埋土より出土した。外面は光沢を帯びた暗赤褐色を呈し、平行文の押印が施されている。一方、内面は褐灰色を呈し、粘土紐の維ぎ目が認められる。常滑焼窯の体部上半の破片であると考えられる。破片は外面の摩滅が著しく、長軸方向の破断面両側ともに摩滅している。破片となつて何らかの転用がなされた可能性が考えられる。

3020はS G01東半埋土1層より出土した。外面は黒褐色で降灰が認められ、内面は黒褐色で粗い調整痕が認められる。底地は不明であるが、窯の体部片であると考えられる。古代の須恵器である可能性も否定できない。

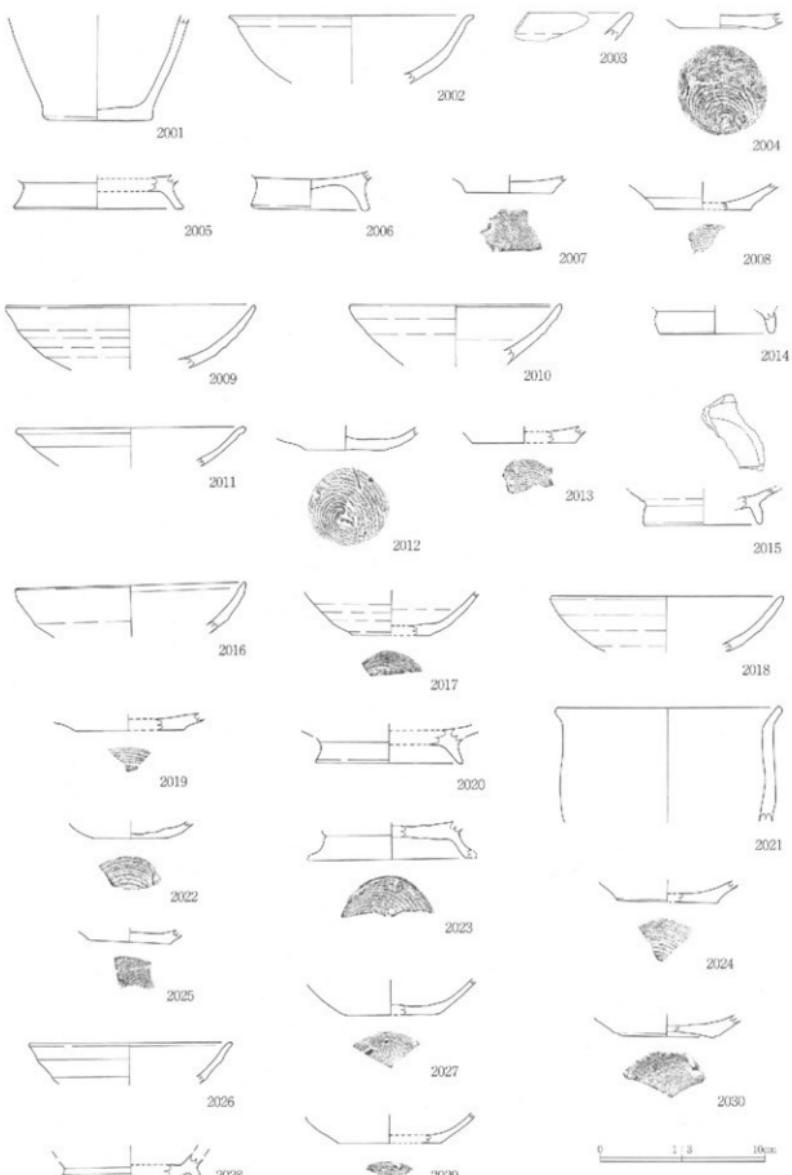
3021はS G01西半埋土1層より出土した。外面は光沢を帯びた赤褐色を呈し、内面は濃緑色の釉が全体を覆っている。常滑焼窯の体部下半片であると考えられる。

3022はS M01上段埋土上層より出土した。外面は降灰が認められ、内面は暗赤褐色を呈する。常滑焼窯などの体部上半片であると考えられる。

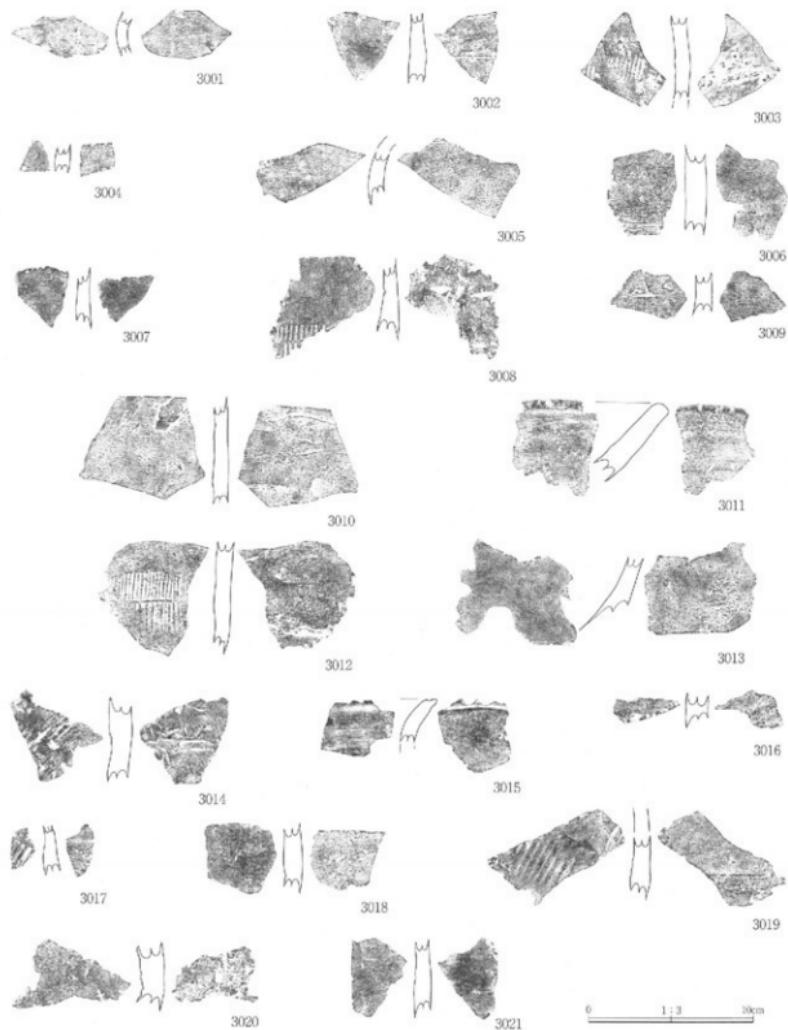
3023はS M01上段埋土上層より出土した。外面は淡い茶褐色、内面は濃緑色の釉が全面に認められる。縱方向に曲線が認められることから常滑焼窯の口頭部であると考えられる。

3024はS M01下段埋土より出土した。外面は残存していないが、内面は星状の降灰が認められる。常滑焼窯であるが、微細な破片であるため部位は不明である。

3025はS M01下段埋土より出土した。外面は平行文のタタキが明瞭にみられ、光沢を帯びた青灰色



第77図 出土遺物（古代土器 1）



第78図 通構（S P、S D、S K、S G）出土国産陶器 1

を呈する。一方、内面は外向より淡い青灰色である。胎土には、小さく黒い点が星状に認められる。これは、胎土に含まれる有機質等の不純物が炭化したものであると推測される。須恵器の系譜を引く北陸地方の窯製品の壺であると考えられ、現段階では珠洲系の陶器とする。

3026はSM01下段埋土より出土した。外面は灰黄褐色を呈し、内面は濃緑色の釉が認められる。非常に微細な破片であるが、常滑焼壺など口頭部である可能性が高い。

3027はSM01下段埋土より出土した。内外面ともに灰黄褐色を呈し、内面には降灰が白く星状に認められる。常滑焼壺の体部片であると考えられる。

3028はSM01下段埋土より出土した。外面は濃緑色の釉と白色の灰が全面を覆っている。一方、内面は濃い青灰色を呈する。渥美焼壺の体部片であると考えられる。

3029はSM01下段埋土より出土した。3024と同様の特徴を有する壺の体部片であると考えられ、珠洲系陶器とする。

3030はSM01上段埋土より出土した。外面は降灰が認められ、内面は光沢を帯びた小豆色を呈する。また、内面にはわずかな部分で濃緑色の釉が認められる。常滑焼壺の肩～頭部にかけての破片であると考えられる。

3031はSM01上段埋土より出土した。外面は灰褐色、内面は茶褐色を呈する。内面には降灰が星状に認められる。常滑焼壺の破片であると考えられる。

3032はSM01下段埋土より出土した。外面はやや光沢を帯びた赤褐色を呈し、内面は灰黄褐色に降灰が白く星状に認められる。また、外面には平行文と考えられる押印が施されている。常滑焼壺の体部片であると考えられる。

3033はSM01下段埋土より出土した。外面はやや光沢を帯びた赤褐色を呈し、内面は釉のため光沢を帯びた黄褐色を呈する。常滑焼壺の体部下半片であると考えられる。

3034はSM01下段埋土より出土した。外面は灰白色、内面は灰色を呈する。内面には星状に降灰が認められる。渥美焼鉢の体部下半片であると考えられる。

3035はSM01下段埋土上層より出土した。外面は光沢を帯びた赤褐色に濃緑色の釉が認められる。一方、内面は灰黄褐色を呈する。常滑焼壺の体部上半片であると考えられる。

3036はSM01埋土より出土した。外面は淡緑色の釉が全面に掛かっており、内面は灰黄褐色の素地である。常滑焼壺の体部上半～肩部の小片であると考えられる。

3037はSM01埋土より出土した。3024・3028と同様の特徴を有する壺の体部片であると考えられ、珠洲系陶器とする。その他の資料と異なる点は、内面に微かな当て具の痕跡と思われる凹凸が認められる点である。痕跡は1ヶ所で、2本の凸線と2点の小円がその下に並んでみられる。

3038はSM01下段より下の斜面に堆積する包含層より出土した。外面は灰白色の素地に淡緑色の灰釉が掛かっており、内面は外面より厚く濃緑色の釉が全面で認められる。胎土や色調からみて渥美焼であると考えられる。底径は10.4cmを測り、径が小さいことから壺ではなく壺であると考えられる。

3039はSZ04の埋土上層より出土した。外面には緑色の釉が掛かり、内面は青灰色の素地である。外面には、方形基調の中に格子と斜格子を組み合わせた形状の押印が施されており、同じ工具で強いナデが横方向に施されている。渥美焼大形の壺体部に該当する破片であると考えられる。

3040～3082はいずれも包含層1より出土した。

3040はⅡF南東より出土した。外面は緑色の釉が掛かり、内面は素地の青灰色を呈する。渥美焼の体部片であると考えられる。

3041はⅡF南東より出土した。外面は青灰色を呈し、口縁端部から内面にかけては降灰が著しく認

められる。渥美焼鉢の口縁部片であると考えられる。諸特徴が3052・3058・3060の鉢と酷似しており、接合関係はないが同一個体の可能性が高い。

3042はⅡF南東より出土した。外面は青灰色を呈し、内面は降灰が著しく認められる。渥美焼鉢の体部上半片であると考えられる。

3043はⅡF南西より出土した。外面は赤褐色、内面は灰黄褐色を呈する。常滑焼甕の体部小片であると考えられる。

3044はⅡD北東より出土した。外面は茶褐色と灰黄褐色のグラデーションがみられ、内面は濃緑色の釉が厚く掛かっている。常滑焼の体部下半片であると考えられる。

3045はⅡF南西より出土した。外面には緑色の釉が掛かっており、内面にはぶい赤褐色の素地である。常滑焼甕の体部上半であると考えられる。

3046はⅡG北西より出土した。外面は赤褐色、内面は灰黄褐色を呈する。また、外面には平行文と考えられる押印がみられる。常滑焼の体部片であると考えられる。

3047はⅡG北西より出土した。24・28と同様の特徴を有する甕の体部片であると考えられ、珠洲系陶器とする。

3048はⅡG北西より出土した。外面は灰色を呈し、口縁端部から内面にかけては降灰が認められる。渥美焼鉢の口縁部片であると考えられる。端部は丸く取れられており、やや外反している。

3049はⅡG北西より出土した。外面は灰黄色、内面は黄灰色を呈している。内外面ともに摩滅が著しい。渥美焼甕の体部片であると考えられる。

3050はⅡG北西より出土した。内外面ともに灰色を呈する。内面には全面的に自然釉と降灰がともに呈状に認められる。渥美焼鉢体部であると考えられ、器厚が1cmを越えるため底部に近い部位であると想定される。

3051はⅡG北西より出土した。外面は赤褐色、内面は灰黄褐色を呈する。外面には平行文の押印が認められ、内面には押印と呼応するように粘土紐の継ぎ目が明瞭に残る。常滑焼甕の体部片であると考えられる。

3052はⅡG北西より出土した。外面は青灰色、内面は全面に降灰が認められる。また、外面はロクロ目が明瞭で、外面下半には回転ヘラケズリが施されている。したがって、渥美焼鉢の体部下半であると考えられる。諸特徴が41・58・60の鉢と酷似しており、接合関係はないが同一個体の可能性が高い。

3053は調査区西側の試掘トレンチの包含層1相当層より出土した。外面は褐色、内面は灰黄褐色を呈する。常滑焼甕の体部片であると考えられる。

3054はⅡG北西より出土した。外面はやや光沢を帯びた赤褐色、内面は灰黄褐色を呈する。常滑焼甕の体部片であると考えられる。

3055はⅡF南西より出土した。外面は赤褐色、内面は灰黄褐色を呈する。常滑焼甕の体部小片であると考えられる。

3056はⅡG南東より出土した。外面はやや光沢を帯びた赤褐色、内面は灰黄褐色を呈する。常滑焼甕の体部小片であると考えられる。

3057はⅡF南西より出土した。外面は茶褐色の素地に、濃い緑色の釉垂れが1筋認められる。内面は緑色の釉が掛かっている。常滑焼甕の体部下半片であると考えられる。

3058はⅡF南西より出土した。外面は青灰色、口縁端部から内面にかけて全面に降灰が認められる。また、外面はロクロ目が明瞭で、外面下半には回転ヘラケズリが施されている。したがって、渥美焼

鉢の口縁部～体部下半の破片であると考えられる。また、諸特徴が3041・3052・3060の鉢と酷似しており、接合関係はないが同一個体の可能性が高い。

3059はⅡG北西より出土した。外面は赤褐色、内面は灰黄褐色を呈する。常滑焼窯の体部小片であると考えられる。

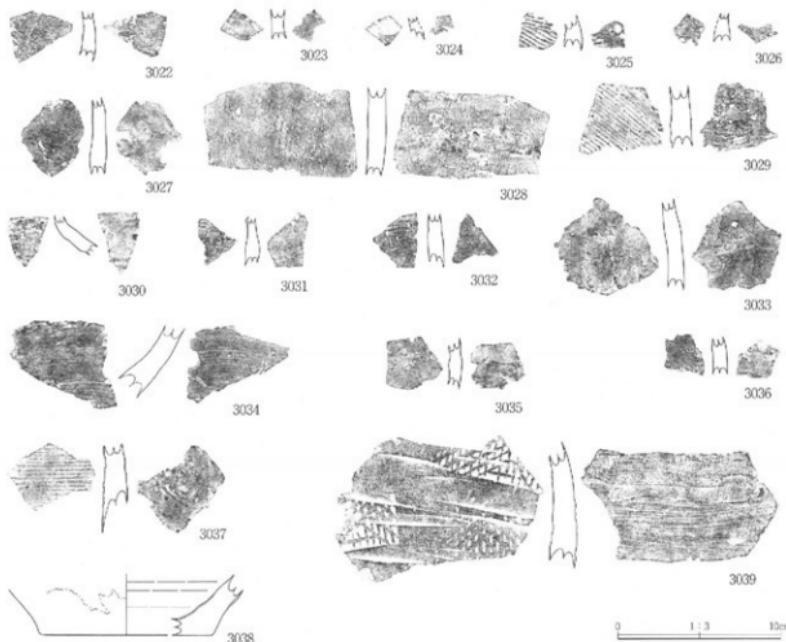
3060はⅡF南西より出土した。外面は青灰色、内面は全面に降灰が認められる。また、外面はロクロ目が明瞭で、外面下半には回転ヘラケズリが施されている。したがって、渥美焼鉢の体部下半であると考えられる。諸特徴が3041・3052・3058の鉢と酷似しており、接合関係はないが同一個体の可能性が高い。

3061はⅡF南西より出土した。外面はやや光沢を帯びた赤褐色、内面は灰黄褐色を呈する。常滑焼窯の体部小片であると考えられる。

3062はⅡD北西より出土した。内外面ともに茶褐色を呈し、外面には緑色の自然釉が下半にみられる。破片上下で屈曲が認められ、常滑焼頸部片であると考えられる。

3063はⅡG南東より出土した。外面はやや光沢を帯びた青灰色、内面は釉・降灰が認められる。器表面には、小さな黒色の斑点がある。これらの特徴から珠洲系陶器であると考えられ、口縁部の破片である。口縁端部は丸く、他の鉢より厚いため壘の口縁部であると考えられる。

3064はⅡD7hより出土した。外面は光沢を帯びた濃い青灰色、内面は星状の降灰が認められる。器表面には小さな黒色の斑点がある。現時点では珠洲系陶器鉢の体部片であると考えられる。諸特徴



第79図 遺構(SM, SZ)出土国産陶器2

が酷似しているため、接合には至らないが3066・3076・3078・3083・3087と同一個体であると考えられる。

3065はⅡ D 7 hより出土した。外面は青灰色の素地に降灰が認められ、内面は青灰色である。壺の体部片であると考えられるが、産地は不明である。古代の須恵器である可能性も否定できない。

3066はⅡ D 7 hより出土した。外面は光沢を帯びた濃い青灰色、内面は星状の降灰が認められる。器表面には小さな黒色の斑点がある。珠洲系陶器鉢の体部片であると考えられ、諸特徴が酷似しているため、接合には至らないが3064・7306・3078・3083・3087と同一個体であると考えられる。

3067はⅡ D 北西より出土した。外面は濃い緑色の釉が厚く掛かっており、内面は褐色を呈する。外面には釉で不明瞭であるが、微かに平行文の押印が認められる。常滑焼の体部片であると考えられる。

3068はⅡ F 南東より出土した。外面は緑褐色の釉が認められ、内面は褐色を呈する。常滑焼壺の体部片であると考えられる。

3069はⅡ F 南東より出土した。外面は赤褐色、内面は灰黄褐色を呈する。常滑焼壺の体部片であると考えられる。

3070はⅡ G 北東より出土した。外面は緑色の釉が全面に認められ、内面は灰黄色を呈する。常滑焼壺の体部片であると考えられる。

3071はⅡ G 北東より出土した。外面は茶褐色を呈し、緑色の釉が一部に認められる。内面は灰黄色を呈する。常滑焼壺の体部片であると考えられる。

3072はⅡ G 北東より出土した。外面は赤褐色、内面は灰黄褐色を呈する。常滑焼壺の体部片であると考えられる。

3073はⅡ G 北西より出土した。外面は灰色を呈し、口縁端部から内面にかけては降灰が認められる。涅美焼鉢の口縁端部片であると考えられる。端部は丸く収められており、やや外反している。諸特徴が酷似することから3048と同一個体であると考えられる。

3074はⅡ G 北西より出土した。外面は暗茶褐色、内面は黒褐色を呈する。常滑焼壺の体部片であると考えられる。

3075はⅡ E 南東より出土した。外面は青灰色を呈し、内面には降灰が認められる。胎土はやや粗いが、小さい黒色の斑点も認められる。珠洲系陶器鉢の体部下半片であると考えられる。

3076はⅡ E 南東より出土した。外面は青灰色を呈し、内面には降灰が認められる。胎土はやや粗いが、小さい黒色の斑点が認められる。珠洲系陶器片口鉢の片口縁部片であると考えられる。

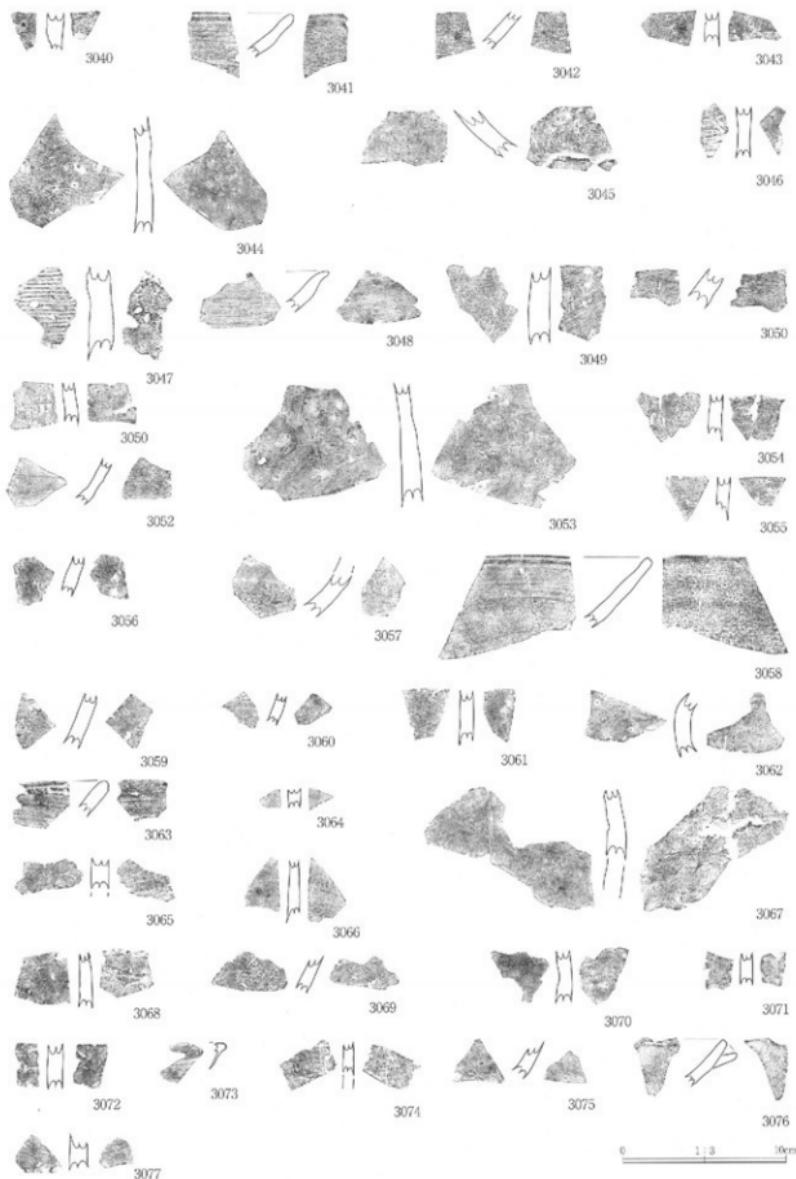
3077はⅡ F 南東より出土した。外面は全面に緑色の釉が薄く掛かっており、内面は茶褐色を呈する。常滑焼壺の体部上半片であると考えられる。

3078はⅡ D 9 bより出土した。外面は青灰色を呈し、内面には降灰が認められる。胎土はやや粗いが、小さい黒色の斑点が認められる。珠洲系陶器片口鉢の口縁部片であると考えられる。諸特徴がと酷似することから3064・3066・3076・3083・3087と同一個体である可能性が高い。

3079はⅡ D 7 hより出土した。外面は光沢を帯びた茶褐色を呈する。一方、内面は緑褐色の釉が認められる。常滑焼壺の体部片であると考えられる。

3080はⅢ D 南西より出土した。内外面ともに灰黄褐色を呈する。また、外面には平行文の押印が認められ、内面の粘土継ぎ目と呼応する。常滑焼壺の体部片であると考えられる。

3081はⅢ D 北東より出土した。外面は青灰色の素地に降灰が認められ、内面は青灰色である。壺の体部片であると考えられるが、産地は不明である。古代の須恵器である可能性も否定できない。諸特徴が酷似することから65と同一個体であると考えられる。



第80図 包含層出土国産陶器3

3082はⅢ D 1 aより出土した。外面は茶褐色、内面は黄褐色を呈する。また、外面には緑色の釉がわずかに飛散している。常滑焼壺の体部片であると考えられる。

3083~3087は検出面1より出土した。

3083はⅡ D 北東より出土した。外面は青灰色を呈し、内面には降灰が認められる。胎土はやや粗いが、小さい黒色の斑点が認められる。珠洲系陶器片口鉢の口縁部片であると考えられる。諸特徴がと酷似することから3064・3066・3076・3078・3087と同一個体である可能性が高い。

3084はⅢ D 0 hより出土した。外面は降灰が認められ、内面は青灰色を呈する。器表面に小さい黒色の斑点は認められるが、産地は不明である。古代の須恵器である可能性も否定できない。

3085はⅢ D 南西より出土した。内外面ともに青灰色を呈するが、上端部は若干の降灰が認められ、光沢を帯びた黒褐色を呈する。珠洲系陶器鉢の口縁部片であると考えられる。

3086はⅡ F 南東より出土した。外面は茶褐色、内面は黄褐色を呈する。また、外面には緑色の釉がわずかに飛散している。常滑焼壺の体部片であると考えられる。

3087はⅡ E 南東より出土した。外面は光沢を帯びた濃い青灰色、内面は星状の降灰が認められる。器表面には小さな黒色の斑点がある。珠洲系陶器鉢の体部片であると考えられ、3064・3066・3076・3078と諸特徴が酷似しているため、接合しないが同一個体であると考えられる。

3088~3092は近世包含層や表土など包含層1より上層より出土した。

3088はⅡ G 北東、近世包含層より出土した。外面は灰白色、内面は灰色を呈する。内面には星状に降灰が認められる。渥美焼鉢の体部片であると考えられる。胎土・色調などから3034の鉢体部下半片と同一個体である可能性が高い。

3089はⅡ G 南西、近世包含層より出土した。外面は茶褐色、内面は灰黄褐色を呈する。外面には平行文の押印が認められ、緑色の釉がわずかに飛散している。常滑焼壺の体部片であると考えられる。

3090は試掘トレンチの表土より出土した。外面は光沢を帯びた茶褐色を呈する。一方、内面は緑褐色の釉が厚く認められる。常滑焼壺の体部片であると考えられる。

3091は試掘トレンチの表土より出土した。外面は黒褐色、内面は青灰色を呈する。壺の体部片であると考えられるが、産地は不明である。古代の須恵器である可能性も否定できない。

3092は試掘トレンチの表土直下層より出土した。外面は茶褐色を呈し平行文の押印、内面は緑褐色の釉が全面でそれぞれ認められる。常滑焼壺の体部片であると考えられる。

以上、出土した国産陶器の内訳は92片中、57片が常滑産、17片が渥美産、13片が珠洲系、その他が5片という結果である。これを割合で表すと全体の63%が常滑産、18%が渥美産、14%が珠洲系、その他が5%ということになる。

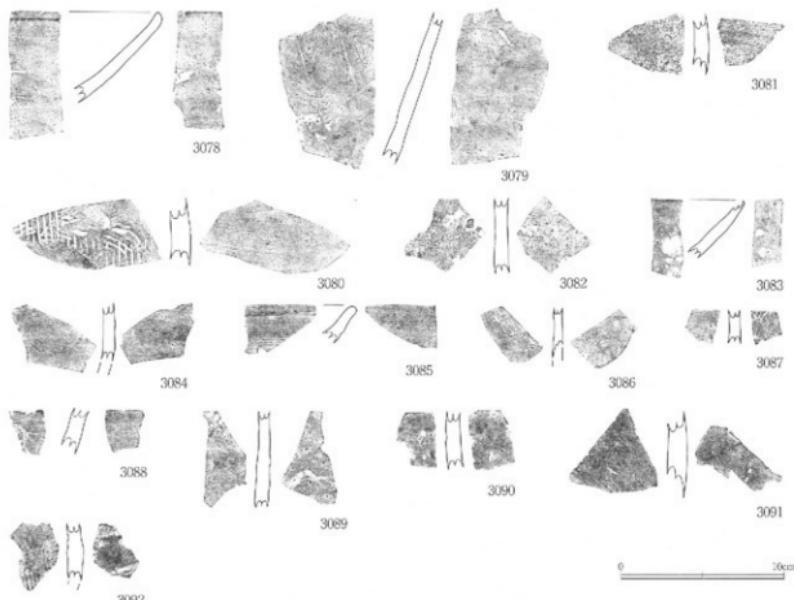
中国産磁器（第81図、写真団版64）

出土した12世紀代の中国産磁器は16点である。おもに、造構埋土や包含層1などより出土したもののが大半を占める。細片となって出土したものが多い。これら出土した中国産磁器は大きく分けて青磁・白磁・青白磁の3種に分かつことが可能である。

4001はS G01西側の検出中に出土した青磁碗の体部小片である。内面に画花文の一部である曲線がみられる。龍泉窯産であると考えられる。

4002はS G01下層より出土した青磁碗の体部片である。外面は鏽連弁文、内面は画花文という珍しい文様構成である。龍泉窯産であると考えられる。

4003は青白磁合子蓋である。内面は一部に釉が認められ、外面は放射状に凹凸が認められる。



第81図 遺構外出土国産陶器 4

4004は白磁碗の体部下半片である。内面に1条の沈線が横走する。外面の釉はやや泡立った状態である。

4005は白磁壺体部片である。内面にはロクロ目の凹凸が明瞭にみられる。器種としては四耳壺などが想定される。

4006は白磁壺体部片である。内面にはロクロ目の凹凸が明瞭にみられる。器種としては四耳壺などが想定される。

4007は白磁壺体部片である。内面にはロクロ目の凹凸が明瞭にみられる。器種としては四耳壺などが想定される。器壁の厚みから考えて、体部下半近くの部位であるとみられる。

4008は白磁壺体部片である。内面にはロクロ目の凹凸が明瞭にみられる。器種としては四耳壺などが想定される。

4009は白磁碗口縁部片である。玉縁状の口縁部を呈する。

4010は白磁皿底部片である。素地には化粧土が塗布されており、施釉範囲はやや緑色かった色調を呈する。

4011は白磁碗体部小片である。内面に直線の沈線文様がみられる。

4012は白磁碗体部小片である。細かで精良な胎土に極めて薄い釉が施されている。特徴的な部位ではないため詳細な時期等は不明である。

4013は白磁壺体部小片である。内面にはロクロ目の凹凸が明瞭にみられる。器種としては四耳壺な

どが想定される。

4014は磁壺体部片である。内面にはロクロ目の凹凸が明瞭にみられる。器種としては四耳壺などが想定される。

4015は青磁碗口縁部片である。外面に櫛状の文様、内面には1条の画線が横走する。釉の発色は良好で、器表面は艶やかである。文様構成から同安窯系青磁碗であると考えられるが、代表的な同安窯系青磁碗よりも青みが強い。

4016は青磁碗体部片である。形態や厚みから体部下半の破片であると考えられる。文様が認められないが、素地の色調や釉調から龍泉窯系の青磁であると考えられる。

古代の土器（第82図、写真図版64）

出土した12世紀以前に属する古代の土器のうち、30点を選択し、掲載した。おもに遺構検出面や包含層より出土した。

2001はS P 699埋土より出土した土師器甕である。底径より小形の甕であると考えられる。

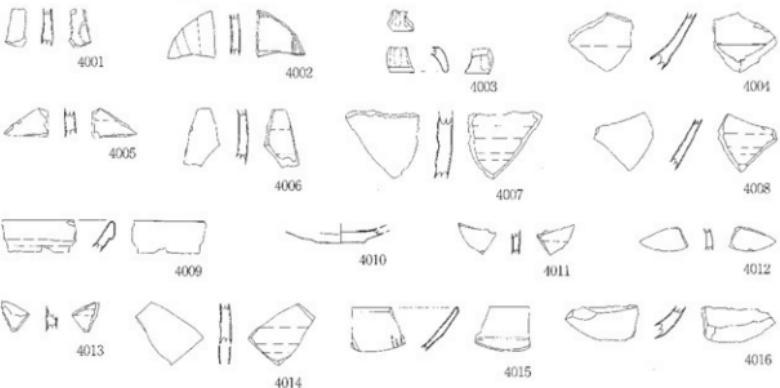
2002はS K07埋土上層より出土した土師器坏である。ロクロによる調整が施されており、口縁端部は極端に外反する。焼成は不良気味であり、軟質である。よって、器表面の摩滅も著しい。

2003はS K05埋土上層より出土した土師器坏である。

2004はS K14埋土上層より出土した土師器坏である。底部のみの破片であるが、回転糸切りの痕跡が明瞭に認められる。

2005～2010・2014はいずれも包含層1より出土した。2005～2010は土師器坏である。いずれも細片であるが、坏としては浅い形態である。2005・2006は高台部分の破片である。2007・2008は底部片であり、回転糸切り後、無調整である。2014は灰釉陶器碗の高台部分である。調査区西端の柱穴が密集するエリアで出土した。釉は薄く、高台部分に掛かる。高台の特徴から虎渓山1号窯式のものである可能性が高い。

2011～2013・2015～2017は検出面1より出土した。2015は灰釉陶器碗の高台部分である。調査区西端の柱穴が密集するエリアで出土した。釉は薄く、高台部分に掛かる。高台の特徴から2014同様、虎



第82図 出土遺物（中国産磁器）

浜山1号窯式のものである可能性が高い。両者は接合せず、底径も異なるため別個体であると考えられる。その他はいずれも土師器坏である。

2018~2020は表土層より出土した土師器坏である。2020は端部が鋭い形態の高台を有する。

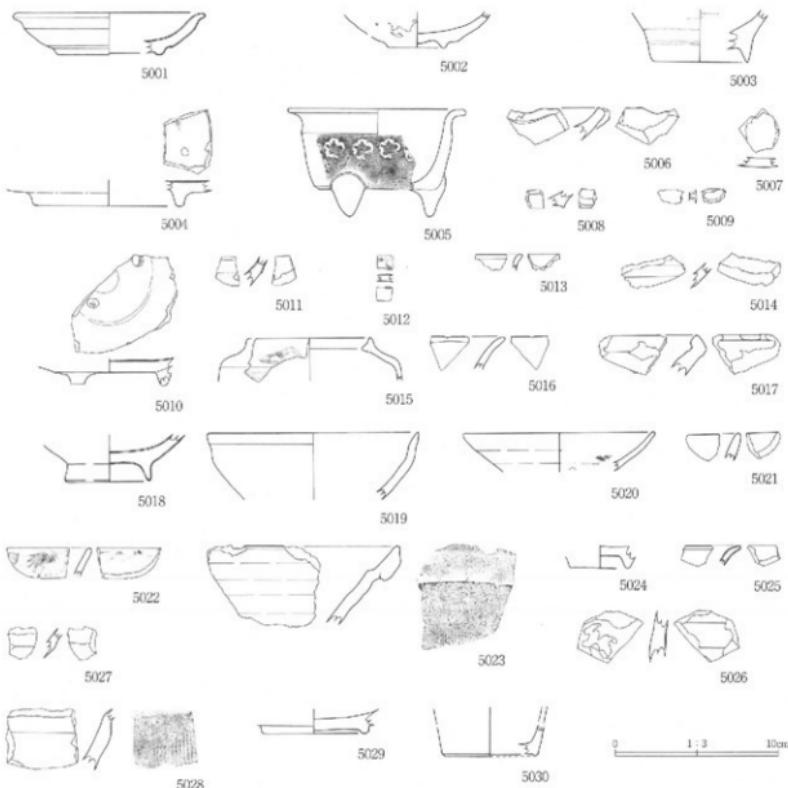
2021~2030は包含層2より出土した土師器である。2021のみ壺であるが、それ以外は坏頭である。

中・近世陶磁器（第83図、写真図版65・66）

出土した陶磁器のうち、中世（13世紀以降）および近世に属するものは計30点掲載した。

5001はS P822より出土した志野焼の皿である。灰白色の厚い釉が認められ、口縁部が外反する形態から端反皿であると考えられる。近世に属すると考えられる。

5005はS N01埋土より出土した瓦質器香炉である。口縁部は外反著しく、底部には脚が付けられている。体部外面には印花がみられ、全体的にミガキが施されている。中世後半～近世にかけての所産であるとみられる。



第83図 出土遺物（中・近世陶磁器）

5012はⅡ G北西包含層1より出土した明代の染付磁器である。細片であるため詳細は不明であるが、碗あるいは皿であると考えられる。

5019は表土層出土の国産陶器天日茶碗である。全体に黒色を帯び、厚い釉が認められる。

5021は表土層より出土した龍泉窯系青磁碗である。釉、器壁とともに厚く、13世紀以降のものである可能性が高いが、細片であるため証左不明である。

5029は近世の包含層である包含層0より出土した志野焼皿である。底部まで厚い釉が掛かっており、全体的に乳白色を呈する。

出土した中世～近世にかけての陶磁器類は、明の染付や龍泉窯系青磁碗を除いて、国産のものが大半を占める。

石製品（第84・85図、写真図版67・68）

出土した石製品のうち、20点を掲載した。大半のものが砾石である。

6003・6004は基石と考えられる黒色の丸石である。いずれも包含層1出土である。S P 820より出土した砾石片である。

6007は包含層1より出土した石製の碗である。黒色を呈する。破片であるが、長方形を呈するものと推測される。縁と擦り面との高さからみて腹部の破片であると考えられる。

6014・6015は石製の臼である。6014は包含層、6015は表土より出土した。

6020は基石と考えられる乳白色の丸石である。長梢円形を呈し、表面は滑らかで光沢を帶びている。これら記述したもの以外は砾石であると考えられる。いずれも表面のいずれかに擦痕が認められる。

土製品（第86図、写真図版69）

出土した土製品のうち、8点を掲載した。

7001～7004はいずれも土錘である。7001はⅡ F包含層より出土し、円筒状を呈する。端部が欠損するが、5cm前後の長さであると推測される。7002はⅡ G包含層より出土し、円筒状を呈する。ほぼ完形である。7003はⅡ C包含層1より出土した。ほぼ完形で円筒形である。7004はⅡ D包含層2より出土した。端部のみの破片である。

7005・7006はいずれも包含層より出土した瓦である。布目が認められ、細片であるが平瓦であると考えられる。時期は不明であるが、作りや質より古代～中世の所産であると考えられる。

7007・7008はいずれもⅡ G包含層より出土した土製品である。端面や丸く調整された部分など人為的に形作られているが、どのような性格のものか不明である。輪なども想定したが、表面は荒れておらず、これに該当するものを想定できない。

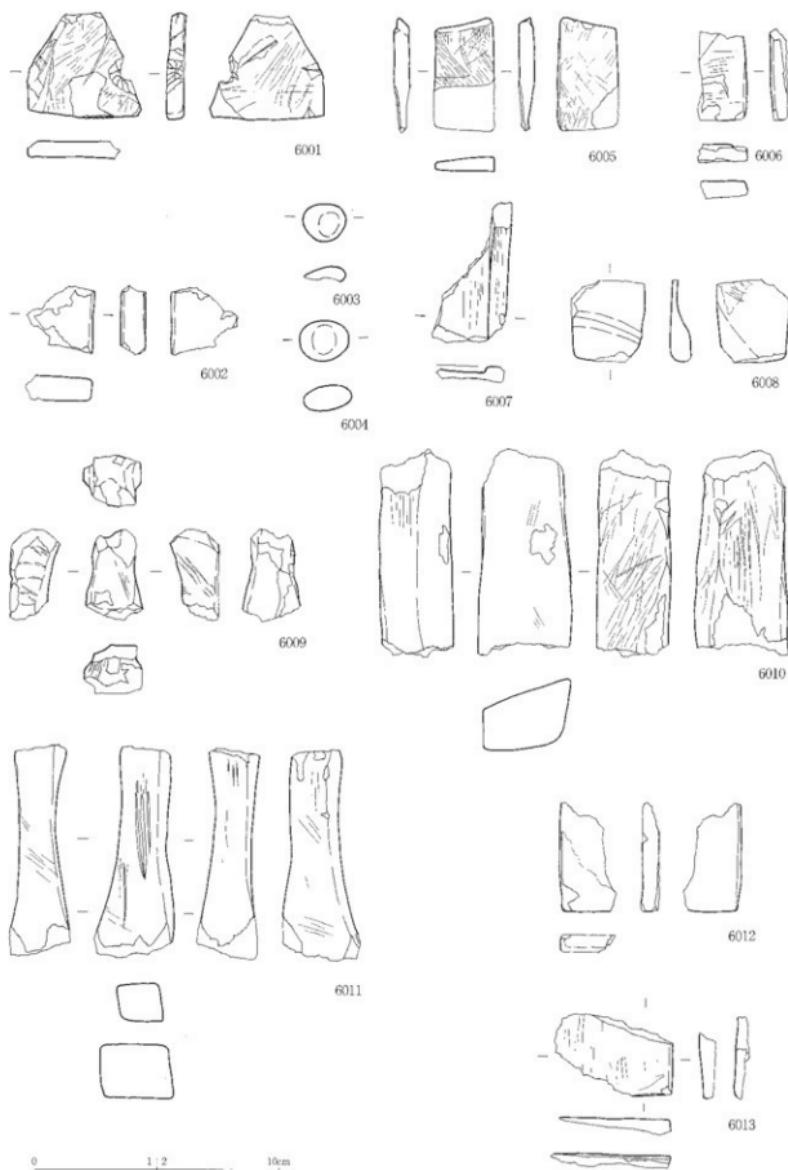
金属製品（第87図、写真図版70・71）

出土した金属製品のうち、錢貨類も含めて25点を掲載した。

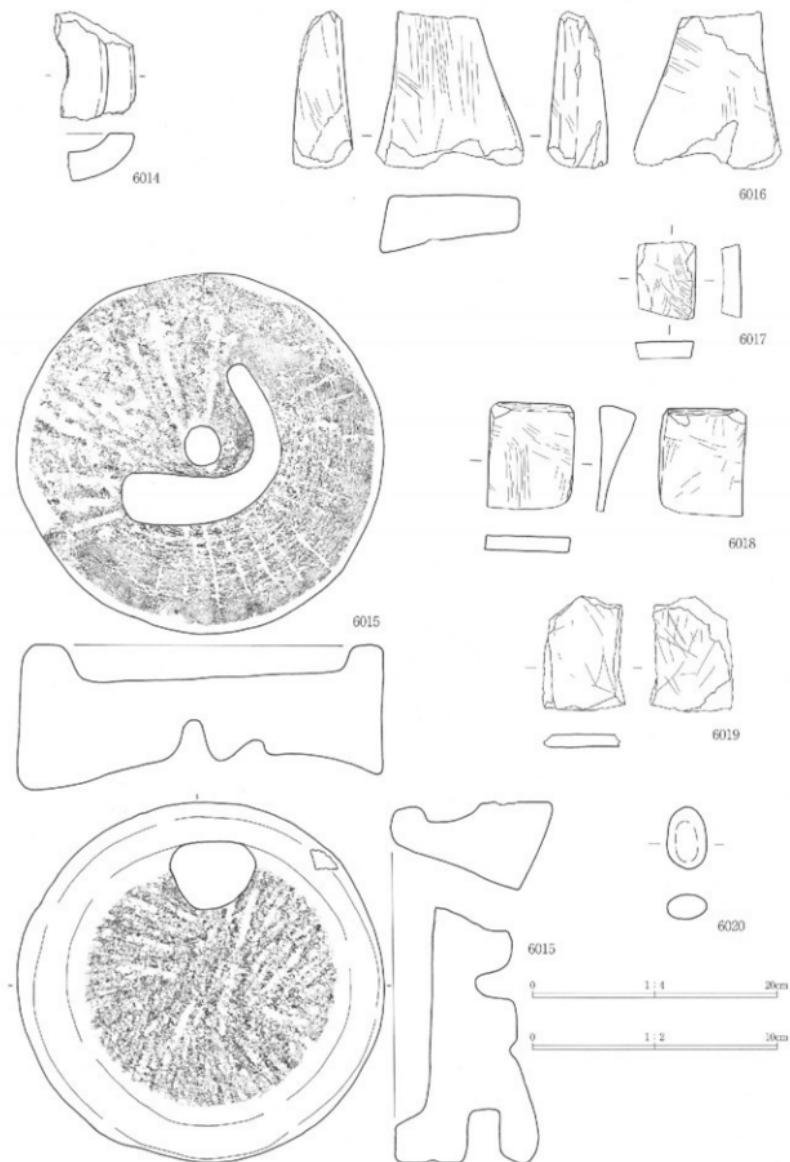
8001は包含層1より出土した鉄製紡錘車の軸棒であると考えられる。長さ約12cmであるが、完存していない可能性が高い。

8002は包含層1より出土した刀子と思われる鉄製品である。板状の形態であるが、全体の形状を知ることはできない。

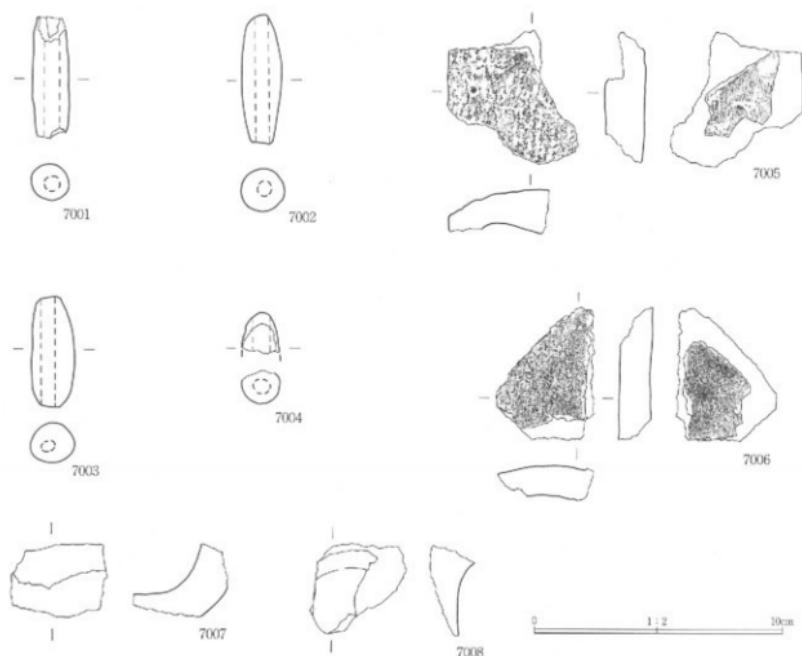
8003～8006はいずれも包含層1出土の鉄製釘である。8006のみ折り曲げられた基部が残存しており、また断面方形であることから和釘であると認められる。



第84図 出土遺物（石製品1）



第85図 出土遺物（石製品2）



第86図 出土遺物（土製品）

8007は包含層1より出土した鉄製楔か鍼といった鉄製品である。板状の形態で先端は尖っており、基部は釣状に折り曲げられている。

8008はSM01上段の埋土より出土した火打金である。二等辺三角形を呈し、頂部付近には穿孔がなされている。左右両端は緩く上向きに跳ね上がっている形狀である。

8009は検出面より出土した鉄砲の弾丸である。綠銅を帶びているため銅の混じる鉛であると考えられる。部分的に欠損している。時期は不明であるが、中世～近世のものである可能性が考えられる。

8010～8025はいずれも銭貨である。

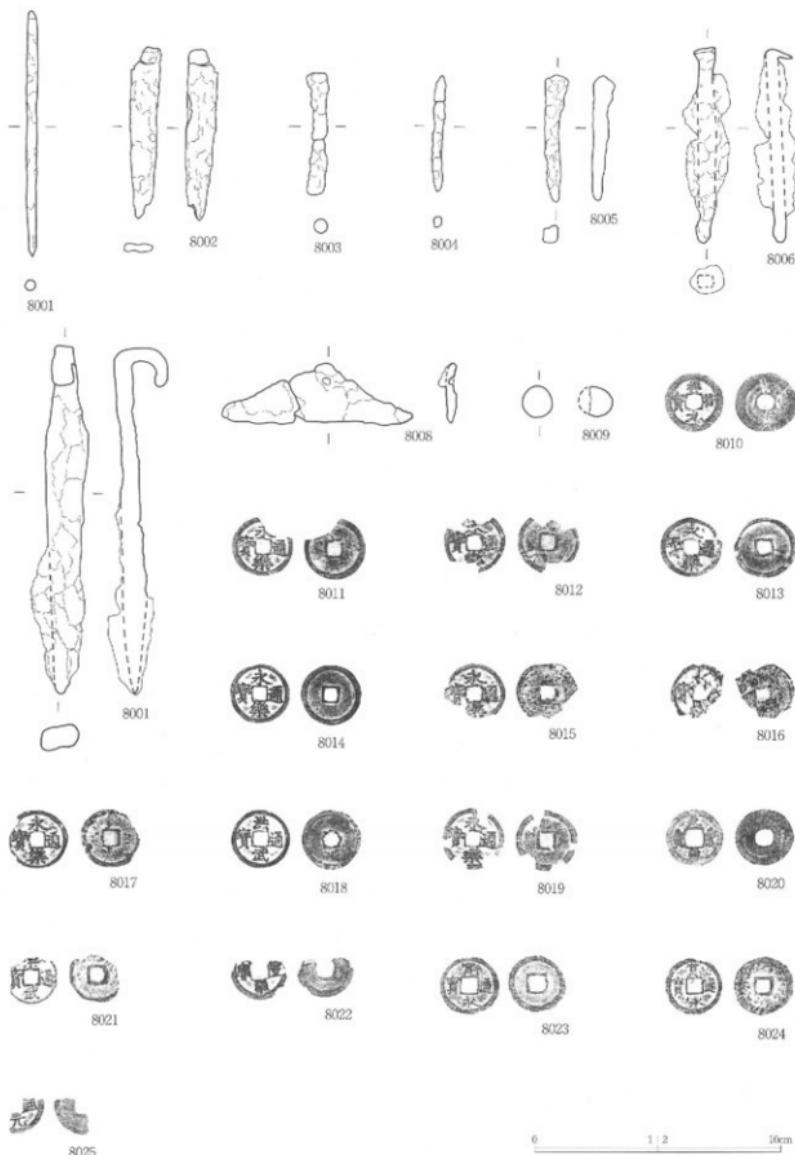
8010はSP1179より出土した北宋銭の祥符元寶である。銘文は比較的明瞭・正確で、模鋳銭の疑いはないものと思われる。

8011～8018の8枚はいずれもSK73より出土した明銭である。8011～8017はいずれも永樂通寶であり、8018・8019は洪武通寶である。

8020はSZ04より出土した北宋銭の元豐通寶である。

8021はII G包含層より出土した洪武通寶である。一部欠損している。

8022はII G包含層より出土した北宋銭の元豐通寶である。銭貨上部「元」字部分は欠損しているが、右側の「豐」字部分が明らかである。



第87図 出土遺物（金属製品）

8023は表土層より出土した寛永通寶である。比較的明瞭な左側「寶」字から古寛永であることが確実である。

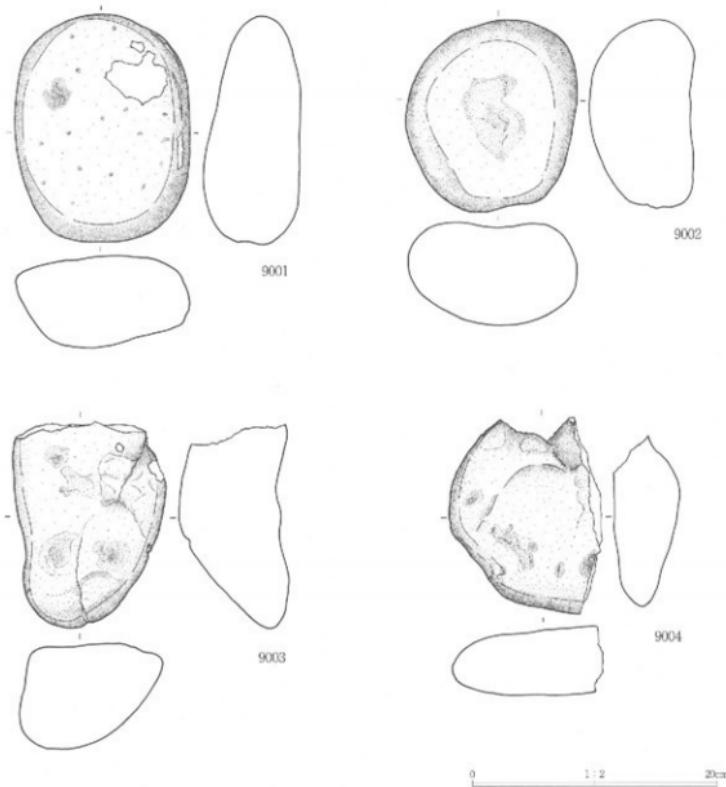
8024は表土層より出土した寛永通寶である。比較的明瞭な左側「寶」字および上側「寛」字から新寛永であることが確実である。

8025はⅡ G 包含層より出土した銭貨である。銭貨全体の25%程度のみの残存であるが、右側「通」字、下側「元」字が明確に判読できる。これらの銭文の字句および書体から唐銭の「開元通寶」であると考えられる。

石器（第88図、写真図版72）

出土した砾石器のうち、掲載したものは4点である。

いずれも縄文時代の所産と考えられるが、詳細な時期は不明である。今回の調査区内においては縄文時代中期および晩期の土器類もわずかながら出土している。



第88図 出土遺物（砾石器）

第2表 遺物観察表（土器・陶磁器）

かわらけ

No	規格	種別	出土位置	法量(cm)			重量(g)	色調	備考
				L径	容積	底径			
1001	大	-	SP006埋土	-	-	-	19.6	にぶい黄橙色	
1002		C3	SP097埋土	-	(24)	-	6.2	浅黄橙色	
1003		C3	SP167埋土上層	..	(25)	-	6.6	灰白色	
1004		D3	SP323埋土上	-	(1.6)	-	4.0	にぶい黄橙色	
1005		C3	SP791埋土	-	(1.9)	-	3.2	灰白色	
1006		C3	SP791埋土	-	(2.4)	-	6.9	にぶい黄橙色	
1007		C3	SP791埋土	-	(2.5)	-	7.5	浅黄橙色	
1008	大	ロクロ	SP891埋土	-	(1.0)	(7.7)	14.7	灰黄褐色	
1009		C3	SK01埋土	-	(3.5)	-	12.6	にぶい黄橙色	
1010	小	D3	SK52埋土	(12.0)	(2.0)	-	2.7	浅黄橙色	
1011	大	D3	SK52埋土	(15.5)	(3.3)	-	14.5	浅黄橙色	
1012	大	C4	SK56埋土	(15)	(3.0)	-	14.9	にぶい黄橙色	
1013	大	ロクロ	SK56埋土	-	(3)	-	11.4	橙色	
1014	大	C3	SK56埋土	(13.9)	(2.7)	-	18.1	浅黄橙色	
1015	大	C3	SK56埋土	(17.8)	(1.3)	-	4.6	灰黄褐色	
1016		C3	SK56埋土	-	(1.8)	-	4.2	にぶい黄橙色	
1017	小	C3	SK58埋土	(13.2)	(2.7)	-	63.0	浅黄橙色	
1018		C3	SK66埋土上	-	(1.9)	-	4.8	にぶい橙色	
1019		D3	SD09埋土上層	-	(2)	-	4.8	灰白色	
1020		C3	SD09埋土下層	-	(2.7)	-	10.2	浅黄橙色	
1021	大	ロクロ	SD05埋土下層	-	(1.1)	(7.8)	19.0	にぶい黄橙色	
1022	大	ロクロ	SM01埋土	-	(2.2)	-	4.8	灰白色	
1023		D3	SM01埋土	-	(2.3)	-	6.6	浅黄橙色	
1024	-		SM01埋土最下層	-	(2.2)	-	15.1	浅黄橙色	内面込みに線刻文
1025	極小	D3	SM01埋土最上層	(8.1)	2.2	-	36.9	灰白色	
1026		ロクロ	SM01埋土上下層	(11.4)	(2.7)	-	9.7	浅黄橙色	
1027	大	ロクロ		-	(1)	(5.5)	21.8	にぶい黄橙色	
1028	小	D3	ⅢD南西包含層1	(7.9)	(1.6)	-	8.1	浅黄橙色	
1029		D3	ⅢD南西包含層1	(10.4)	(1.3)	-	4.7	にぶい黄橙色	
1030		D3	ⅢD南西包含層1	-	(1.8)	-	5.7	浅黄橙色	
1031	大	ロクロ	ⅡD包含層1	-	(1.8)	(6.4)	55.0	灰白色	

No	規格	種別	出土位置	法量(cm)			重量(g)	色調	備考
				口径	器高	底径			
1032	大	ロクロ	III D 南西包含層 1	—	(1.5)	(7.2)	13.4	にぶい黄橙色	
1033	大	D2	III D 南西包含層 1	(13.0)	(3.0)	—	24.7	にぶい黄橙色	
1034		C3	III D 南西包含層 1	—	(2.0)	—	5.1	浅黄橙色	
1035		—	III D 南西包含層 1	—	(1.6)	—	2.5	にぶい黄橙色	
1036	大	C3	III D 南西包含層 1	(13.0)	(3.1)	—	12.2	にぶい黄橙色	
1037	大	C3	III D 1a 包含層 1	(12.6)	(2.8)	—	33.2	浅黄橙色	
1038		D3	III D 1a 包含層 1	—	(2.3)	—	5.5	橙色	
1039		C3	III D 南東包含層 1	—	(1.9)	—	3.7	浅黄橙色	
1040	大	C3	II E 南東包含層 1	(13.0)	(3.1)	—	11.2	にぶい黄橙色	
1041	大	C3	II F 北東包含層 1	(11.4)	2.0	—	18.3	褐色	
1042	大	ロクロ	II F 北東包含層 1	(13.8)	(2.2)	—	7.6	浅黄橙色	
1043	大	D3	II F 北東包含層 1	(13.6)	(1.8)	—	6.6	浅黄橙色	
1044	大	ロクロ	II F 北西包含層 1	—	(2.6)	(7.8)	20.9	橙色	
1045	大	C3	II F 北東包含層 1	—	(2.1)	—	7.0	にぶい黄橙色	
1046		C3	II F 北東包含層 1	—	(2.7)	—	10.7	にぶい黄橙色	
1047	大	C4	II F 南西包含層 1	(18.0)	(3.3)	—	14.5	浅黄橙色	
1048	大	C3?	II F 北西包含層 1	—	(2.6)	—	10.1	浅黄橙色	
1049		C3	II F 北西包含層 1	—	(2.3)	—	5.8	浅黄橙色	
1050	大	C3?	II F 南西包含層 1	(13.7)	(2.9)	—	34.4	褐色	
1051	小	D3	II F 南西包含層 1	(7.7)	(2.0)	—	5.0	にぶい橙色	
1052	大	D4	II F 南西包含層 1	(14.6)	(2.8)	—	7.5	浅黄橙色	
1053	大	C3	II F 南東包含層 1	(12.8)	(3.2)	—	16.2	にぶい黄橙色	
1054	大	D3	II F 南東包含層 1	(13.0)	(2.9)	—	11.3	浅黄橙色	
1055	大	D3	II F 北西包含層 1	(13.2)	(2.8)	—	7.5	浅黄橙色	
1056	大	D3	II F 南西包含層 1	(13.9)	(2.9)	—	15.3	灰白色	
1057	大	D3	II F 南西包含層 1	(12.8)	(2.2)	—	12.4	褐色	
1058	大	C3	II F 南東包含層 1	(13.4)	(2.1)	—	13.1	にぶい黄橙色	
1059	大	—	II F 南西包含層 1	(15.8)	(1.8)	—	7.5	にぶい黄橙色	
1060	大	ロクロ	II F 南西包含層 1	(11.7)	(1.2)	—	4.4	にぶい橙色	
1061	大	ロクロ	II F 南東包含層 1	—	(1.2)	(6.4)	11.4	浅黄橙色	
1062	小	ロクロ	II F 南東包含層 1	—	(1.1)	(4.6)	13.2	浅黄橙色	
1063	小	ロクロ	II F 北西包含層 1	—	(1.3)	(5.2)	12.3	にぶい橙色	
1064	大	—	II F 南西包含層 1	—	(1.0)	—	13.1	灰白色	

No	規格	種別	出土位置	法量(cm)			重量(g)	色調	備考
				口径	器高	底径			
1065	D3	II F 北西包含層 1		-	(1.7)	-	6.4	浅黄橙色	
1066	D3	II F 南東包含層 1		-	(2.0)	-	5.7	灰白色	
1067	--	II F 南東包含層 1		--	(1.1)	-	3.5	にぶい黄橙色	
1068	ロクロ	II F 南東包含層 1		-	(1.9)	-	3.3	橙色	
1069	D3	II F 中央包含層 1		-	(2.1)	-	3.9	にぶい橙色	上方のナデは沈線状
1070	D3	II F 南西包含層 1		-	(2.0)	-	4.2	灰白色	
1071	C3	II F 2 d 包含層 1		--	(2.1)	-	5.0	浅黄橙色	
1072	D3	II F 2 e 包含層 1		-	(2.0)	-	10.4	にぶい黄橙色	
1073	D3	II F 南西包含層 1		-	(2.5)	-	7.1	灰黄褐色	
1074	大 C4	II F 南西包含層 1		-	(2.9)	-	9.4	浅黄橙色	
1075	C3	I G 北西包含層 1		-	(2.2)	-	8.6	にぶい黄橙色	
1076	C3	I G 北西包含層 1		-	(1.7)	-	3.6	にぶい黄橙色	
1077	C3	I G 北西包含層 1		-	(2.4)	-	8.7	にぶい黄橙色	
1078	C3	I G 中央包含層 1		-	(1.8)	-	5.0	浅黄橙色	
1079	C3	I G 北西包含層 1		-	(2.0)	-	5.9	浅黄橙色	
1080	D3	I G 北西包含層 1		-	(2.2)	-	5.4	灰黄褐色	
1081	C3	I G 中央包含層 1		-	(3.0)	-	9.4	浅黄橙色	
1082	小 D3	II G 北東包含層 1		(7.8)	(1.5)	-	9.5	にぶい橙色	
1083	大 C3	II G 北西包含層 1		(13.9)	(3.0)	-	7.4	浅黄橙色	
1084	特 -	II H 北西包含層 1		-	-	-	29.7	浅黄橙色	鑿?
1085	C3	II H 北西包含層 1		-	(2.4)	-	6.0	にぶい黄橙色	
1086	D2	II H 北西包含層 1		-	(2.2)	-	6.4	にぶい黄橙色	
1087	大 C3	II G 北西包含層 1		(13.7)	(3.0)	-	7.4	にぶい橙色	
1088	小 C3	III C 5 j 檢出面 1		(8.6)	2.8	-	6.0	浅黄橙色	
1089	小 C2	III D 南西檢出面 1		(9.6)	(1.8)	-	9.3	にぶい黄橙色	
1090	小 C3	III D 2 d 檢出面 1		(14.2)	(1.5)	-	7.4	浅黄橙色	
1091	大 C3	III D 南西檢出面 1		(13.5)	(2.6)	-	45.5	にぶい黄橙色	
1092	大 D3	III D 北西檢出面 1		(9.6)	(2.1)	-	5.3	橙色	
1093	大 C3	III D 北東檢出面 1		(12.7)	(2.5)	-	51.2	浅黄橙色	
1094	C3	III D 1 j 檢出面 1		-	(1.8)	-	4.6	にぶい黄橙色	
1095	C3	III D 1 d 檢出面 1		-	(2.0)	-	10.1	にぶい黄橙色	
1096	小 ロクロ	III D 1 j 檢出面 1		-	(1.4)	(4.7)	10.9	にぶい橙色	
1097	入 ロクロ	II E 南東檢出面 1		-	(1.4)	-	32.0	橙色	

No	規格	種別	出土位置	法量(cm)			重量(g)	色調	備考
				口径	器高	底径			
1098		C4	II F北東検出面 1	-	(28)	-	13.7	浅黄橙色	
1099	小	C3	II F南西検出面 1	(8.2)	(25)	-	8.6	浅黄橙色	
1100	大	C4	II G中央検出面 1	(14.4)	(29)	-	17.8	褐灰色	
1101	大	C4	II G中央検出面 1	(14.5)	(30)	-	13.9	灰白色	
1102	特	ロクロ	II G北西中近世包含層	(10.2)	2.8	(6.1)	52.6	にぶい黄橙色	15・16世紀かわらけ
1103	特	ロクロ	II G北西中近世包含層	-	(29)	(9.4)	50.1	橙色	15・16世紀かわらけ
1104	小	C3	II C南西中近世包含層	(8.2)	(16)	-	10.7	灰白色	
1105	小	C3	III D1」試掘トレンチ	(13.2)	(24)	-	24.9	灰白色	
1106	小	ロクロ	III C南東試掘トレンチ	-	(0.9)	(6.2)	10.3	浅黄橙色	
1107	大	C3	III D南東表土	(11.4)	(25)	-	5.3	にぶい黄橙色	
1108	大	-	表土	(12.6)	(1.2)	-	4.1	浅黄橙色	
1109	大	C3	III D南東表土	(14.8)	(21)	-	4.1	にぶい黄橙色	

かわらけ分類(種別)

D2	1段ナデ	I 縦部外反	C3 2段ナデ	面取りなし 面取りあり
D3		面取りなし		
D4		面取りあり		

国産陶器

No	種別	器種	部位	出土位置	年代	重量(g)	備考
3001	常滑	甕	肩～頸部	SP02埴土上層	12世紀	13.28	
3002	常滑	甕	体部	SP03埴土	12世紀		
3003	常滑	甕	体部中～下	SP03埴土	12世紀	27.17	平行文の押印
3004	常滑	甕	体部上	SP982埴土	12世紀	6.0	
3005	常滑	甕	口縁部	SK71埴土	12世紀	21.77	
3006	常滑？	甕	体部	SK87埴土	12世紀	44.09	
3007	常滑	甕	体部	SD04埴土上層	12世紀		
3008	常滑	甕	体部	SD09埴土上層	12世紀		平行文の押印
3009	常滑	甕	体部	SD09埴土上層	12世紀		
3010	常滑	甕	体部	SD09埴土上層	12世紀		
3011	笠置系	鉢	口縁部	SD09埴土上層	13世紀		伊豆沼窯系？
3012	常滑	甕	体部	SD09埴土上層	12世紀		平行文の押印
3013	源美	鉢	体部	SG01東半埴土上層	12世紀		
3014	源美	甕	体部上	SG01西半陶浜	12世紀		平行文の押印
3015	常滑	甕	口縁部	SG01西半埴土上層	12世紀？		
3016	常滑	甕	口縁部	SG01東半埴土	12世紀？		
3017	常滑	甕	体部	SG01東半埴土上層	12世紀？		平行文の押印
3018	常滑	甕	体部	SG01東半埴土下層	12世紀？		
3019	常滑	甕	体部上	SG01b東半埴土	12世紀？		平行文の押印
3020	不明	甕	体部	SG01東半埴土上層			
3021	常滑	甕	体部下	SG01西半埴土上層	12世紀？		
3022	常滑	甕	体部	SM01上段埴土上層	12世紀？		
3023	常滑	甕	頸部	SM01上段埴土上層	12世紀？		
3024	常滑	甕	不明	SM01下段埴土	12世紀？		
3025	珠網系	甕	体部	SM01下段埴土	12世紀？		タタキ
3026	常滑	甕	頸部	SM01下段埴土	12世紀？		
3027	常滑	甕	体部	SM01下段埴土	12世紀？		
3028	源美	甕	体部	SM01下段埴土	12世紀？		
3029	常滑	甕	体部	SM01下段埴土	12世紀？		タタキ
3030	常滑	甕	肩～頸部	SM01上段埴土	12世紀？		
3031	常滑	甕	体部	SM01上段埴土	12世紀？		
3032	常滑	甕	体部	SM01下段埴土	12世紀？		平行文の押印
3033	常滑	甕	体部	SM01下段埴土	12世紀？		

No	種別	器種	部位	出土位置	年代	重量(g)	備考
3034	渥美	鉢	体部下	SM01下段埋土	12世紀		
3035	常滑	甕	体部上	SM01下段埋土	12世紀?		
3036	常滑	甕	体部	SM01埋土	12世紀?		
3037	珠洲系	甕	体部	SM01南?埋土	12世紀?		タタキ
3038	渥美	甕	底部	SM01下段埋土	12世紀		灰釉
3039	渥美	甕	体部	SZ04埋土上層	12世紀		方形区画中に格子斜格子文の押印
3040	渥美	甕?	体部	II F南東包含層1	12世紀		
3041	渥美	鉢	口縁部	II F南東包含層1	12世紀		
3042	渥美	鉢	体部	II F南東包含層1	12世紀		
3043	常滑	甕	体部	II F南西包含層1	12世紀?		
3044	常滑	甕	体部	II D東端～II E西湖包含層1	12世紀?		
3045	常滑	甕	体部上	II F南西包含層1	12世紀?		
3046	常滑	甕	体部	II G北西包含層1	12世紀?		平行文の押印
3047	珠洲系	甕	体部	II G北西包含層1	12世紀?		タタキ
3048	渥美	鉢	口縁部	II G北西包含層1	12世紀		
3049	渥美	甕	体部	II G北西包含層1	12世紀		
3050	渥美	鉢	体部	II G北西包含層1	12世紀		
3051	常滑	甕	体部	II F南西包含層1	12世紀?		平行文の押印
3052	渥美	鉢	体部下	II F南西包含層1	12世紀		回転ヘラケズリ
3053	常滑	甕	体部	試掘トレンチ包含層1	12世紀?		
3054	常滑	甕	体部	II G北西包含層1	12世紀?		
3055	常滑	甕	体部	II F南西包含層1	12世紀?		
3056	常滑	甕	体部	II G南東包含層1	12世紀?		
3057	常滑	甕	体部下	II F南西包含層1	12世紀?		
3058	渥美	鉢	口縁～体部	II F南西包含層1	12世紀		
3059	常滑	甕	体部	II G北西包含層1	12世紀?		
3060	渥美	鉢	体部下	II F南西包含層1	12世紀?		
3061	常滑	甕	体部	II F南西包含層1	12世紀?		
3062	常滑	甕	頭部	II D北西包含層1	12世紀		
3063	珠洲系	甕	口縁部	II G南東包含層1	12世紀?		
3064	珠洲系	鉢	体部	II D7 h 包含層1	12世紀?		
3065	不明	甕	体部	II D7 h 包含層1	12世紀?		
3066	珠洲系	鉢	体部	II D7 h 包含層1	12世紀?		
3067	常滑	甕	体部	II D北西包含層1	12世紀?		

No	種別	器種	部位	出土位置	年代	重量(g)	備考
3068	常滑	甕	体部	II F南東包含層1	12世紀?		
3069	常滑	甕	体部	II F南東包含層1	12世紀?		
3070	常滑	甕	体部	II G北東包含層1	12世紀?		
3071	常滑	甕	体部	II G北東包含層1	12世紀?		
3072	常滑	甕	体部	II G北東包含層1	12世紀?		
3073	深美	鉢	口縁部	II G北西包含層1	12世紀		
3074	常滑	甕	体部	II G北西包含層1	12世紀?		
3075	珠洲系	鉢	体部	II E南東包含層1	12世紀?		
3076	珠洲系	鉢	口縁部	II E南東包含層1	12世紀?		片口
3077	常滑	甕	体部上	II F南東包含層1	12世紀?		
3078	珠洲系	鉢	口縁~体部	II D 9 b 包含層1	12世紀?		
3079	常滑	甕	体部	II D 7 b 包含層1	12世紀?		
3080	常滑	甕	体部	III D 0 h 包含層1	12世紀?		
3081	不明	甕	体部	III D北東包含層1	12世紀?		
3082	常滑	甕	体部	III D 1 a 包含層1	12世紀?		
3083	珠洲系	鉢	口縁~体部	II D北東包含層1	12世紀?		
3084	珠洲系	鉢	体部	III D 0 h 檜小面1	12世紀?		
3085	珠洲系	鉢	口縁部	III D南西横出面1	12世紀?		
3086	常滑	甕	体部	II F南東横出面1	12世紀?		
3087	珠洲系	鉢	体部	II E南東横出面1	12世紀?		
3088	深美	鉢	体部	II G北東近世包含層	12世紀		
3089	常滑	甕	体部	II G南西近世包含層	12世紀?		押印
3090	常滑	甕	体部	試掘トレンチ表土	12世紀?		
3091	不明	甕	体部	試掘トレンチ表土			
3092	常滑	甕	体部	試掘トレンチ表土	12世紀?		押印

中国産磁器

No	種別	器種	部位	出土位置	年代	備考
4001	青磁	碗	体部	ⅢD2i検出面1	12世紀	龍泉窯系
4002	青磁	碗	体部	SM01埋土上層	13世紀	龍泉窯系
4003	青白磁	合子蓋	口縁部	ⅡD北西包含層1		
4004	白磁	碗	体部	SM01埋土	11~12世紀	
4005	白磁	壺	体部	SM01埋土		
4006	白磁	壺	体部	ⅡD9b包含層1	12世紀	
4007	白磁	壺	体部	ⅡD7b包含層1		
4008	白磁	壺	体部	ⅡF北西検出面1	12世紀	
4008	白磁	壺	体部	ⅢD南西包含層1		
4009	白磁	碗	口縁部	ⅢE南東包含層1		
4010	白磁	皿	底部	ⅢF南東包含層1	12世紀	
4011	白磁	碗	体部	ⅢF中央包含層1		
4012	白磁	碗	体部	ⅢG北西包含層1		
4013	白磁	壺	体部	ⅢG北東包含層1	12世紀	
4015	青磁	碗	口縁部	試掘トレンチ	12世紀	同安窯系
4016	青磁	碗	体部	ⅢF南東巾近世包含層		龍泉窯系

4 衣の関道遺跡の古植生について

(1) はじめに

衣の関道遺跡は、岩手県奥州市衣川区関谷起に所在し、衣川左岸に立地する。今回の発掘調査では、平安時代末（12世紀）頃の掘立柱建物、池状造構、溝、土坑など遺構が検出されており12世紀代のかわらけをはじめとする土器・陶磁器類、石製品、鉄製品などの遺物が出土している。

今秋の分析調査では、検出された池状造構の覆土を対象とし、周辺の古植生に関する情報を得ることを目的として、花粉分析を実施する。

(2) 試 料

池状造構は調査区の西側で検出されており、調査所見から少なくとも12世紀代にはくばんだ状態を呈し、石を用いて人為的に岸を作っていることなどが確認されている。遺構内からは、12世紀の陶器片などが出土している。

分析試料採取地点の層相をみると、下位より22層、21層、20層、19層、18層、12層、9層、1層に分層される。最下層の22層は暗褐色シルトからなり、炭化物を含み、グライ化が認められる21層はオリーブ黒色シルトからなり、鉄分の沈着が認められる。20層は黄灰色シルトからなるレンズ状堆積物で、鉄分の沈着が認められる。19層はにぶい黄褐色シルト、18層は暗褐色粘土質シルト、12層は黒褐色粘土質シルトからなる。それらを削り込んで堆積する9層は橙色砂質シルトからなり、最上位の1層は褐灰色砂質シルトからなる現表土である。

分析試として、池状造構覆土を覆う9層（試料番号1）、池状造構覆土上部にあたる18層・19層境界付近（試料番号2）、および池状造構覆土下部にあたる21層・22層境界付近（試料番号3）より土壤各1点、合計3点が採取されている。これら3点を対象として、花粉分析を実施する。

(3) 分析方法

試料約10gについて、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛：比重2.3）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス（無水酢酸9：濃硫酸1の混合液）処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数する。

結果は同定・計数結果の一覧表、および花粉化石群集の層位分布図として表示する。図中の木本花粉、草本花粉・シダ類胞子とともに、総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し図示する。

(4) 結 果

結果を表1、図1に示す。図表中で複数の種類をハイフンで結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。なお、木本花粉総数が100個体未満のものは、統計的に扱うと結果が歪曲する恐れがあるので、出現した種類を+で表示するにとどめておく。いずれの試料においても花粉化石の保存状態は良好ではなく、花粉外膜が破損・溶解しているものが多く認められる。

分析試料中最下位である試料番号3からは、定量解析が行えるだけの花粉化石は検出されなかった。

検出された種類についてみると、木本花粉ではトウヒ属、マツ属、コナラ属コナラ亞属が、草本花粉ではイネ科、ナデシコ科が1-2個体検出されるのみである。

試料番号2ではシダ類胞子が多産し、花粉化石群集では草本花粉の割合が高い。草本花粉ではイネ科が優占し、カヤツリグサ科、ソバ属、ナデシコ科、サナエタデ節-ウナギツカミ節、ヨモギ属などを伴う。木本花粉ではマツ属が多く産出し、ブナ属、ニレ属-ケヤキ属、ハンノキ属などが認められる。

最上位にあたる試料番号1では、木本花粉の割合が高い。木本花粉ではマツ属が最も多く産出し、ブナ属、トウヒ属、ハンノキ属、ツガ属、スギ属、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科などを伴う。草本花粉ではイネ科が多く、ヨモギ属などが認められる。

(5) 考 察

今回分析対象とした各試料における花粉化石の産出状況を見ると、いずれの試料も花粉化石の保存状態が悪く、花粉外膜が破損・溶解しているものが多く認められた。花粉やシダ類胞子の腐蝕に対する抵抗性は種類により異なっており、落葉広葉樹に由来する花粉よりも針葉樹に由来する花粉やシダ類胞子の方が酸化に対する抵抗性が高いとされている（中村, 1967；徳永・山内, 1971；三宅・中越, 1998など）。検出された花粉化石の保存状態を考慮すると、得られた花粉化石群集は経年変化による分解・消失の影響を受けており、分解に強い花粉が選択的に多く残されている可能性がある。したがって、当時の周辺植生を正確に反映していない可能性がある。このことを考慮した上で、古植生の検討を行う。

池状遺構覆土下部に相当する22層・21層境界付近（試料番号3）では、花粉化石がほとんど検出されず、古植生推定のための定量解析を行うことができなかった。一般的に花粉やシダ類胞子の堆積した場所が、常に酸化状態にあるような場合、花粉は酸化や土壤微生物によって分解・消失するとされている（中村, 1967；徳永・山内, 1971；三宅・中越, 1998など）。今回、珪藻分析などを実施していないため、詳細な堆積環境については不明であるが、検出された花粉化石の保存状態などを考慮すると、前述の経年変化により分解・消失したと考えられる。

池状遺構覆土上部に相当する19層・18層境界付近（試料番号2）では、シダ類胞子と草本類が多産する。草本類ではイネ科が多産し、カヤツリグサ科、ナデシコ科、サナエタデ節-ウナギツカミ節、ヨモギ属などが検出される。これらの多くは、開けた明るい場所を好む「人里植物」を含む分類群である。よって、本試料堆積当時の本遺跡内には、これらの草本類が生育する草地が存在したと思われる。イネ科やカヤツリグサ科には、湿地などの適湿地に生育する種も含まれることから、池状遺構内に生育していた種も含まれると推測される。また、栽培種であるソバ属に由来する花粉も検出されることから、周辺でのソバ栽培の可能性が指摘される。

木本類では、少ないながらもマツ属、ブナ属、ニレ属-ケヤキ属、ハンノキ属などが認められる。これらのうちブナ属は、コナラ属コナラ亞属などと共に冷温帶性落葉広葉樹林の主要構成要素であり、ニレ属-ケヤキ属、ハンノキ属などは、河畔や低湿地などの適湿地に生育する種を含む分類群である。本地域の潜在自然植生（人間の影響を一切停止したときに、現在の気候、地形、土壤条件下で成立すると考えられる自然植生）をみると、河川沿いなどにはハンノキ-ヤチダモ群集、シロヤナギ群集、周辺丘陵部はモミ-イヌブナ群集、アブラツツジ-イヌブナ群集、クリ-コナラ群集、山地部ではチシマザサ-ブナ群集とされている（宮脇編著, 1987）。よって、当時の本遺跡周辺では、後背の丘陵や山地部にブナ属を主体とする冷温帶性落葉広葉樹林が分布し、丘陵部の沢沿いや衣川の河畔などの適

湿地にニレ属・ケヤキ属、ハンノキ属、サワグルミ属などが生育していたと思われる。

近世以降の堆積物と想定される池状遺構覆土を覆う9層（試料番号1）では、木本類の割合が高くなり、マツ属が多産する。このうち亜属まで同定できたものは、全て複雑管束亞属であった。マツ属複雑管束亜属（いわゆるニヨウマツ類）は生育の適応範囲が広く、尾根筋や湿地周辺など他の広葉樹の生育に不適な立地にも生育が可能である。また、極端な陽樹であり、やせた裸地などでもよく発芽し生育することから、伐採された土地などに最初に進入する二次林の代表的な種類である。現存植生をみても、本地域周辺にアカマツ（マツ属複雑管束亜属）植林が分布することから、検出されたマツ属も二次林や植林としてのマツ属に由来する可能性がある。その他の種類では、ツガ属、トウヒ属、スギ属などの針葉樹、ブナ属、ハンノキ属などの落葉広葉樹が検出される。よって、本試料堆積時ににおいても後背の山地や丘陵部にブナ属を主体とする落葉広葉樹林が存在すると共に、ツガ属、トウヒ属、スギ属などの針葉樹も部分的に分布しており、河畔沿いなどにハンノキ属などの湿地林要素が生育していたと推測される。

また、草本類ではイネ科、ヨモギ属などが認められることから、周辺の草地にこれらの草本類が生育していたと思われる。

引用文献

二宅 尚・中越 信和, 1998, 森林土壤に堆積した花粉・胞子の保存状態, 植生史研究, 6, 15-30.

宮崎 明（編著）, 1987, 日本植物誌 東北・至文堂, 605p.

中村 純, 1967, 花粉分析, 古今書院, 232p.

徳永 重元・山内 博子, 1971, 花粉・胞子・化石の研究法, 共立出版株式会社, 50-73.

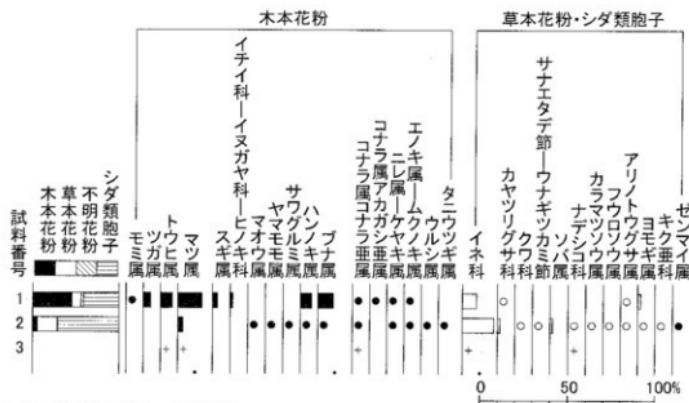


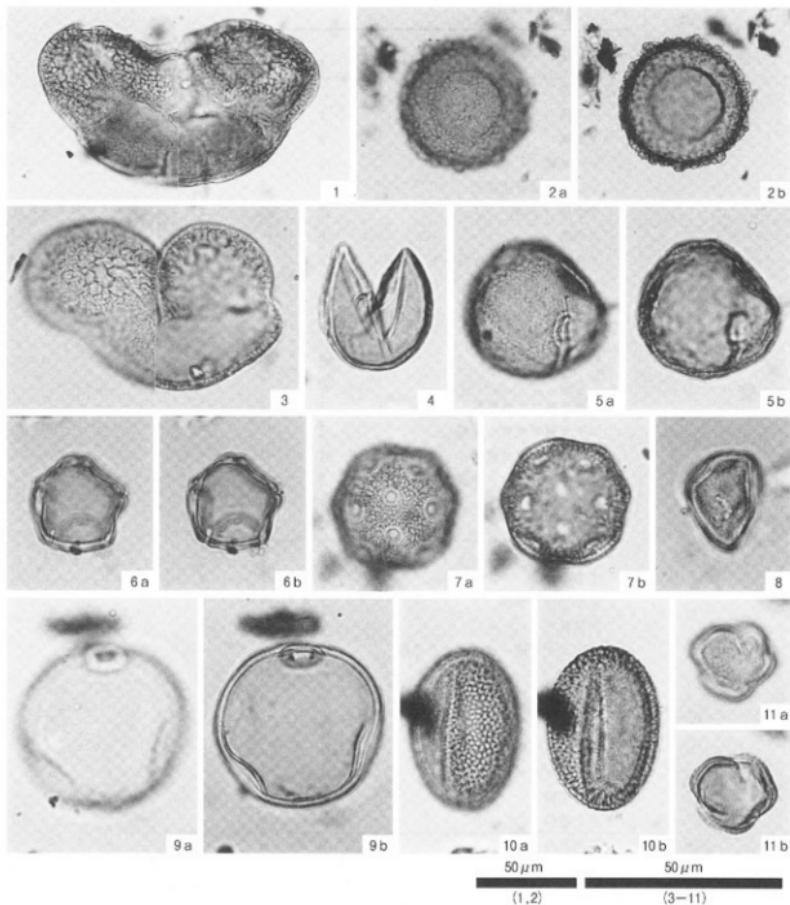
図1. 花粉化石群集の層位分布

出現率は、木本花粉、草本花粉・シダ類胞子とも総数より不明花粉を除く数を基数として百分率で算出した。

なお、●○は1%未満、+は花粉総数100個体未満の試料について検出した種類を示す。

表1 花粉分析結果

種類	試料番号	1	2	3
木本花粉				
モミ属	1	-	-	-
ツガ属	9	-	-	-
トウヒ属	15	-	1	-
マツ属複数管束亞属	4	3	-	-
マツ属(不明)	27	25	1	-
スギ属	6	-	-	-
イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	3	-	-	-
マオウ属	-	1	-	-
ヤマモモ属	-	1	-	-
サワグルミ属	-	2	-	-
ハンノキ属	14	3	-	-
ブナ属	20	7	-	-
コナラ属コナラ亜属	1	2	1	-
コナラ属アカガシ亜属	1	-	-	-
ニレ属-ケヤキ属	1	4	-	-
エノキ属-ムクノキ属	2	1	-	-
ウルシ属	-	1	-	-
タニウツギ属	-	1	-	-
草本花粉				
イネ科	18	177	2	-
カヤツリグサ科	1	14	-	-
クワ科	-	1	-	-
サナエタデ館-ウナギツカミ館	-	6	-	-
ソバ属	-	14	-	-
ナデシコ科	-	9	1	-
カラマツソウ属	-	2	-	-
フウロソウ属	-	1	-	-
アリノトウダサ属	1	1	-	-
ヨモギ属	4	6	-	-
キク科	-	1	-	-
不明花粉	8	5	-	-
シダ類胞子				
ゼンマイ属	-	4	-	-
他のシダ類胞子	94	700	76	-
合計				
木本花粉	104	51	3	-
草本花粉	24	232	3	-
不明花粉	8	5	0	-
シダ類胞子	94	704	76	-
総計(不明を除く)	222	987	82	-



1. トウヒ属 (試料番号1)
2. ツガ属 (試料番号1)
3. マツ属 (試料番号1)
4. スギ属 (試料番号1)
5. ブナ属 (試料番号1)
6. ハンノキ属 (試料番号1)
7. ナデシコ属 (試料番号2)
8. カヤツリグサ属 (試料番号1)
9. イネ属 (試料番号2)
10. ソバ属 (試料番号2)
11. ヨモギ属 (試料番号2)

第89図 花粉化石

5 まとめ

(1) 12世紀の遺構と遺物

今回の調査で明らかになった12世紀の遺構は主に掘立柱建物、池状遺構、テラス状遺構である。掘立柱建物は30棟検出したが、すべてが12世紀代のものかどうかは不明である。その理由として、密集度が高いエリアが存在すること、軸方向が描わないので多数含まれることなど遺構の特徴からである。これら掘立柱建物を構成する柱穴から出土する遺物は、あくまでも下限年代を示すに過ぎず、決定的なものではない。しかし、その中で調査区西側のエリアでは、12世紀の遺物を多く含む層（遺物包含層1）とその下で古代の遺物を含む層（遺物包含層2）を検出した。このエリアで検出した柱穴は、遺物包含層1上面では検出されず、遺物包含層2上面で検出される。この遺物包含層1が堆積する時期は12世紀以降であると考えられるが、より12世紀に近い時期が想定される。このことから、このエリアで検出した掘立柱建物はいずれも12世紀を前後する時期の所産である可能性が高い。

池状遺構は今回の調査では保存対象となつたため完全な調査はおこなっていない。園池である可能性を考慮して保存が決まったが、調査時点では、池状遺構という遺構名で記した通り、園池である決定的な証拠をつかむことができなかつた。しかし、遺構の特徴を考えれば園池あるいはそれに類する遺構である可能性が高い。また、出土遺物も時期を特定するには弱いが、調査現場での層序の確認等で近世以降のものではないことは確実であると考えられる。今後、北側での範囲確認等で明らかになることを願う次第である。

(2) 古代の遺構と遺物

当該期の遺構はほとんど検出していないが、遺構面2が露出している調査区中央で十和田a降下火山灰を埋土に含む土坑を検出している。調査区西側で部分的に遺物包含層2を掘削し、遺構面2で柱穴らしき遺構をいくつか検出したが、遺構掘削はおこなっていない。

遺物は遺物包含層2やその上面である遺構面1などで古代の遺物が出土した。土師器・須恵器が主なる遺物であるが、調査区西側で灰釉陶器片が2点出土した。この2点は遺構面1での遺構識別がきわめて難しいエリアで出土した。そのため遺構面1を検出のためにやや深めに削っている最中に出土したものであり、本来は下層の遺物包含層2に帰属するものと考えられる。いずれも虎渓山1号窯式の資料で、10世紀後半の資料であると考えられる。また、土師器片の中には10世紀後半～11世紀のものと考えられそうな資料も含まれている。

(3) 中世・近世の遺構と遺物

当該期の遺構はおもに調査区東端で検出した。遺構の種別としては、カマド状遺構、墓壙と考えられる遺構、溝などである。調査区東端で検出した掘立柱建物の中にも当該期のものが含まれている可能性がある。カマド状遺構は、燃焼部と煙道部から成り、被熱著しく大半の個所が焼上化している。調査区東端に集中して分布するが、軸方向は必ずしも一定ではない。屋外で煮炊きするための遺構であると考えられる。墓壙は円形ないしは梢円形を基調とする平面形態である。遺構の規模、形態、骨片や銭貨の出土など墓壙と想定可能なものは5基であるが、ほかにも数基の候補が存在する。墓壙もカマド状遺構と同様に調査区東端に集中して分布する。

遺物はⅢ層である遺物包含層0より中世～近世陶磁器類が出土した。1基のカマド状遺構埋土下位

より瓦質土器香炉が1点出土している。このことから今回検出したカマド状遺構が中世後半期～近世の遺構である可能性が考えられる。墓壙からは寛永通宝、北宋錢、不明鉄製品などが出土した。

(3) まとめ

今回、衣の関道遺跡の調査では、調査区西側、東側で12世紀の遺物包含層であるIV層（遺物包含層1）が堆積しており、このようなエリアでは12世紀のはばプライマリーな遺構面があることがわかり、12世紀の遺構は調査区内の各地区で検出した。主な遺構として掘立柱建物、池状遺構、テラス状遺構などを検出した。

検出した掘立柱建物は、平泉中心域の建物とは異なり、比較的簡素な平面形態を持つものが多いという特徴が挙げられる。

池状遺構は、西半の岸部分で2時期の湖浜を良好に検出した。両池であると考えられるが、調査区外へ続いているため全体の規模・形状は不明である。また、東半の岸部分に石はみられるが、列状を成している点で西半湖浜とは異なる。この理由として、遺構東半は遺構面が削平されており、下面（遺構面2）が露出しているため、大きく失われている可能性が考えられる。

次にテラス状遺構については12世紀の遺構であると考えられるが、その機能は判然としない。しかし、「衣の関道」伝承と関係性の大きいある地点に位置するため注意を要する。現段階では考古学的に関係性を見出すことはできない。

出土遺物は、かわらけ・中国産磁器・国産陶器など遺物量は多くないが、いわゆる平泉のセットが揃うことが重要である。

以上のように遺構・遺物から12世紀代、奥州藤原氏が築いた「平泉文化」そのものが、衣川の北にあり、しかも、もっとも衣川に近い低い地点で確認できたことは非常に意義深いと考える。しかし、まだ不鮮明な部分が多く残されているため課題も多い。今後、厳密な遺構の時期判定および時間的変遷、池状遺構における西岸と東岸の差異、伝「衣の関道」とテラス状遺構との関わりなどが挙げられる。検討を重ねたいと思う。

最後に、12世紀の遺構面より下層にあると考えられる遺構・遺物は、平泉前史を考える上で注目されるところであるが、ほとんど未調査であるため多くを述べることができない。しかしながら、県内ではほとんど出土していない10世紀後半～11世紀初頭と考えられる灰釉陶器片が2点も出土したことは興味深い。

V 第2次調査(平成20年度)の成果

1 調査要項

(1) 調査要項

発掘調査期間：平成20年4月11日～7月22日

調査面積：7600m²

遺跡コード・略号：N E65-2351・K S M-08

調査担当者：文化財専門員 村上 拓・期限付調査員 駒木野智寛

(2) 第二次調査にいたる経過

平成17年4月着手の第1次調査は、12世紀遺構面の調査完了を区切りに同年11月終了した。本遺跡の調査はその後約2年半にわたる中断期間に入った。この間、岩手県教育委員会は、第1次調査の成果をもとに古期遺構面の存在が想定される範囲を絞り込み、1次調査区14,800m²のうち追加調査が必要な範囲7600m²を示した。これを受け、国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所と財團法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターとの間で委託契約が締結され、平成20年4月、第二次調査として再着手されたのが今次調査である。

なお、調査が中断されていた平成19年4月、第1次調査で検出された「池状遺構」を12世紀の箇池であると主張する歴史研究団体等が、当該地点の現状保存を求める要望書を県教育委員会に提出した。県教育委員会は、事業者である国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所の瞭解のもと、「池状遺構」周辺に盛り土を施したうえで当該箇所を堤体内部に保存するという次善の策を講じることとした。よって「池状遺構」・「州浜状遺構」及びこれに連続する溝跡等を含む範囲は今次調査の対象から除外されることとなった。

2 野外調査と室内整理

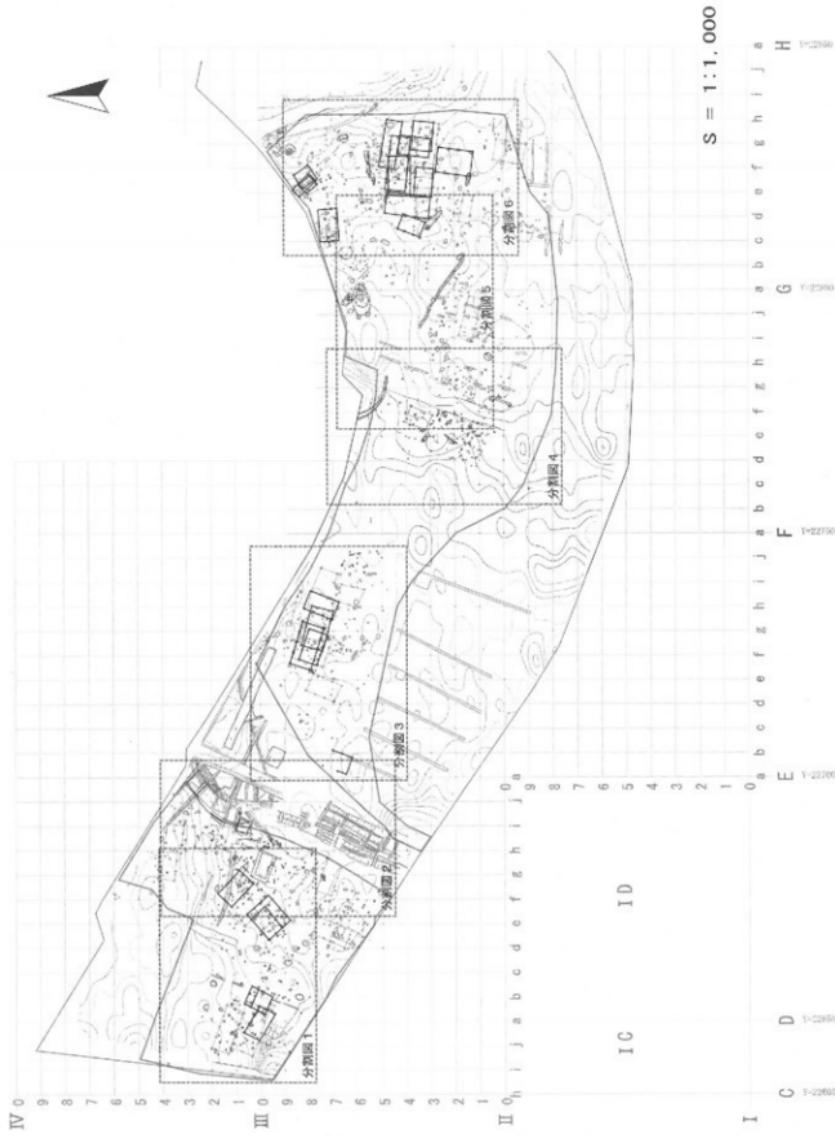
(1) 調査区・着手時の状況

上述の通り、今回の調査区は第1次調査区から絞り込まれた7,600m²の範囲である。第1次調査区から西端部・中央部南縁（川側）及び盛土保護対象の「池状遺構」周辺を除いた区域に相当する。

第1次調査の終了に際しては、遺構やトレンチを残土で埋め戻し、その上を全面をブルーシートで覆って遺構面の保護が行われた。しかし調査再開までの約29ヶ月間にわたって風雨浸水にさらされたことにより、茅・葦の類がシートを突き破って一面に繁茂するなど、調査区は著しく荒れた状態となっていた。第1次調査の遺構確認面は上面から5～10cmほどの深さまで表土化（腐植化・風化）しており、再間にあたってはこの部分を重機で除去することから始めたこととなった。

(2) グリッド配置・地点呼称

グリッド配置は第1次調査で設定したものを踏襲した。現地には第1次調査の区画割杭が一部残っていたが、長く放置されたものであることから使用しないこととし、3級基準点を新設して再度区画



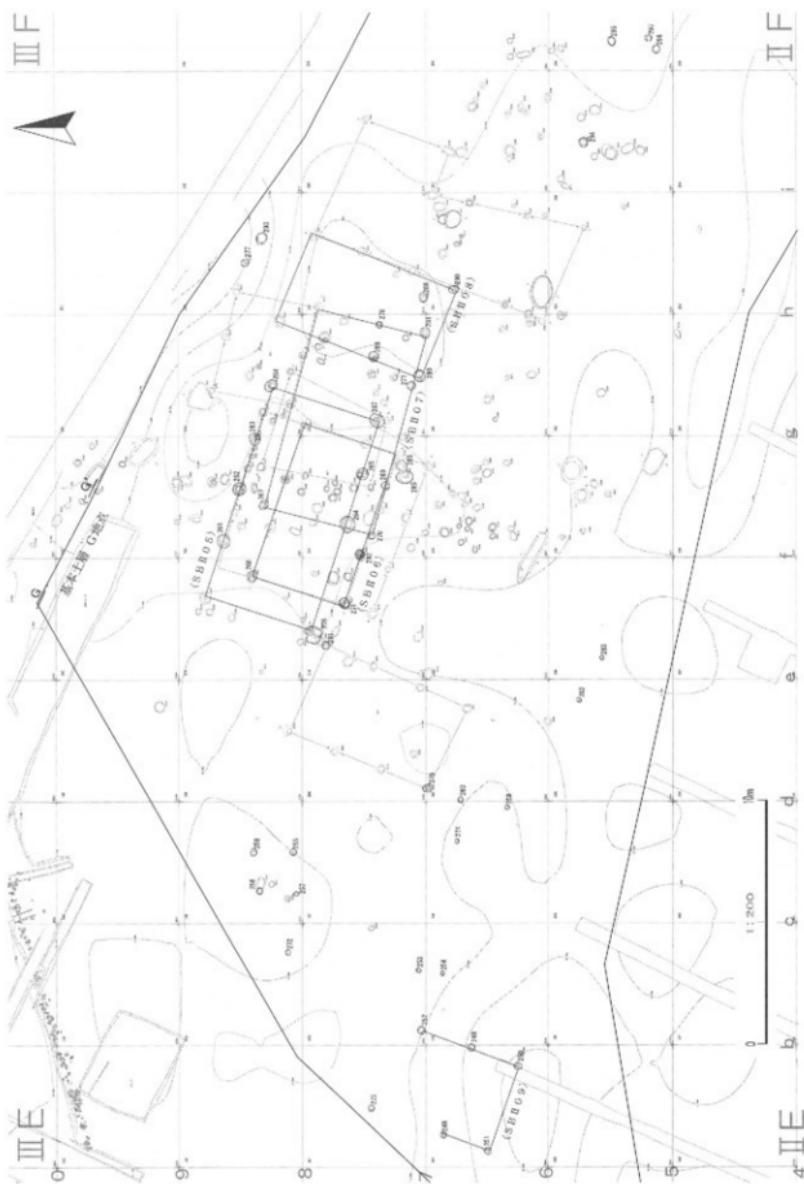
第 II-1 図 衣の関道遺跡第 2 次調査区全体図



第II-2図 衣の関道2次調査分割図1



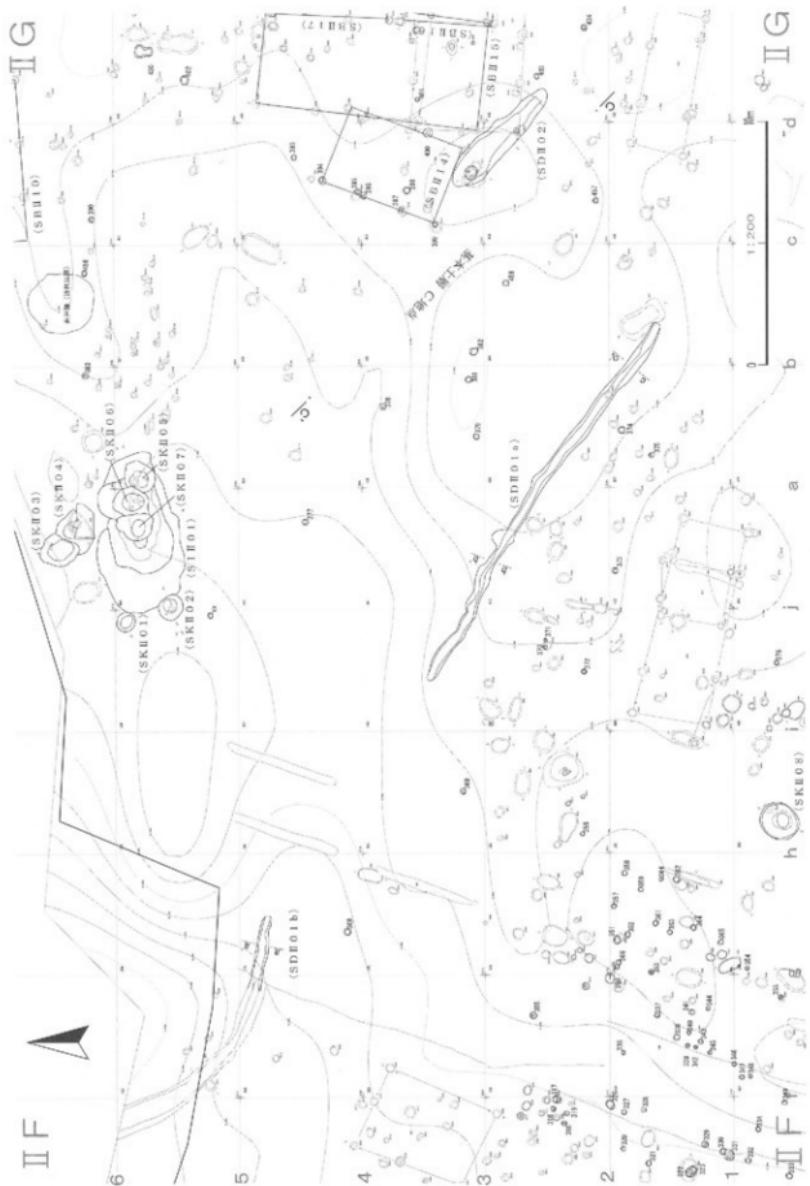
第II-3図 衣の関道2次調査分割図2



第II-4図 衣の関道2次調査分割図3



第 II-5図 衣の関道2次調査分割図 4



第II-6図 衣の関道2次調査分割図5



第II-7図 衣の関道2次調査分割図6

割付を行った。第1次調査では外部委託の写真測量によって遺構実測図を作成したが、今次調査では再設置した区画割付杭を元に簡易通り方測量を行った。

なお、今次調査で作成した平面図と第1次調査の平面図を合成したところ、地点によっては10cm近い差が認められた。旧基準点と新設点との間の測量誤差、あるいは同化方法の違いに起因する誤差かもしれない。また平成20年6月14日に発生し当地域に甚大な被害をもたらした「岩手・宮城内陸地震」では、遺跡の所在する奥州市衣川区で最大震度「震度6強」が観測されており、脆弱な洪水堆積層の上に立地する当調査区が強力な振動の影響を受けた可能性もある。この誤差については原因の特定が困難であることから、修正・補正は行わずそのまま掲載している。

また、調査ではグリッドのほかに便宜的に「池西区」・「池東区」・「中央区」・「東端区」などの呼称を併用した。池西区は池状遺構（盛土保護範囲）より西側の区域全体（主に大グリッドII D～III D）、池東区は池状遺構東縁に隣接する大グリッドII E付近、中央部は大グリッドII F付近、東端区は大グリッドII G付近を示しており、以下、本章の記載でも、調査区内における位置を示す場合にグリッド名と併用している。

（3）遺構名

遺構の名称は、第1次調査に従い「S」で始まる略号と、「01」または「1」（柱穴のみ）で始まる通し番号を用いた。第1次調査の遺構と区別するため、今次調査の検出遺構には略号の後ろに「Ⅱ」を付し、以下のように命名した。なお一部の遺構については本書への掲載にあたり名称の統合・改変を行っている（第II-2表 新旧遺構名対応表参照 p210）。

建物跡：S B II 01～22 堪穴状遺構：S I II 01 土坑：S K II 01～10

溝跡：S D II 01～03 柱穴：S P II 1～458 カマド状遺構：S N II 01～03

（4）室内整理作業

平成20年11月4日から室内整理作業を開始した。遺物の洗浄と仕分けは野外調査時に現地で済ませており、遺物実測、拓影作成、写真撮影、トレース、図版組が主な作業となった。遺構図版作成にあたっては、デジタル化された第1次調査図面との合成が必要なことから、現地で作成した原図をスキャナーで取り込み、Adobe社Illustrator10を用いてトレース・編集を行った。あわせて原稿の執筆・編集・各種表作成をすすめ、平成21年3月31日に作業を終了した。

3 層序と微地形（第II-8図、写真図版II-3）

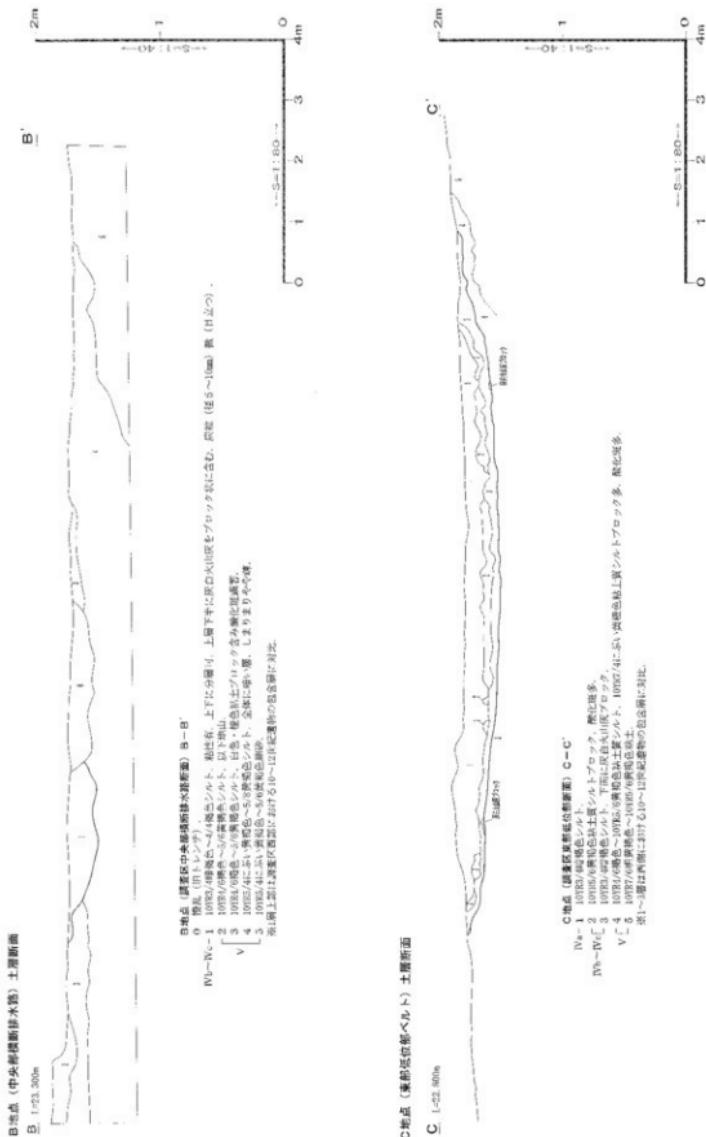
（1）堆積状況の検討

第II-8図は調査区西端（A地点）の断面である。本図ならびに第II-9図は垂直方向に対し水平方向を2分の1に圧縮し示しているので留意されたい。同地点は調査区一帯の堆積状況を模式的に理解するのに適しており、第1次調査においても土層観察が行われている。このときの断面は長い中断期間のうちに崩壊してしまったため、今回は西側に1mほど掘り広げ、新たに断面を設定した。

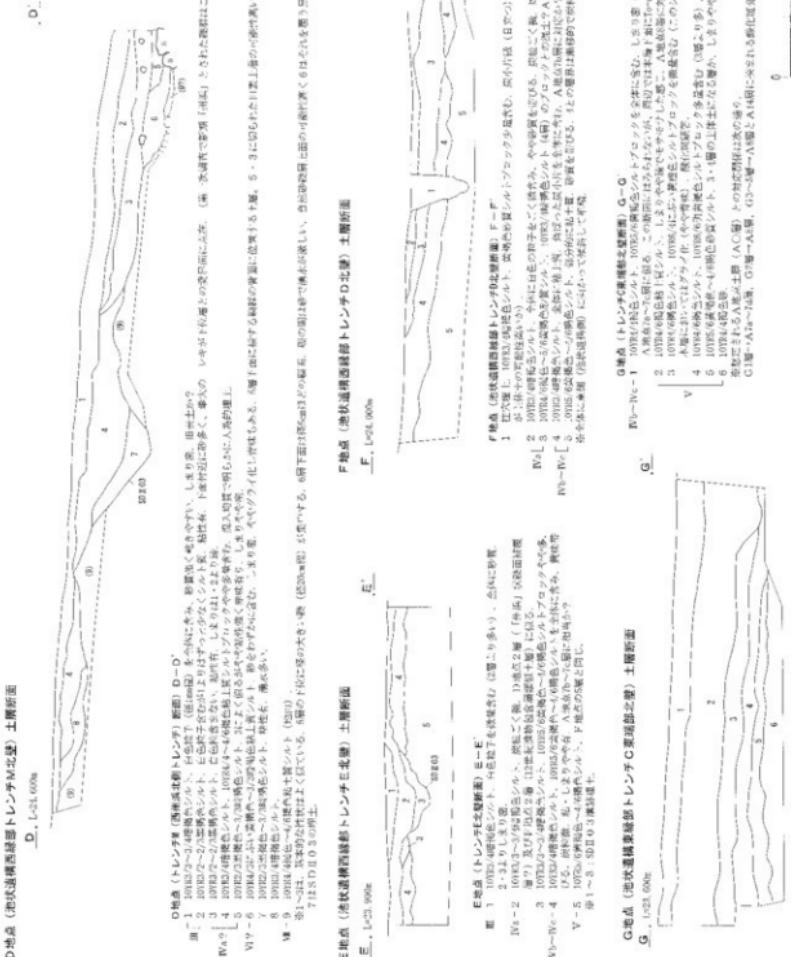
観察される土層のうち最も古いのは地山の24・25層であり、この上を旧表土の黒褐色土層（19～23層）が覆う。これらは南側（岡左方向）の衣川河床に向かって急激に落ち込んでいる。断面北端部（岡右端）付近が調査区北縁に展開する段丘面の縁部に相当するためであり、後世水平に削平された調査区西端部では、段丘崖の落ち際に沿ってのびる黒色土帯が現れた（写真図版II-3下段）。この黒色土



第II-8図 基本十断面(1)



第II-9図 基本土壌断面 (2)



第Ⅲ-10図 基本土層断面 (3)

は縄文時代中期～後期の磨滅した土器片と石器類をわずかに包含している。おそらく段丘上に立地する縄文時代遺跡から流出したものであろう。

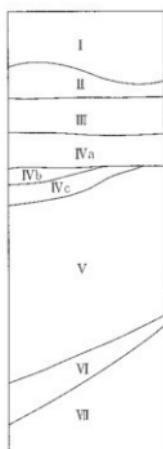
黒色土面はその後、厚い洪水堆積層によって覆われている(7a～18層)。酸化鉄の集積する層・砂質土層・粘土層等が互層をなし、幾度かの冠水・乾燥が繰り返された様子が窺える。全体に明るい色調の洪水堆積層にあって、唯一7b層は暗く粘土質を帯び、少量ながら平安時代前期の遺物を包含する。流水によって生じた凹地に堆積したものと思われ、下部はレンズ状を呈する。最下部に点在する白色ブロックは十和田a降下火山灰と同定(附編2)され、層中から採取した木炭粒は9世紀末～10世紀との年代測定結果を得た(附編1)。これらの分析結果は出土遺物の年代観とともに矛盾がない。第1次調査において「包含層2」とされた土層に相当するものと思われる。

7b層は再び洪水による砂質土層の7a層に被覆されている。この7a層には、上面から下方に向かって入り込む暗褐色土のクラックが顕著である。上位に接する4b層とそれ以下との境界は不整合であり、クラックの暗褐色土と4b層土の性状は明らかに異なることから、4b層の下面に切られる以前には、クラックの暗褐色土層が7a層の上位に存在したと考えることができる。第1次調査では、平安時代前期の「包含層2」の上位に、12世紀遺物を包含し当該期の遺構埋土となる「包含層1」の存在が報告されており、この暗褐色土層が相当する可能性がある。

4b層から採取の炭化物は17世紀後半以降の年代測定値が得られているので(附編1)、4a及び4b層下面の不整合面より上位の土層は近世以降の堆積物と判断される。第1次調査では近世遺構面を厚く被覆する洪水砂層が主に調査区東半部で確認されていることから、4b層の上位にはこの断面にみられない新期の洪水堆積層を想定することができそうである。最上部の現表土は近現代の造成・耕作の影響を受けている。

(2) 基本層序の設定(第II-11図、写真図版II-3～4)

以上をもとに、ここで調査区Ⅰの基本層序の設定を試みる。



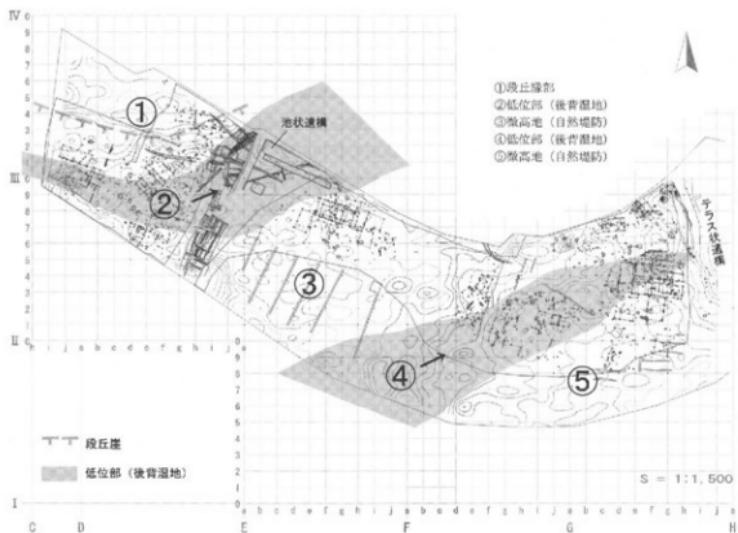
第II-11図 基本層序模式図

A地点の堆積層に対比させると、Iが0～2層、IIは無し、IIIが4a～4b層、IVaが7a層の上位に想定される層、IVbが7a層、IVcが7b～7c層、Vが7d～18層、VIが19～23層、VIIが24層以下、となる。他の地点については、各土層断面図に基本層序との対応関係を示したので参照されたい(第II-8～10図)。

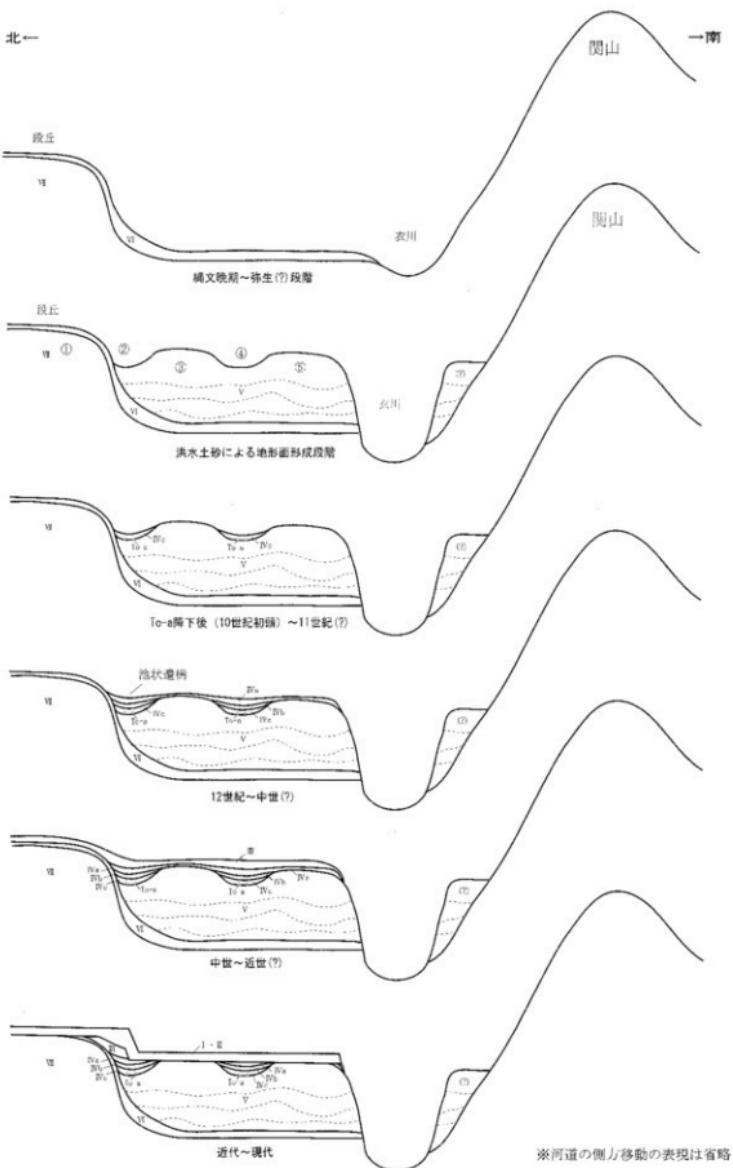
(3) 調査区の微地形 (第II-12・13)

本遺跡は衣川左岸に位置し、調査区北側に接する段丘面から一段低位に形成されたテラス状の平坦面に立地する。上述のように過去の度重なる洪水土砂によって形成された地形面であり、堆積状況と微地形から小規模な自然堤防と後背湿地が交互に並列した構造であることが理解される。第II-12図には調査区内に認められる低位部（後背湿地）の範囲を示した。北から順に①段丘縁部→②低位部→③微高地→④低位部→⑤微高地という配置である。

①は調査区内で最も標高の高い区域である。①の北西端部は開田で大きく削られており本来の遺構分布状況は判断できない。②は段丘崖に沿って形成された低位部で、IV層相当層の堆積がみられる範囲である。調査区北側に連なる段丘崖の直下には、②の延長上に連続する湿地が現況にも観察される。第1次調査の「池状遺構」は、この低位部の一部に位置するものである。③は②と④に挟まれた微高地である。②と同様、北側調査区外に連続する様子が現況で確認できる。③の中央部は遺構の空白域となっているが、削平の度合いが大きい範囲と重なることから、本来の遺構の分布状況は判断できない。④は②に平行して調査区を縱断する低位部で、②と同様、IV層相当層の堆積がみられる。遺構の分布と重複する部分がみられるが、これらの大半はIV層堆積の後に構築されたものとみられる。④は東に向かって次第に深さを減じ、第1次調査の「テラス状遺構」に接したところで途切れている。⑤は④と現河道に挟まれた微高地である。やはり上面は全体に削平を受けており、現河道寄りの地点では後世の河川作用によって根こそぎ失われた部分があるかもしれない。



第II-12図 調査区内の微地形



第II-13図 堆積過程・地形変遷模式図

4 調査成果

(1) 概要

検出遺構 挖立柱建物跡22棟（第1次調査柱穴含み再検討したもの）、柱穴状小土坑158個、竪穴状遺構1棟、土坑10基、溝跡3条、カマド状遺構3基。

出土遺物 平安時代土器類小コンテナ2箱、12世紀かわらけ小コンテナ1箱、金属遺物（刀子・釘・鉄滓・小柄はか）16点、土鍤2点、縄文時代土器・石器少量、近世陶磁器片少量。

(2) 遺構

①掘立柱建物跡・柱穴群

先述の通り、第1次調査では12世紀遺構分布面までの調査を済ませており、今回の調査はさらに下位に想定された平安時代前期遺構面を主な対象としていた。ところが、調査を再開してみると、埋土や出土遺物などから12世紀以降の可能性が高い柱穴が多く検出されはじめた。また、第1次調査で記録済みの柱穴の中には、柱痕部分のみが掘り上げられ、掘り方埋土が掘り残されているものが複数含まれていることが判明した。

地点によって様相が複雑に変化する洪水堆積層の上面において、遺構埋土の識別を行うことは極めて困難な作業である。今次調査でも大いに悩まされ、第1次調査での苦勞が偲ばれた。とはいえ、第1次調査と今次調査の柱穴群を層位的に分離できるものとして扱う妥当性は失われ、第1次調査の成果の一部を修正する事が生じたわけである。よって、以下では第1次・第二次の成果を併せて柱穴配置の再検討を行い、新たな建物復元案として提示することとした。第1次調査の建物プランに重複する例が多く含まれているが、先に示されたこれらを否定するものではなく、別案の追加提示であることを理解されたい。

S B II 01（第II-14図）

〔位置・検出状況〕 池西区、III D 0 a グリッド杭付近に位置する。

〔重複〕 S B II 02、第1次調査 S B 01のプランと重複する。新旧関係は不明。

〔平面形式と規模〕 桁行630cm、梁行360cmの掘立柱建物跡である。プラン内の面積は22.7m²である。

〔建物方位〕 N - 27° - E、N - 59.5° - W。

〔構成柱穴〕 〔今次調査〕 S P II 18・24・25・38・50・55・61。〔第1次調査〕 S P 26。

〔柱間寸法〕 桁方向は210cm、梁方向は360cmが用いられる。

〔出土遺物〕 なし。

〔帰属年代〕 不明である。

S B II 02（第II-14図）

〔位置・検出状況〕 池西区、III D 0 b グリッド杭付近に位置する。

〔重複〕 S B II 01、第1次調査 S B 01のプランと重複する。新旧関係は不明。

〔平面形式と規模〕 桁行390cm以上、梁行480cm以上の掘立柱建物跡とみられる。現状のプラン内の面積は約18.7m²である。本来は桁行方向にさらに大きい建物であったと考えられるが、他の構成柱穴を見いだすことができなかった。

〔建物方位〕 N - 28° - E、N - 66° - W。

〔構成柱穴〕 〔今次調査〕 S P II 30・48・53・57・69・70・73・94・101・103。〔第1次調査〕 S P 90。

〔柱間寸法〕 桁方向は120cm・150cm、梁方向は150cm・330cmが用いられる。

〔出土遺物〕 S P II 53・101・103等から、かわらけ片が出土している(第II-26図5、8、9)。

〔帰属年代〕 不明である。

S B II 03 (第II-14図)

〔位置・検出状況〕 池西区、III D 0 e グリッド杭付近に位置する。

〔重複〕 第1次調査 S B 04、S B 10のプランと重複する。新旧関係は不明。

〔平面形式と規模〕 桁行690cm、梁行600cmの掘立柱建物跡である。プラン内の面積は41.4m²である。

〔建物方位〕 N - 49.5° - E、N - 41.5° - W。

〔構成柱穴〕 〔今次調査〕 S P II 119。〔第1次調査〕 S P 37・38・39・40・42・43・73・74・75・76・78・79・80・81・126。

〔柱間寸法〕 桁方向は120cm・210cm・240cm、梁方向は180cm、210cmが用いられる。

〔出土遺物〕 なし。

〔帰属年代〕 不明である。

S B II 04 (第II-15図)

〔位置・検出状況〕 池西区、III D 1 f グリッド杭付近に位置する。

〔重複〕 第1次調査 S B 10のプランと重複する。新旧関係は不明。

〔平面形式と規模〕 桁行660cm、梁行390cmの掘立柱建物跡である。プラン内の面積は25.7m²である。

〔建物方位〕 N - 43.5° - E、N - 47° - W。

〔構成柱穴〕 〔今次調査〕 S P II 157・175。〔第1次調査〕 S P 82・83・85・86・240・271。

〔柱間寸法〕 桁方向は180cm・240cm、梁方向は390cmが用いられる。

〔出土遺物〕 なし。

〔帰属年代〕 不明である。

S B II 05 (第II-15図、写真図版II-6)

〔位置・検出状況〕 池東区、II E 8 f グリッド杭付近に位置する。

〔重複〕 S B II 06、S B II 07、第1次調査 S B 12、S B 14、S B 15のプランと重複する。新旧関係は不明。

〔平面形式と規模〕 桁行900cm、梁行450cmの掘立柱建物跡である。プラン内の面積は40.5m²である。

〔建物方位〕 N - 18° - E、N - 72° - W。

〔構成柱穴〕 〔今次調査〕 S P II 261・262・263・264・265・276・284・287。〔第1次調査〕 S P 340・344・347・419・420・441・449・479。

〔柱間寸法〕 桁方向は210cm・240cm、梁方向は450cmが用いられる。

〔出土遺物〕 なし。

〔帰属年代〕 不明である。

S B II 06 (第II-15図、写真図版II-6)

〔位置・検出状況〕 池東区、II E 8 f グリッド杭付近に位置する。

〔重複〕 S B II 05、S B II 07、第1次調査 S B 12、S B 15のプランと重複する。新旧関係は不明。
〔平面形式と規模〕 桁行660cm、梁行390cmの掘立柱建物跡である。プラン内の面積は25.7m²である。
〔建物方位〕 N - 19° - E、N - 71° - W。
〔構成柱穴〕 〔今次調査〕 S P II 268・271・286・292。〔第1次調査〕 S P 303・304・305・306・307・308・309・310。
〔柱間寸法〕 桁方向は210cm・240cm、梁方向は390cmが用いられる。
〔出土遺物〕 なし。
〔帰属年代〕 不明である。

S B II 07 (第II-16図、写真図版II-6)

〔位置・検出状況〕 池東区、II E 8 g グリッド杭付近に位置する。
〔重複〕 S B II 05、S B II 06、S B II 08、第1次調査 S B 12、S B 14、S B 15のプランと重複する。新旧関係は不明。
〔平面形式と規模〕 桁行840cm、梁行450cmの掘立柱建物跡である。プラン内の面積は37.8m²である。
〔建物方位〕 N - 14.5° - E、N - 75° - W。
〔構成柱穴〕 〔今次調査〕 S P II 267・269・270・277・281。〔第1次調査〕 S P 375・376・377・428・438。
〔柱間寸法〕 桁方向は210cm、梁方向は450cmが用いられる。
〔出土遺物〕 なし。
〔帰属年代〕 不明である。

S B II 08 (第II-16図、写真図版II-6)

〔位置・検出状況〕 池東区、II E 7 h グリッド杭付近に位置する。
〔重複〕 S B II 07、第1次調査 S B 14、S B 16のプランと重複する。新旧関係は不明。
〔平面形式と規模〕 桁行630cm、梁行390cmの掘立柱建物跡である。プラン内の面積は24.6m²である。
〔建物方位〕 N - 22° - E、N - 68.5° - W。
〔構成柱穴〕 〔今次調査〕 S P II 280・288・290。〔第1次調査〕 S P 461・462・463・464・473・476・494。
〔柱間寸法〕 桁方向は210cm、梁方向は390cmが用いられる。
〔出土遺物〕 なし。
〔帰属年代〕 不明である。

S B II 09 (第II-16図)

〔位置・検出状況〕 束端区、II E 7 b グリッド杭付近に位置する。
〔重複〕 なし。
〔平面形式と規模〕 桁行420cm、梁行360cmの掘立柱建物跡である。プラン内の面積は15.1m²である。
〔建物方位〕 N - 20.5° - E、N - 70.5° - W。
〔構成柱穴〕 〔今次調査〕 S P II 248・249・250・251・252。
〔柱間寸法〕 桁方向は210cm、梁方向は360cmが用いられる。
〔出土遺物〕 なし。
〔帰属年代〕 不明である。

S B II 10 (第II-17図)

〔位置・検出状況〕 東端区、II G 7 d グリッド杭付近に位置する。

〔重複〕 第1次調査 S B 30のプランと重複する。新旧関係は不明。

〔平面形式と規模〕 桁行660cm、梁行390cmの掘立柱建物跡である。プラン内の面積は25.7m²である。

〔建物方位〕 N - 86° - E、N - 5° - W。

〔構成柱穴〕 〈今次調査〉 S P II 384・388・392。〈第1次調査〉 S P 997・1041・1042・1043・1045・1046・1141。

〔柱間寸法〕 桁方向は210cm・240cm、梁方向は120cm、270cmが用いられる。

〔出土遺物〕 S P II 384から被焼した粘土小塊、同392から土師質土器細片と板状の鉄製品(第II-28図89)が出土している。

〔帰属年代〕 不明である。

S B II 11 (第II-17図)

〔位置・検出状況〕 東端区、II G 8 e グリッド杭付近に位置する。

〔重複〕 S B II 12、S B II 13、第1次調査 S B 29のプランと重複する。新旧関係は不明。

〔平面形式と規模〕 桁行480cm以上、梁行210cm以上の掘立柱建物跡である。プラン内の面積は10.1m²である。本来はさらに大きい建物であった可能性があるが、他の構成柱穴を見いだすことができなかつた。

〔建物方位〕 N - 43° - E、N - 44.5° - W。

〔構成柱穴〕 〈今次調査〉 S P II 405。〈第1次調査〉 S P 994・1070・1162・1167・1172。

〔柱間寸法〕 桁方向は240cm、梁方向は210cmが用いられる。

〔出土遺物〕 S P II 405から土師質土器細片が出土している。

〔帰属年代〕 不明である。

S B II 12 (第II-17図)

〔位置・検出状況〕 東端区、II G 8 e グリッド杭付近に位置する。

〔重複〕 S B II 11、S B II 13、第1次調査 S B 29のプランと重複する。新旧関係は不明。

〔平面形式と規模〕 桁行240cm以上、梁行300cm以上の掘立柱建物跡である。プラン内の面積は7.2m²である。本来はさらに大きい建物であった可能性があるが、他の構成柱穴を見いだすことができなかつた。

〔建物方位〕 N - 45.5° - E、N - 42° - W。

〔構成柱穴〕 〈今次調査〉 S P II 411。〈第1次調査〉 S P 982・985・990・1079・1175。

〔柱間寸法〕 桁方向は120cm、梁方向は300cmが用いられる。

〔出土遺物〕 なし。

〔帰属年代〕 不明である。

S B II 13 (第II-17図)

〔位置・検出状況〕 東端区、II G 8 f グリッド杭付近に位置する。

〔重複〕 S B II 11、S B II 12、第1次調査 S B 29のプランと重複する。新旧関係は不明。

〔平面形式と規模〕 360cm × 330cmの掘立柱建物跡である。プラン内の面積は11.9m²である。本来はさらに大きい建物であった可能性があるが、他の構成柱穴を見いだすことができなかつた。

〔建物方位〕 N - 57° - E、N - 35° - W。

〔構成柱穴〕 〔今次調査〕 S B II xx (未命名)。〔第1次調査〕 S P 981・984・1175。

〔柱間寸法〕 330cm・360cmが用いられる。

〔出土遺物〕 なし。

〔帰属年代〕 不明である。

S B II 14 (第II-17図)

〔位置・検出状況〕 東端区、II G 4 d グリッド杭付近に位置する。

〔重複〕 S B II 15、第1次調査 S B 24のプランと重複し、S D II 02に近接する。新旧関係は不明。

〔平面形式と規模〕 桁行480cm、梁行330cmの掘立柱建物跡である。プラン内の面積は15.8m²である。

〔建物方位〕 N - 21° - E、N - 68.5° - W。

〔構成柱穴〕 〔今次調査〕 S P II 394・395・397・399・400。〔第1次調査〕 S P 790・792・794・829・900。

〔柱間寸法〕 桁方向は150cm・18cm、梁方向は330cmが用いられる。

〔出土遺物〕 なし。

〔帰属年代〕 不明である。

S B II 15 (第II-18図)

〔位置・検出状況〕 東端区、II G 4 d グリッド杭付近に位置する。

〔重複〕 S B II 14、第1次調査 S B 22、S B 24、S B 25のプランと重複し、S D II 02に近接する。新旧関係は不明。

〔平面形式と規模〕 桁行900cm、梁行450cmの掘立柱建物跡である。プラン内の面積は40.5m²である。

〔建物方位〕 N - 8° - E、N - 84° - W。

〔構成柱穴〕 〔第1次調査〕 S P 805・821・822・823・824・825・826・827・828・868・906。

〔柱間寸法〕 桁方向は210cm・240cm、梁方向は450cmが用いられる。

〔出土遺物〕 なし。

〔帰属年代〕 不明である。

S B II 16 (第II-18図)

〔位置・検出状況〕 東端区、II G 3 e グリッド杭付近に位置する。

〔重複〕 S B II 15、第1次調査 S B 22、S B 23、S B 24、S B 25のプランと重複する。新旧関係は不明。

〔平面形式と規模〕 桁行600cm、梁行360cmの掘立柱建物跡である。プラン内の面積は21.6m²である。

〔建物方位〕 N - 4.5° - E、N - 85° - W。

〔構成柱穴〕 〔第1次調査〕 S P 868・869・870・871・872・873・907・930。

〔柱間寸法〕 桁方向は200cm、梁方向は360cmが用いられる。

〔出土遺物〕 なし。

〔帰属年代〕 不明である。

S B II 17 (第II-18図)

〔位置・検出状況〕 東端区、II G 4 e グリッド杭付近に位置する。

〔重複〕 S B II 15、S B II 18、S B II 19、第1次調査 S B 24、S B 28のプランと重複する。新旧関係は不明。

〔平面形式と規模〕 桁行810cm、梁行450cmの掘立柱建物跡である。プラン内の面積は36.5m²である。

〔建物方位〕 N - 2.5° - E、N - 90° - W。

〔構成柱穴〕 〔今次調査〕 S P II 429・431。〔第1次調査〕 S P 839・842・859・932・1048・1053。

〔柱間寸法〕 桁方向は240cm・270cm・300cm、梁方向は450cmが用いられる。

〔出土遺物〕 S P II 431から、かわらけ小片が出土している。

〔帰属年代〕 不明である。

S B II 18 (第II-19図)

〔位置・検出状況〕 東端区、II G 4 f グリッド杭付近に位置する。

〔重複〕 S B II 17、S B II 19、S B II 20、第1次調査 S B 26、S B 27、S B 28のプランと重複する。新旧関係は不明。

〔平面形式と規模〕 桁行1110cm、梁行420cm・390cmの掘立柱建物跡である。東西両端の梁間が異なる。プラン内の面積は45.0m²である。

〔建物方位〕 N - 7° - E、N - 84.5° - W。

〔構成柱穴〕 〔今次調査〕 S P II 428。〔第1次調査〕 S P 841・845・899・921・944・945・958・965・975・1049・1051。

〔柱間寸法〕 桁方向は210cm・270cm、梁方向は420cm・390cmが用いられる。

〔出土遺物〕

〔帰属年代〕 不明である。

S B II 19 (第II-19図)

〔位置・検出状況〕 東端区、II G 4 g グリッド杭付近に位置する。

〔重複〕 S B II 17、S B II 18、S B II 20、第1次調査 S B 26、S B 28のプランと重複する。新旧関係は不明。

〔平面形式と規模〕 桁行990cm、梁行330cmの掘立柱建物跡である。プラン内の面積は32.7m²である。

〔建物方位〕 N - 10° - E、N - 80° - W。

〔構成柱穴〕 〔第1次調査〕 S P 847・854・856・860・861・862・875・939・955・961・1020・1057。

〔柱間寸法〕 桁方向は180cm・210cm、梁方向は330cmが用いられる。

〔出土遺物〕 なし。

〔帰属年代〕 不明である。

S B II 20 (第II-19図)

〔位置・検出状況〕 東端区、II G 3 g グリッド杭付近に位置する。

〔重複〕 S B II 18、S B II 19、S B II 21、第1次調査 S B 24、S B 26、S B 27のプランと重複する。新旧関係は不明。

〔平面形式と規模〕 桁行630cm、梁行390cmの掘立柱建物跡である。プラン内の面積は24.6m²である。

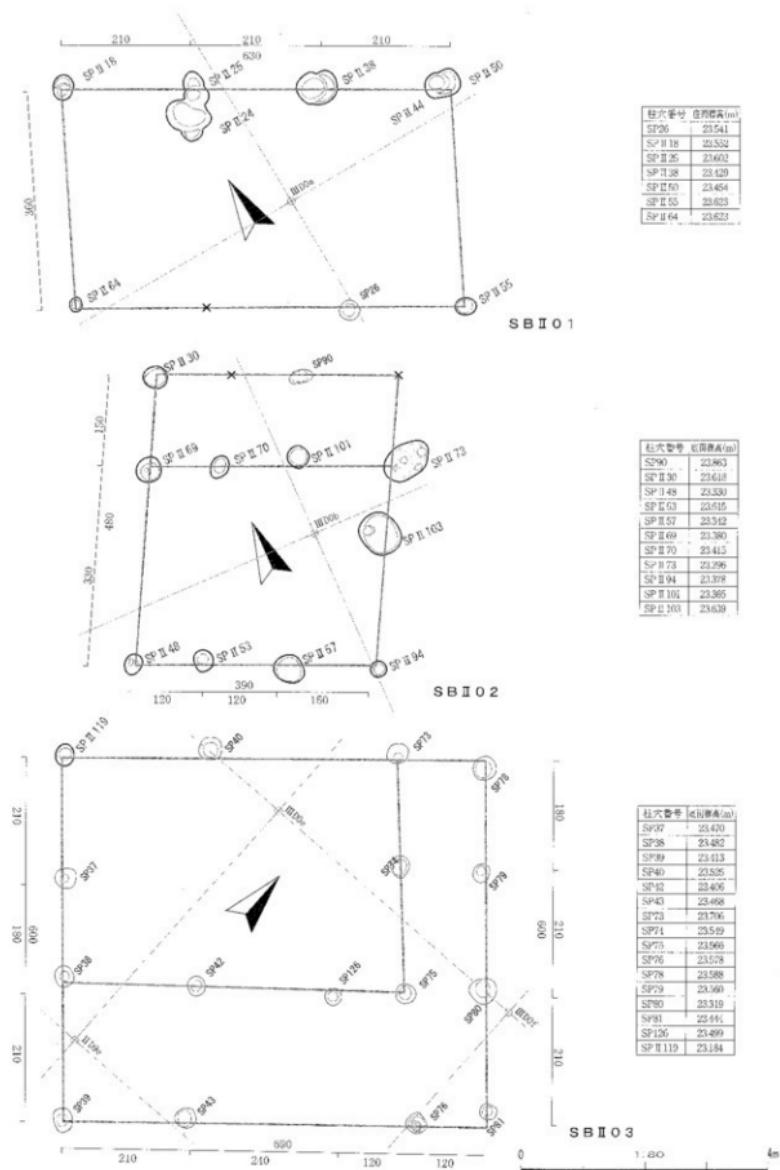
〔建物方位〕 N - 7.5° - E、N - 83° - W。

〔構成柱穴〕 〔第1次調査〕 S P 816・909・910・911・913・914・915・966。

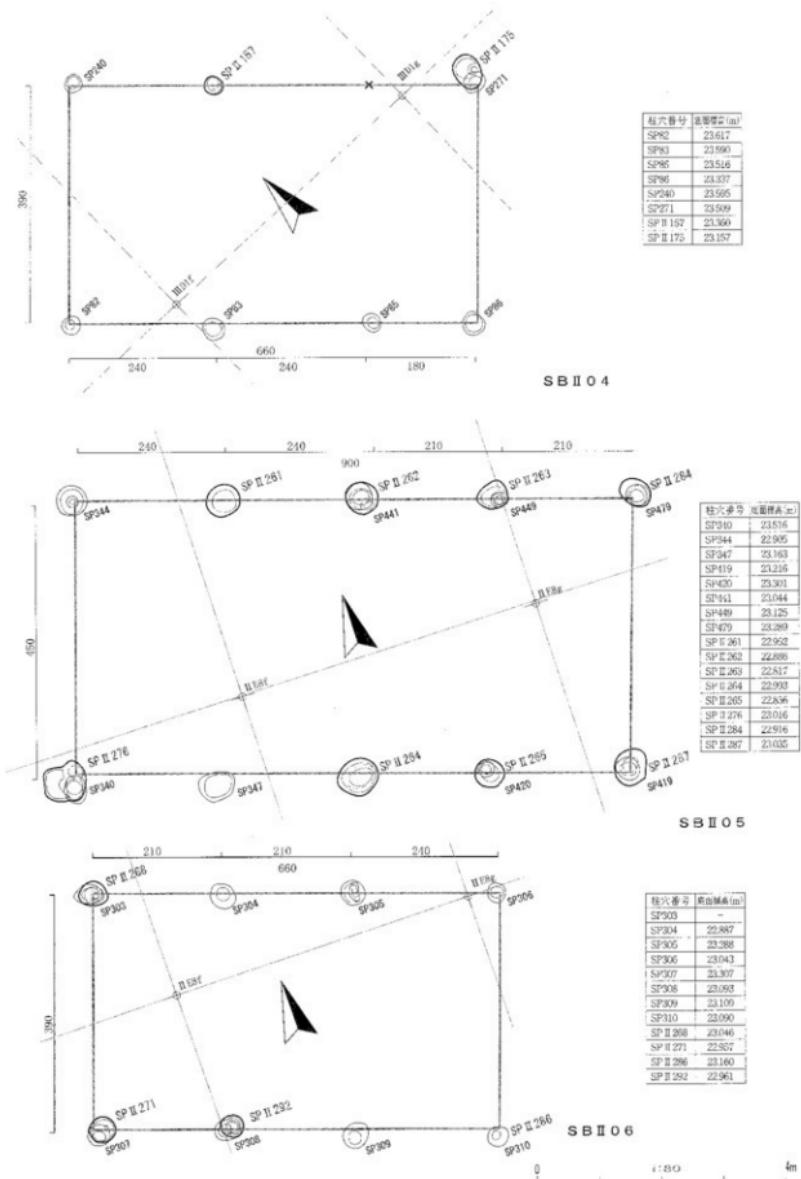
〔柱間寸法〕 桁方向は210cm、梁方向は390cmが用いられる。

〔出土遺物〕 なし。

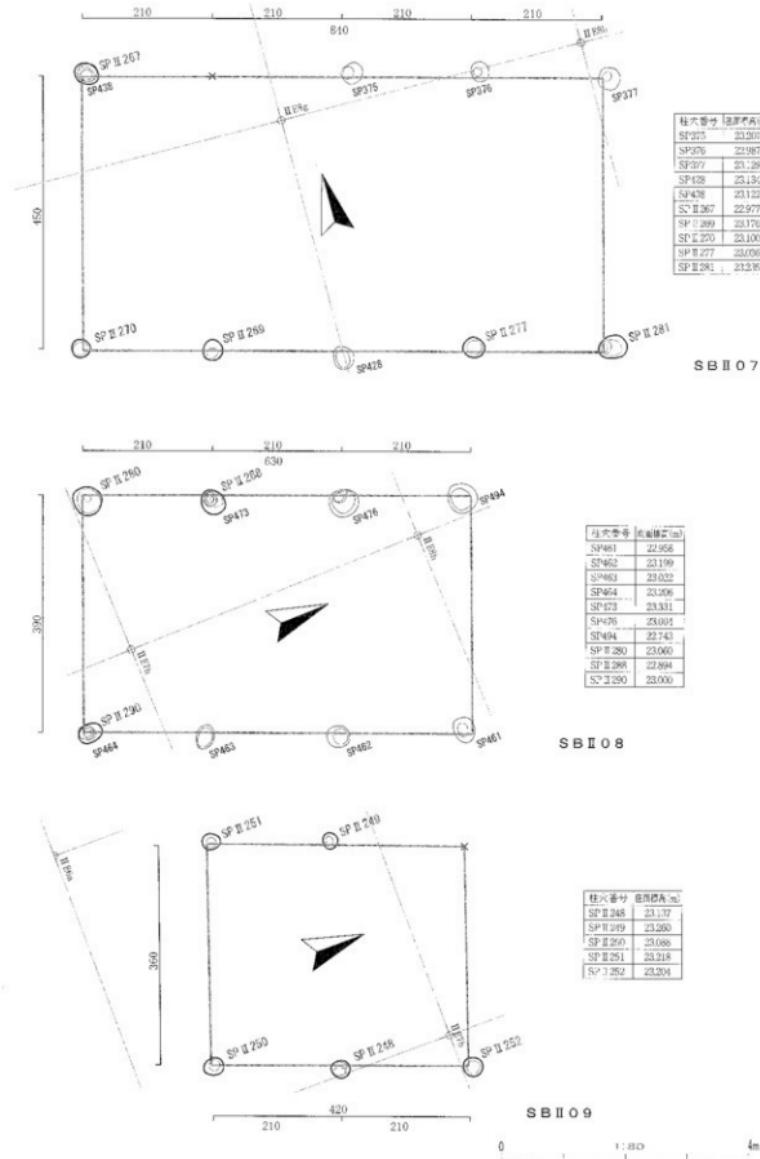
〔帰属年代〕 不明である。



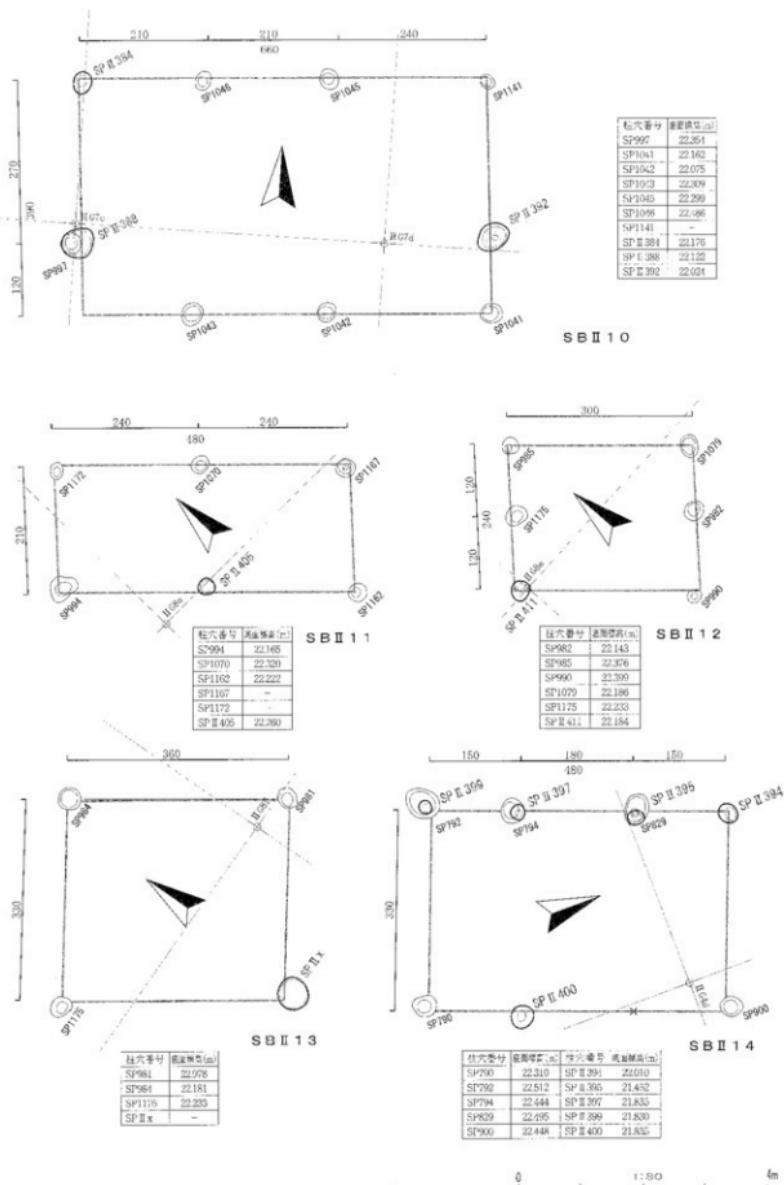
第II-14図 建物跡(1)



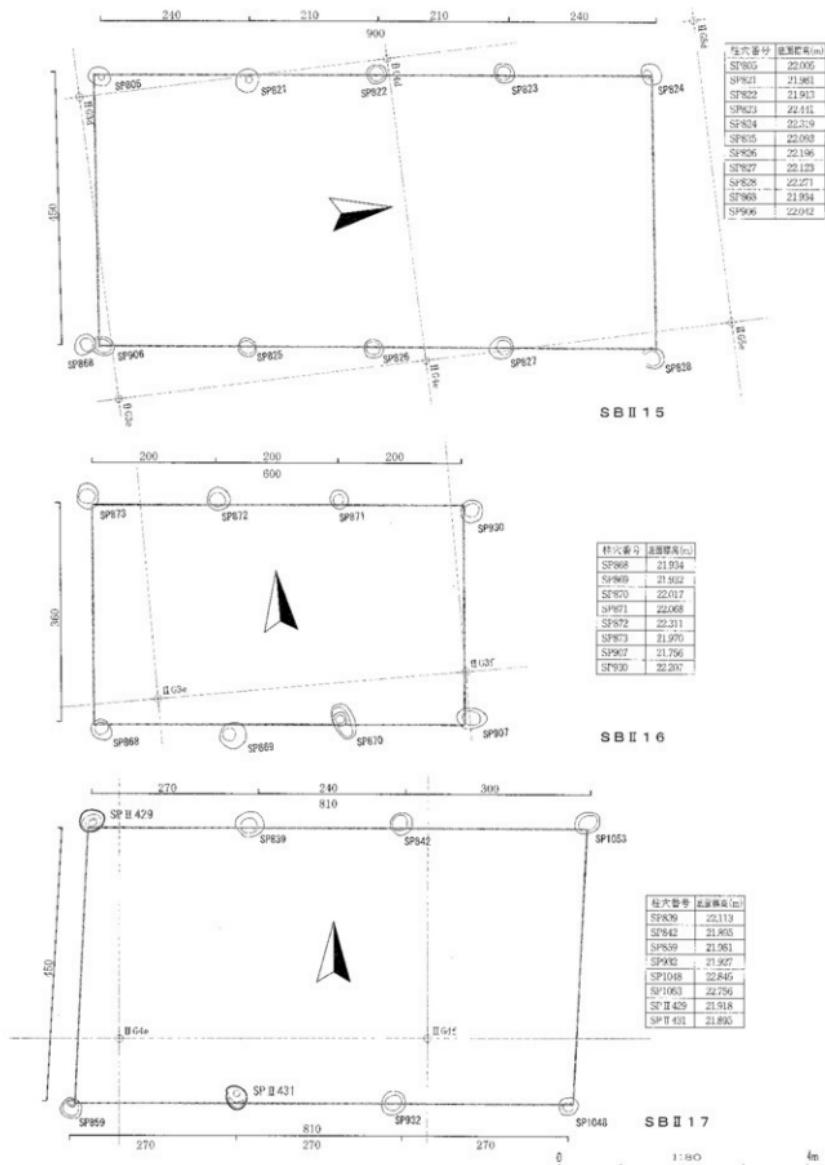
第II-15図 建物跡(2)



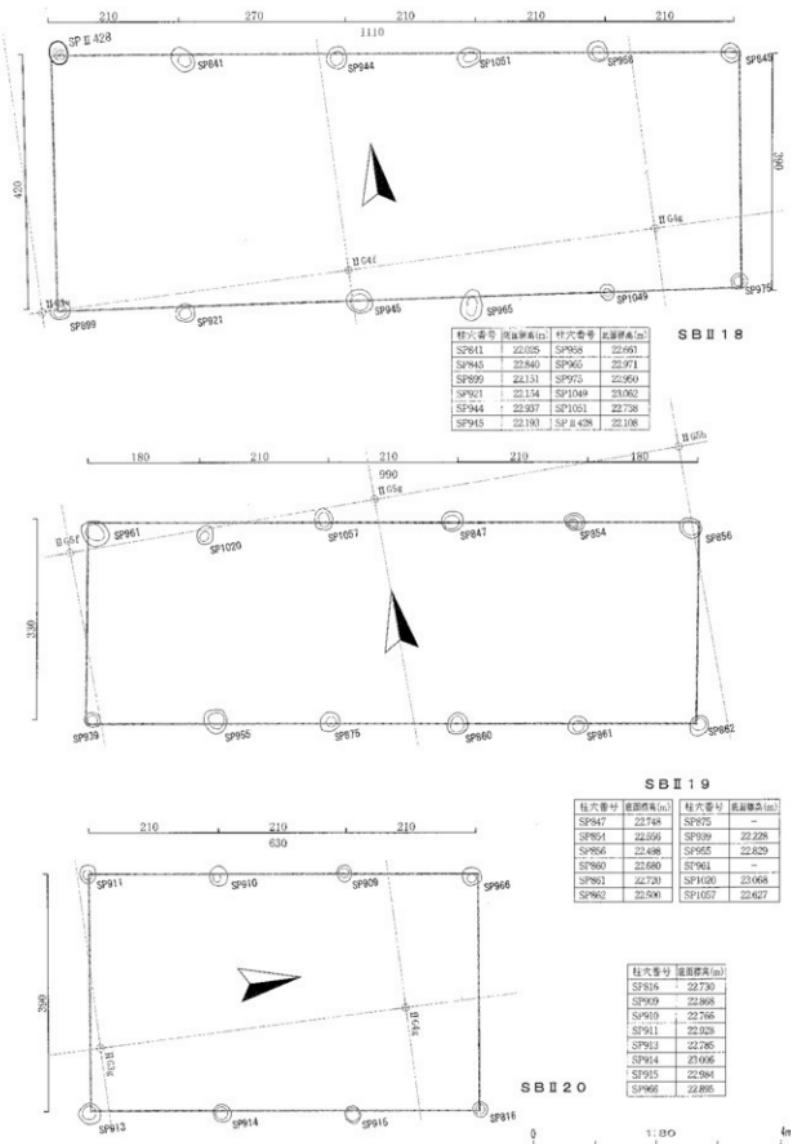
第 II -16 図 建物跡 (3)



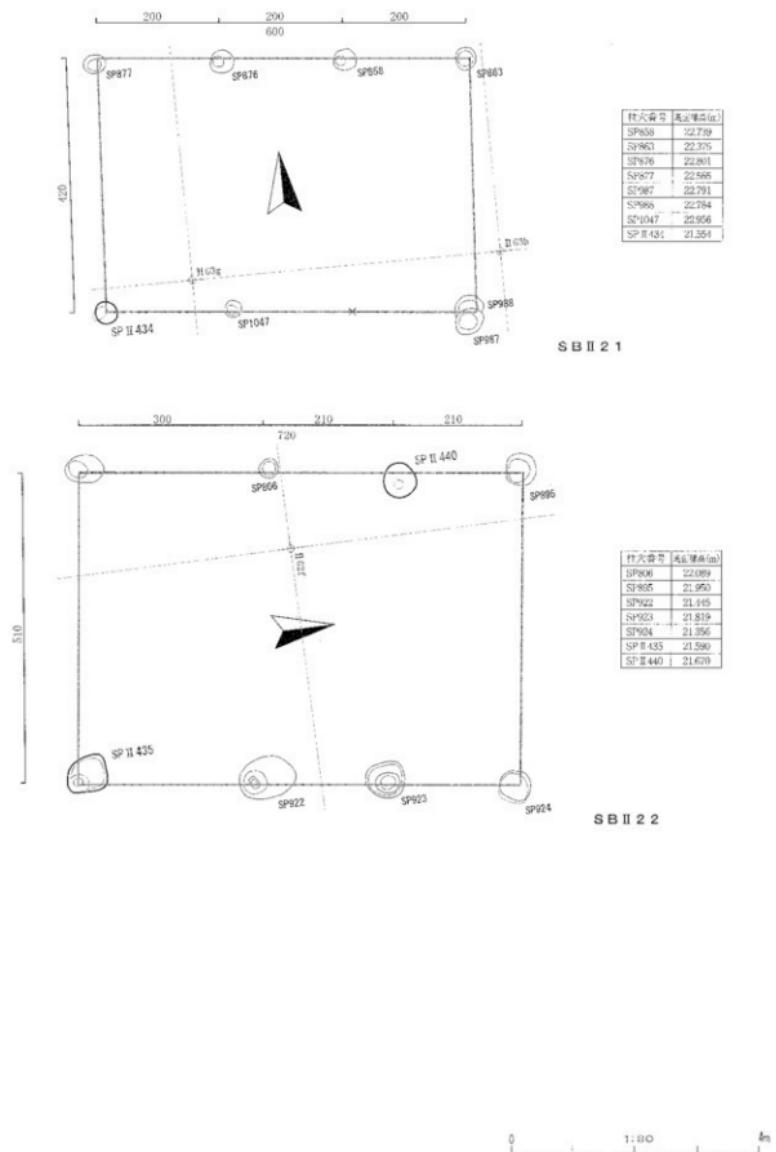
第II-17図 建物跡(4)



第II-18図 建物跡(5)



第II-19図 建物跡 (6)



S B II 21 (第II-20図)

- 〔位置・検出状況〕 東端区、II G 3 g グリッド杭付近に位置する。
- 〔重複〕 S B II 20、第1次調査 S B 24、S B 26、S B 27のプランと重複する。新旧関係は不明。
- 〔平面形式と規模〕 桁行600cm、梁行420cmの掘立柱建物跡である。プラン内の面積は25.2m²である。
- 〔建物方位〕 N - 4° - E、N - 84.5° - W。
- 〔構成柱穴〕 〈今次調査〉 S P II 434。〈第1次調査〉 S P 858・863・876・877・987・988・1047。
- 〔柱間寸法〕 桁方向は200cm、梁方向は420cmが用いられる。
- 〔出土遺物〕 なし。
- 〔帰属年代〕 不明である。

S B II 22 (第II-20図)

- 〔位置・検出状況〕 東端区、II G 2 f グリッド杭付近に位置する。
- 〔重複〕 カマド状遺構 S Z II 03と重複する。新旧関係は不明。
- 〔平面形式と規模〕 桁行720cm、梁行510cmの掘立柱建物跡である。プラン内の面積は36.7m²である。
- 〔建物方位〕 N - 7.5° - E、N - 82° - W。
- 〔構成柱穴〕 〈今次調査〉 S P II 435・440。〈第1次調査〉 S P 806・895・922・923・924。
- 〔柱間寸法〕 桁方向は210cm・300cm、梁方向は510cmが用いられる。
- 〔出土遺物〕 なし。
- 〔帰属年代〕 不明である。

②豎穴状遺構

S I II 01 (第II-21・22図、写真図版II-7)

- 〔位置・検出状況〕 中央区北東部、II F 5 j グリッド付近に位置する。
- 〔規模・形状〕 平面形は390×350cmの隅丸方形を呈する。検出面からの残存深度は29cmである。中央部ではほぼ平坦な底面は、外縁に向かって緩やかに深さを減じ、壁と底面との境界が不明瞭のままながらに開口部へと至る。なお、精査時は重複する土坑群との関係が不明であったため、共通の断面を設定し一度に埋土を掘り上げた。このため本遺構の平面記録時には床面の東半部が失われた状態となっている。
- 〔埋土と堆積状況〕 第II-22図は本遺構及び重複する土坑群の共通土層断面である。a-a'の6～8層が本遺構の埋土に相当する。底面上には暗褐色シルト8・7層の堆積し、半埋没となった段階で炭化物を多量に含む6層が流れ込んでいる。この炭化物には多量の穀類が含まれていた。6層は本遺構の西辺に接する土坑 S K II 01・同02の埋土に連続しており、これらの堆積が並行して進んだことを示している。S K II 01から採取した炭化種子の一部は、分析の結果、イネ・アワ・キビ・オオムギ・コムギ・アサ・マメ等と同定された。
- 〔重複遺構〕 土坑 S K II 01・同02は本遺構西辺の南北両端に接する。埋土の関係から、これらは本遺構と併存し同時に埋没したものと考えられる。また、東半部に重複する S K II 06に切られ、同07を切っている。なお、断面a-a'で S K II 07の埋土に切られている12・13層は、さらに別の重複遺構の埋土とみられる。完掘後も全体像が把握できず未命名となっているが、a-a'東端の「5?層」に連続し稍円形様のプランをもつ遺構の可能性があり、当地点で最も古期に位置づけられる。
- 〔出土遺物〕 埋土から性格不明の鉄製品(第II-28図93)が出土している。このほか土師質の土器細片

が微量認められた。

〔帰属年代〕 帰属年代を示す出土遺物はないが、放射性炭素年代測定による6層出土炭化物の暦年較生年代は1427AD-1457ADと算出された。よって帰属年代は15世紀を想定したい。

③土坑

S K II 01 (第II-21・22図、写真図版II-9)

〔位置・検出状況〕 中央区北東部、II F 5 i グリッドに位置する。

〔規模・形状〕 平面形は82×76cmの略円形を呈する。検出面からの残存深度は12cmである。底面中央部は平坦に整うが、壁との境界は不明瞭で内湾しながら滑らかに立ち上がる。

〔埋土と堆積状況〕 底面直上には地山ブロックを含む暗褐色シルトが堆積し、その上に炭化物を多量含む土層が堆積している。S I II 01埋土に連続するものである。本遺構1層から採取した炭化種子の一部は、分析の結果、イネ・アワ・キビ・オオムギ・コムギ・アサ・マメ等と同定された。

〔重複遺構〕 S I II 01・S K II 02と併存したものとみられる。従って、本遺構もS K II 06より古く、S K II 05・同07より新しいと考えられる。

〔出土遺物〕 土師質の土器細片が微量認められた。不掲載とした。

〔帰属年代〕 S I II 01の6層出土炭化物の年代測定値から、15世紀を想定したい。

S K II 02 (第II-21・22図、写真図版II-9)

〔位置・検出状況〕 中央区北東部、II F 5 j グリッド付近に位置する。

〔規模・形状〕 平面形は104×93cmの略円形を呈する。検出面からの残存深度は16cmである。底面中央部は平坦に整うが、壁との境界は不明瞭で内湾しながら滑らかに立ち上がる。

〔埋土と堆積状況〕 底面直上には地山ブロックを含む暗褐色シルトが堆積し、その上に炭化物を多量含む土層が堆積している。S I II 01埋土に連続するものである。

〔重複遺構〕 S I II 01・S K II 01と併存したものとみられる。従って、本遺構もS K II 06より古く、S K II 05・同07より新しいと考えられる。

〔出土遺物〕

〔帰属年代〕 S I II 01の6層出土炭化物の年代測定値から、15世紀を想定したい。

S K II 03 (第II-21・22図、写真図版II-8)

〔位置・検出状況〕 中央区北東部、II F 6 j グリッドに位置する。

〔規模・形状〕 平面形は164×136cmの梢円形を呈する。検出面からの残存深度は44cmである。底面中央はほぼ平坦だが、壁との境界は不明瞭で内湾外傾しながら立ち上がる。

〔埋土と堆積状況〕 暗褐色シルトの単層が堆積する。自然の流入土により埋没したものとみられる。

〔重複遺構〕 S K II 04に切られている。

〔出土遺物〕 なし。

〔帰属年代〕 形態・堆積状況が類似する他の土坑と共に群を形成しており、層位的事実によりこれらの土坑群がS I II 01の前後の時期にまたがって位置づけられることから、S I II 01の帰属年代と同様に15世紀を想定したい。

S K II 04 (第II-21・22図、写真図版II-8)

〔位置・検出状況〕中央区北東部、II F 6 j グリッドに位置する。

〔規模・形状〕攪乱により一部を失っているが、平面形は180×150cm程の楕円形を呈するものと思われる。検出面からの残存深度は49cmである。底面中央はほぼ平坦だが、壁との境界は不明瞭で内湾外傾しながら立ち上がる。

〔埋土と堆積状況〕底面直上には径20~30cmの礫があり、この上を暗褐色シルト主体の埋土が覆っている。上部ほど地山ブロックを多く含む。

〔重複遺構〕S K II 03を切っている。

〔出土遺物〕なし。

〔帰属年代〕形態・堆積状況が類似する他の土坑と共に群を形成しており、層位的事実によりこれらの土坑群がS I II 01の前後の時期にまたがって位置づけられることから、S I II 01の帰属年代と同様に15世紀を想定したい。

S K II 05 (第II-21・22図、写真図版II-7)

〔位置・検出状況〕中央区北東部、II G 5 a グリッドに位置する。

〔規模・形状〕完掘後の掘り方から認識できる平面形は142×124cmの楕円形を呈するが、断面観察によれば壁上半が大きく外傾して立ち上がっており、本来の開口部はさらに大きなものであったと考えられる。検出面からの残存深度は67cmである。

〔埋土と堆積状況〕底面直上には径20~30cmの礫があり、この上を暗褐色シルト主体の203層が覆う。本層は水分を多く含んでグライ化している。この上に地山ブロックを多く含む202層が堆積している。これより上位では壁が大きく外傾することから、壁崩落に伴う土層の可能性が高い。その後再び暗褐色シルトに覆われて埋没を終えている。このような堆積状況から本遺構は自然の流入土により埋没したものとみられる。

〔重複遺構〕S K II 06に切られている。

〔出土遺物〕なし。

〔帰属年代〕形態・堆積状況が類似する他の土坑と共に群を形成しており、層位的事実によりこれらの土坑群がS I II 01の前後の時期にまたがって位置づけられることから、S I II 01の帰属年代と同様に15世紀を想定したい。

S K II 06 (第II-21・22図、写真図版II-7)

〔位置・検出状況〕中央区北東部、II F 5 j グリッドに位置する。

〔規模・形状〕完掘後の掘り方から認識できる平面形は150×118cmの楕円形を呈するが、断面観察によれば壁上半が大きく外傾して立ち上がっており、本来の開口部はさらに大きなものであったと考えられる。検出面からの残存深度は88cmである。

〔埋土と堆積状況〕底面直上には径20cm程の礫があり、この上を暗褐色土を主体とする5・4層が覆っている。最下層の5層はグライ化し水分を多く含む。この上に地山ブロックを含む3層が堆積する。その後再び暗褐色シルトに覆われて埋没を終えている。全体にレンズ状の堆積状況を示しており、自然の流入土により埋没したものとみられる。

〔重複遺構〕S I II 01・S K II 05・同07を切っている。よってS I II 01と併存のS K II 01・同02よりも新しい。当地点の重複遺構群の中で最も新期に位置づけられる。

〔出土遺物〕なし。

〔帰属年代〕形態・堆積状況が類似する他の土坑と共に群を形成しており、層位的事実によりこれらの土坑群がS I II 01の前後の時期にまたがって位置づけられることから、S I II 01の帰属年代と同様に15世紀を想定したい。

S K II 07（第II-21・22図、写真図版II-7）

〔位置・検出状況〕中央区北東部、II F 5 j グリッドに位置する。

〔規模・形状〕完掘後の掘り方から認識できる平面形は156×112cmの精円形を呈するが、断面観察によれば壁上半が大きく外傾して立ち上がっており、本来の開口部はさらに大きなものであったと考えられる。検出面からの残存深度は92cmである。

〔埋土と堆積状況〕底面直上には暗褐色土を主体とする11・10層が堆積している。11層はグライ化し水分を多く含む。この上に地山ブロックを含む9層が堆積している。全体に自然の流入土により埋没した堆積状況を示しているとみられる。

〔重複遺構〕S I II 01・S K II 06にきられる。よってS I II 01と併存のS K II 01・同02よりも古い。

〔出土遺物〕なし。

〔帰属年代〕形態・堆積状況が類似する他の土坑と共に群を形成しており、層位的事実によりこれらの土坑群がS I II 01の前後の時期にまたがって位置づけられることから、S I II 01の帰属年代と同様に15世紀を想定したい。

S K II 08（第II-23図）

〔位置・検出状況〕中央区南部、II F 0 h グリッドに位置する。

〔規模・形状〕平面形は167×140cmの精円形を呈する。検出面からの残存深度は22cmである。底面はやや凹凸があり中央部が一段低くなる。中央部からだらだらと深さを減じ開口部に至る。

〔埋土と堆積状況〕最下層の3層には十和田a火山灰とみられる灰白色ブロックがわずかに認められる。その上の2層は焼土ブロックや炭化物を含み下面が木根痕のように細かい凹凸を持っている。これを覆う1層は2層の上部を切って堆積するように見える。土坑状を呈する自然の疑似現象の可能性もある。

〔重複遺構〕なし。

〔出土遺物〕なし。

〔帰属年代〕底面付近にみられる火山灰ブロックは二次的な堆積と思われることから、十和田a火山灰の降下年代とされる10世紀初頭よりも新しいと考えられる。

S K II 09（第II-23図、写真図版II-9）

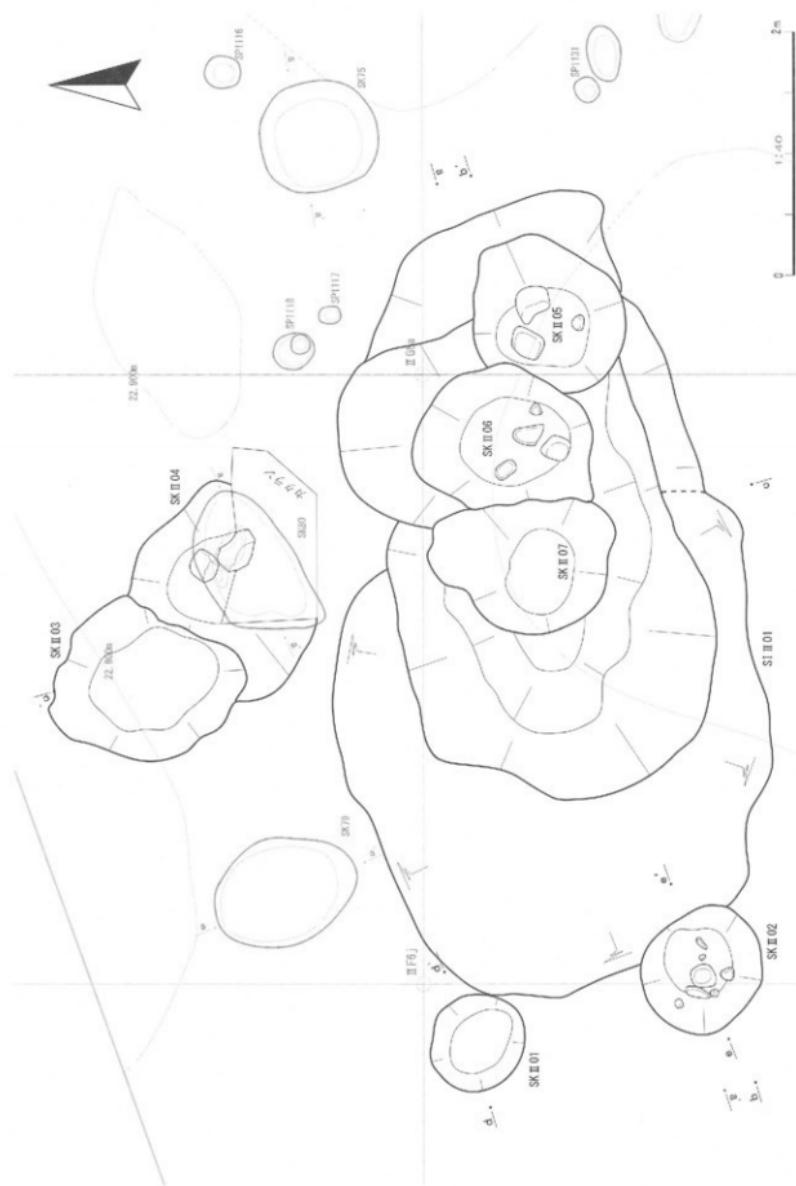
〔位置・検出状況〕池西区、II D 8 b グリッド付近に位置する。

〔規模・形状〕平面形は164×120cmの精円形を呈する。検出面からの残存深度は23cmである。底面は平坦で、壁はやや内湾外傾して立ち上がる。なお精査時に東半部底面を掘りすぎてしまっている。

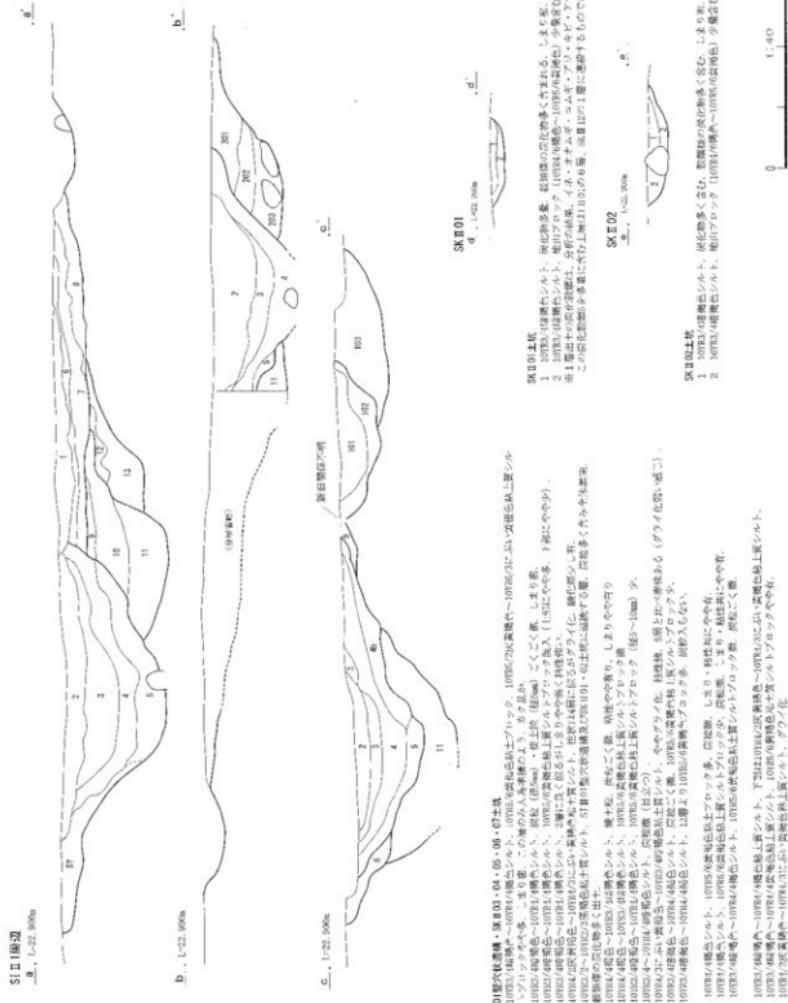
〔埋土と堆積状況〕暗褐色シルトを主体とし、地山砂質シルトのブロックをやや多く一緒に含む。意図をもって埋め戻されたものと考えられる。

〔重複遺構〕なし。

〔出土遺物〕なし。

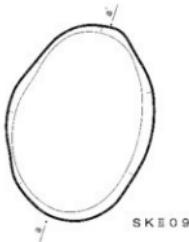
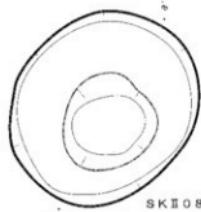


第II-21図 穹穴状遺構 SII 01と土坑群 (1)



第II-22図 駿穴状遺構SII-01と土坑群(2)

+ II F 1 h

SK II 08
—
a, L=22.00mSK II 09
—
a, >24.00m

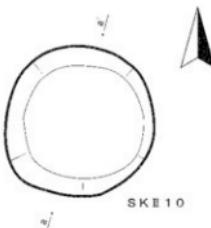
SK II 08土坑

- 1 10Y3/4暗褐色シルト、地山小ブロック少且みや黄斑。
- 2 10Y3/4暗褐色シルト、炭化物(径5~10mm)少且(±)、燒土ブロック微。
- 3 10Y3/4暗褐色シルト、灰白火山灰ブロック(径5~20mm)微。
- ※ 2層下部がEg.されている。木根痕かむ。

SK II 09土坑

- 1 10Y3/4暗褐色シルト、10Y4/4~6褐色砂質シルトブロックや多、表土ブロック(径20~50mm)微、炭化物(径5~10mm)ごく微。
- ※ 2層上部は堆積とみられる。

+ II D 2 b

SK II 10
—
a, L=24.00m

SK II 10土坑

- 1 10Y3/4暗褐色シルト~10Y4/4褐色シルト、地山ブロック少、炭化物。
- 2 10Y3/4暗褐色シルト、地山ブロックごく少、炭化物。
- 3 10Y3/4暗褐色シルト、地山ブロック微、炭化物少。

0 1:40 2m

第II-23図 土坑

〔帰属年代〕 墓土の主体土がかわらけを包含する暗褐色土（基本土層IVa層）に類似する。平安時代前期遺物包含層及び近世以降の土層とは区別されることから、12世紀～中世を想定したい。

S K II 10（第II-23図）

〔位置・検出状況〕 池西区、III D 2 b グリッド付近に位置する。

〔規模・形状〕 平面形は124×122cmの略円形を呈する。検出面からの残存深度は23cmである。

〔埋土と堆積状況〕 暗褐色シルトを主体としており、上部に地山ブロックを多く含む。自然の流入土によって埋没したものと思われる。

〔重複遺構〕 なし。

〔出土遺物〕 なし。

〔帰属年代〕 墓土の主体土がかわらけを包含する暗褐色土（基本土層IVa層）に類似する。平安時代前期遺物包含層及び近世以降の土層とは区別されることから、12世紀～中世を想定したい。

④溝跡

S D II 01（第II-6図、写真図版II-10）

〔位置・検出状況〕 中央区、II F 4 f～II G 1 b グリッドに位置する。

〔規模・形状〕 西北西～東南東方向に走行する溝跡である。第1次調査のS D 10に連続する。後世の削平により途中で分断されているため、東側をS D II 01 a、西側をS D II 01 bとした。S D II 01 aの長さは17.5m、同01 bは3.2mである。分断区間を含む両端間の全長は31.8mである。底面はやや凹凸が激しいが、全体的に東南東に向かって低くなっている。断面形も整わず、平坦な底面を持つ地点もあればU字状をなす部分もみられる。内面に現れる地山構成層が、地点によって砂質～粘土質に複雑に変化するため、これに伴って壁崩落の状況が複雑化した結果と思われる。

〔埋土・堆積状況〕

〔重複遺構〕 なし。

〔出土遺物〕 陶器片、かわらけ片が出土している。

〔帰属年代〕 近世以降と思われる。

S D II 02（第II-25図、写真図版II-10）

〔位置・検出状況〕 中央区、II G 2 c グリッド付近に位置する。付近は基本土層IVaに類似する暗褐色土が分布し、他に比してかわらけ片が集中が目立つ地点だった。IVa層類似土層の掘り下げを進め地表面に至ったところで溝状のプランとして検出された。

〔規模・形状〕 全長536cm、最大幅130cm、検出面からの残存深度は21cmである。南東側の最高位面から北西側の低位面へ向かって緩く下るようにのびている。南東端部は幅が狭いが、北西側に向かって次第に幅を広げ底面も平坦になる。北西端部は立ち上がりらず、低位面へと下る斜面と自然に連続する。

〔埋土・堆積状況〕 基本土層IVaに類似する暗褐色シルトを主体とする。1層は木炭粒が目立ち、下面付近に十和田a火山灰に類似する灰白色ブロックの混入がみられる。なお本遺構付近においては、自然の凹凸やクラック、時期の異なる遺構の埋土などに灰白火山灰ブロックが混入する現象が随所で認められた。本遺構の火山灰ブロックも二次的な堆積によるものと考えられる。

〔重複遺構〕 柱穴状ビットが重複するが、精査では新旧関係を把握できなかった。

〔出土遺物〕 1層よりかわらけ片、焼粘土塊が出土している。

〔帰属年代〕 埋土の様相と出土遺物の年代観から12世紀に帰属するものと考えられる。

S D II 03 (第II-3・10図)

〔位置・検出状況〕 池西区、ⅢD 3 j～ⅢD O i グリッドに位置する。「池状遺構」西縁に位置する基本土層D地点及び同E地点のトレンチ断面において存在を確認した。トレンチは第1次調査で記録の後埋め戻されていたもので、今回再び掘り上げ観察したものである。本遺構全体は「池状遺構」周辺の盛上保護範囲に位置するため、今次調査においても面的な調査は行わなかった。

〔規模・形状〕 土層断面での確認地点を結ぶ全長は15.5m。断面形はV字状を呈し、検出面からの残存深度は基本土層D地点で62cm、同E地点で36cmである。「池状遺構」西縁の「州浜状遺構」とされた礫群から約5mの間隔をおいてこれと平行するように弧を描いて走行するものと思われる。

〔埋土・堆積状況〕 D地点D-D'では7層、E地点E-E'では3層が本遺構埋土に相当する。基本土層IVa層に類似する暗褐色シルト主体で、砂層に達するD地点では底面からの湧水も多い。D・Eの兩地点において、本遺構は底面付近に若干の堆積があった時点で（埋まりきらない段階で）、周囲を広く覆う土層に被覆されている。特にD地点では明らかに人為による盛り土層（D-D' 4層）が上部を覆うことから、当地点におけるやや規模の大きい造成に伴い廃絶に至ったものと理解される。このことは本遺構の帰属年代と造成実施の時期が大きく離れていないことを示している。

〔重複遺構〕 直接の重複以降はなし。第1次調査「池状遺構」及び「州浜状遺構」の西縁に平行しており、関連性が予想される。

〔出土遺物〕 なし。

〔帰属年代〕 12世紀を中心とする時期に位置づけられる可能性が高い。

⑤カマド状遺構

S N II 01 (第II-24図、写真図版II-11)

〔位置・検出状況〕 東端区、Ⅱ G 5 e グリッド付近に位置する。

〔規模・形状〕 隅丸方形に掘り込まれた前庭部、上部に円形の開口部を持つ燃焼部、小さな長方形の煙出口に至る煙道部からなる。全長は274cm。前庭部は122×108cm、深さ38cm。底面は平坦で、北側壁面がほぼ直立するのに対し、東・南壁は外傾する。西壁側はアーチ状にくり抜かれて焚き口となり、燃焼部へと連続している。燃焼部上部の開口部は径34cm、両脇が袋状に掘り広げられた内部の最大幅は50cmである。煙出口は18×12cm。燃焼部開口部の中心と煙出口中心を結ぶ長さは96cmである。

〔埋土・堆積状況〕 煙道部から前庭部の底面直上には、焼土ブロックと木炭粒を多く含む5層が堆積している。前庭部ではこの上に地山ブロック層が堆積し、その上位にさらに暗褐色土が流入して埋没を終えている。なお、天井面及び内壁面の赤変硬化に比べ、底面には火熱変化部がほとんど残存しない。廃絶直前に燃焼部内の掻き出しが行われた可能性が高く、多量の焼土・炭片を含む底面直上層（5層）はこの行為の痕跡と理解される。

〔重複遺構〕 なし。

〔出土遺物〕 なし。

〔帰属年代〕 時期決定の根拠が乏しいが、埋土が基本土層IVa層に類似する暗褐色シルト主体であることから、12世紀より新しくⅢ層の堆積より古い時期として、概ね中世（15世紀？）を想定したい。

S N II 02 (第 II-24図、写真図版 II-12)

〔位置・検出状況〕 東端区、II G 6 f グリッドに位置する。

〔規模・形状〕 隅丸方形に掘り込まれた前庭部、上部に円形の開口部を持つ燃焼部、小さな長方形の煙出口に至る煙道部からなる。全長は256cm。前庭部は118×70cm、深さ18cm。底面は平坦で、南・北壁面がほぼ直立するのに対し、東壁はなだらかに外傾する。西壁側はアーチ状にくり抜かれて焚き口となり、燃焼部へと連続している。燃焼部上部の開口部は径34cm、両脇が袋状に掘り広げられた内部の最大幅は62cmである。煙出口は18×14cm。燃焼部開口部の中心と煙出口中心を結ぶ長さは80cmである。

〔埋土・堆積状況〕 燃焼部から煙道部にかけての天井面と内壁面はガリガリに硬化し、赤変が著しい。これに対し燃焼部付近の底面はほんやりと赤みを帯びるが強い赤変は認められない。燃焼部から前庭部では、底面の直上に木炭片（6層）が広がっている。この上位は、前庭部側では地山ブロックを多く含む土層（2・4層）が、煙道部側では暗褐色の流入土（3・5層）が覆い埋没を終えている。

〔重複遺構〕 なし。

〔出土遺物〕 なし。

〔帰属年代〕 時期決定の根拠が乏しいが、埋土が基本土層IVa層に類似する暗褐色シルト主体であることから、12世紀より新しくIII層の堆積より古い時期として、概ね中世（15世紀？）を想定したい。

S N II 03 (第 II-25図、写真図版 II-12)

〔位置・検出状況〕 東端区、II G 1 e グリッドに位置する。

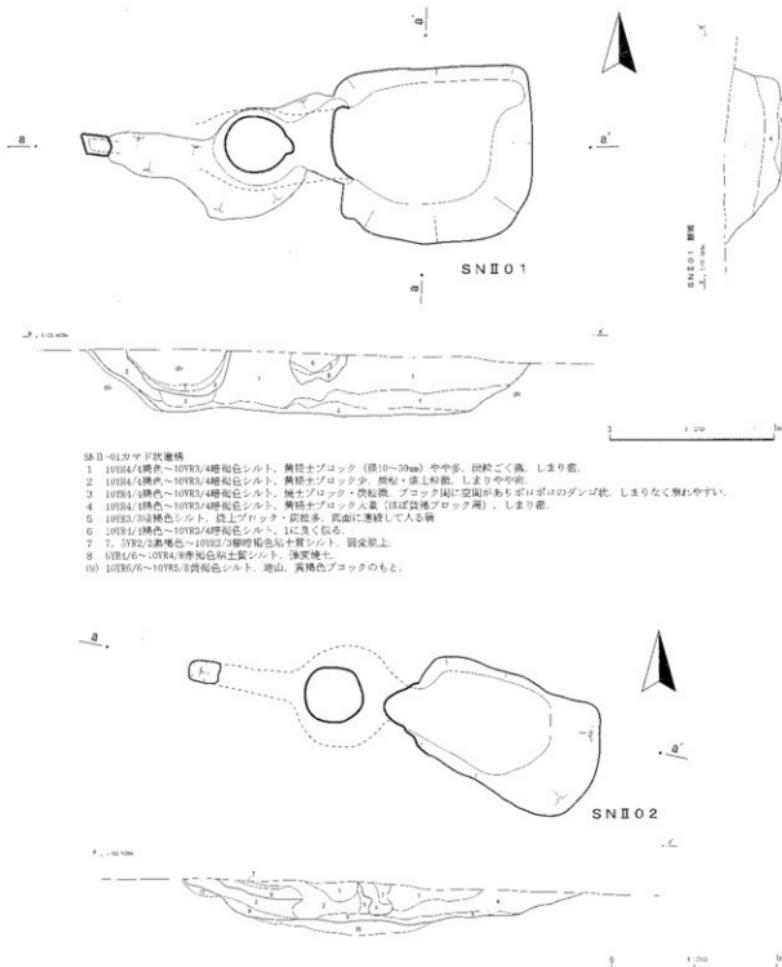
〔規模・形状〕 隅丸方形に掘り込まれた前庭部、上部に開口部を持つ燃焼部、小さな長方形の煙出口に至る煙道部からなる。本遺構は前庭部東辺に一段高い張り出しが認められるが、上層断面の観察によりこれが、埋没後に二次的に生じたものであることがわかったので、以下の記載ではこの部分を除外する。煙出口から前庭部東辺までの全長は254cm。前庭部は115×110cm、深さ32cm。底面は平坦で、南・北・東側壁面はいずれも外傾して緩やかに立ち上がる。西壁側は長さ40cm程の楕円礫を組んで焚き口が設けられ燃焼部へと連続する。燃焼部上部の開口部は82×48cmの楕円形状を呈し、他例に比して大きい。内部への崩落と上部の擾乱によって本来の形状を失ったためと思われる。燃焼部内部は両脇が袋状に掘り広げられており、内部の最大幅は62cmを測る。煙出口は16×12cm。燃焼部開口部の中心と煙出口中心を結ぶ長さは84cmである。

〔埋土・堆積状況〕 燃焼部から煙道にかけての底面はほんやりとした弱い赤みを帯び（8層）が、燃焼部中央付近にのみ薄赤い焼土層（7b層）の生成が認められるほかには強い焼成部はみられない。一方この上位に堆積する崩落上層（6・7a層）にはガリガリの赤色土塊が多量に含まれることから、他例と同様、煙道部から燃焼部の内部壁面と天井面は著しく被熱赤変していたと考えられる。焚き口を構築する礫も炉内面側のみが真っ赤に変色していた。前庭部は地山ブロックを多く含む土層で埋まっており、同様の土層が燃焼部～煙道部の上部を覆って埋没を終えている。なお、前庭部の底面に小和田a火山灰の堆積が確認されている。付近の地山上面ではクラックを充填するように流れこんでいる火山灰が観察されることから、同様に後世に二次的に流入したものと思われる。

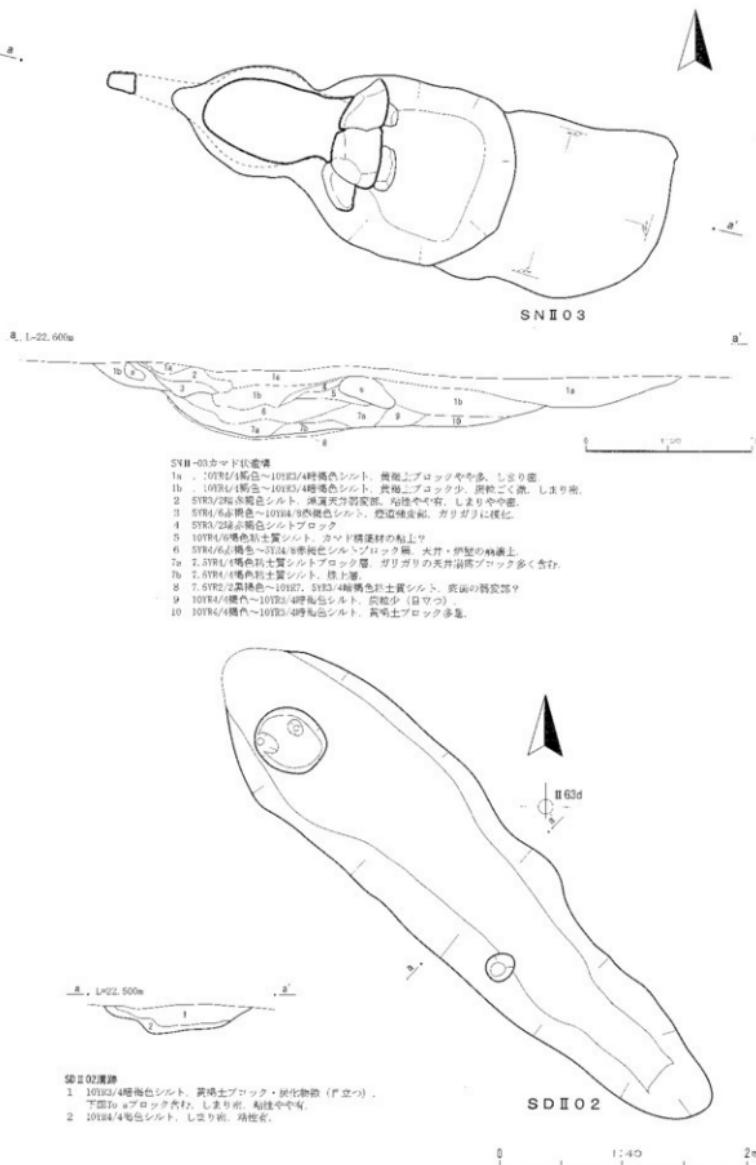
〔重複遺構〕 S B II 22のプラン西辺に重複する。新旧関係は不明。

〔出土遺物〕 なし。

〔帰属年代〕 時期決定の根拠が乏しいが、埋土が基本土層IVa層に類似する暗褐色シルト主体であることから、12世紀より新しくIII層の堆積より古い時期として、概ね中世（15世紀？）を想定したい。



第II-24図 カマド状遺構 (1)



第II-25図 カマド状構造 (2)、溝跡

第II-1表 衣の調査結果第二次調査 柱穴一覧表

No.	調査箇所(主に土木、上質)	流入物	柱穴性 能	埋物 (cm)	グリッド 位置	測定高さ (cm)	測定幅 (cm)	測定高さ (cm)	測定幅 (cm)	測定高さ (cm)	測定幅 (cm)
SII-1	盛り土面	2ホール	10Y5S6W色シルバートラック半径3m、底板2 cm	10	■C1	81x52	11	23.98	23.86	23.97	23.76
SII-2	10Y5S3W色	2ホール	10Y5S6W色シルバートラック半径3m、底板2 cm	—	■C1	25x21	16	23.98	23.86	23.97	23.76
SII-3	30Y5S3W色	2ホール	10Y5S6W色シルバートラック半径3m、底板2 cm	—	■C1	30x27	16	23.96	23.84	23.97	23.76
SII-4	10Y5S3W色	2ホール	10Y5S6W色シルバートラック半径3m、底板2 cm	—	■C1	57x40	9	23.94	23.82	23.97	23.76
SII-5	10Y5S3W色	2ホール	10Y5S6W色シルバートラック半径3m、底板2 cm	—	■C1	46x31	14	23.65	23.53	23.77	23.76
SII-6	10Y5S3W色	2ホール	10Y5S6W色シルバートラック半径3m、底板2 cm	—	■C1	23x31	21	23.97	23.76	—	—
SII-7	10Y5S3W色	2ホール	10Y5S6W色シルバートラック半径3m、底板2 cm	—	■C1	35x40	20	23.62	23.71	23.81	23.76
SII-8	10Y5S3W色	2ホール	10Y5S6W色シルバートラック半径3m、底板2 cm	—	■C1	32x31	29	23.10	23.81	23.81	23.76
SII-9	10Y5S3W色	2ホール	10Y5S6W色シルバートラック半径3m、底板2 cm	—	■C1	34x36	17	23.92	23.76	23.96	23.76
SII-10	10Y5S3W色	2ホール	10Y5S6W色シルバートラック半径3m、底板2 cm	—	■C1	86x62	16	23.98	23.86	23.97	23.76
SII-11	10Y5S3W色	2ホール	10Y5S6W色シルバートラック半径3m、底板2 cm	—	■C1	48x42	14	23.87	23.75	23.87	23.75
SII-12	10Y5S3W色	2ホール	10Y5S6W色シルバートラック半径3m、底板2 cm	—	■C1	32x31	29	23.65	23.59	23.86	23.76
SII-13	10Y5S3W色	2ホール	10Y5S6W色シルバートラック半径3m、底板2 cm	—	■C1	46x42	50	23.89	23.87	23.97	23.87
SII-14	10Y5S3W色	2ホール	10Y5S6W色シルバートラック半径3m、底板2 cm	—	■C1	61	23.84	23.23	23.84	23.52	23.52
SII-15	10Y5S3W色	2ホール	10Y5S6W色シルバートラック半径3m、底板2 cm	—	■C1	46x44	33	23.84	23.52	23.84	23.52
SII-16	10Y5S3W色	2ホール	10Y5S6W色シルバートラック半径3m、底板2 cm	—	■C1	83x61	43	23.86	23.46	23.87	23.52
SII-17	10Y5S3W色	2ホール	10Y5S6W色シルバートラック半径3m、底板2 cm	—	■C1	80x56	24	23.86	23.18	23.87	23.52
SII-18	10Y5S3W色	2ホール	10Y5S6W色シルバートラック半径3m、底板2 cm	—	■C1	41x33	33	23.88	23.52	23.87	23.52
SII-19	10Y5S3W色	2ホール	10Y5S6W色シルバートラック半径3m、底板2 cm	—	■C1	30x31	31	23.88	23.58	23.87	23.52
SII-20	10Y5S3W色	2ホール	10Y5S6W色シルバートラック半径3m、底板2 cm	—	■C1	29x22	29	23.84	23.59	23.87	23.52
SII-21	10Y5S3W色	2ホール	10Y5S6W色シルバートラック半径3m、底板2 cm	—	■C1	40x31	22	23.83	23.50	23.87	23.52
SII-22	10Y5S3W色	2ホール	10Y5S6W色シルバートラック半径3m、底板2 cm	—	■C1	38x23	24	23.87	23.58	23.87	23.52
SII-23	10Y5S3W色	2ホール	10Y5S6W色シルバートラック半径3m、底板2 cm	—	■C1	40x32	18	23.86	23.68	23.87	23.52
SII-24	10Y5S3W色	2ホール	10Y5S6W色シルバートラック半径3m、底板2 cm	—	■C1	74x55	41	23.89	23.44	23.87	23.52
SII-25	10Y5S3W色	2ホール	10Y5S6W色シルバートラック半径3m、底板2 cm	—	■C1	61x33	24	23.87	23.62	23.87	23.52
SII-26	10Y5S3W色	2ホール	10Y5S6W色シルバートラック半径3m、底板2 cm	—	■C1	63x50	33	23.87	23.62	23.87	23.52
SII-27	10Y5S3W色	2ホール	10Y5S6W色シルバートラック半径3m、底板2 cm	—	■C1	65x45	15	23.88	23.70	23.87	23.52
SII-28	10Y5S3W色	2ホール	10Y5S6W色シルバートラック半径3m、底板2 cm	—	■D1	38x28	14	23.53	23.67	23.53	23.67
SII-29	10Y5S3W色	2ホール	10Y5S6W色シルバートラック半径3m、底板2 cm	—	■D1	30x35	21	23.83	23.57	23.87	23.52
SII-30	10Y5S3W色	2ホール	10Y5S6W色シルバートラック半径3m、底板2 cm	—	■D1	41x25	29	23.84	23.59	23.87	23.52
SII-31	10Y5S3W色	2ホール	10Y5S6W色シルバートラック半径3m、底板2 cm	—	■D1	40x31	22	23.83	23.58	23.87	23.52
SII-32	10Y5S3W色	2ホール	10Y5S6W色シルバートラック半径3m、底板2 cm	—	■D1	38x23	21	23.88	23.61	23.87	23.52
SII-33	10Y5S3W色	2ホール	10Y5S6W色シルバートラック半径3m、底板2 cm	—	■D1	40x32	21	23.76	23.59	23.87	23.52
SII-34	10Y5S3W色	2ホール	10Y5S6W色シルバートラック半径3m、底板2 cm	—	■D1	74x55	18	23.88	23.80	23.87	23.52
SII-35	10Y5S3W色	2ホール	10Y5S6W色シルバートラック半径3m、底板2 cm	—	■D1	25x21	34	23.84	23.69	23.87	23.52
SII-36	10Y5S3W色	2ホール	10Y5S6W色シルバートラック半径3m、底板2 cm	—	■D1	34x31	34	23.83	23.59	23.87	23.52
SII-37	10Y5S3W色	2ホール	10Y5S6W色シルバートラック半径3m、底板2 cm	—	■D1	37x31	18	23.72	23.25	23.87	23.52
SII-38	10Y5S3W色	2ホール	10Y5S6W色シルバートラック半径3m、底板2 cm	—	■D1	38x28	14	23.53	23.67	23.53	23.67
SII-39	10Y5S3W色	2ホール	10Y5S6W色シルバートラック半径3m、底板2 cm	—	■D1	29x21	34	23.83	23.57	23.87	23.52
SII-40	10Y5S3W色	2ホール	10Y5S6W色シルバートラック半径3m、底板2 cm	—	■D1	40x36	21	23.88	23.61	23.87	23.52
SII-41	10Y5S3W色	2ホール	10Y5S6W色シルバートラック半径3m、底板2 cm	—	■D1	36x37	14	23.87	23.61	23.87	23.52
SII-42	10Y5S3W色	2ホール	10Y5S6W色シルバートラック半径3m、底板2 cm	—	■D1	31x25	14	23.81	23.58	23.87	23.52
SII-43	10Y5S3W色	2ホール	10Y5S6W色シルバートラック半径3m、底板2 cm	—	■D1	30x35	27	23.85	23.61	23.87	23.52
SII-44	10Y5S3W色	2ホール	10Y5S6W色シルバートラック半径3m、底板2 cm	—	■D1	50x50	20	23.83	23.55	23.87	23.52
SII-45	10Y5S3W色	2ホール	10Y5S6W色シルバートラック半径3m、底板2 cm	—	■D1	25x21	34	23.84	23.58	23.87	23.52
SII-46	10Y5S3W色	2ホール	10Y5S6W色シルバートラック半径3m、底板2 cm	—	■D1	31x25	14	23.81	23.58	23.87	23.52
SII-47	10Y5S3W色	2ホール	10Y5S6W色シルバートラック半径3m、底板2 cm	—	■D1	30x35	27	23.85	23.61	23.87	23.52
SII-48	10Y5S3W色	2ホール	10Y5S6W色シルバートラック半径3m、底板2 cm	—	■D1	36x47	49	23.83	23.50	23.87	23.52
SII-49	10Y5S3W色	2ホール	10Y5S6W色シルバートラック半径3m、底板2 cm	—	■D1	51x35	38	23.84	23.42	23.87	23.52

No.	測定方所・主体上	測定人物	特徴	性別	年齢(歳)	身長(cm)	体重(kg)	腰回り(cm)	腰(神経筋)(cm)	腰(骨盤)(cm)	() 背上筋肉等	筋膜・筋肉
SP II-253	10Y3-454 鮎色	シルト	地山アプロック少、炭化物ごく強	男	5.065	173.42	7.7	23.94	23.29	—	30才～35才	筋膜・筋肉
SP II-294	10Y3-454 鮎色	シルト	地山アプロック少、炭化物ごく強	男	5.055	163.33	9	21.73	22.97	—	30才～35才	筋膜・筋肉
SP II-295	10Y3-454 鮎色	シルト	地山アプロック少、炭化物ごく強	男	5.050	160.30	9	21.72	23.02	—	30才～35才	筋膜・筋肉
SP II-296	10Y3-454 鮎色	シルト	地山アプロック少、炭化物ごく強	男	5.050	163.43	8	21.73	23.06	—	30才～35才	筋膜・筋肉
SP II-297	10Y3-454 鮎色	シルト	地山アプロック少、炭化物ごく強	男	5.049	160.29	18	21.73	23.16	—	30才～35才	筋膜・筋肉
SP II-298	10Y3-454 鮎色	シルト	地山アプロック少、炭化物ごく強	男	5.046	163.51	6	23.15	23.67	—	30才～35才	筋膜・筋肉
SP II-299	10Y3-454 鮎色	シルト	地山アプロック少、炭化物ごく強	男	5.046	162.50	20	23.90	22.71	—	30才～35才	筋膜・筋肉
SP II-301	10Y3-454 鮎色	シルト	地山アプロック少、炭化物ごく強	男	5.046	163.17	25	22.86	23.69	—	30才～35才	筋膜・筋肉
SP II-302	10Y3-454 鮎色	シルト	地山アプロック少、炭化物ごく強	男	5.046	160.90	17	23.98	23.67	—	30才～35才	筋膜・筋肉
SP II-303	10Y3-454 鮎色	シルト	地山アプロック少、炭化物ごく強	男	5.046	160.58	34	23.90	23.62	—	30才～35才	筋膜・筋肉
SP II-304	10Y3-454 鮎色	シルト	地山アプロック少、炭化物強	男	5.026	163.40	25	22.87	22.62	—	30才～35才	筋膜・筋肉
SP II-305	10Y3-454 鮎色	シルト	地山アプロック少、炭化物強	男	5.014	160.28	25	22.89	22.90	—	30才～35才	筋膜・筋肉
SP II-306	10Y3-454 鮎色	シルト	地山アプロック少、炭化物強	男	5.014	162.30	18	22.98	22.62	—	30才～35才	筋膜・筋肉
SP II-307	10Y3-454 鮎色	シルト	地山アプロック少、炭化物強	男	5.014	168.11	6	21.86	22.76	—	30才～35才	筋膜・筋肉
SP II-308	10Y3-454 鮎色	シルト	地山アプロック少、炭化物強	男	5.014	161.17	12	22.87	22.71	—	30才～35才	筋膜・筋肉
SP II-309	10Y3-454 鮎色	シルト	地山アプロック少、炭化物強	男	5.006	163.19	15	22.82	22.65	—	30才～35才	筋膜・筋肉
SP II-310	10Y3-454 鮎色	シルト	地山アプロック少、炭化物強	男	5.006	161.20	34	22.85	22.52	—	30才～35才	筋膜・筋肉
SP II-311	10Y3-454 鮎色	シルト	地山アプロック少、炭化物強	男	5.006	164.25	27	22.85	22.48	—	30才～35才	筋膜・筋肉
SP II-312	10Y3-454 鮎色	シルト	地山アプロック少、炭化物強	男	5.006	160.91	25	22.83	22.78	—	30才～35才	筋膜・筋肉
SP II-313	10Y3-454 鮎色	シルト	地山アプロック少、炭化物強	男	5.006	162.34	12	22.82	22.62	—	30才～35才	筋膜・筋肉
SP II-314	10Y3-454 鮎色	シルト	地山アプロック少、炭化物強	男	5.006	163.58	15	22.77	22.62	—	30才～35才	筋膜・筋肉
SP II-315	10Y3-454 鮎色	シルト	地山アプロック少、炭化物強	男	5.006	166.23	13	22.78	22.62	—	30才～35才	筋膜・筋肉
SP II-316	10Y3-454 鮎色	シルト	地山アプロック少、炭化物強	男	5.006	160.29	19	22.71	22.67	—	30才～35才	筋膜・筋肉
SP II-317	10Y3-454 鮎色	シルト	地山アプロック少、炭化物強	男	5.006	163.11	25	22.80	22.61	—	30才～35才	筋膜・筋肉
SP II-318	10Y3-454 鮎色	シルト	地山アプロック少、炭化物強	男	5.006	162.50	29	22.84	22.62	—	30才～35才	筋膜・筋肉
SP II-319	10Y3-454 鮎色	シルト	地山アプロック少、炭化物強	男	5.006	162.20	18	22.85	22.68	—	30才～35才	筋膜・筋肉
SP II-320	10Y3-454 鮎色	シルト	地山アプロック少、炭化物強	男	5.006	161.18	27	22.85	22.60	—	30才～35才	筋膜・筋肉
SP II-321	10Y3-454 鮎色	シルト	地山アプロック少、炭化物強	男	5.006	160.21	13	22.76	22.64	—	30才～35才	筋膜・筋肉
SP II-322	10Y3-454 鮎色	シルト	地山アプロック少、炭化物強	男	5.006	167.63	27	22.76	22.69	<23	30才～35才	筋膜・筋肉
SP II-323	10Y3-454 鮎色	シルト	地山アプロック少、炭化物強	男	5.006	160.16	15	22.74	22.61	>22	30才～35才	筋膜・筋肉
SP II-324	10Y3-454 鮎色	シルト	地山アプロック少、炭化物強	男	5.006	163.82	25	22.77	22.60	—	30才～35才	筋膜・筋肉
SP II-325	10Y3-454 鮎色	シルト	地山アプロック少、炭化物強	男	5.006	164.23	29	22.77	22.64	—	30才～35才	筋膜・筋肉
SP II-326	10Y3-454 鮎色	シルト	地山アプロック少、炭化物強	男	5.006	164.30	31	22.83	22.45	—	30才～35才	筋膜・筋肉
SP II-327	10Y3-454 鮎色	シルト	地山アプロック少、炭化物強	男	5.006	161.25	21	22.77	22.56	—	30才～35才	筋膜・筋肉
SP II-328	10Y3-454 鮎色	シルト	地山アプロック少、炭化物強	男	5.006	161.24	25	22.76	22.67	—	30才～35才	筋膜・筋肉
SP II-329	10Y3-454 鮎色	シルト	地山アプロック少、炭化物強	男	5.006	160.86	16	22.77	22.67	—	30才～35才	筋膜・筋肉
SP II-330	10Y3-454 鮎色	シルト	地山アプロック少、炭化物強	男	5.006	167.85	19	22.71	22.61	>22	30才～35才	筋膜・筋肉

No.	色別分類主体	混入物	粒度(目)	粒度(目)(cm)	粒度(目)(mm)	粒度(目)(m)	所生植物	所生植物
SPI-432	10YR3/3褐色	シルト	地山プロック、炭化物質	-	3.68	3.41	22.12	1) 防潮保護材
SPI-433	10YR3/4褐色	シルト	地山プロックごく薄、炭化物質	-	3.68	2.35	22.47	2) 次適性
SPI-434	10YR3/5褐色	シルト	地山プロックごく薄、炭化物質	-	3.68	35	22.20	2) 次適性
SPI-435	10YR3/6褐色	シルト	地山プロック、炭化物質	-	3.68	76	21.50	無生物
SPI-436	10YR3/7褐色	シルト	地山プロックごく薄、炭化物質	-	3.68	30	21.18	3) 土壌と組み、穴ごと物を構成
SPI-437	10YR3/8褐色	シルト	地山プロックごく薄、炭化物質	-	3.68	35	21.70	3) 土壌と組み、穴ごと物を構成
SPI-438	10YR3/9褐色	シルト	地山プロックごく薄、炭化物質	-	3.68	25	21.58	3) 土壌と組み、穴ごと物を構成
SPI-439	10YR3/10褐色	シルト	地山プロックごく薄、炭化物質	-	3.68	13	22.06	2) 次適性
SPI-440	10YR3/11褐色	シルト	地山プロック、炭化物質	-	3.68	74	21.40	2) 次適性
SPI-441	10YR3/12褐色	シルト	地山プロックごく薄、炭化物質	-	3.68	37	22.32	3) 土壌と組み、穴ごと物を構成
SPI-442	10YR3/13褐色	シルト	地山プロックごく薄、炭化物質	-	3.68	38	21.81	3) 土壌と組み、穴ごと物を構成
SPI-443	10YR3/14褐色	シルト	地山プロックごく薄、炭化物質	-	3.68	9	22.50	2) 次適性
SPI-444	10YR3/15褐色	シルト	地山プロック、炭化物質	-	3.68	24	22.50	2) 次適性
SPI-445	10YR3/16褐色	シルト	地山プロックごく薄、炭化物質	-	3.68	22	22.50	2) 次適性
SPI-446	10YR3/17褐色	シルト	地山プロックごく薄、炭化物質	-	3.68	17	22.26	2) 次適性
SPI-447	10YR3/18褐色	シルト	地山プロックごく薄、炭化物質	-	3.68	4	23.30	2) 次適性
SPI-448	10YR3/19褐色	シルト	地山プロックごく薄、炭化物質	-	3.68	27	21.74	2) 次適性
SPI-449	10YR3/20褐色	シルト	地山プロックごく薄、炭化物質	-	3.68	73	22.26	2) 次適性
SPI-450	10YR3/21褐色	シルト	地山プロックごく薄、炭化物質	-	3.68	35	22.47	2) 次適性
SPI-451	10YR3/22褐色	シルト	地山プロックごく薄、炭化物質	-	3.68	14	23.16	2) 次適性
SPI-452	10YR3/23褐色	シルト	地山プロックごく薄、炭化物質	-	3.68	11	23.00	2) 次適性
SPI-453	10YR3/24褐色	シルト	地山プロックごく薄、炭化物質	-	3.68	30	21.19	2) 次適性
SPI-454	10YR3/25褐色	シルト	地山プロックごく薄、炭化物質	-	3.68	27	20.89	2) 次適性
SPI-455	10YR3/26褐色	シルト	地山プロックごく薄、炭化物質	-	3.68	26	22.30	2) 次適性
SPI-456	10YR3/27褐色	シルト	地山プロックごく薄、炭化物質	-	3.68	14	22.46	2) 次適性
SPI-457	10YR3/28褐色	シルト	地山プロックごく薄、炭化物質	-	3.68	25	22.88	2) 次適性
SPI-458	10YR3/29褐色	シルト	地山プロックごく薄、炭化物質	-	3.68	35	23.05	2) 次適性

第 II-2 表 新旧遺構名対応表

旧(作業用)遺構名	新(機動用)遺構名	旧(作業用)遺構名	新(機動用)遺構名
SK II 11	→	上杣SK II 01	→
SK II 12	→	下杣SK II 02	→
SK II 14	→	土杣SK II 03	→
SK II 15	→	土杣SK II 04	→
SK II 16	→	上杣SK II 06	→
		上杣SK II 01	→
		上杣SK II 06	→
		土杣SK II 07	→
		上杣SK II 08	→
		上杣SK II 09	→
		土杣SK II 10	→

(3) 遺物 (第II-26~28図、写真図版II-13・14)

①かわらけ

いずれも12世紀の所産とみられるかわらけである。主にIVa層とその分布域周辺に位置する柱穴の埋土から出土した。完形に近い個体はわずかだが破片の磨滅はさほど顕著ではなく、遠方から流入したものとは考えにくい。てづくね成形とロクロ成形の両者が見られるが、口縁部のみ残存する個体では識別困難である。7は底部外間に指頭状の圧痕、12は内面に線状の工具痕が見られる。また、42の底面には糸切痕を切るスノコ状の痕跡が観察される。

②陶器

19は内面に薄い灰釉がみられる陶器の小片である。产地・年代は不明。外面に同心円状の線状痕があり、高台の剥落した片口鉢の底部破片と見られる。76は瀬戸・美濃窓とみられる近世の擂鉢片である。

③土師器・須恵器

56~61は土師器壺、63~68は土師器甌である。56・57の壺は胎土が緻密で、外面は口縁直下まで入念にケズリ調整され、内面にも丁寧なミガキが施されている。63・64の甌はこれらの壺と胎土がよく似ており、外面のケズリ調整も同様に口縁部直下まで施されている。69~71は高台を持つ土師器の底部資料である。72~75は須恵器である。72は瓶類の底部か。その他は大小の甌胴部片とみられる。

④土製品等

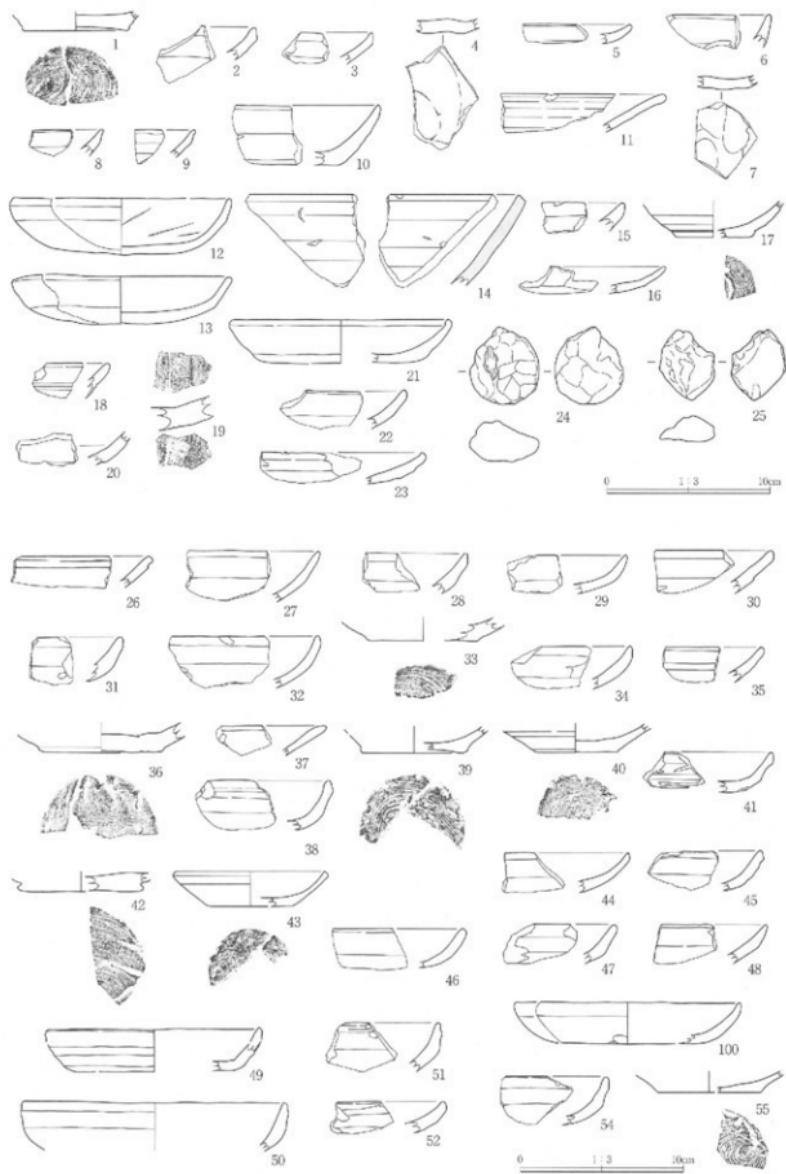
78・79は土鍤。80・81は箱形あるいは板状を呈するとみられる土製品で、「塙」の可能性がある。調査区西端部(池西区)の建物跡S B II 01付近から出土した。80は表面に線状痕をもつ。82・83はこれらに似た粘土塊である。

⑤金属製品

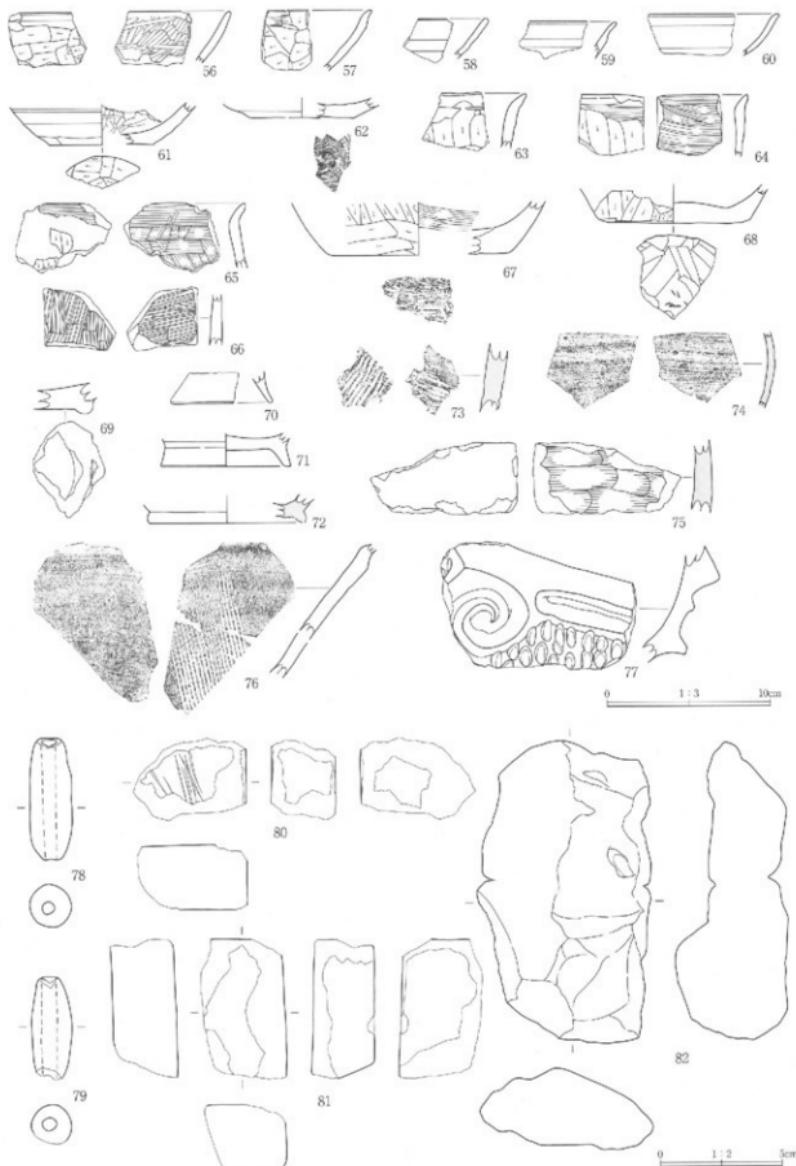
84は雁股鍤か。85・86は刀子、90~92は鉄釘、95~99は鉄滓、100は小柄である。87は表裏に赤色顔料の付着が認められる。88は角棒状のものが2本並列して銷着している。束ねられた鉄鎌か。

⑥縄文時代遺物

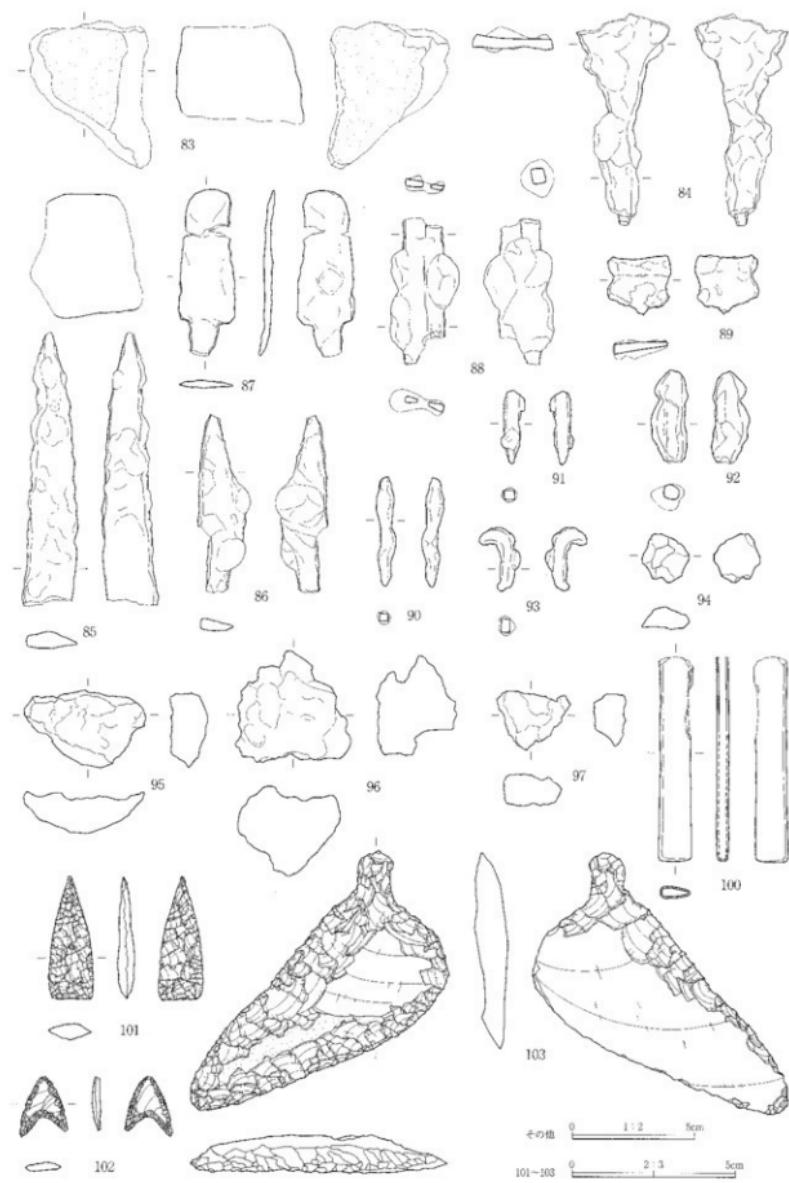
縄文時代の遺物は洪水堆積層の下位に溝るVI層が部分的に顔を出している調査区西端部から出土した。出土量は僅少である。77の深鉢の口縁部片のほか、地紋のみの胴部破片(不掲載)がわずかに出土している。概ね中期~後期と見られる。石器は石鎌(101・102)、石匙(103)が出土した。



第II-26図 出土遺物(1)



第II-27図 出土遺物 (2)



第II-28図 出土遺物 (3)

第II-3表 衣の関遺跡第二次調査 遺物一覧表

掲載番号	仮No.	出土地点・遺構	層位	器種	部位	観察所見
1	9	柱穴SP II 4	埋土	かわらけ	底	ロクロ、底面系切痕。
2	10	柱穴SP II 46	埋土	かわらけ	口	
3	11	柱穴SP II 47	埋土	かわらけ	口	
4	12	柱穴SP II 52	埋土	かわらけ	底	
5	13	柱穴SP II 53	埋土	かわらけ	口	
6	14	柱穴SP II 75	埋土	かわらけ	口	
7	15	柱穴SP II 86	埋土	かわらけ	底	底面指痕状圧痕。
8	16	柱穴SP II 101	埋土	かわらけ	口	
9	17	柱穴SP II 101	埋土	かわらけ?	口	口縁部玉神社。
10	18	柱穴SP II 156	埋土	かわらけ	口	
11	19	柱穴SP II 208	埋土	土器器・不明	口	胎土暗く、砂粒目立つ。
12	20	柱穴SP II 231	埋土	かわらけ	略尖形	内面に錐状の工具痕。
13	21	柱穴SP II 238	埋土	かわらけ	略尖形	
14	22	柱穴SP II 239	埋土	須恵器・鉢?	口	
15	23	柱穴SP II 239	埋土	かわらけ	口	
16	24	柱穴SP II 244	埋土	かわらけ	口	薄い
17	25	柱穴SP II 350	埋土	かわらけ	底	ロクロ、底面系切痕。
18	8	土坑SK II 02	埋土	土器器	口	
19	1	溝跡SD II 01	埋土	陶器・片口鉢?	底	内面に薄い灰釉。底部外周に線状痕あり(高台剥落か)。
20	2	溝跡SD II 01 (II G1b)	埋土	かわらけ	底	
21	3	溝跡SD II 02	埋土	かわらけ	口	
22	4	溝跡SD II 02	埋土	かわらけ	口	
23	5	溝跡SD II 02	埋土	かわらけ	口	
24	6	溝跡SD II 02	埋土	焼粘土塊	-	胎土中にスサ状の繊維痕あり
25	7	溝跡SD II 02	埋土	焼粘土塊	-	
26	29	II D8b		かわらけ	口	
27	32	II D9g		かわらけ	口	
28	33	II D9g		かわらけ	口	
29	34	II D9h		かわらけ	口	
30	35	II D9h		かわらけ	口	
31	36	II D9h		かわらけ	口	
32	38	II G3d~4d		かわらけ	口	
33	39	II G3d~4d		かわらけ	底	ロクロ、底面系切痕。
34	40	II G3d~4d		かわらけ	口	
35	41	II G3d~4d		かわらけ	口	
36	42	II G3e		かわらけ	底	ロクロ、底面系切痕。
37	47	III C0j		かわらけ	口	
38	52	III C1j		かわらけ	口	
39	55	III C1j		かわらけ	底	ロクロ、底面系切痕。
40	56	III C1j		かわらけ	底	ロクロ、底面系切痕。
41	60	III D0a		かわらけ	口	
42	76	III D0a		かわらけ	底	ロクロ、底面系切痕を切るヌコ痕。
43	61	III D0e		かわらけ	略尖	ロクロ、底面系切痕、二次焼熱。
44	62	III D0f		かわらけ	口	
45	63	III D0h	IVa	かわらけ	口	
46	64	III D0h	IVa	かわらけ	口	
47	65	III D0h	IVa	かわらけ	口	
48	66	III D0h		かわらけ	口	
49	67	III D0h		かわらけ	口	
50	72	III D0h		かわらけ	口	
51	68	III D0h		かわらけ	口	
52	69	III D0h		かわらけ	口	
53	73	III D1d	IVa	かわらけ	口	
54	70	III D1d		かわらけ	口	
55	74	III D1j		かわらけ	底	ロクロ、底面系切痕。
56	46	III C0j		土器器・坏	口	外面白緑底までケズリ調査。内面丁寧なミガキ、黒色処理なし。
57	50	III C1j		土器器・坏	口	外面白緑底までケズリ調査。内面丁寧なミガキ、黒色処理なし。

掲載番号	件No.	出土地点・遺構	房位	器種	部位	観察所見
58	51	II C1j		土師器・壺	口	
59	59	III C1j		土師器・壺	口	
60	45	II C0j		土師器・壺?	口	芯壁薄く砂粒目立つ。
61	30	II D9a		土師器・壺	底	内面黒色処理。底部下端・底面ケズリ調査。
62	28	II D6f		土師器・不明	底	底面凹凸・角切削、胎土緻密。
63	27	II D1j	検出面	土師器・壺	口	口縁部直下まで縦方向のケズリ、胎土緻密。
64	58	III C1j		土師器・壺	口	外面口縁直下までケズリ、胎土緻密。
65	54	II C0j		土師器・壺	口	外縁羽落ひどい
66	37	II G2g		土師器・壺	制	外面ハケメ。
67	53	III C0j		土師器・壺?	底	底面網代底。
68	57	III C1j		土師器・壺?	底	
69	31	II D9a		土師器・高台付 土器	底	内面黒色処理? 二次被熱で一部ピンク色。
70	77	III D0a		土師器・高台付 土器	底	高台部。
71	71	III D0h		土師器・高台付 土器	底	全体に寧滅。
72	48	III C0j		須恵器・瓶	底	高台の下間に陶片埋蔵。
73	44	II G5d		須恵器・壺	制	内外面タクキ。
74	49	III C0j		須恵器・壺?	制	
75	75	III D1j		須恵器・壺?	制	
76	26	II F5h	検出面	陶器錫鉢	腹	漁戸・尖底・近世。
77	79	III D3f	V	绳文土器・深鉢	口	
78	80	III C11	IVa~IVc	土器		
79	81	III C11	IVa~IVc	土器		
80	87	II D0a	IVa~IVc	壺?		箱形の形状。一部に平坦な表面残存。表面に線状痕。
81	88	III D0a	IVa~IVc	壺?		箱形の形状。6面中4面に平坦な表面残存。
82	85	柱穴SP II 2	坪上	燒粘土塊		胎土凝灰岩様。壺?に似るが平坦面なく厚い。
83	86	II D9h		燒粘土塊		胎土凝灰岩様。壺?に似るが厚い。
84	103	III D1j		雁巣狀?		
85	99	III D0e		刀子		
86	95	III C11	IVa~IVc	刀子		
87	100	III D0f		不明鉄製品		柄のような突出部あり。表裏に赤色付着物。
88	105	III C1 i	IVa~IVc	不明鉄製品		棒状(柄状)が2本並列して接着。
89	92	柱穴SP II 392		埋土	不明鉄製品	
90	97	III C3j		釘		
91	90	柱穴SP II 74		埋土	釘	
92	91	柱穴SP II 238	坪上	釘?		刀子の一部?
93	89	鑿穴状遺構SII 01		埋土	不明鉄製品	
94	98	III D0b		不明鉄製品		
95	96	III C11	IVa~IVc	铁薄		
96	102	III D1b		铁薄		
97	101	III D0h		铁薄		
98	94	II D9h	IVa	铁薄		
99	104	III D2h		铁薄		
100	93	柱穴SP II 416	坪上	小鈴		
101	83	III D2c		石鐵		無茎・平基。
102	82	III C2j		石鐵		無茎・圓基。
103	84	II D8f		石鉢		

5 まとめ

(1) 第1次調査の成果を受けて

前章までには第1次調査の成果がまとめられているが、その概要については、すでに野外調査の中から、外部からの情報提供の求めに応じる形で発信されてきた経緯がある。それゆえ、特に12世紀代の平泉と本遺跡との関連性については、調査の再開や報告書の刊行を待つことなく踏み込んだ議論が展開される状況となっていた。特徴的だったのは、12世紀代の平泉との関連性を積極的に認めようとする立場と、逆に調査成果そのものに懐疑的な消極的な立場に二極化した点である。調査の中断以降、第1次調査で明らかにし得なかった個別の考古学的事実は宙に浮き、解釈の自由度が高まっていた。中途の成果をやや都合良く用いた見解が乱立した一方で、そのような姿勢への反動が現れたともいえよう。

このような状況下、第1次調査に関わりを持たない筆者が期せずして第2次調査の担当を命ぜられた。調査の再開は、本遺跡を考古学的に解釈し直す起点となりうることは確かだが、周囲ではすでに様々な見解が示されている。そこで、着手にあたり、第1次調査の成果のうち検証が必要と思われる課題をあらかじめ抽出し、それらの解決を念頭に調査に当たるよう心がけた。第1次調査成果を補強し、また必要があれば位置づけを直すことが、今次調査の果たすべき重要な役割と考えたからである。

ただ、ここでお断りしておかなければならぬのは、第1次調査の成果として筆者が知りうるのは、これまで前調査者によって対外的に発信されてきた内容と変わらない程度のものであるという点である。調査が中断されて以降、本遺跡の取扱いについては流動的な状態が続き、第1次調査成果の検討は未完のままとなっていた。そして第2次調査の成果をまとめるこの段階に至っても、第1次調査成果については前担当者による検討が併行して行われており、整った形の情報が筆者の手元にはない状況にある。調査再開時に掲げた「検証が必要と思われる課題」には、「調査は済んでいるが知り得ない部分」の追検証も必然的に含まれていたのだ。本章とそれ以前の、構成上の断絶（遺構名や図版名の不統一など）もこういった事情によるものであり、本書中において種々の齟齬をきたしているおそれは拭いきれない。この点につきご留意とご理解を賜りたい。

(2) 課題の抽出と検討

以下、調査再開に際して設定した課題を掲げ、第2次調査の成果から得られた知見を示す。

①地形面の成因と堆積構造に関する課題

a. 池状遺構の東と西では、遺構の分布する地形面に大きな時期差はないか

先述のように調査区は過去幾度となく土砂の流失・再堆積を繰り返しており、大規模な地形面の改変を経験していることが予想された。特に第1次調査で中・近世遺構の分布が確認された池状遺構東側の平坦面（池東区～東端区）の形成年代が、そもそも著しく新しい可能性はないか（池西区の古代～12世紀遺構分布面に対比される面が、東側では新期洪水堆積層に厚く覆われているのではないか）という懸念があった。

そこで今次調査では、各地点の層序の対比を行い、地形面の形成過程の復元を試みた。その結果、池西区に分布する12世紀遺物包含層と、その下位に堆積する十和田a火山灰が、東側の現地形面の基盤をなす洪水堆積層の上位に分布することが改めて確認され、その上下の堆積層も矛盾なく対応することがわかった。よって、層位的には両地形面に大きな隔たりを想定する必要のないことが確認された。

b. 遺構検出面と遺構の帰属年代について

第1次調査では「12世紀のはぼプライマリーな遺構面」(遺構面1)が、12世紀遺物包含層(包含層1)に覆われた状態で調査区内の各所に残存したとされ、「遺構面1」での検出遺構は12世紀に帰属するものとしてその他の遺構とは区別されている。「遺構面1」までの記録を終えたところで調査は中断に入ったことから、今次調査ではこれより下位の「包含層2・遺構面2」(平安時代前期遺物包含層と検出面)が対象になるとされていた。

とはいっても、いざ着手してみると、「12世紀遺構は遺構面1で検出し尽くしているのか?」、「12世紀遺構面の下に平安時代遺構面が存在するという事実か?」、「そもそも両者を層位的に区別することは可能なのか?」、といった疑問に直面することになった。

この点に留意して調査を進めるにつれ、調査区全域に後世の洪水や人工造成の痕跡が認められ、特に微高地の頂部は大半が削平を経験していることがわかつた。そして池西区のごく一部を除き、いわゆるプライマリーな面が残存するのは低位部に限定されること、主要な遺構分布域である微高地頂部では多くの場合本来の掘り込み面は失われ、異時期のものが混在して同一面で検出されることが判明した(註1)。よって当遺跡においては、検出面をもとに遺構の帰属時期を類別することは困難であり、遺構の形態や埋土、出土遺物、立地等を総合的に考慮して帰属年代を想定するのが適当であるとの見解に至っている。

②建物跡・柱穴群について

第1次調査の建物跡については、「プランが不整形(不自然)」、「平泉の12世紀建物跡に比して柱穴規模が小さい」、「中近世以降のものばかりで、12世紀代は含まれないのではないか」などの声が内外から聞かれた。

本章「4(2)①掘立柱建物跡・柱穴群」の冒頭で述べたとおり、第1次調査で提示された建物プランや柱穴等の規模については、第2次調査の成果を受け修正を要する部分が生じている。柱穴が追加検出されたことで柱穴配置の再検討が必要となったこと、再精査により柱穴自体の規模が拡大した(掘り足りなかった)ものがあったこと、などによる。今次調査の報告では、両次の成果を統合して再検討した建物プランを新たに示し、掘り足りない部分については記録しなおして掲載した。

建物跡の帰属年代については、第2次調査でも時期特定の材料に乏しい状況に変わりはなかった。層位的(面的)に分離することができないうえに、出土遺物も僅少で、埋土の差異も明瞭ではないからである(註2)。それでも、12世紀遺物包含層であるIVa層の類似土を埋土の主体とする柱穴の分布域を絞り込むことは可能だ。池西区一帯、池東区北部及び東端区南部の柱穴群の一部がこれに相当する。

池東区北部の柱穴群は第1次調査でも記録され、平行する柱穴列に庇を想定した建物プラン(SB12)等が提示されている。しかし今回、IVa層類似土主体の柱穴が新たに追加検出され、同位置に複数の建物跡が重複していることがわかった(SBII-05~08)。第1次調査の柱穴の一部が今回の再精査で規模が拡大したこともあり、結果的に、調査区内においては最も大きい柱穴からなる整った建物プラン(SBII-05)が復元できた。事実関係から時期不明と報告してはいるが、埋土と規模からみて12世紀に帰属せうるのではなかろうか。

また池西区や東端区でも埋土にかわらけ片を含む柱穴が複数認められた。これらの遺物が直ちに建物の帰属年代を示すとは言えないが、遺構外出土のかわらけは池西区の柱穴分布域と東端区中央部に集中することから、当該地点はかわらけの使用がおこなれた空間に近接していると考えられる。建物プランの検討は未だ十分ではないが、付近に分布する柱穴に12世紀のそれが含まれている蓋然性は高いといえよう。

一方で、すでに指摘されているとおり、12世紀代よりも新しい時期のものとみられる柱穴も少なく

ない。特に中央部～東端部にやや密に分布する柱穴の多くは、やはり中～近世の可能性が高かろう。第1次調査の報告にもあるように、同区域に分布する墓壙やカマド状遺構は、遺物等から中世～近世と考えられている。また今回東端区北部で検出した豊穴状遺構出土の炭化物は15世紀との年代測定値を得ている。この一帯は、12世紀構造物の廃絶後、しばらくの期間をおいて再び構造物を配置する空間として利用されたようである。

③池状遺構について

本遺跡の性格を云々するうえでの主要なアイテムとして各方面で取り上げられ、第1次調査の報告でも「園池であるとおもわれる」とされた池状遺構であるが、調査の中断にともない精査は未了のままとなっていた。全容の解明には追加調査が不可欠だが、盛土保存の決定により今回内部の堆積状況を追検討することはかなわなかった。池状遺構内部の堆積状況についてはなお第1次調査の成果に依るほかない。だが今回は池状遺構周辺の堆積状況を観察する機会を得ているので、本遺構にとって重要な課題である「帰属年代」と「機能・性格」について若干の検討を加えてみたい。

a. 「州浜状」礫群の帰属年代について

池状遺構西部北端のトレンチ（第II-3図右上）は、第1次調査で設定され、その後埋め戻されていたものである。今次調査では「D地点」と命名して再掘し、土層断面の観察を行った。断面図D-D'（第II-10図）の右端下にみえる「州浜状」の礫群は、6層（VI層下部相当か）を切った面に置かれ、上は12世紀遺物包含層のIVa層に類似する黒褐色土（3・5層）に被覆される状況が観察できる（註3）。近世以降に相当する1層（III層以上相当）は白色粒子の混入が顕著であることから下位の土層と明瞭に区別されるが、この層の下面が不自然に礫群に達する様子も認められない。こういった状況から、層位的には、礫群上面の年代として12世紀を想定することに矛盾はないと考えられる。

次に対岸の東側の礫群はどうか。直線的な配列から「近世以降の暗渠では」との疑問も聞かれた。このため、西側と同様に第1次調査のトレンチを一部再掘して観察したところ、暗渠に見られるような溝状の掘り方は確認されなかった。礫はIVa～IVc層に類似する暗褐色土面に配置されており、微高地③（第II-12図）の縁部から低位部②の中心部へ向かってやや急に下る、落ち際の肩に沿って並ぶことがわかった。礫が配置された暗褐色土の上面は、本来東側に向かってなだらかに高くなる斜面であったと思われる。だが微高地③は広い範囲で上部を大きく削平されており、礫群の範囲がさらに東側に広がっていたとしても、多くが失われたことだろう。無論、その有無も含め、現存する部分から削平前の姿を復元することは不可能である。帰属年代については、やはり著しく新しい年代を与えるべき理由は見あたらず、むしろ西側の礫群と同様、12世紀を中心とした時期に位置づけられる蓋然性が高いと考えられる（註4）。

b. 機能・性格について

第1次調査の成果では本遺構を「園池」であろうと結論づけている。だが、それを支持する根拠は、第1次調査成果にも第二次調査成果にも見いだすことはできなかつた、というのが筆者の見解である。「池状遺構」の内部と「州浜状」礫群との構造的な関係性、そしてその層位的な裏付けについて、第1次調査の成果では十分に説明できていないし、今回の調査でも新たな材料は得られなかつたからだ。以下では、「園池か、否か？」の答えを怠ぐ立場からは距離を置き、「州浜状遺構」とされる礫群及びこれに関連する溝跡に注目して検討を進みたい。

「州浜状遺構」について、筆者は以前、半泉町坂下遺跡で検出された「敷石遺構」との類似性を指摘した（村上2008）。①帶状の平坦面（造成による）に拳大の礫が敷かれること、②帶状範囲の両側縁に側溝状の溝を伴うこと、③敷石面の拳大礫とは別に大きめの礫を部分的に用いた構造物らしいこと、④主たる空間（高位面）の外縁を区画していること等の特徴が、両者に共通すると考えたのである。

今回再掘した池状遺構西縁部D地点の断面をみてみよう。7層（SD II 03）・5層（「州浜状遺構」西縁部）・8層など、溝状の掘り込みが並んで観察される。これらは池状遺構の西縁に平行して走行するとみられ、池状遺構の南方に延びる数条の溝跡（第1次調査で検出）に連続する可能性が高い。7層・5層の溝を側溝とみなせば、「州浜状遺構」の西に併走する帶状（道路状）の半坦面が想定できるだろう。また、SD II 03（7層）を埋め均す盛土層（4層）の存在や、その東側に新たに平坦面（3層下面）が設けられていることなどをみれば、やや大規模な整地を伴う造り替えが幾度か行われたことが理解される（礫面の乱れ・消失の原因か）。このように今次調査では、以前指摘した坂下遺跡例との共通性を改めて確かめることができた（註5）。

造成によって設けられた帶状の段。これに平行する溝と「州浜状」の礫群。この種の遺構の機能・性格は一体いかなるものか。筆者は、坂下遺跡例と同様、「主たる空間（高位面）の外縁を区画」する施設という位置づけが現段階では最も妥当だと考える。調査区西端部（池西区）は、実際に12世紀の柱穴と遺物が最も集中する区域である。この区域の東縁を「州浜状遺構」とそれに連続する溝が区画しているのだ。

当区域（池西区）の南部は本来低位部②の流路上に相当し（第II-12図）、自然の状態であれば「ぬかるみ」となり易いはずだ。にもかかわらず、かわらけや柱穴が密に分布するのは、池状遺構から南方にのびる溝が浸水を防いだからにはかならない。池状遺構付近の湧水を衣川本流側に振り向けるよう微高地③を横断しているこれらの溝が、排水路として機能することによって池西区南部の浸水・湿潤が緩和され、建物等の構造物を配置できる空間が生み出されているのだ。このことからも、「州浜状遺構」とこれに伴う溝が、建物等を配備する主要空間（高位面）側からの視点に基づいて企図・設計されたものであることをくみ取ることができるのではなかろうか。礫群を伴わない例にも目を向ければ、「主たる空間（高位面）の外縁を区画する帶状の半坦面」という範疇には、本遺跡東端部の「テラス状遺構」（第1次調査）や、接待館遺跡西縁部の「テラス状遺構」（第2次調査A地区SX30、重森2009）なども含まれてくる（註6）。いずれも湿地状の低位部に面した落ち際に沿って造られたものであり、12世紀当時の当地域において一般的に用いられた外郭構造物だったのかもしれない。答えを得るにはなお周辺部の調査と、類例の増加が不可欠である。

c. 池状遺構の内部について

東西の「州浜状遺構」に挟まれた部分については、今回新たな情報を追加することができなかった。「州浜状遺構」との関連性、人為的な掘削による池か否か、帰属時期はいつか。将来再び調査の手が入ることがあるならば、「十和田a火山灰」のあり方がこれらを解明する鍵になりそうだということを指摘しておきたい。繰り返しになるが、池状遺構は元々段丘崖と洪水堆積層による地形面との境界に生じた低位部に位置しており、この低位部に堆積するIV c層の下面には小塊状の十和田a火山灰が広がることが今回の調査でも確認された。したがって池状遺構が人為的な掘削で構築されたものならば、当該火山灰の分布面を上から掘り込んだ不整合が観察されるはずである。そしてその掘り込みの底面を覆う土層が本遺構の帰属年代を示すであろう。もしそれがIVa層ならば、矛盾無く本遺構を12世紀に位置づけることができるだろう。

（3）おわりに

かゆいところに手が届かないまま調査は終わりを迎え、遺跡は盛土に覆われた。だが、本遺跡の本質は、調査区に隣接する区域を丹念に調べることで、次第に明らかになるものと思われる。本書に示し得た幾ばくかの考古学的事実が、将来本遺跡の理解に役立つことを祈りたい。調査成果から得られた見解を以下に列挙し、報告を終えることとする。

- ・12世紀の建物跡の特定は困難だが、池西区一帯・池東区北部・東端区南部に、該期の柱穴とかわらけの分布が認められる。
- ・中央部～東端部一帯に分布する墓坑・カマド状遺構と、柱穴のうちの多くは中・近世のものとみられる。このなかに12世紀の可能性を持つ柱穴が混在する。
- ・調査区内は全体に削平を受けており、特に削平の著しい微高地③の西半部（池東区一帯）の遺構空白域は、本来の遺構の分布状況が不明となっている。
- ・「池状遺構」の東西両岸に形成された「州浜状」の礫群は、12世紀に帰属する可能性が高い。
- ・「州浜状遺構」と「池状遺構」内部の構造的な関係性は未確認であり、岡池であるか否かを決する根拠は得られていない。
- ・「州浜状遺構」は平泉町坂下遺跡「敷石遺構」等に類似し、遺跡主要部を外郭する機能が想定される。
- ・遺構・遺物の分布状況からみて、本遺跡の12世紀代における主要部が、調査区外の北西側段丘面（池西区に連続する区域）に展開していた可能性を考慮する必要がある。

(村上)

注1 B・C地点の土層断面は調査区中央区から東端区を縦断する低位部④の状況を記録したものである。池状遺構より東の当区域では、微高地③・⑤上面がI・II層下面によって削平され、III・IV層相当の土層は低位部にのみ観察される。微高地上面に残存する遺構はいずれもV層上面で検出される。

註2 第2次調査の報告で提示した建物跡については、大半を帰属年代「不明」のものとした。個々の柱穴については出土遺物や堆土から時期の推定が可能なものもあったが、遺物跡の総属年代を示す決定的な材料とは致しかねた。すでに理工上が失われていた第1次調査の柱穴を用いて復元したプランについても積極的に帰属時期を想定することは避けた。

註3 段丘縁部のこの地点では洪水堆積層のV層が無く、IV相当層とVI相当層が直接接して炭土層を形成していたと思われる。

註4 坂下遺跡第10次の報告書（村上2009）では、衣の間遺跡跡の州浜状遺構について、而してに新旧数時期あるとされた点と東側の礫群を西側と同じ時期と見なしている点について懸念的立場をとったが、今回の調査により筆者のこれらの疑問は払拭されている。ただし、D地点断面（第II-10図D-D'）の6層下間にみられるような自然の砂礫層を第1次調査で人為的な敷石面と誤認した部分もある可能性や、敷石面より浮いて出土する大きめの礫が無量光院跡例（平泉町教委2004）のような帶状堆積面の側面に配された「礫石」である可能性、などを指摘しておきたい。

註5 坂下遺跡と衣の間遺跡と共に通るのは当該遺構の類似点だけではない。遺跡内に堆積する土層が実によく似ている。坂下遺跡の12世紀遺物包含層（Ⅲ層）は、衣の間遺跡跡Ⅳa層と同様、織維明瞭で角張った径1cm弱の炭片が目立つ。また、この上位の新しい層には花崗岩粒のような白色粒子が同遺跡と共に通して観察される。両遺跡とも衣川に面し、増水時には遺跡の一部が冠水する程のところ（両者ともに標高24m前後）に立地する。坂下遺跡「敷石遺構」も衣の間遺跡跡「州浜状遺構」も、増水時には河水の波にひたひたと洗われるような位置に設けられているのである。上層の類似性は遺跡同士の近さだけではなく、立地に由来する堆積環境の共通性によるものと考えられる。

註6 奥州市教育委員会による接待館遺跡の範囲確認調査（第2・3次、平成20年度実施）では、遺構分布面の西線に沿って南北方向に延びるテラス状遺構（A地区SX30）が検出されている。南側の延長線上には同方向に走行する溝跡（F地区SI077）も確認されている。現在のところ12世紀に帰属させる根拠は確認されていない。

引用・参考文献

- 八重樋忠郎 2000 「無量光院第8次発掘調査」『平泉遺跡群発掘調査報告』岩手県平泉町文化財調査報告書第75集 平泉町教育委員会
八重樋忠郎 2004 「特別史跡無量光院跡発掘調査報告書Ⅰ」岩手県平泉町文化財調査報告書第87集 平泉町教育委員会
及川真紀・福島正和 2006 「衣川遺跡群とは何か」『歴史評論』No.678 校倉書房
入間田宜夫編 2007 「平泉・衣川と京・福原」高志書院
村上 拓 2008 「V まとめ」『坂下遺跡第10次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第509集
羽柴寅人ほか 2008 「六日市場・福田・接待館遺跡発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第523集
重森直人 2009 「接待館遺跡」『平成20年度奥州市遺跡・発掘調査報告会資料集』 奥州市埋蔵文化財調査センター
奥州市教育委員会歴史遺産課 2009 「衣川流域遺跡群（接待館遺跡関係）範囲確認調査概要」平成20年度第2回平泉遺跡群調査整備指導委員会資料

附編 1 放射性炭素年代測定（AMS法）

（株）加速器分析研究所

1 測定対象試料

衣の関遺跡は、岩手県奥州市衣川区下衣川字閑谷起（北緯39°00'20"、東經141°05'44"）に所在する。測定対象試料は、調査区西壁の4b層から出土した木炭（No.1 : IAAA-82514）、調査区西壁の7b層から出土した木炭（No.2 : IAAA-82515）、柱穴sp II 69の柱痕埋土から出土した木炭（No.3 : IAAA-82516）、柱穴sp II 122の埋土最下部から出土した木炭（No.4 : IAAA-82517）、柱穴sp II 261の柱痕埋土から出土した木炭（No.5 : IAAA-82518）、豎穴状SII 1付近の5層から出土した木炭（No.6 : IAAA-82519）、豎穴状SII 1付近の6層から出土した木炭（No.7 : IAAA-82520）、カマド状遺構SN II 03の7b層直上から出土した木炭（No.8 : IAAA-82521）、合計8点である。

2 測定の意義

遺構・遺物の帰属年代を解明する。

3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。
- (2) 酸処理、アルカリ処理、酸処理（AAA : Acid Alkali Acid）により内面的な不純物を取り除く。
最初の酸処理では1Nの塩酸（80°C）を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では1Nの水酸化ナトリウム水溶液（80°C）を用いて数時間処理する。なお、AAA処理において、アルカリ濃度が1N未満の場合、表中にAaAと記載する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では1Nの塩酸（80°C）を用いて数時間処理した後、超純水で中性になるまで希釈し、90°Cで乾燥する。希釈の際には、遠心分離機を使用する。
- (3) 試料を酸化銅と共に石英管に詰め、真空下で封じ切り、500°Cで30分、850°Cで2時間加熱する。
- (4) 液体空素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用して、真空ラインで二酸化炭素（CO₂）を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出（水素で還元）し、グラファイトを作製する。
- (6) グラファイトを内径1mmのカソードに詰め、それをホイールにはめ込み、加速器に装着する。

4 測定方法

測定機器は、3MVタンデム加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置（NEC Pelletron 9SDH-2）を使用する。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx II）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

- (1) 年代値の算出には、Libbyの半減期（5568年）を使用する (Stuiver and Polash 1977)。
- (2) 14C年代 (Libby Age : yrBP) は、過去の大気中14C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。この値は、 $\delta^{13}\text{C}$ によって補正された値である。14C年代と誤差は、1桁目を四捨五入して10年単位で表示される。また、14C年代の誤差 ($\pm 1\sigma$) は、試料の14C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- (3) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の13C濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$) を測定し、基準試料からのずれを示した値である。同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差 (‰) で表される。測定には質量分析計あるいは加速器を用いる。加速器により $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ を測定した場合には表中に (AMS) と注記する。
- (4) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の14C濃度の割合である。
- (5) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の14C濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の14C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、14C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差 ($1\sigma = 68.2\%$) あるいは2標準偏差 ($2\sigma = 95.4\%$) で表示される。暦年較正プログラムに入力される値は、下一桁を四捨五入しない14C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal04データベース (Reimer et al 2004) を用い、OxCalv4.0較正プログラム (Bronk Ramsey 1995 Bronk Ramsey 2001 Bronk Ramsey, van der Plicht and Weninger 2001) を使用した。

6 測定結果

14C年代は、調査区西壁では、4b層の木炭が $140 \pm 30\text{yrBP}$ 、7b層の木炭が $1090 \pm 30\text{yrBP}$ である。柱穴では、sp II 69の柱痕埋土の木炭が $940 \pm 30\text{yrBP}$ 、sp II 122の埴土最下部の木炭が $990 \pm 30\text{yrBP}$ 、sp II 261の柱痕埋土の木炭が $440 \pm 30\text{yrBP}$ である。竪穴状遺構SN II 03の7b層直上の木炭は $320 \pm 30\text{yrBP}$ である。

試料の炭素含有率は、No. 4が53.4%、NO. 5が40.3%であり、やや低い値であったが、その他は約60%以上の高い値であった。2点の炭素含有率が低い理由としては、遺存状態が悪く、数mm程の小片であったことがあげられる。

暦年較正年代 (1σ) では、古いものが10世紀頃、新しいものが17世紀以降であり、それぞれに時期差が確認される。

附編 1 放射性炭素年代測定(AMS法)

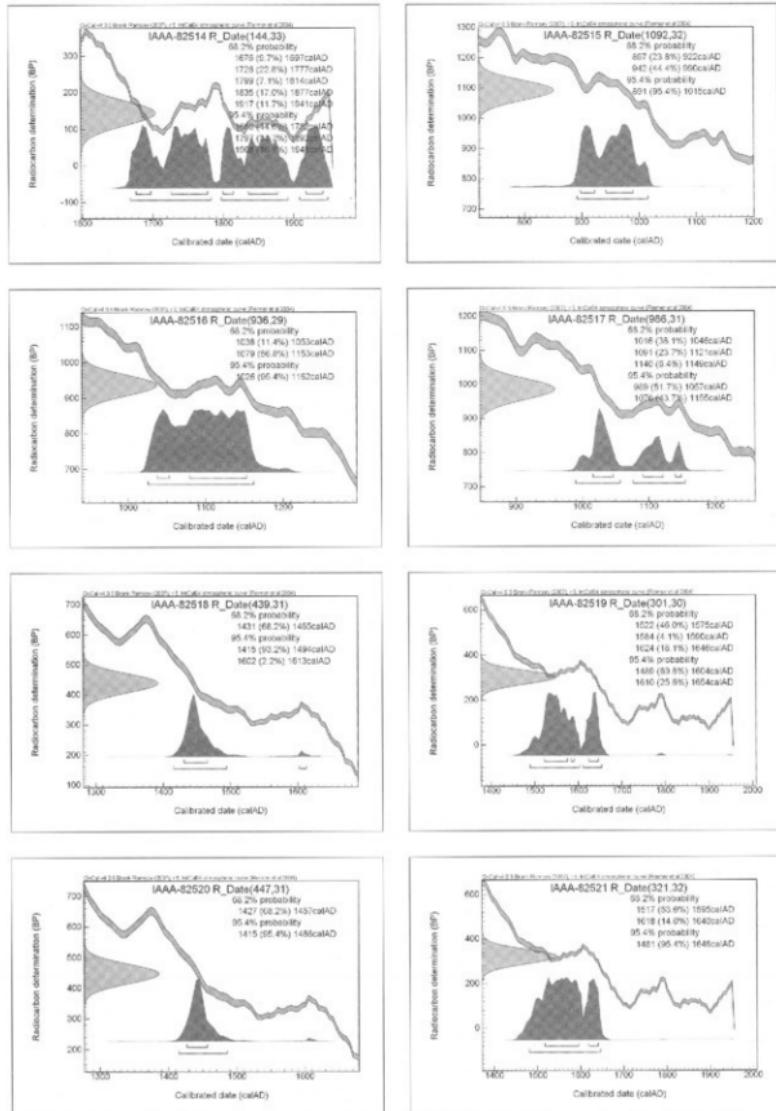
測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-82514	No.1	窓型X面壁 4b層	木炭	A/A	-25.05 ± 0.60	140 ± 30	98.21 ± 0.41
IAAA-82515	No.2	調査区西壁 7b層	木炭	A/A	-26.28 ± 0.55	1090 ± 30	87.28 ± 0.36
IAAA-82516	No.3	柱穴sp II 69 柱底埋土	木炭	A/aA	-24.21 ± 0.85	940 ± 30	89.00 ± 0.33
IAAA-82517	No.4	柱穴sp II 122 墓土最下部	木炭	A/aA	-19.38 ± 0.75	990 ± 30	88.44 ± 0.34
IAAA-82518	No.5	柱穴sp II 126 柱底埋土	木炭	A/aA	-23.06 ± 0.83	440 ± 30	94.68 ± 0.37
IAAA-82519	No.6	堅穴状SI II 1付近 5層	木炭	A/aA	-26.73 ± 0.62	300 ± 30	96.31 ± 0.37
IAAA-82520	No.7	堅穴状SI II 1付近 6層	木炭	A/aA	-21.33 ± 0.69	450 ± 30	94.58 ± 0.37
IAAA-82521	No.8	カマド状遺構SN II 03 7b層直上	木炭	A/aA	-24.90 ± 0.91	320 ± 30	96.08 ± 0.39

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		曆年校正用 (yrBP)	1σ 曆年代範囲	2σ 曆年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-82514	150 ± 30	98.20 ± 0.39	144 ± 33	1676AD - 1697AD (9.7%)	1668AD - 1782AD (44.6%)
				1726AD - 1777AD (22.8%)	1797AD - 1892AD (34.7%)
				1799AD - 1814AD (7.1%)	1908AD - 1948AD (16.1%)
				1835AD - 1877AD (17.0%)	
				1917AD - 1941AD (11.7%)	
IAAA-82515	1,110 ± 30	87.05 ± 0.34	1,092 ± 32	897AD - 922AD (23.8%)	891AD - 1015AD (95.4%)
				942AD - 990AD (44.4%)	
IAAA-82516	920 ± 30	89.14 ± 0.29	936 ± 29	1038AD - 1053AD (11.4%)	1026AD - 1162AD (95.4%)
				1079AD - 1153AD (56.8%)	
IAAA-82517	890 ± 30	89.46 ± 0.32	986 ± 31	1016AD - 1046AD (38.1%)	989AD - 1057AD (51.7%)
				1091AD - 1121AD (23.7%)	1076AD - 1155AD (43.7%)
				1140AD - 1149AD (6.4%)	
IAAA-82518	410 ± 30	95.05 ± 0.33	439 ± 31	1431AD - 1465AD (68.2%)	1415AD - 1494AD (93.2%)
				1602AD - 1613AD (2.2%)	
IAAA-82519	330 ± 30	95.97 ± 0.35	301 ± 30	1522AD - 1575AD (46.0%)	1489AD - 1604AD (69.8%)
				1584AD - 1590AD (4.1%)	1610AD - 1654AD (25.6%)
				1624AD - 1646AD (18.1%)	
IAAA-82520	390 ± 30	95.29 ± 0.34	447 ± 31	1427AD - 1457AD (68.2%)	1415AD - 1486AD (95.4%)
				1618AD - 1640AD (14.6%)	
IAAA-82521	320 ± 30	96.10 ± 0.35	321 ± 32	1517AD - 1595AD (53.6%)	1481AD - 1646AD (95.4%)

[参考値]

参考文献

- Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data. Radiocarbon 19, 355-363
- Bronk Ramsey C. 1995 Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy: the OxCal Program. Radiocarbon 37(2), 425-430
- Bronk Ramsey C. 2001 Development of the Radiocarbon Program OxCal. Radiocarbon 43(2A), 355-363
- Bronk Ramsey C., van der Plicht J. and Weninger B. 2001 'Wiggle Matching' radiocarbon dates. Radiocarbon 43(2A), 381-389
- Reimer, P.J. et al. 2004 IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26cal kyr BP. Radiocarbon 46, 1029-1058



[参考] 历年較正年代グラフ

附編2 火山灰同定分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

衣の関遺跡は、胆沢扇状地南縁に分布する丘陵の南側を流れる衣川の北上川合流点に近い沖積低地上に立地する。今回の第2次発掘調査では、10~12世紀を主体とする遺構・遺物が確認され、その時期の遺物包含層の下面に火山灰（テフラ）とされる堆積物が認められている。また、時期不明とされるカマド状遺構においてもテフラの可能性のある堆積物が検出されている。

今回の分析調査では、これらの堆積物を構成する碎屑物の性状を明らかにし、テフラである場合には、噴出年代の明らかにされている指標テフラとの対比を行い、遺跡の年代に関わる資料を作成する。

1 試 料

試料は、調査区西壁断面の10~12世紀の遺物包含層である7c層下面より採取されたNo.1と、時期不明とされているカマド状遺構（SNII03）の前庭部底面直上より採取された「灰状土壤」（No.2）の計2点である。No.1は褐色を呈する砂質シルトであり、No.2はにぶい黄褐色を呈する砂質シルトである。

2 分 析 方 法

試料約20gを蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。観察は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。

火山ガラスは、その形態によりバブル型・中間型・軽石型の3タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは破碎片状などの塊状ガラスであり、軽石型は小気泡を非常に多く持った塊状および気泡の長く伸びた纖維束状のものとする。

屈折率の測定は、火山ガラスを対象とし、古澤（1995）のMAIOTを使用した温度変化法を用いた。

3 結 果

結果を表1に示す。No.1からは、中量の火山ガラスが検出された。火山ガラスは、無色透明の軽石型が多く、これに少量の無色透明のバブル型と微量の褐色を帯びたバブル型が混在する。No.2からは、中量の火山ガラスと中量の軽石が検出された。火山ガラスの特徴はNo.1と同様である。軽石は、径約0.5mm、白色を呈し、発泡は良好～やや良好である。なお、2点の試料はともに、砂分の主体は石英および長石類の鉱物片であり、他に灰色を呈する堆積岩類の岩石片や灰黒色を呈する火山岩類の岩石片および輝石類や磁鐵鉱などの鉱物片が混在する。

火山ガラスの屈折率測定結果を、図1に示す。2点の試料ともにほぼ同様の値を示す。

レンジはn1.503~1.508、モードはn1.505~1.506である。

表1 テフラ分析結果

No.	採取位置	採取層位	スコリア			火山ガラス		軽石		
			量	量	色調・形態	量	色調・発泡度	最大粒径		
1	調査区西壁断面	7c層	-	+++	cl·pm>cl·bw>>br·bw	-				
2	カマド状遺構 (SN II-03)	前庭部 底面直上	-	+++	cl·pm>cl·bw>>br·bw	+++	W·g~sg	0.5		

凡例 - : 含まれない、(+) : きわめて微量、+ : 微量、++ : 少量、+++ : 中量、++++ : 多量。

cl : 無色透明、bc : 楊色、bw : バブル型、md : 中間型、pm : 軽石型。

g : 良好、sg : やや良好、sb : やや不良、b : 不良。

W : 白色、最大粒径はmm。

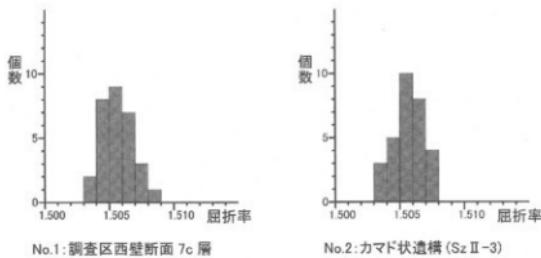


図1 火山ガラスの屈折率測定結果

4 考 察

No.1で検出された中量の火山ガラスは、形態の特徴とその屈折率、さらにこれまでに研究された東北地方におけるテフラの産状(町田ほか(1981;1984)、Arai et al. (1986)、町田・新井(2003)など)との比較から、十和田aテフラ (To-a) に由来すると考えられる。

To-aは、平安時代に十和田カルデラから噴出したテフラであり、給源周辺では火碎流堆積物と降下軽石からなるテフラとして、火碎流の及ばなかった地域では軽石質テフラとして、さらに給源から離れた地域では細粒の火山ガラス質テフラとして、東北地方のほぼ全域で確認されている(町田ほか, 1981)。また、To-aの噴出年代については、早川・小山(1998)による詳細な調査によれば、西暦915年とされている。

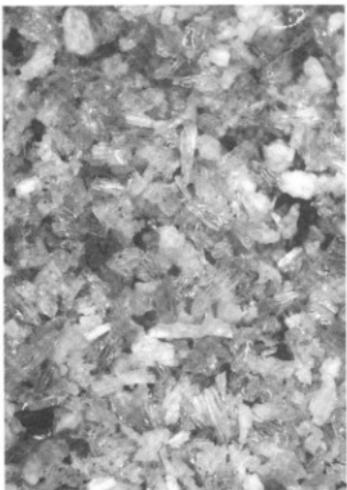
No.1の妙分では火山ガラスの量を中量とし、火山ガラス以外の碎屑物も多量に含まれている。この状況から、No.1の採取された堆積物は、To-aの降下堆積物がその後ある程度攪乱を受けながらも、ほぼ降灰層準付近に火山ガラスの濃集層準として保存されたものであると考えられる。このことは、その上位に10~12世紀とされる遺物包含層が形成されていることと矛盾しない。

No.2で検出された火山ガラスも、No.1の火山ガラスと同様の形態および屈折率を示したことから、To-aに由来すると考えられる。したがって、同量程度混在する細粒の軽石もTo-aに由来すると考えられる。同じ調査区内において、軽石の含まれないTo-aと軽石を含むTo-aが認められたことについては、堆積過程とその後の保存状態の違いに起因する可能性がある。No.2は、カマド状遺構の前庭部という限られた範囲の堆積であることから、人為的にTo-aを堆積させたものかあるいはTo-a降下堆積直後

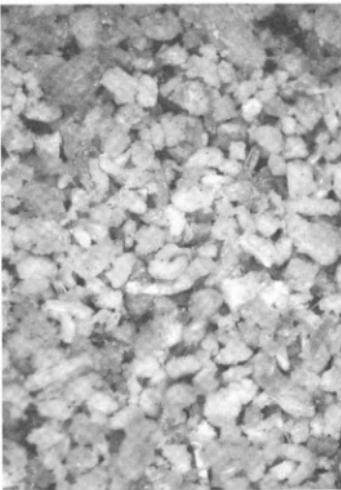
にカマド前庭部のみを覆うような堆積があった（これも人為の場合が想定される）などのことが考えられる。いずれにしても、No.2の堆積物は、To-aの降下堆積物がNo.1よりも良好な状態で保存されたことにより、細粒の軽石の含有状況に違いが生じたと考えられる。なお、No.2の堆積物が人為的に堆積させたものであるとすれば、カマド状造構の構築は、To-aの降灰より後になり、自然堆積物であるとすればその構築はTo-a降灰以前となる。しかし、いずれの場合もTo-aの保存状況が良好であることから、その降灰時からさほど時間が経過していない可能性がある。以上より、試料が採取されたカマド状造構の構築年代は、To-aが降灰した10世紀初頭前後の時期となる可能性があると考えられる。

引用文献

- Arai,F.・Machida,H.・Okumura,K.・Miyauchi,T.・Soda,T.・Yamagata,K.1986.Catalog for late quaternary marker-tephras in Japan II - Tephras occurring in Northeast Honshu and Hokkaido --Geographical reports of Tokyo Metropolitan University No.21,223-250.
- 古澤 明1995.火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的な解析に基づくテフラの識別.地質学雑誌,101,123-133.
- 早川由紀夫・小山寅人.1998.日本海をはさんで10世紀に相次いで起った二つの大噴火の年月日－十和田湖と白頭山－火山43,403-407.
- 町田 洋・新井房夫.2003.新編 火山灰アトラス.東京大学出版会,336p.
- 町田 洋・新井房夫・森脇 広.1981.日本海を渡ってきたテフラ.科学,51,562-569.
- 町田 洋・新井房夫・杉原重夫・小田静夫・遠藤邦彦.1984.テフラと日本考古学－考古学研究と関連するテフラのカタログ－渡辺直毅（編）古文化財に関する保存科学と人文・自然科学.同朋舎,865-928.



1.砂分の状況(No.1 調査区西壁断面 7c層)



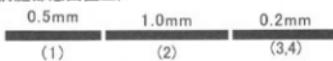
2.砂分の状況(No.2 カマド状遺構(SN II 03)
前庭部底面直上)



3.火山ガラス(No.1 調査区西壁断面 7c層)



4.火山ガラス(No.2 カマド状遺構(SN II 03)
前庭部底面直上)



図版1 テフラ

附編3 炭化種実同定分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

今回の分析調査では、衣の関道遺跡（岩手県奥州市衣川区関谷起所在）第2次調査区の古代の土坑から出土した炭化種実の同定を実施し、当時の植物利用に関する情報を得る。

1 試 料

試料は、10世紀とされるNo.1 土坑SK II 01埋土より出土した、洗浄済の炭化種実約100粒である。

2 分析方法

試料を双眼实体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて同定可能な種実を抽出する。現生標本および石川（1994）、中山ほか（2000）等との対照から、種実の種類と部位を同定し、個数を数えて表示する。分析後は、種実を種類毎に瓶に入れ、70%程度のエタノール溶液で液浸し保管する。

3 結 果

結果を表1に示す。栽培種のイネ24個、アワ近似種3個、アワ？9個、キビ近似種5個、キビ？3個、オオムギ60個、コムギ27個、オオムギ-コムギ18個、アサ1個、マメ類6個、計156個の炭化種実が検出された。オオムギ（38%）、コムギ（17%）などのムギ類が全体の67%を占め、イネ（15%）が次ぐ。種実以外では、最大径5.5mm程度の炭化材が確認された。以下に、種実の形態的特徴等を記す。

・イネ (*Oryza sativa L.*) イネ科イネ属
胚乳が検出された。炭化しており黒色。長さ3.5~5mm、幅2~3mm、厚さ1.5mm程度のやや偏平な長楕円形。基部一端に胚が脱落した斜切形の凹部がある。表面はやや平滑で、2~3本の隆条が縱列する。

・アワ近似種 (*Setaria cf. Italica (L.) P.Beauv.*) イネ科エノコログサ属

穎が付着した胚乳が検出された。炭化しており黒色、長さ1~1.5mm、幅1~1.5mm、厚さ1mm程度の半偏球体で背面は丸みがあり腹面は平ら。基部正中線上に馬蹄形の胚の凹みがあり、表面はやや平滑。表面に付着した穎は薄く、表面には横方向に目立つ微細な顆粒状突起が配列する。走査型電子顕微鏡下による穎の観察で種類の特定が可能となる。なお、穎の付着が認められない胚乳をアワ？としている。

表1 種実同定結果

分類群	部位	状態	No.1
			土坑(SK II 01)
イネ	胚乳	完形 炭化	18
		破片 炭化	6
アワ近似種	穎・胚乳	完形 炭化	3
アワ？	胚乳	完形 炭化	9
キビ近似種	穎・胚乳	完形 炭化	5
キビ？	胚乳	完形 炭化	3
オオムギ	穎・胚乳	完形 炭化	2
	胚乳	完形 炭化	48
		破片 炭化	10
オオムギ-コムギ	胚乳	完形 炭化	15
		破片 炭化	3
コムギ	胚乳	完形 炭化	27
アサ	果実	破片 炭化	1
マメ類	種子	破片 炭化	6
炭化材			最大径5.5mm

注) 表中の数字は個数を示す

・キビ近似種 (*Panicum cf. miliaceum L.*) イネ科キビ属

穎が付着した胚乳が検出された。炭化しており黒色、長さ2.5~3mm、幅1.5~2mm、厚さ1.2mm程度のやや偏平な広卵形で、背面は丸みがあり腹面は平ら。基部正中線上に胚の凹みがある。表面はやや平滑。表面に付着する穎は薄く、表面は平滑で、微細な縦長の網目模様が継列する。走査型電子顕微鏡下による穎の観察で種類の特定が可能となる。なお、穎の付着が認められない胚乳をキビ?としている。

・オオムギ (*Hordeum vulgare L.*) イネ科オオムギ属

穎が付着した胚乳が検出された。炭化しており黒色、長さ6~7.5mm、径3~3.5mm程度のやや偏平な紡錘状長楕円体。両端は尖る。腹面は正中線上にやや太く深い縦溝があり、背面は基部正中線上に胚の痕跡があり丸く窪む。表面はやや平滑。表面に付着する穎は薄く、表面には微細な縦筋がある。

・コムギ (*Triticum aestivum L.*) イネ科コムギ属

胚乳が検出された。炭化しており黒色、長さ3~4.5mm、径2~3mm程度の楕円体。腹面は正中線上にやや太く深い縦溝があり、背面は基部正中線上に胚の痕跡があり丸く窪む。表面はやや平滑。なお、頂部を欠損するなど遺存状態が悪く、オオムギとの判別が難しい個体をオオムギ・コムギとしている。

・アサ (*Cannabis sativa L.*) クワ科アサ属

果実の破片が検出された。炭化しており黒色、長さ4mm、幅3mm程度の歪な広倒卵形。破片は縦方向に一層する稜に沿って割れた半分未満で、基部は切形、頂部に径1mm程度の楕円形の突起がある。果皮表面は葉脈状網目模様があり、断面は柵状。

・マメ類 (Leguminosae) マメ科

種子の破片が検出された。炭化しており黒色、長さ5~6mm、径3.5~4mm程度の長楕円体。破片は子葉の合わせ目に沿って割れた半分以下で、腹面の子葉合わせ目上にある細長い長楕円形の溝を欠損する。1個の子葉内面に北大基準（吉崎,1992）の「アズキグループ（幼根が溝の終わり程から急に立ち上がり、胚珠中央に向けて伸びる）」に該当する幼根や初生葉の状態が確認される。種皮表面はやや平滑で、焼け膨れ、表面が崩れているものもある。

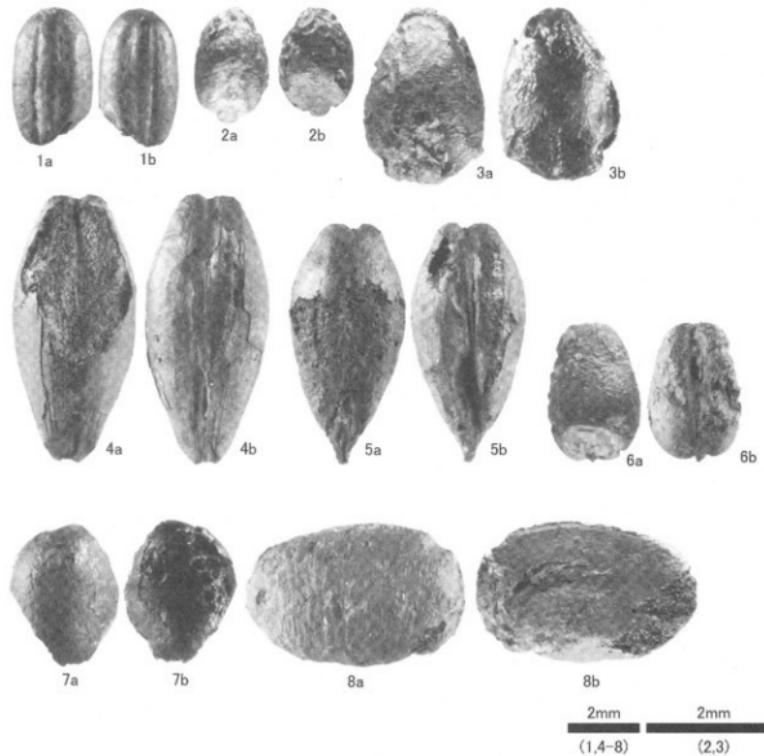
4 考 察

イネ、アワ、キビ、オオムギ、コムギ、アサ、マメ類は、栽培のために大陸より持ち込まれた渡来種とされる。今回同定された種類はいずれも植物質食糧等として有用であり、穀類のイネ、アワ、キビ、オオムギ、コムギは胚乳が食用され、アサは果実が食用、油料等に、茎からとれる纖維は衣料や繩用等に利用される。マメ類は種子が食用や油料、調味料等に利用される。

これらの栽培植物の可食部である種実が、No.1土坑（SKII01）より炭化した状態で出土したことから、当時本遺跡および周辺域における利用と、火を受けた結果炭化し残存したことが推定される。ただし、土坑内で供伴する炭化材とともに炭化したのか、別の場所で炭化した種実が土坑内に廻棄されたのかについては、出土状況が不明であるため、今後の検討課題である。

引用文献

- 石川 茂雄,1994,原色日本植物種子写真図鑑,石川茂雄図鑑刊行委員会,328p.
 中山 至大・井之口希秀・南谷 忠志,2000,日本植物種子図鑑,東北大字出版会,642p.
 吉崎 昌一,1992,古代穀類の検出,考古学ジャーナル,356,ニューサイエンス社,2-14.



- | | |
|----------------------------------|----------------------------------|
| 1. イネ 胚乳(No.1;土坑(SK II 01)) | 2. アワ近似種 頸・胚乳(No.1;土坑(SK II 01)) |
| 3. キビ近似種 頸・胚乳(No.1;土坑(SK II 01)) | 4. 才オムギ 頸・胚乳(No.1;土坑(SK II 01)) |
| 5. 才オムギ 胚乳(No.1;土坑(SK II 01)) | 6. コムギ 胚乳(No.1;土坑(SK II 01)) |
| 7. アサ 果実(No.1;土坑(SK II 01)) | 8. マメ類 種子(No.1;土坑(SK II 01)) |

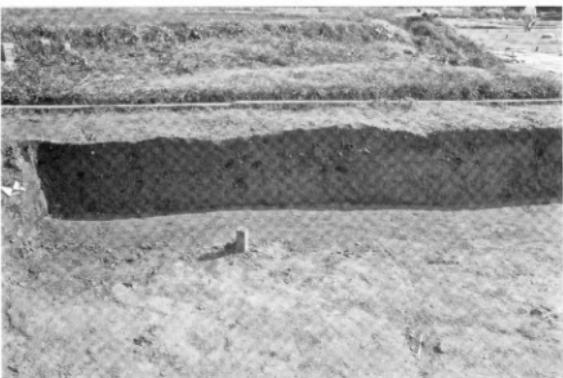
図版1 種実遺体

第1次調査
写 真 図 版

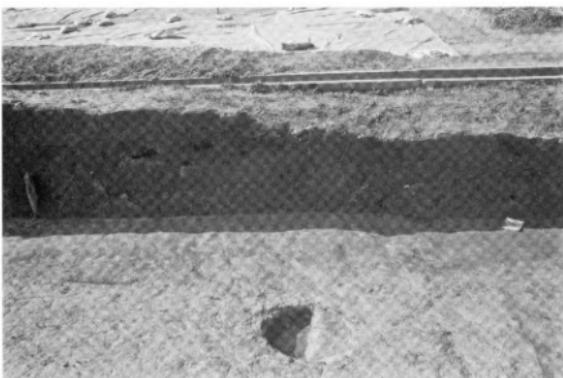


上空からみた遺跡（東から）

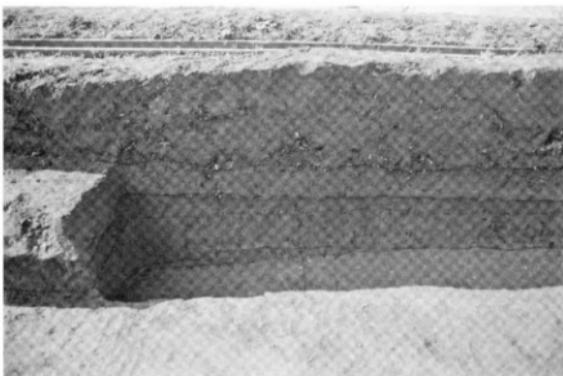
写真図版1 遠景



調査区東側ベルト断面（1）



調査区東側ベルト断面（2）



調査区東側ベルト断面（3）

写真図版2 基本層序断面



S G01西側全景（北から）



S G01東側全景（北から）



S G01東側検出状況（北東から）

写真図版3 S G01 (1)



S G01西側洲浜検出状況
(北東から)



S G01西側洲浜検出状況
(北から)



S G01西側洲浜検出状況
(東から)

写真図版 4 S G01 (2)



S G01中央断面1 (南東から)

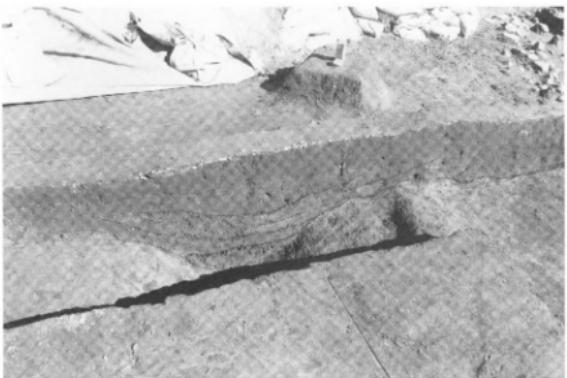


S G01中央断面2 (南東から)



S G01中央断面1 (南東から)

写真図版5 S G01 (3)



S G01 西側断面2 (南から)



S G01 西側断面3 (南西から)



S G01 西側断面4 (南東から)



S G01西側断面5（南西から）



S G01西側断面6（南西から）

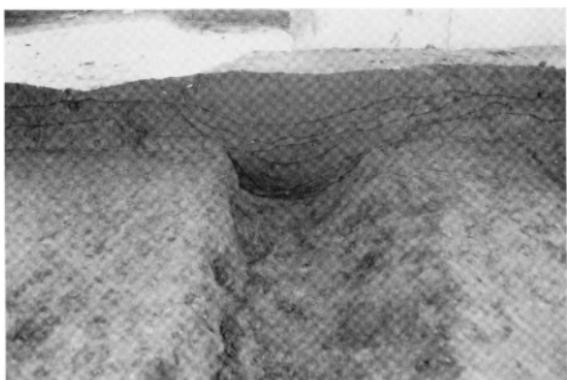


S G01西側断面7（南東から）

写真図版7 SG01 (5)



S G01西側断面8（南西から）



S G01西側断面9（南から）



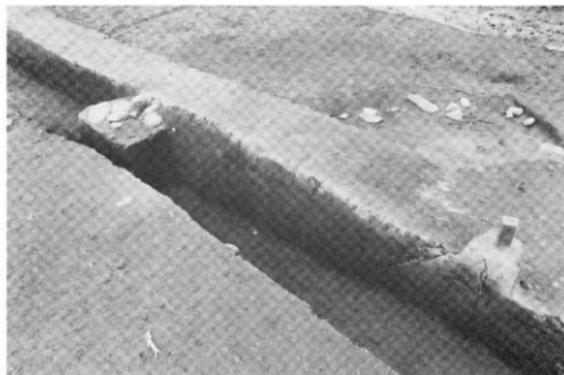
S G01西側断面10（南西から）



S G01西側断面1 (南東から)

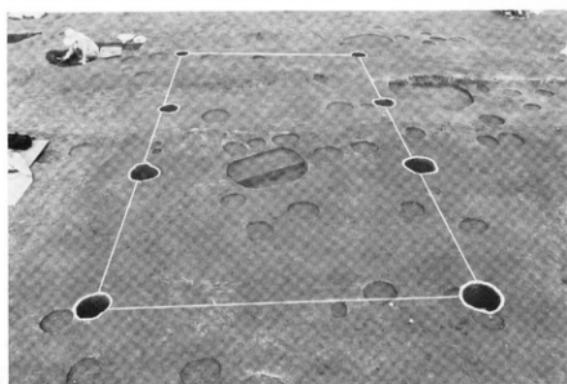
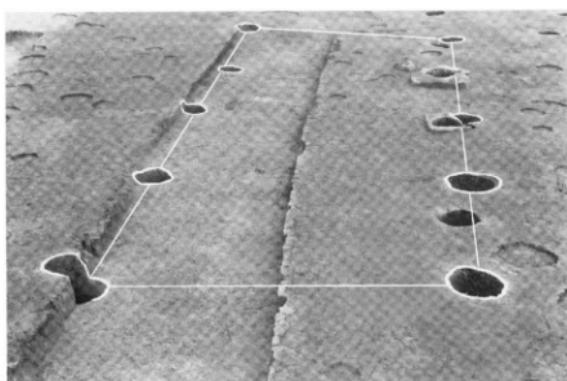
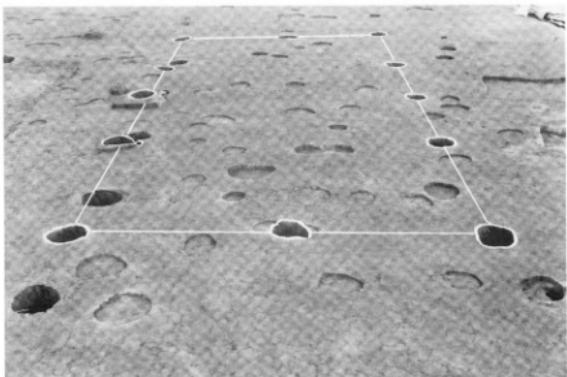


S G01東側断面1 (南東から)

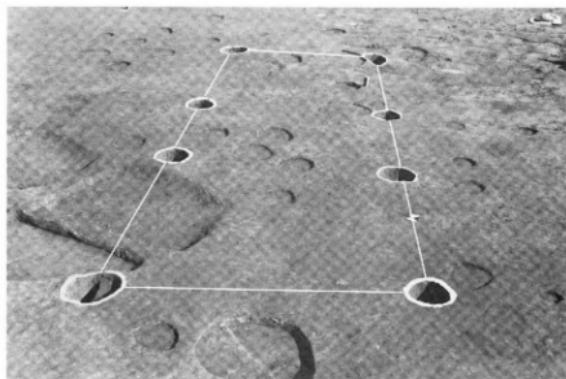


S G01東側断面2 (南東から)

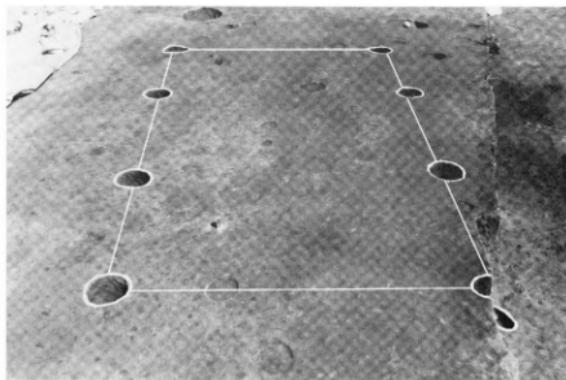
写真図版9 S G01 (7)



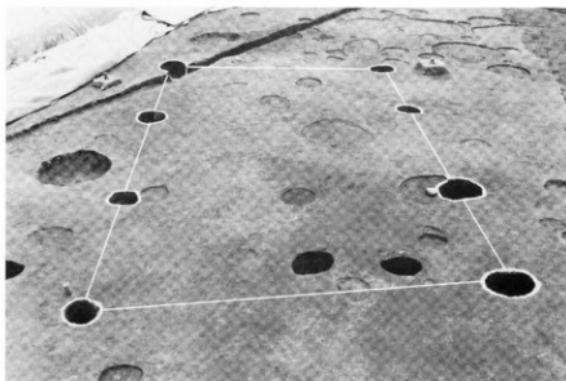
写真図版10 S B01~03



S B04全景（西から）

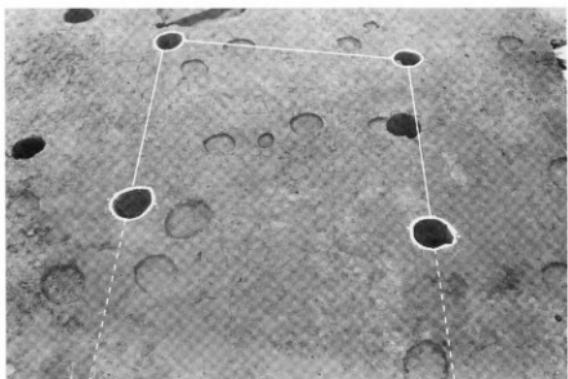


S B05全景（西から）

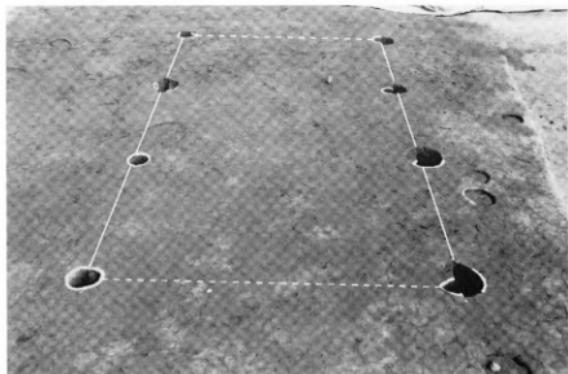


S B06全景（西から）

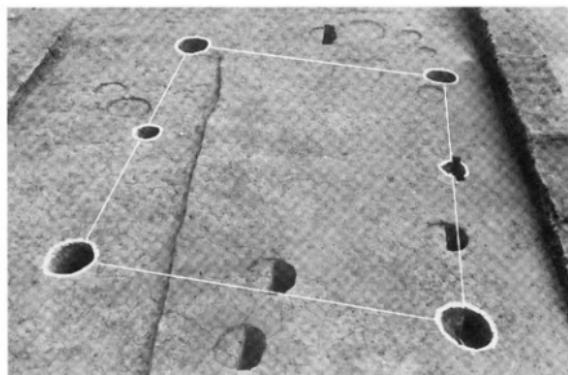
写真図版11 S B04~06



S B07全景（西から）

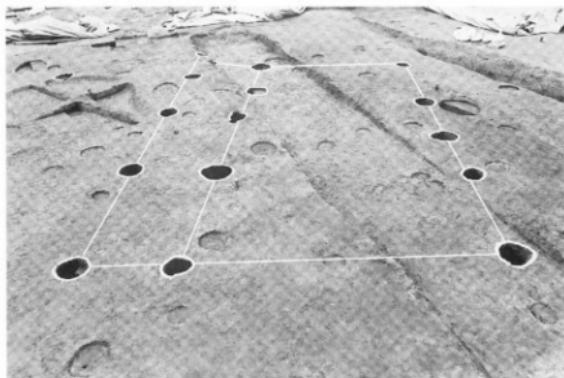


S B08全景（西から）

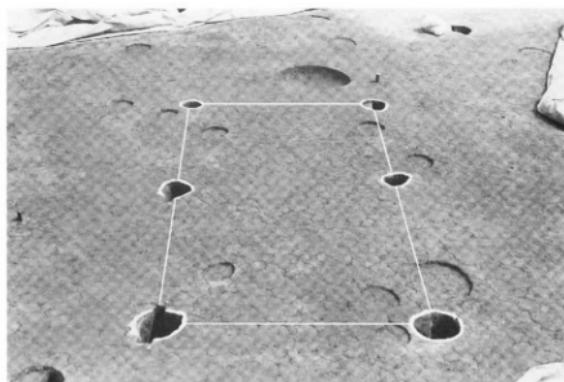


S B09全景（西から）

写真図版12 S B07~09



SB 10全景（東から）

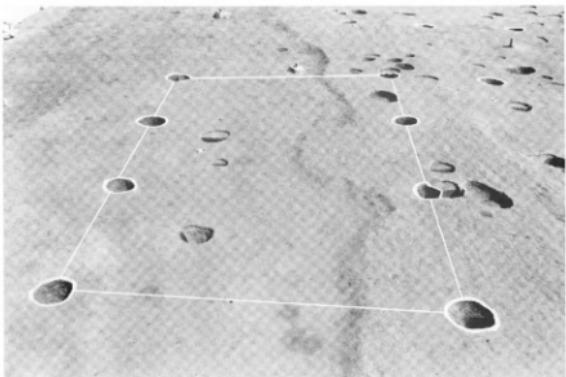


SB 11全景（西から）

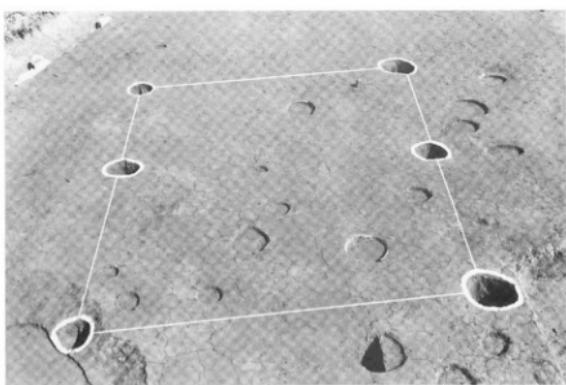


SB 12全景（西から）

写真図版13 SB 10~12



S B13全景（南から）



S B14全景（西から）

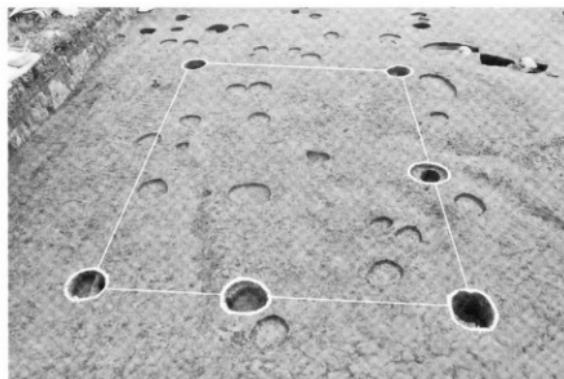


S B15全景（西から）

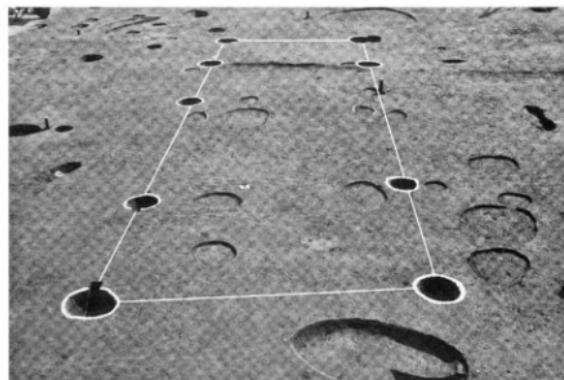
写真図版14 S B13~15



S B16全景（南から）

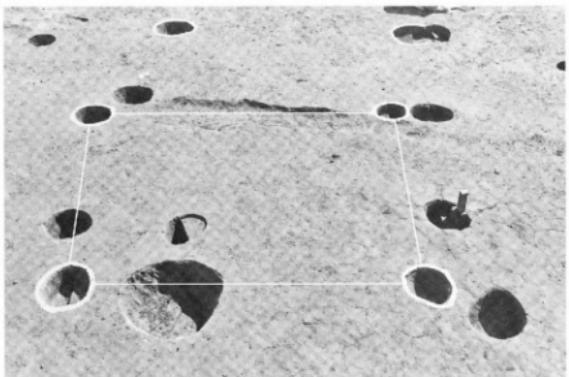


S B17全景（北から）

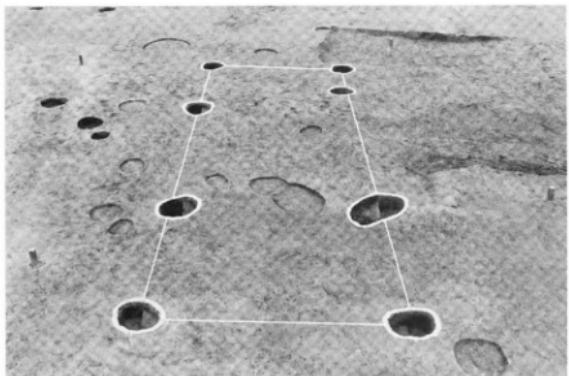


S B18全景（西から）

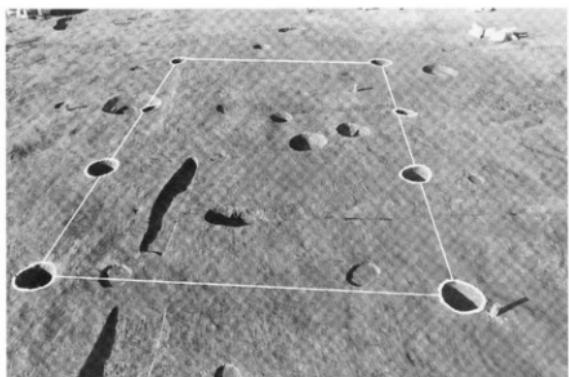
写真図版15 S B16~18



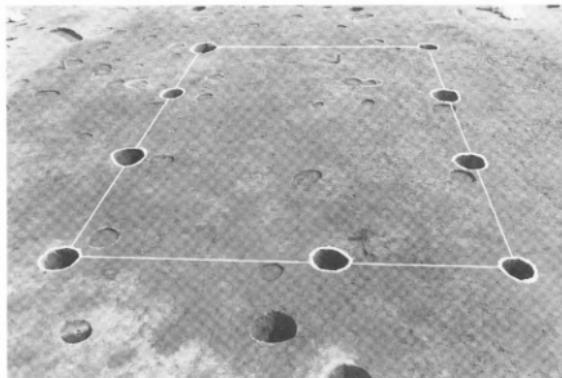
S B19全景（西から）



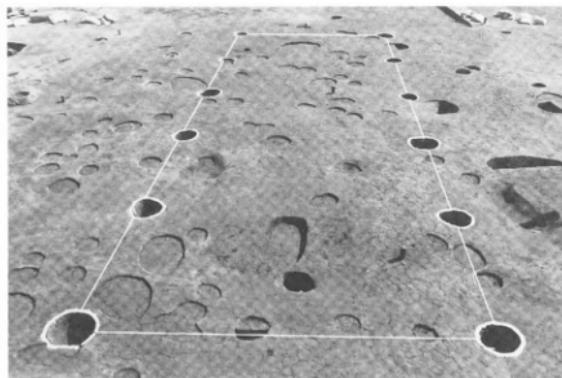
S B20全景（西から）



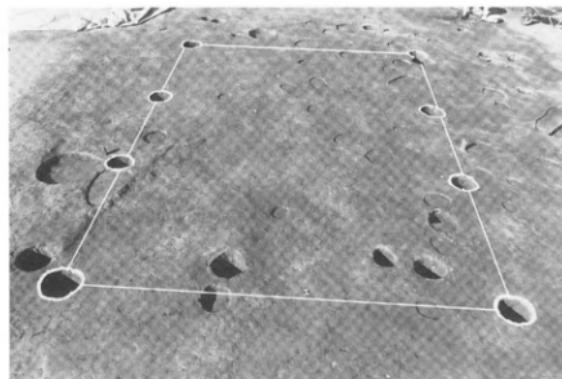
S B21全景（南から）



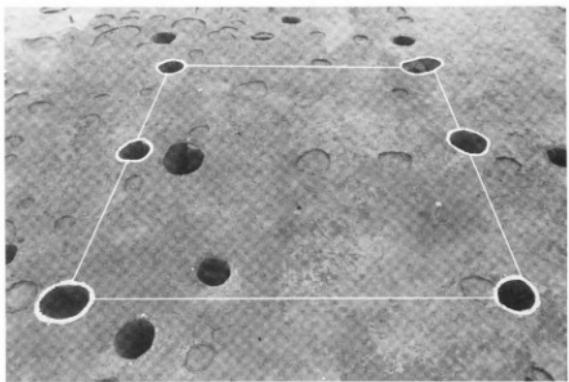
S B22全景（西から）



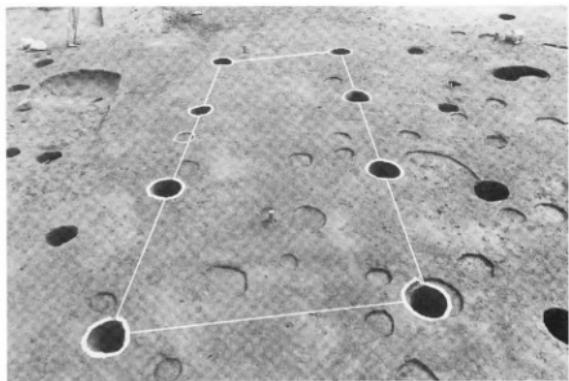
S B23全景（西から）



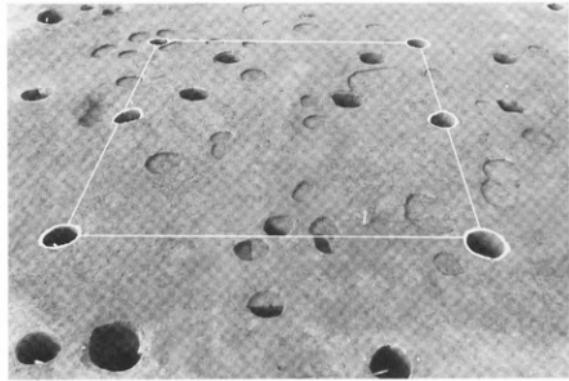
S B24全景（南から）



S B25全景（西から）



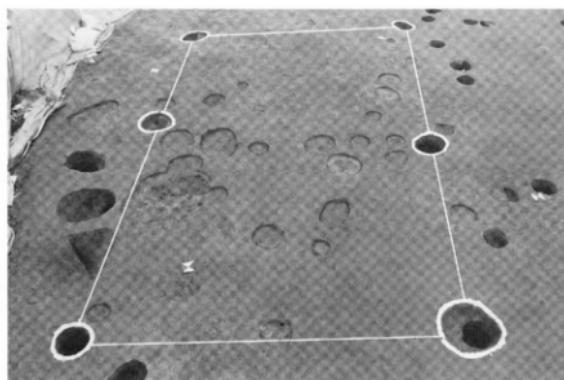
S B26全景（西から）



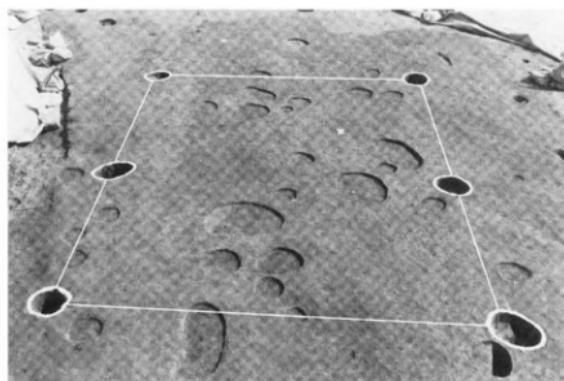
S B27全景（南から）



S B 28全景（南から）

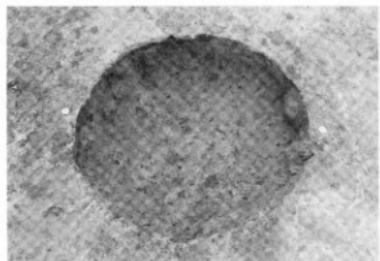


S B 29全景（西から）

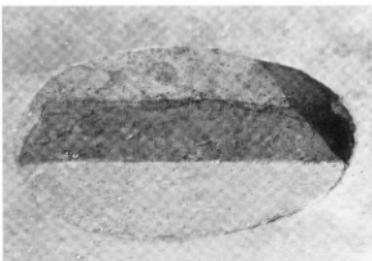


S B 30全景（西から）

写真図版19 S B 28~30



S K01 (北から)



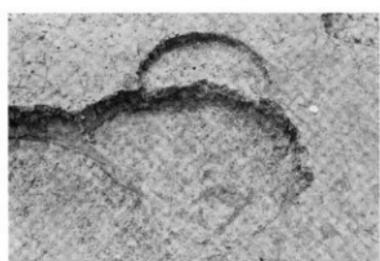
S K01断面 (南から)



S K02 (北東から)



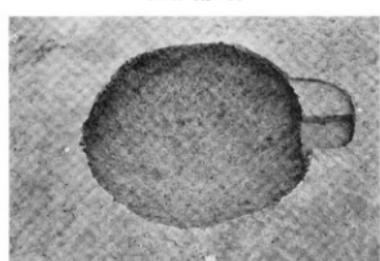
S K02・03断面 (南から)



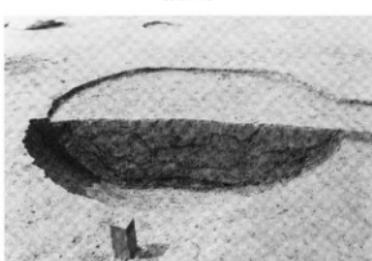
S K03 (北から)



作業風景



S K04 (南から)



S K04断面 (南東から)

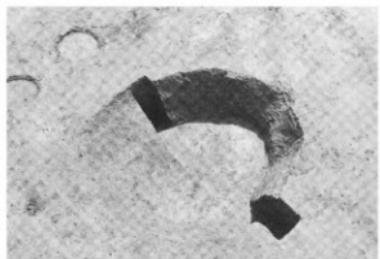
写真図版20 S K01~04、作業風景



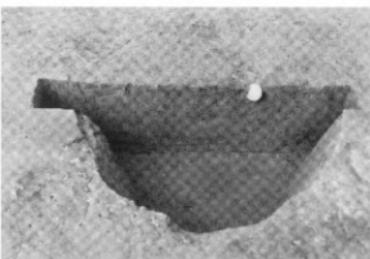
S K05 (南から)



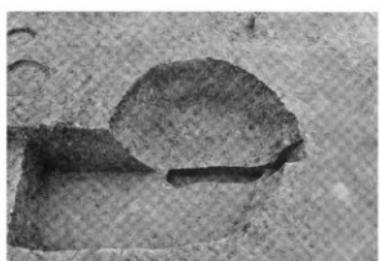
S K05断面 (南東から)



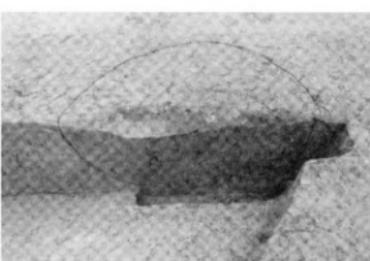
S K06 (北から)



S K06断面 (南東から)



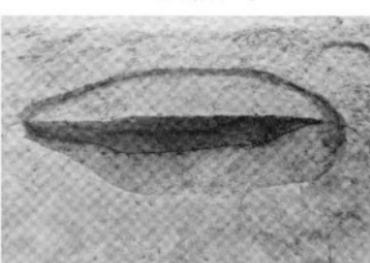
S K07 (北西から)



S K07断面 (北西から)

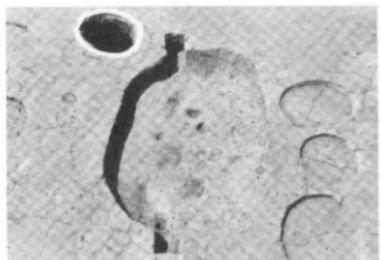


S K08 (北東から)

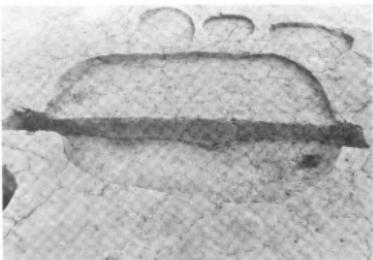


S K08断面 (南から)

写真図版21 S K05~08



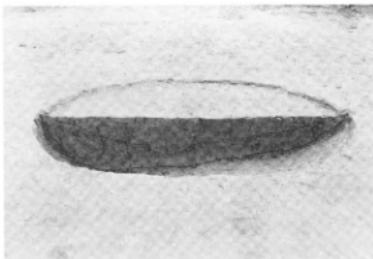
SK 09 (東から)



SK 09断面 (南から)



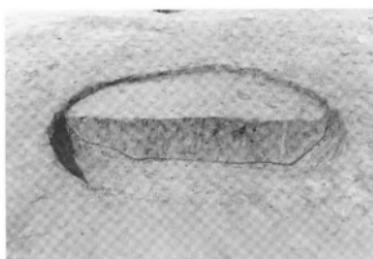
SK 10 (西から)



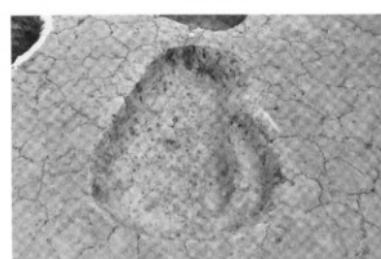
SK 10断面 (南から)



SK 11 (西から)



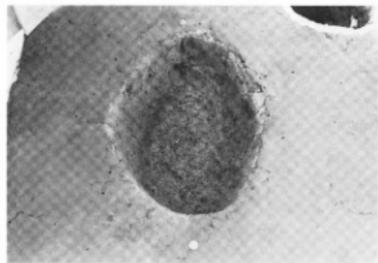
SK 11断面 (南から)



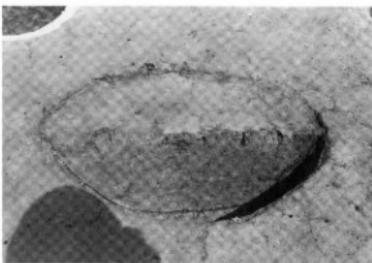
SK 12 (北から)



SK 12断面 (西から)



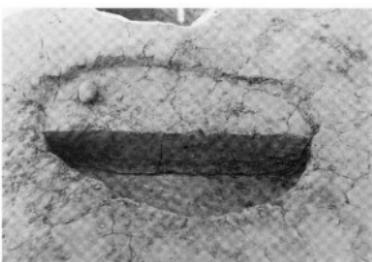
S K13 (東から)



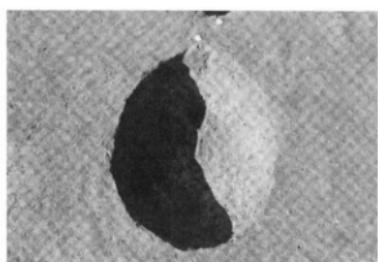
S K13断面 (南西から)



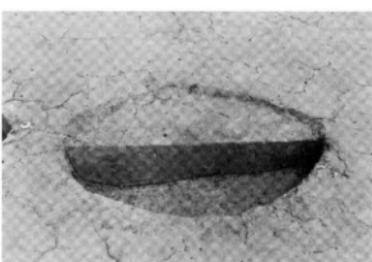
S K14 (北西から)



S K14断面 (南西から)



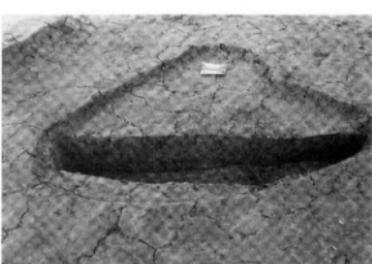
S K15 (東から)



S K15断面 (南東から)

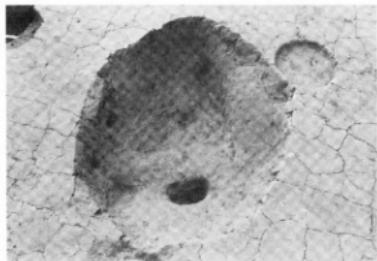


作業風景



S K16断面 (西から)

写真図版23 S K13~16、作業風景



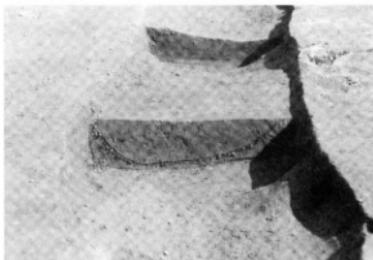
SK17 (東から)



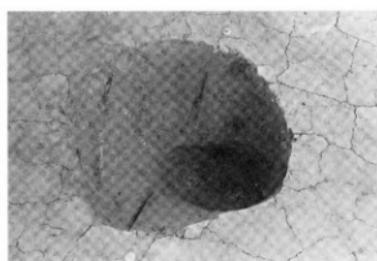
SK17断面 (東から)



SK18 (西から)



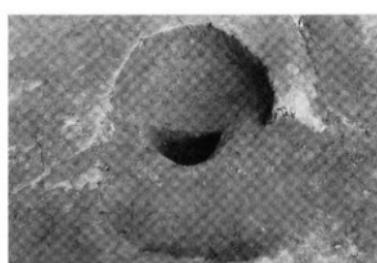
SK18断面 (西から)



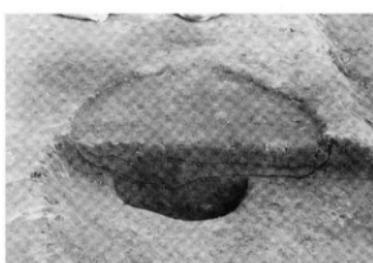
SK19 (西から)



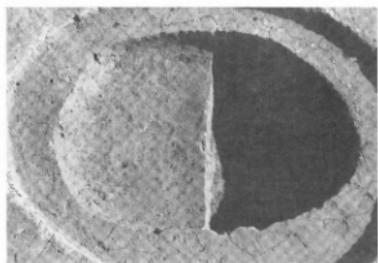
SK19断面 (南から)



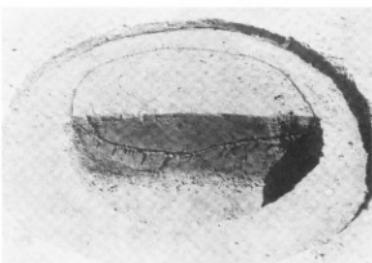
SK20 (西から)



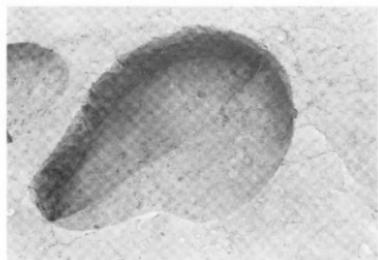
SK20断面 (西から)



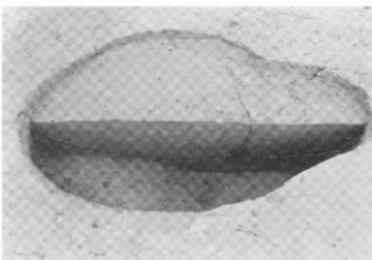
S K21 (北から)



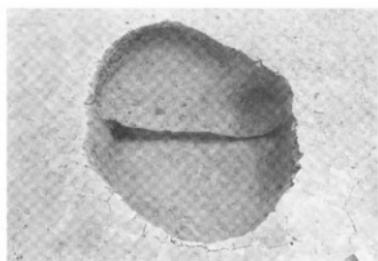
S K21断面 (西から)



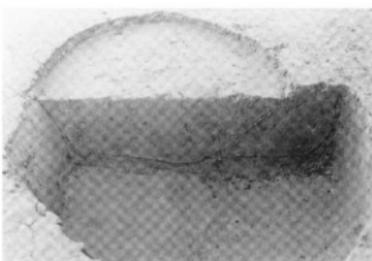
S K22・23 (西から)



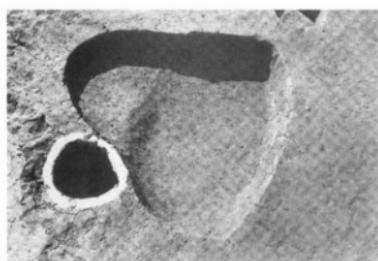
S K22・23断面 (東から)



S K24 (西から)



S K24断面 (西から)

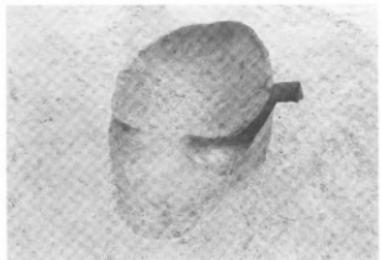


S K25 (東から)

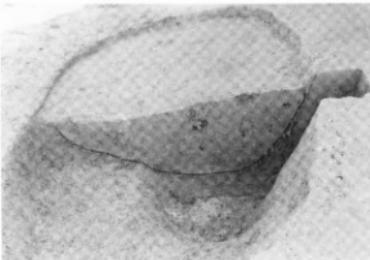


S K25断面 (東から)

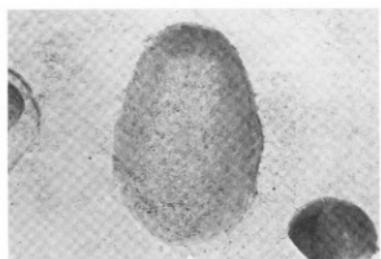
写真図版25 S K21~25



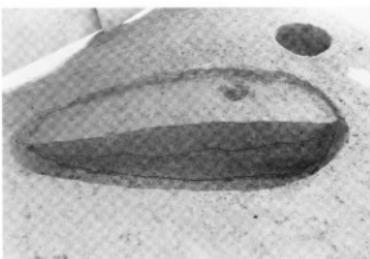
S K26 (西から)



S K26断面 (西から)



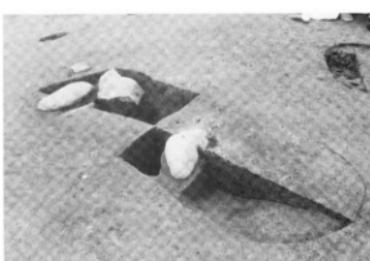
S K27 (北西から)



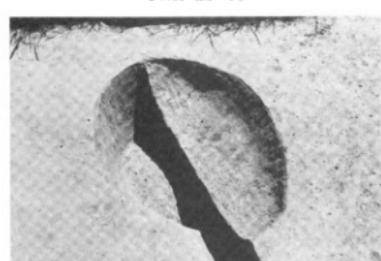
S K27断面 (北東から)



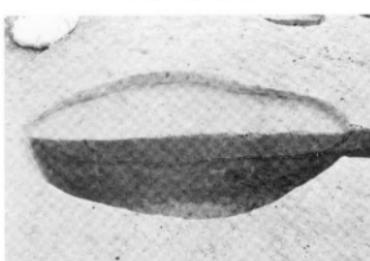
S K28 (西から)



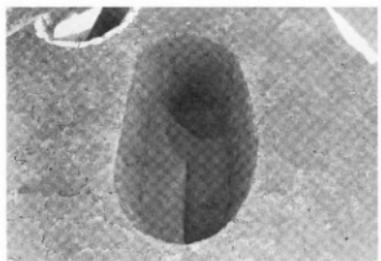
S K28断面 (南東から)



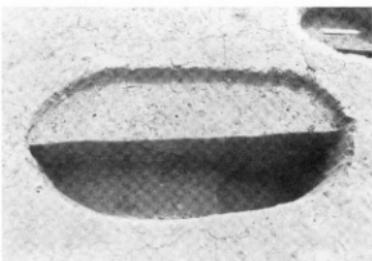
S K29 (西から)



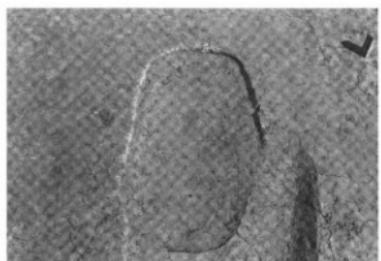
S K29断面 (北から)



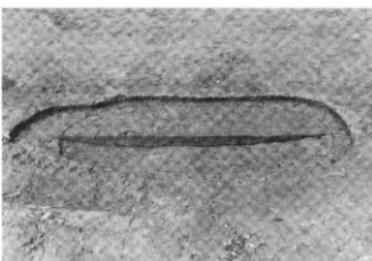
SK 30 (北から)



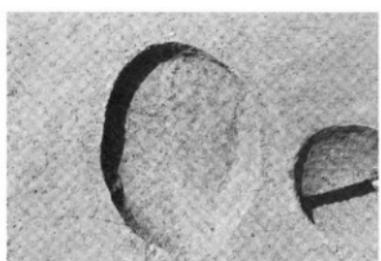
SK 29断面 (西から)



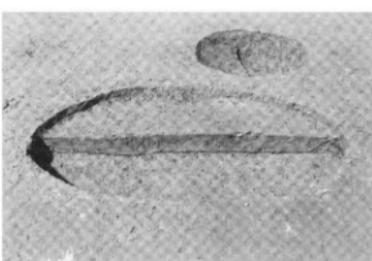
SK 31 (南から)



SK 31断面 (東から)



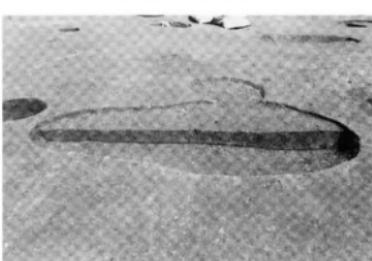
SK 32 (北から)



SK 32断面 (東から)



SK 33 (東から)

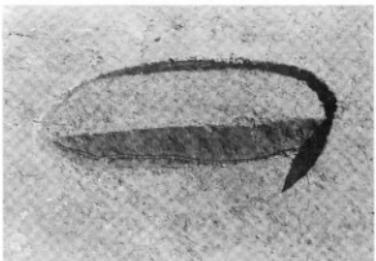


SK 33断面 (南から)

写真図版27 SK 30~33



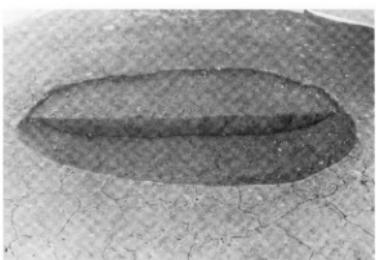
SK 34 (西から)



SK 34断面 (西から)



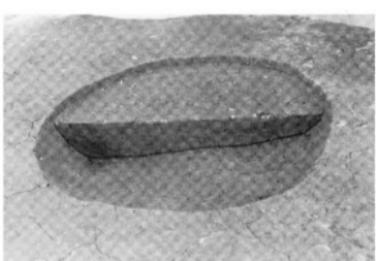
SK 35 (西から)



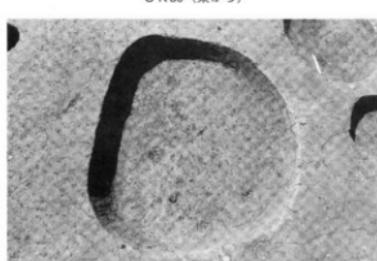
SK 35断面 (北から)



SK 36 (東から)



SK 36断面 (南から)



SK 37 (北から)

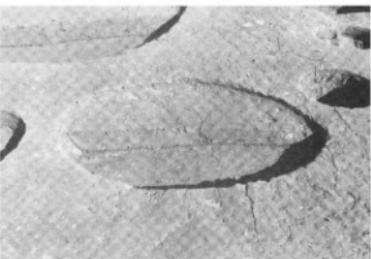


SK 37断面 (西から)

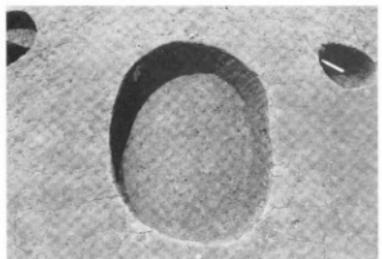
写真図版28 SK 34~37



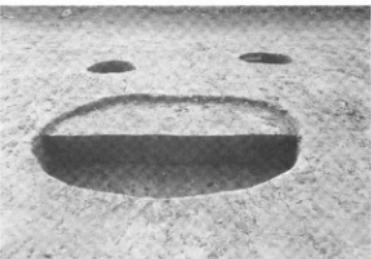
S K38 (北から)



S K38断面 (西から)



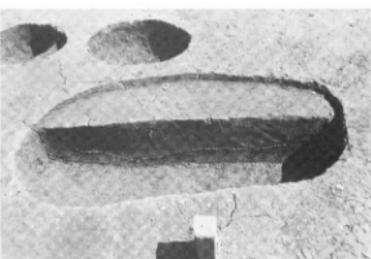
S K39 (北から)



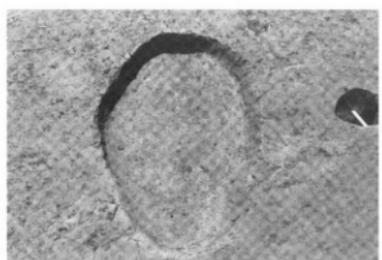
S K39断面 (東から)



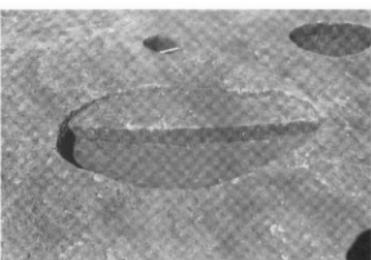
S K40 (北西から)



S K40断面 (南西から)

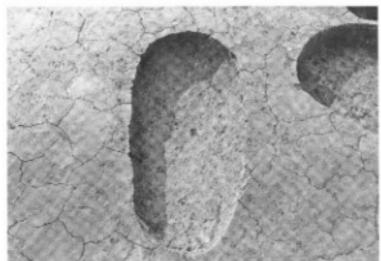


S K41 (北東から)

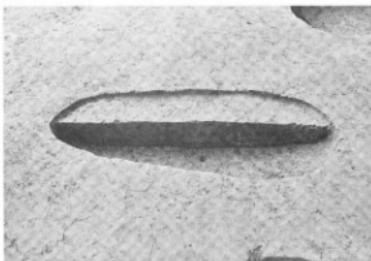


S K41断面 (南東から)

写真図版29 S K38~41



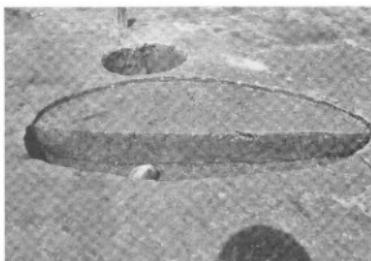
SK 42 (東から)



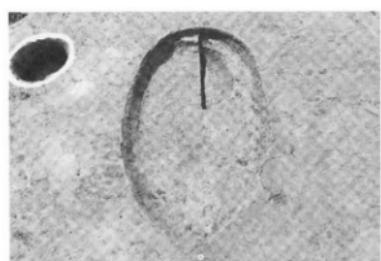
SK 42断面 (北から)



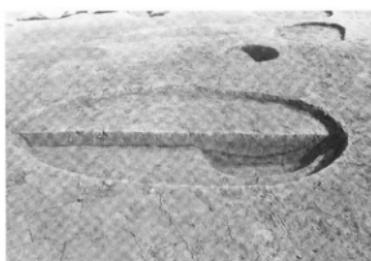
SK 43 (北東から)



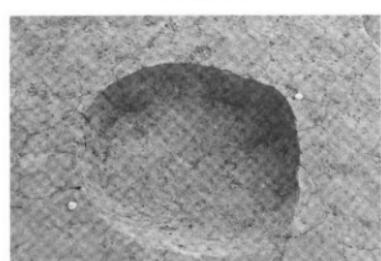
SK 43断面 (南東から)



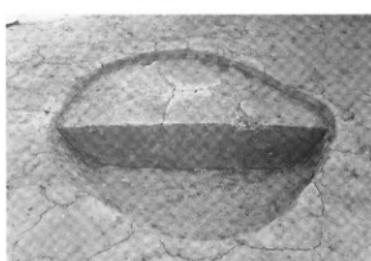
SK 44 (北から)



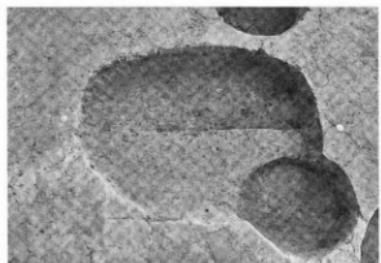
SK 44断面 (西から)



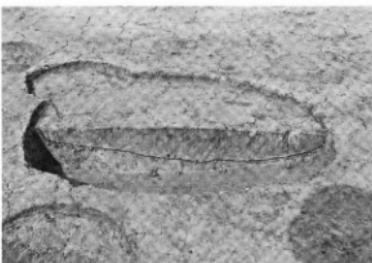
SK 45 (北から)



SK 45断面 (北から)



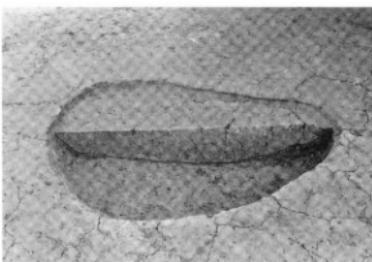
SK 46 (北東から)



SK 46断面 (南西から)



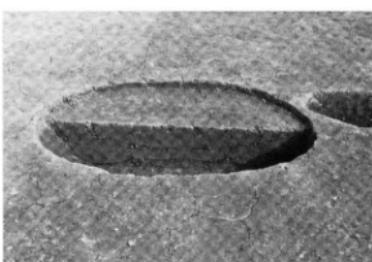
SK 47 (東から)



SK 47断面 (北から)



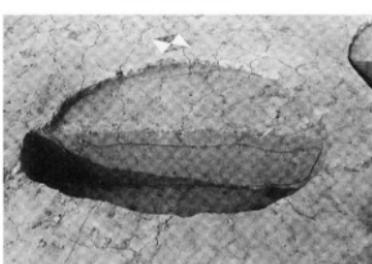
SK 48 (北から)



SK 48断面 (西から)



SK 49 (西から)

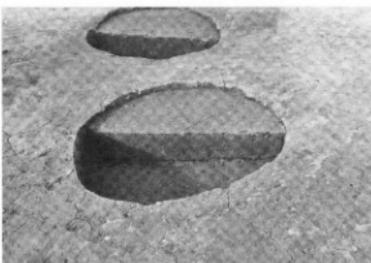


SK 49断面 (南から)

写真図版31 SK 46~49



S K50 (北から)



S K50断面 (南から)



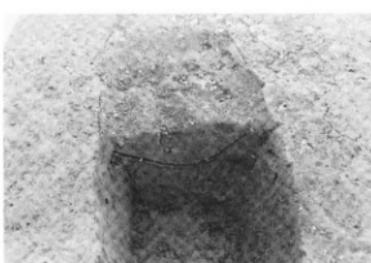
S K51 (北から)



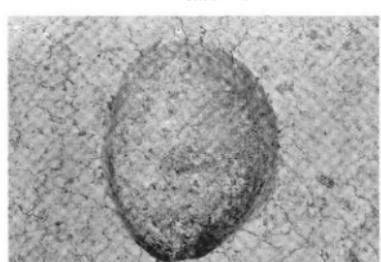
S K51断面 (南から)



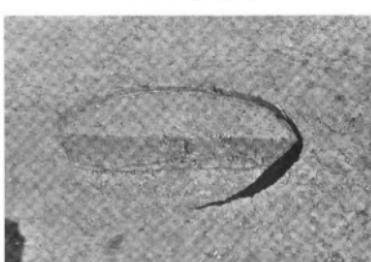
S K52 (北西から)



S K52断面 (南東から)



S K53 (西から)



S K53断面 (南から)

写真図版32 S K50~53



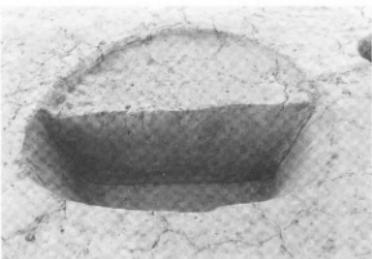
S K54 (北から)



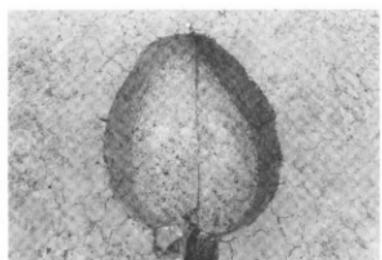
S K54断面 (南から)



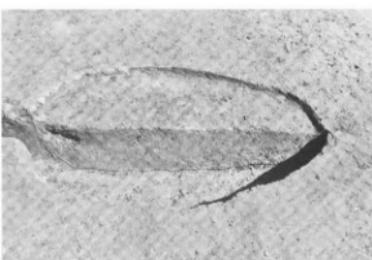
S K55 (北西から)



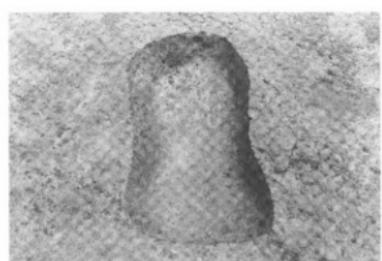
S K55断面 (南から)



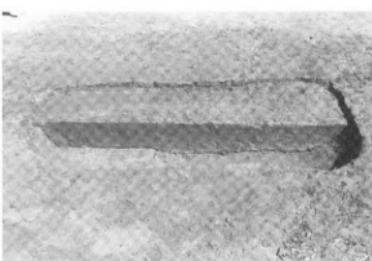
S K56 (北西から)



S K56断面 (南東から)



S K57 (南東から)

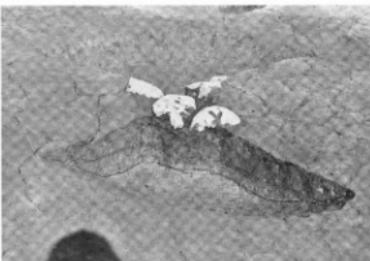


S K57断面 (南西から)

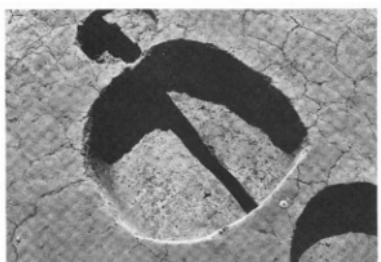
写真図版33 S K54~57



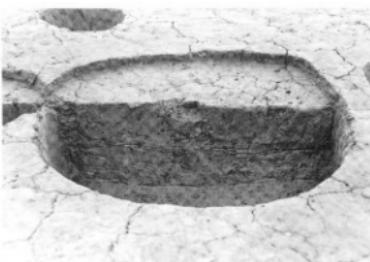
S K58 (東から)



S K58断面 (南から)



S K59 (南から)



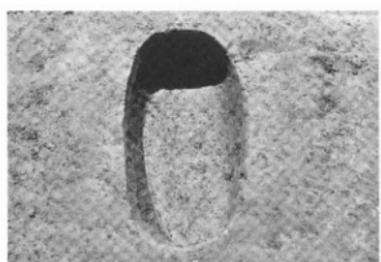
S K59断面 (北東から)



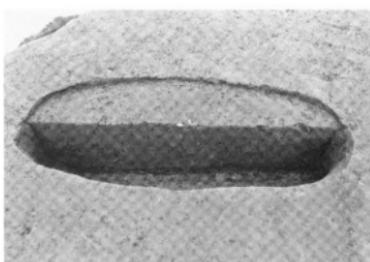
S K60 (北西から)



S K60出土状態 (北西から)

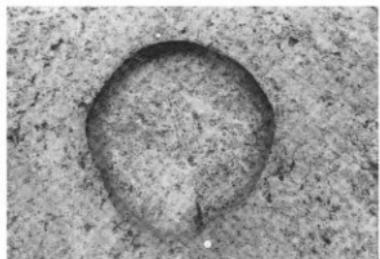


S K61 (北から)

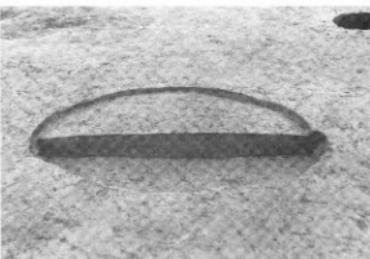


S K61断面 (東から)

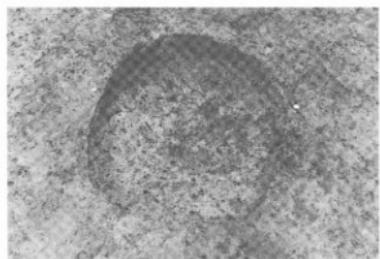
写真図版34 S K58~61



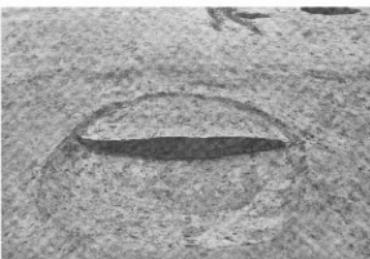
SK 62 (西から)



SK 62断面 (北から)



SK 63 (西から)



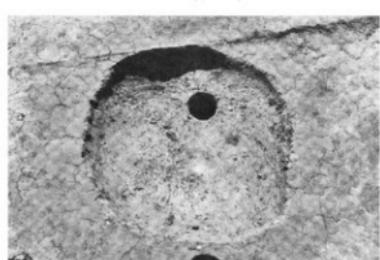
SK 63断面 (西から)



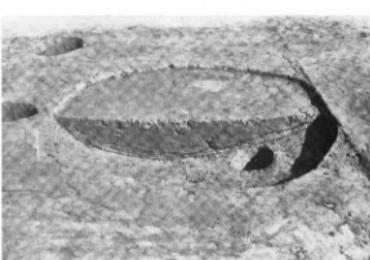
SK 64 (北から)



SK 64断面 (西から)



SK 65 (北から)

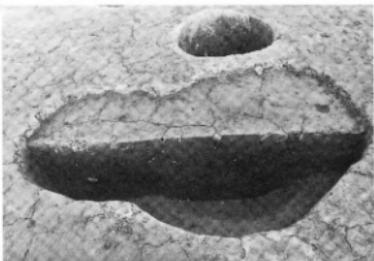


SK 65断面 (西から)

写真図版35 SK 62~65



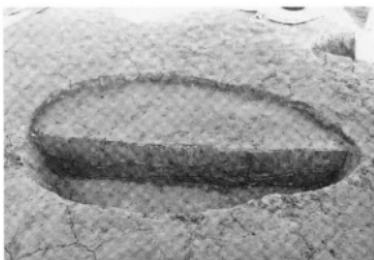
S K66 (北から)



S K66断面 (西から)



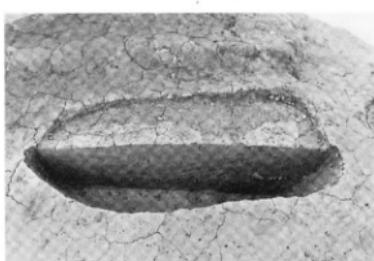
S K67 (北から)



S K67断面 (西から)



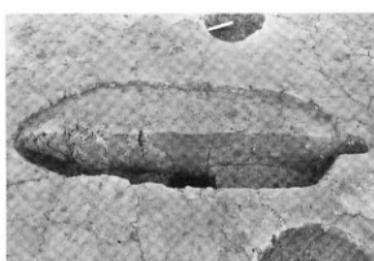
S K68 (北から)



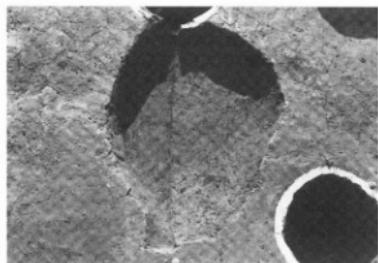
S K68断面 (東から)



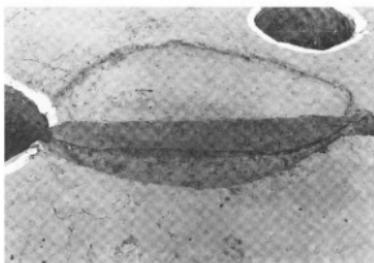
S K69 (東から)



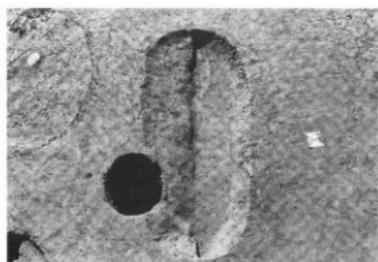
S K69断面 (南から)



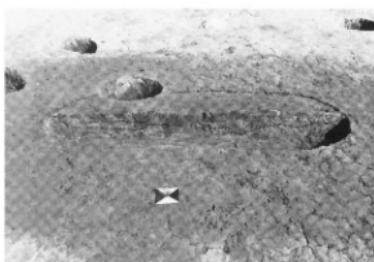
SK 70 (北東から)



SK 70断面 (南東から)



SK 71 (北から)



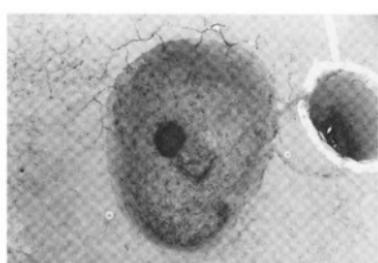
SK 71断面 (西から)



SK 72 (南東から)



SK 72断面 (南西から)



SK 73 (南から)

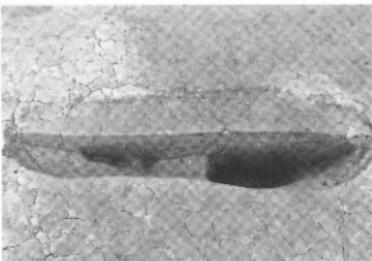


SK 73遺物出土状況 (南から)

写真図版37 SK 70~73



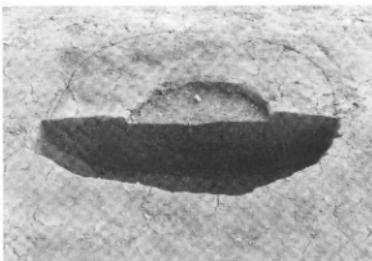
S K74 (東から)



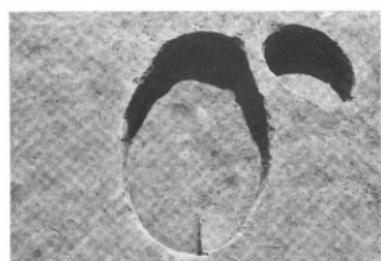
S K74断面 (南から)



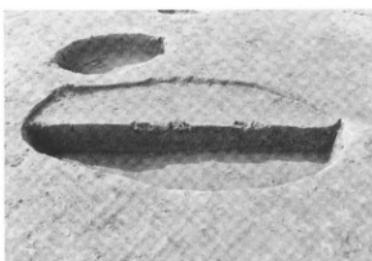
S K75 (東から)



S K75断面 (北から)



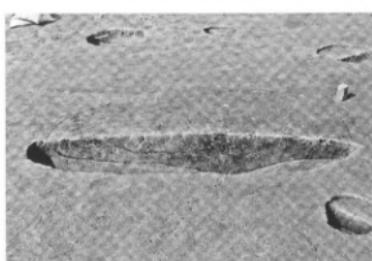
S K76 (北西から)



S K76断面 (北東から)



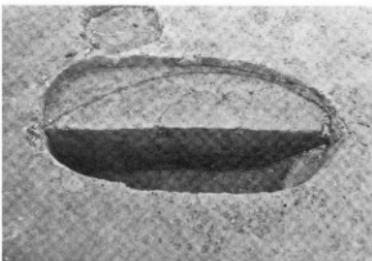
S K77 (北東から)



S K77断面 (南西から)



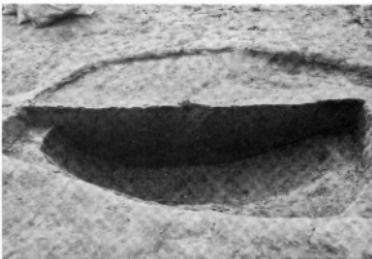
SK 78 (南西から)



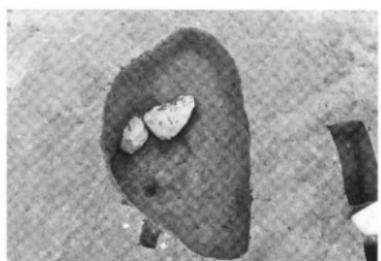
SK 78断面 (北西から)



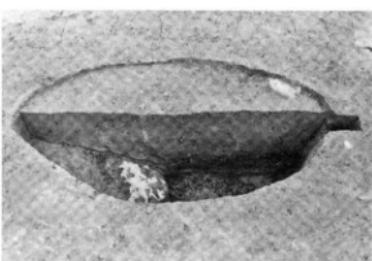
SK 79 (南から)



SK 79断面 (西から)



SK 80 (西から)



SK 80断面 (北から)

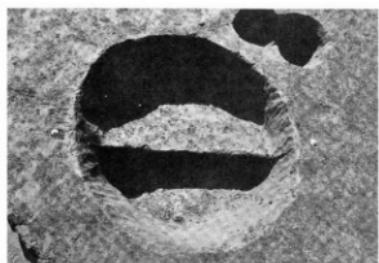


SK 81 (南から)

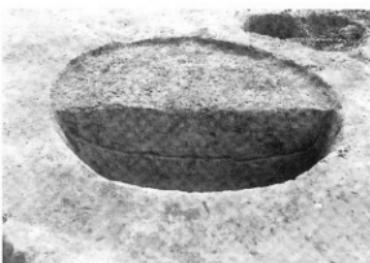


SK 81断面 (南から)

写真図版39 SK 78~81



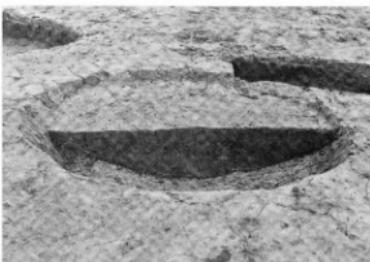
SK82 (北から)



SK82断面 (北から)



SK83 (東から)



SK83断面 (南から)



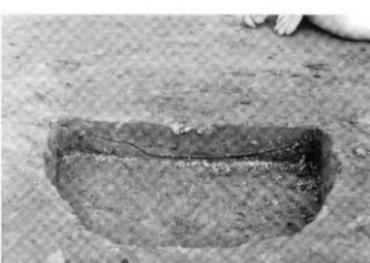
SK85 (東から)



SK86 (東から)



SK84 (東から)



SK84断面 (西から)



S D02~06全景（南から）



S D02断面（南から）



S D03断面（南から）

写真図版41 S D02~06



S D04・06断面（南から）

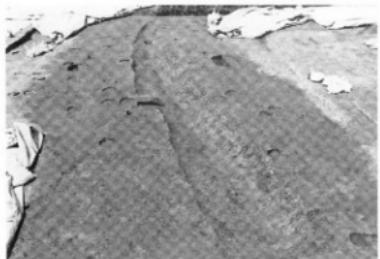


S D07・08全景（南から）

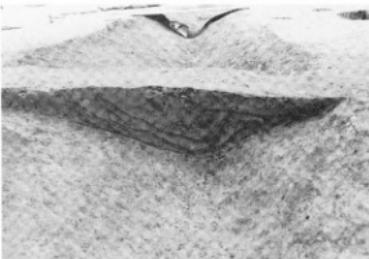


S D07・08断面（南から）

写真図版42 S D07・08



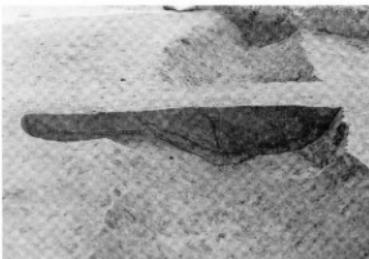
SD09全景 (東から)



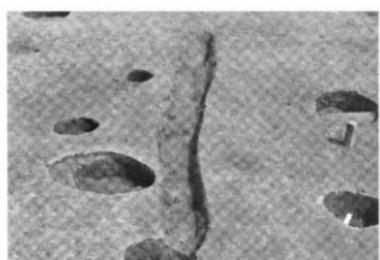
SD09断面 (西から)



SD10全景 (西から)



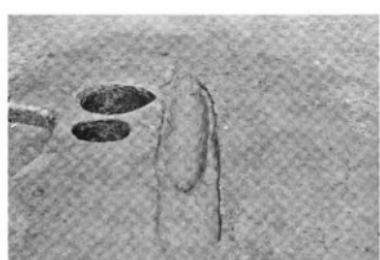
SD10断面 (南から)



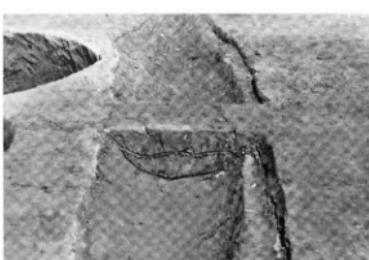
SD11全景 (西から)



SD11断面 (南から)

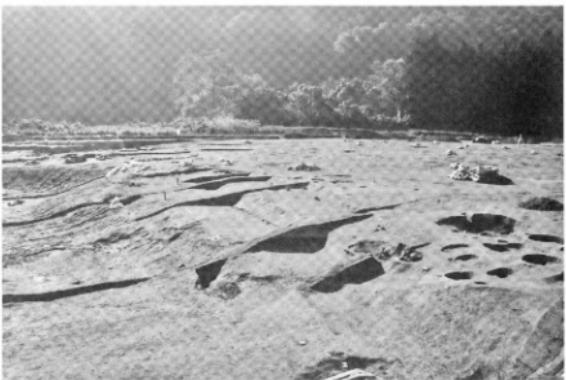


SD12全景 (西から)

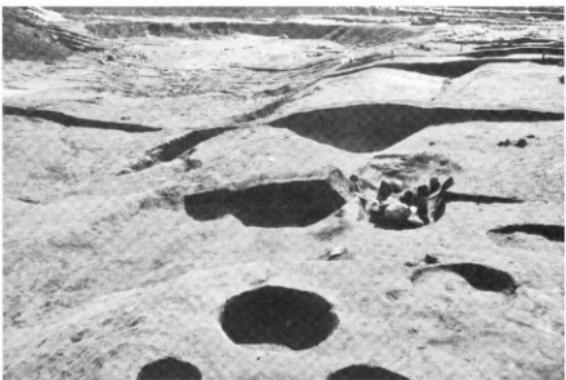


SD12断面 (南から)

写真図版43 SD09~12



S M01全景（北から）



S M01北側1（北から）



S M01北側2（北東から）



S M01北側3 (南西から)



S M01断面1 (南から)



S M01断面2 (南から)

写真図版45 S M01 (2)



S M01断面3（南から）



S M01断面4（南から）



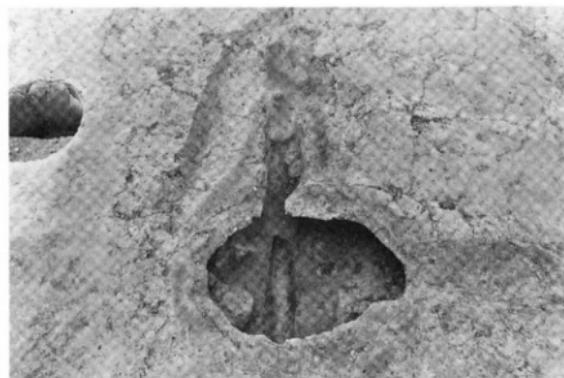
S M01断面4（南から）



SN01平面（東から）



SN02・03（東から）



SN04（東から）



S N05 (南から)

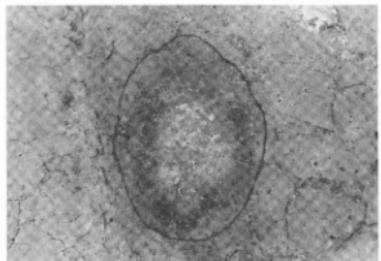


S N06 (東から)

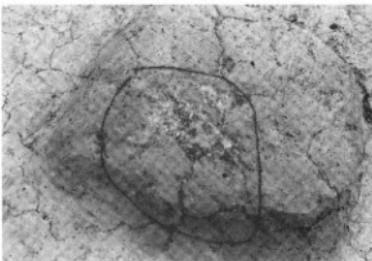


S N07 (南から)

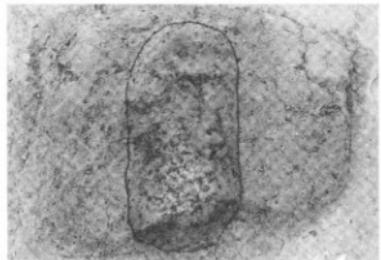
写真図版48 S N05~07



S N08 (東から)



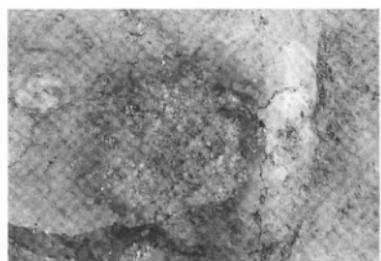
S N09 (西から)



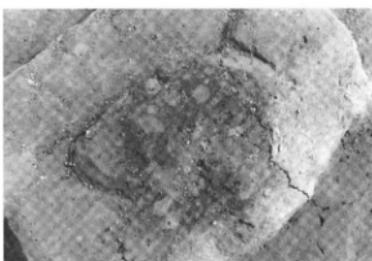
S N10 (東から)



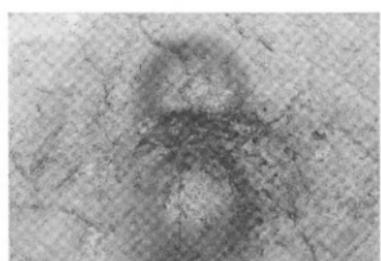
S N11 (東から)



S N12



S N13



S N14 (西から)



作業風景

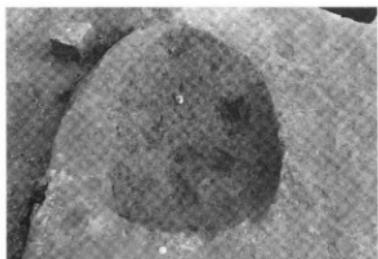
写真図版49 S N08~14、作業風景



S Z01 (北東から)



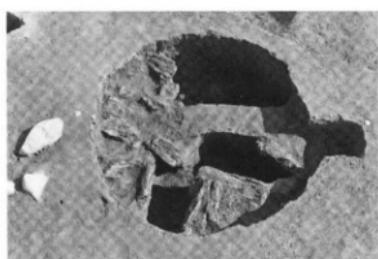
S Z02 (東から)



S Z03 (北東から)



S Z04 (南から)



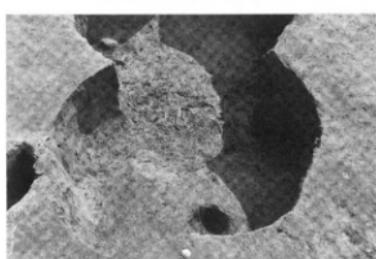
S Z05 桿出土状況 (西から)



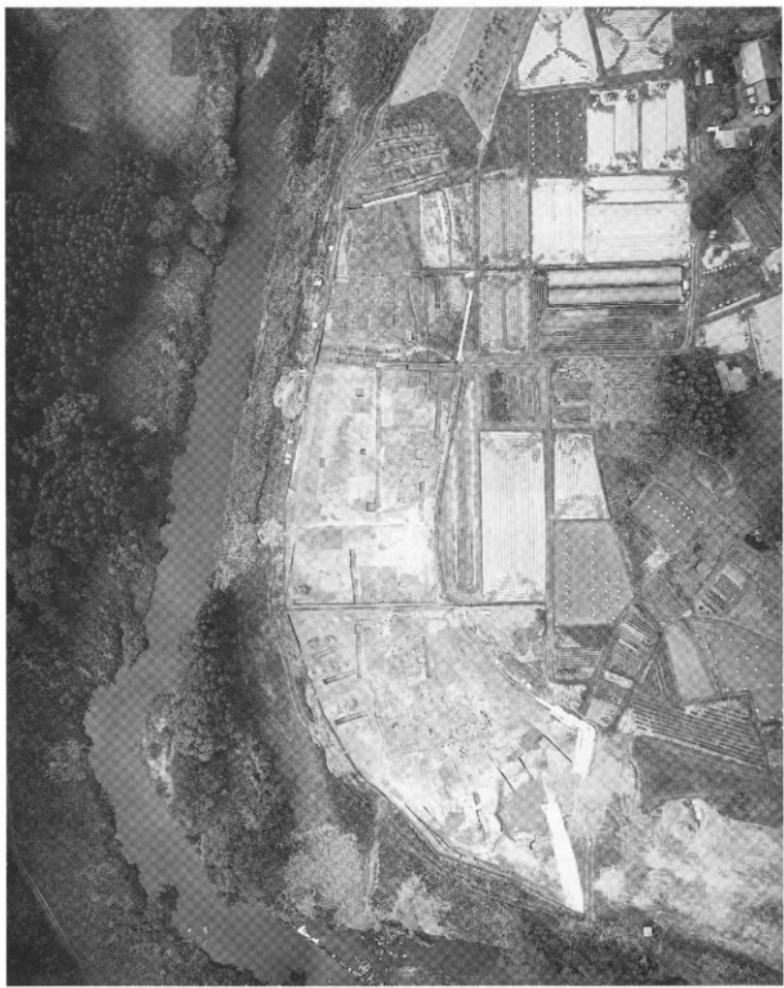
S Z04断面 (南から)



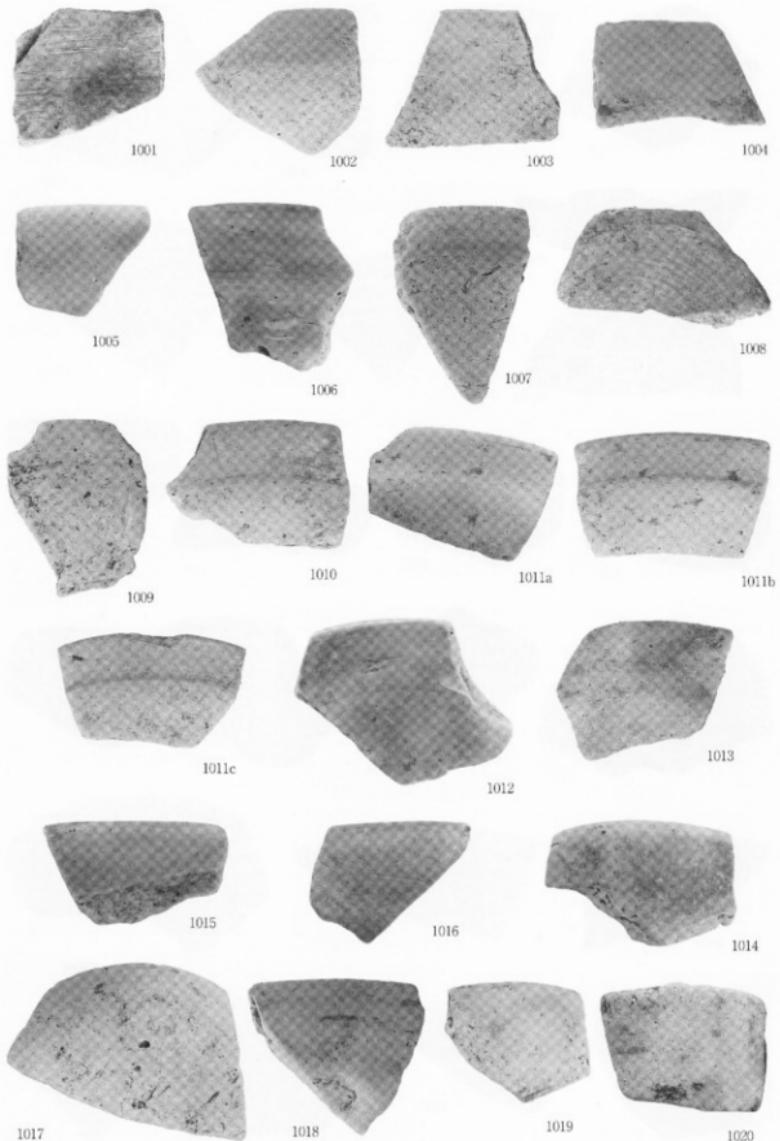
S Z05底板出土状況 (西から)



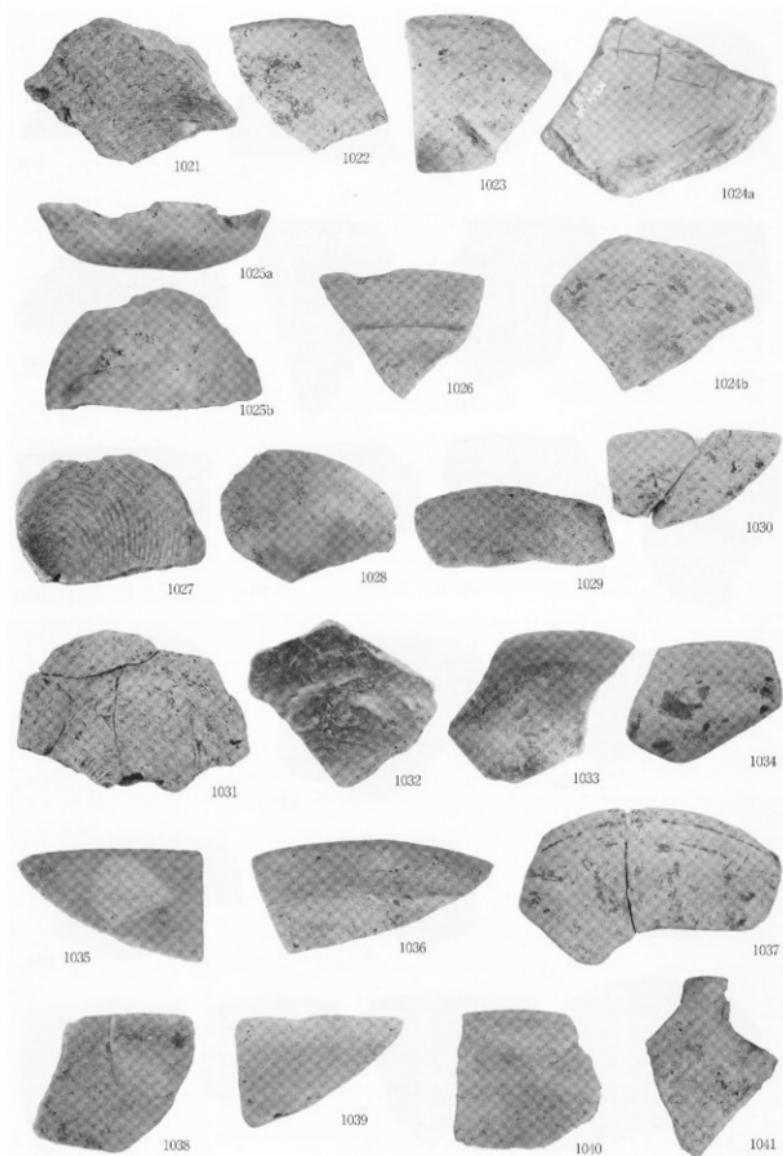
S Z06 (北から)



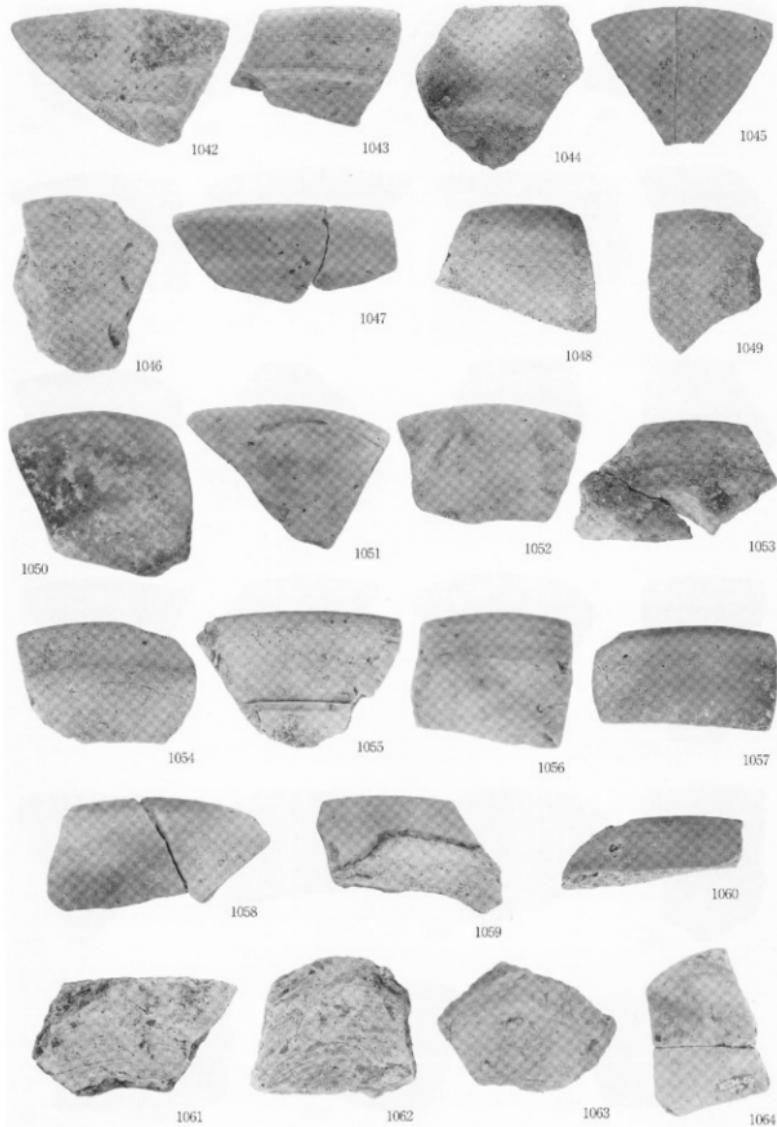
写真図版51 調査区全景（直上から、写真上が西）



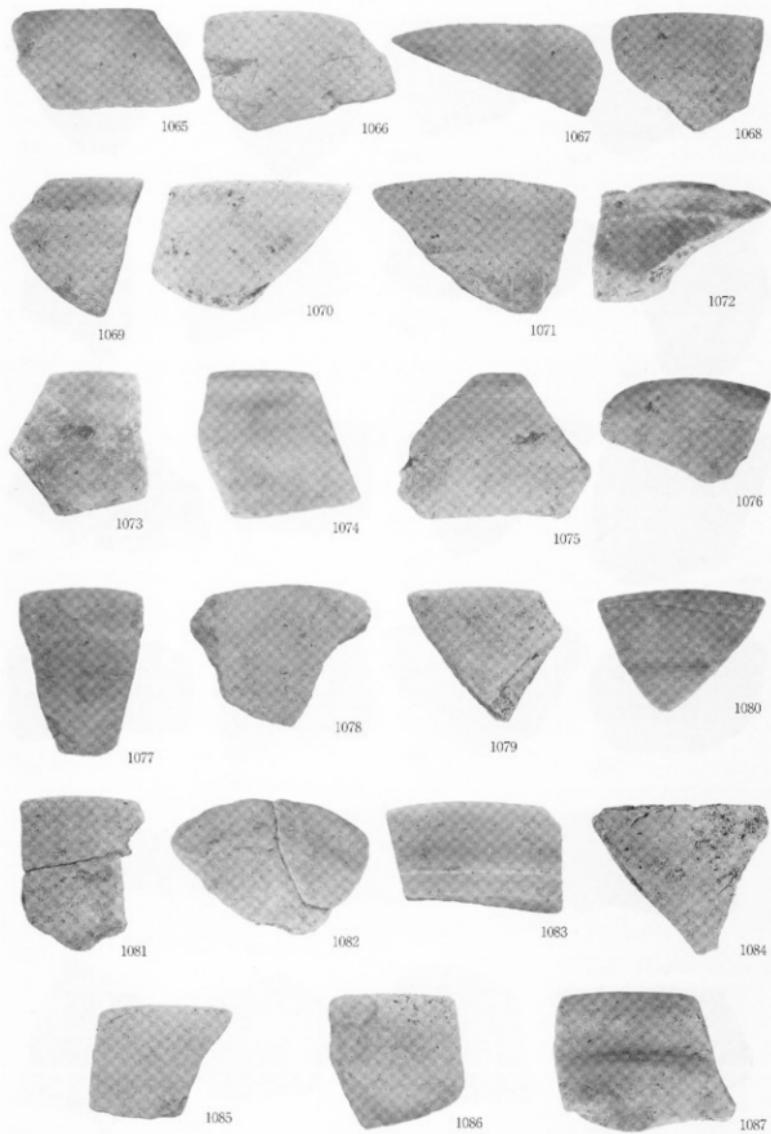
写真図版52 出土遺物（かわらけ1）



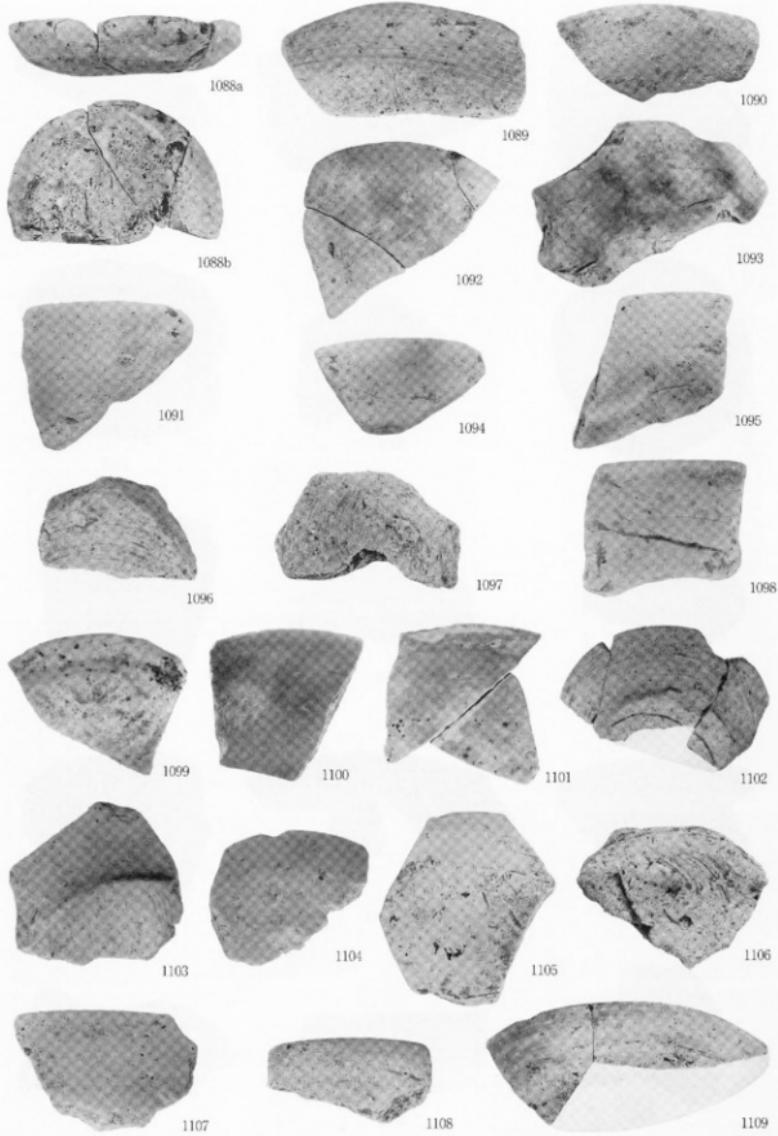
写真図版53 出土遺物（かわらけ2）



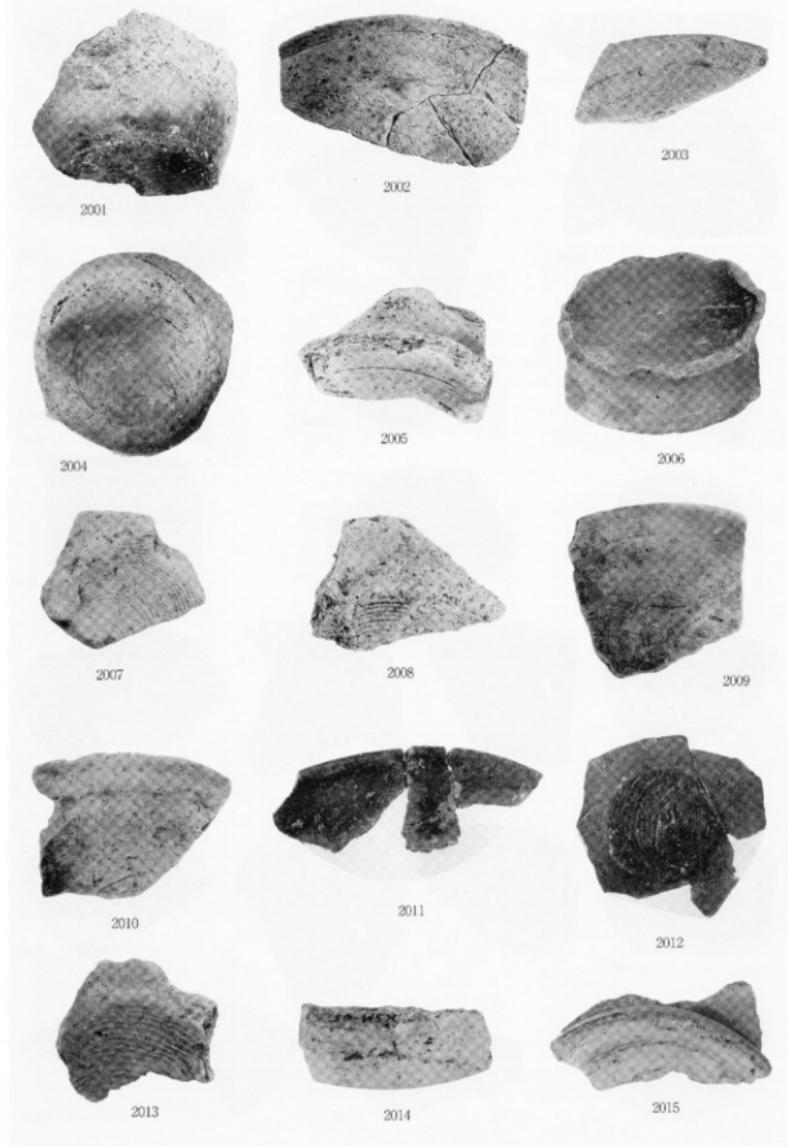
写真図版54 出土遺物（かわらけ3）



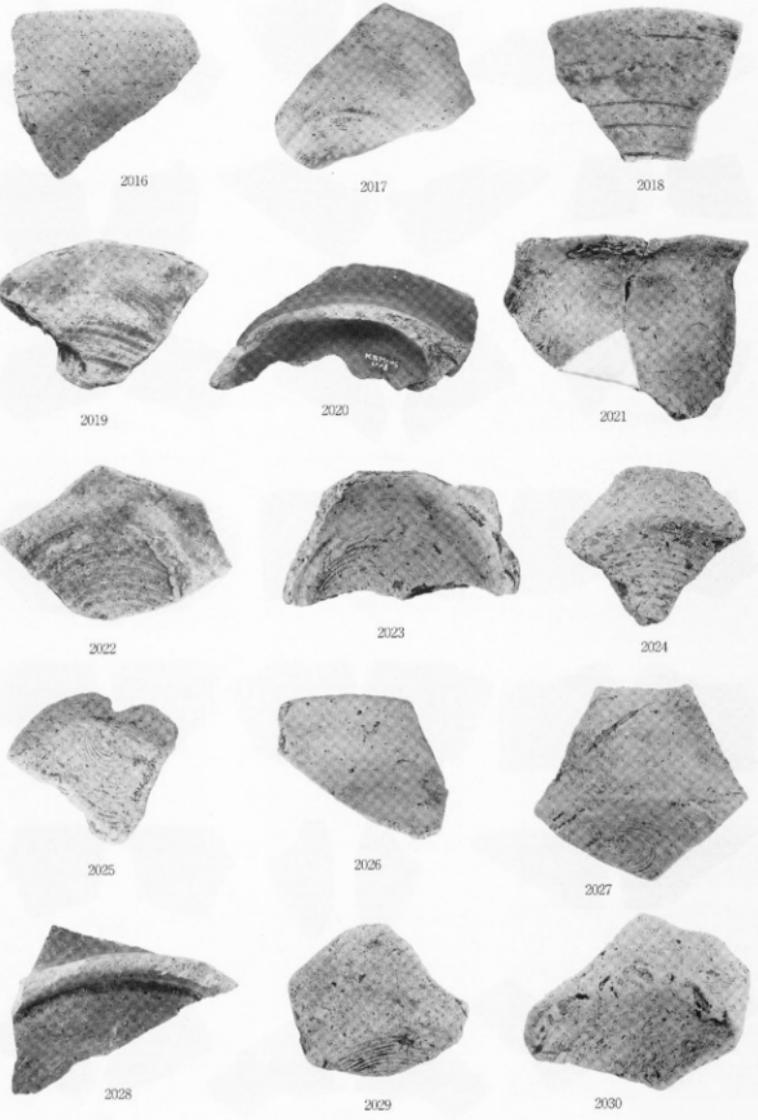
写真図版55 出土遺物（かわらけ4）



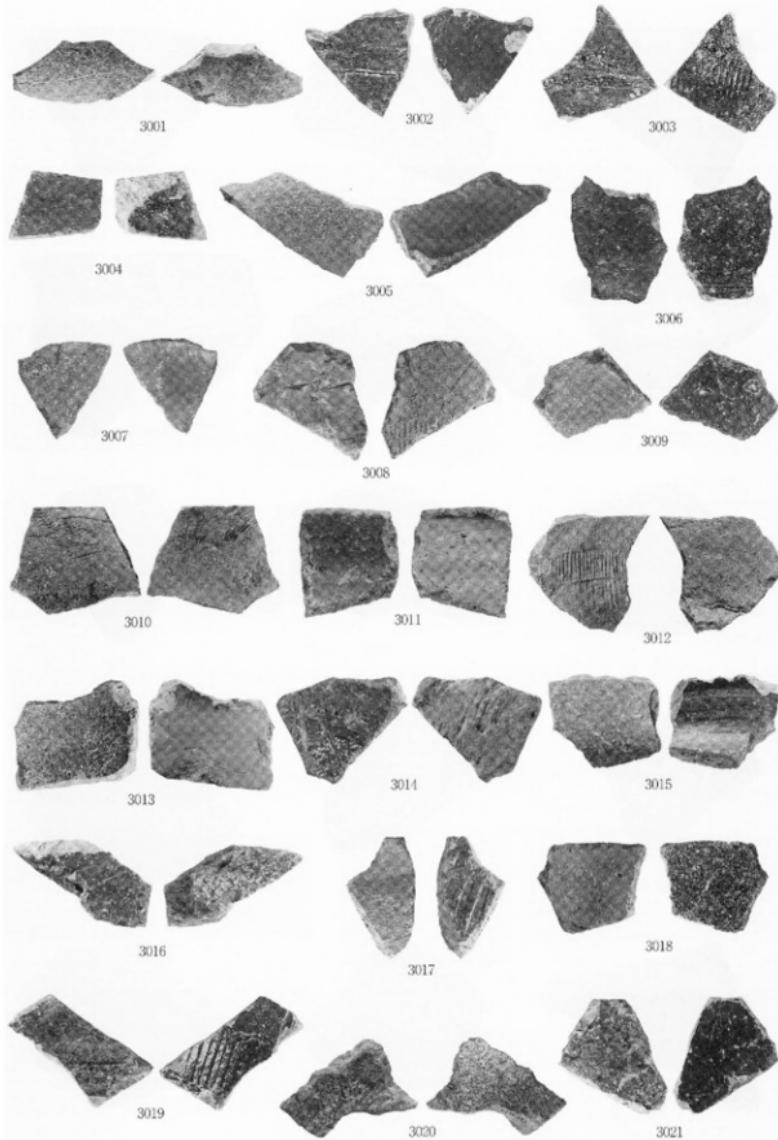
写真図版56 出土遺物（かわらけ5）



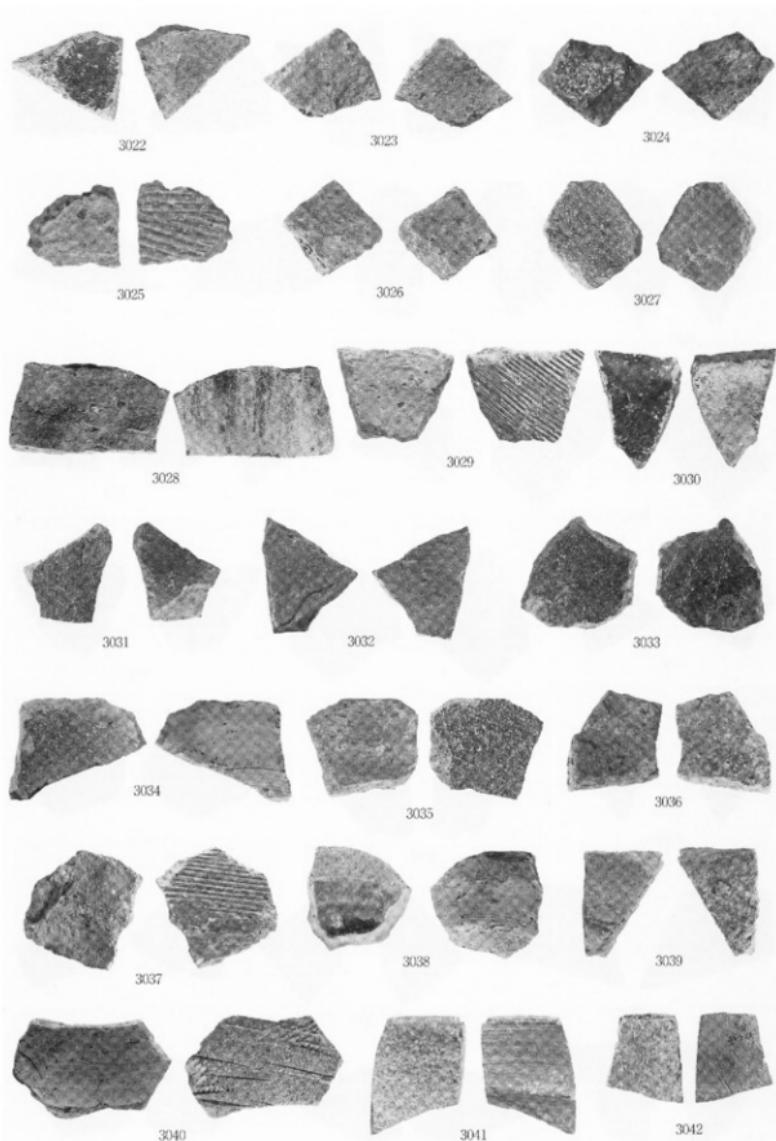
写真図版57 出土遺物（土師器 1）



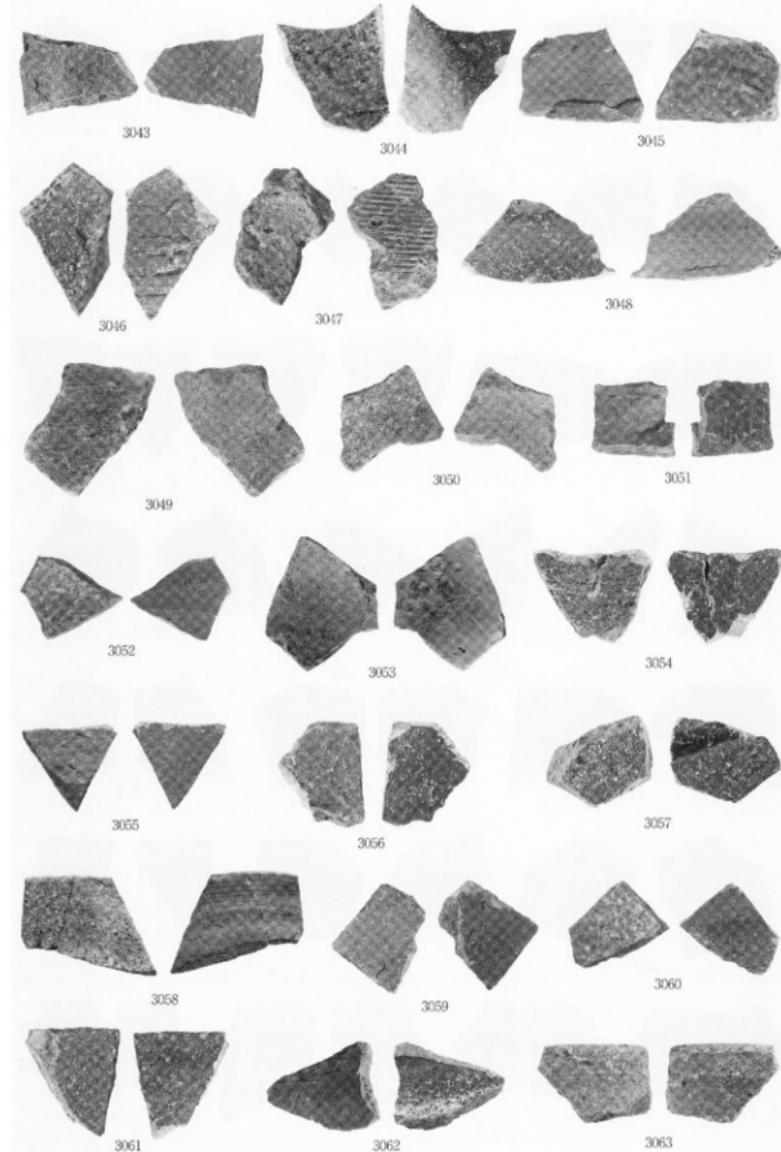
写真図版58 出土遺物（土師器 2）



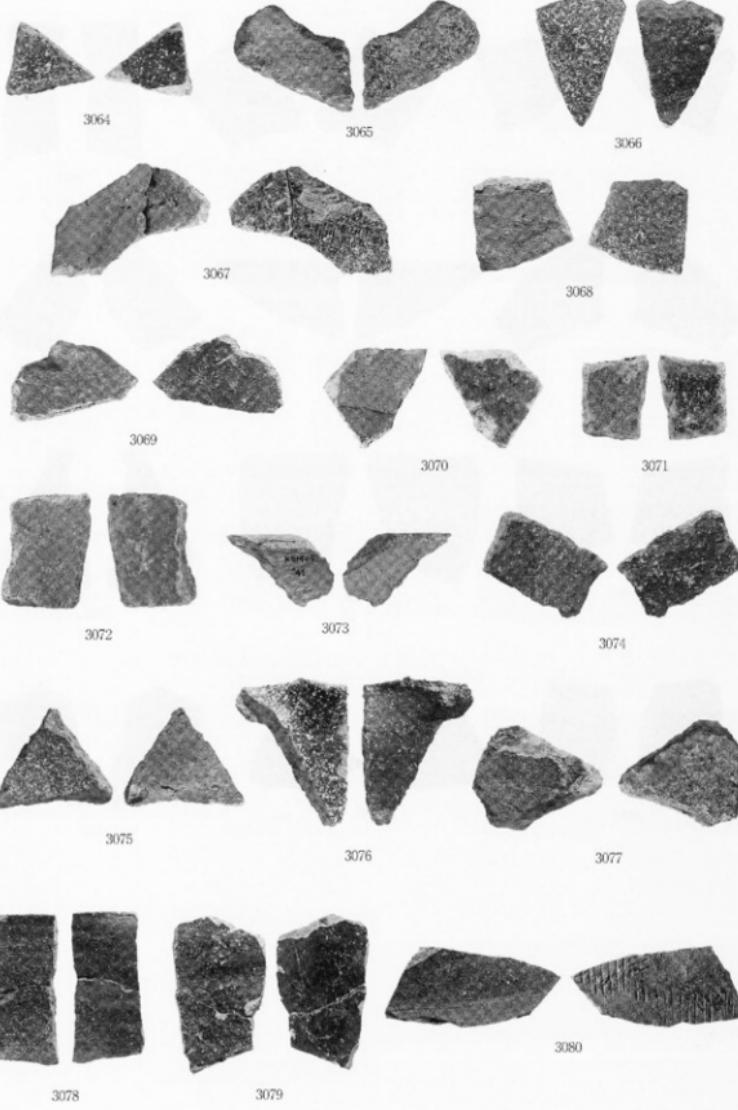
写真図版59 出土遺物（国産陶器 1）



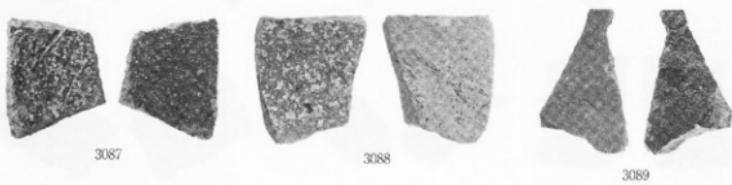
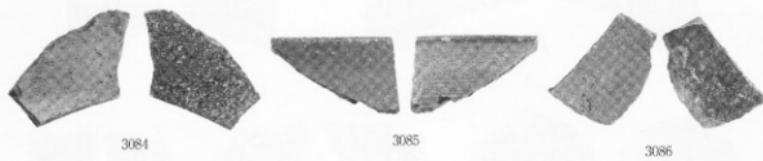
写真図版60 出土遺物（国産陶器2）



写真図版61 出土遺物（国産陶器 3）



写真図版62 出土遺物（国産陶器4）



写真図版63 出土遺物（国産陶器 5）



4001



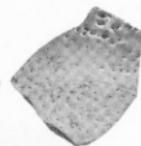
4002



4003



4004



4005



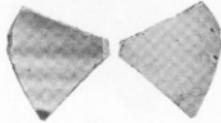
4006



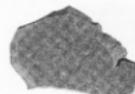
4007



4008



4009



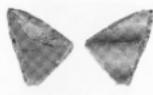
4010



4011



4012



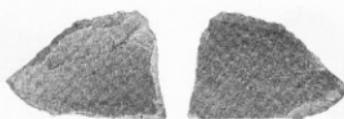
4013



4014



4015



4016

写真図版64 出土遺物（中国産陶磁器）



写真図版65 出土遺物（中・近世陶磁器 1）



5016



5017



5018



5019



5020



5021



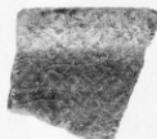
5022



5023



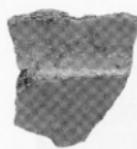
5024



5025



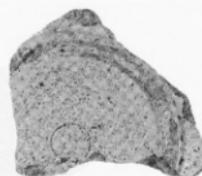
5026



5027



5028

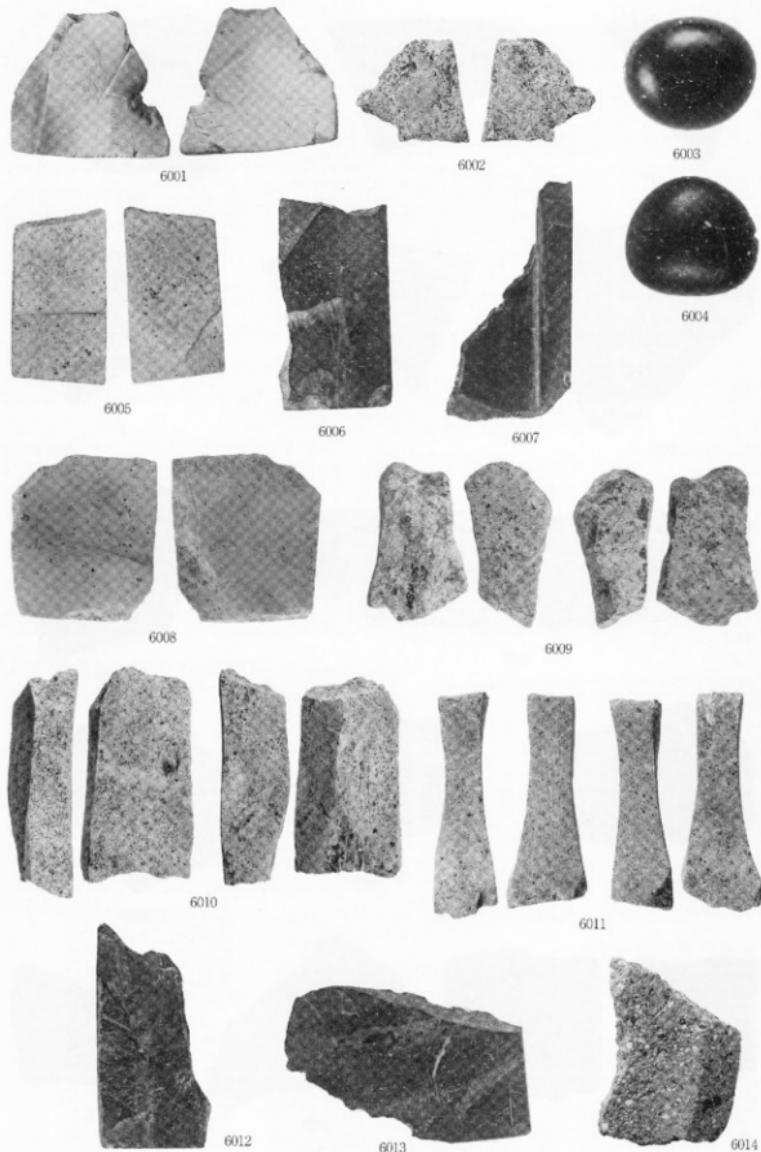


5029

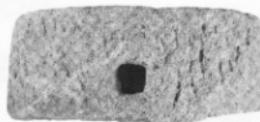
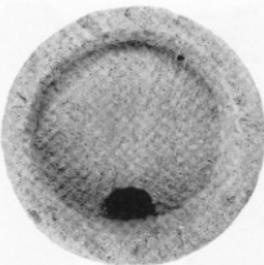
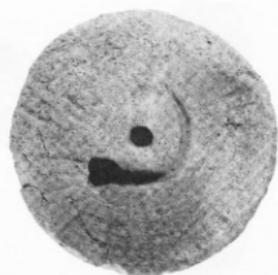


5030

写真図版66 出土遺物（中・近世陶磁器2）



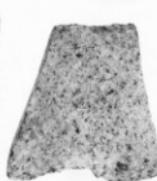
写真図版67 出土遺物（石製品1）



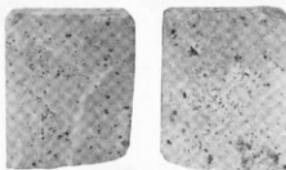
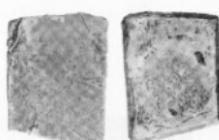
6015



6016



6017



6018



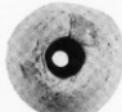
6019



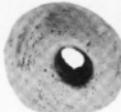
6020



7001



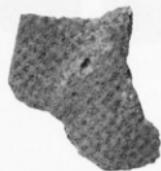
7002



7003



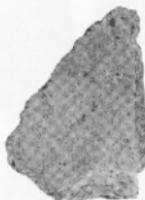
7004



7005



7006



7007



7008

写真図版69 出土遺物（土製品）

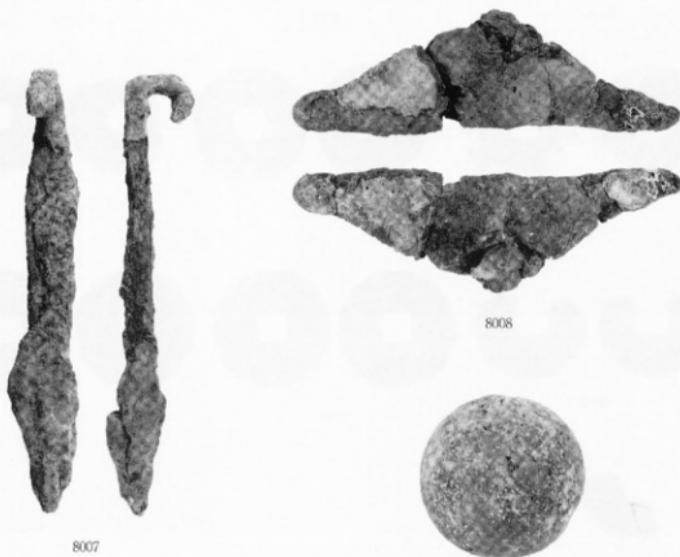


8001

8002

8005

8006



8008

8007

8009



8010

8011

8012



8013

8014

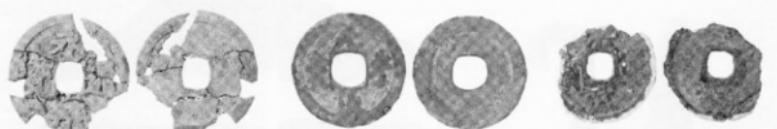
8015



8016

8017

8018



8019

8020

8021

8022

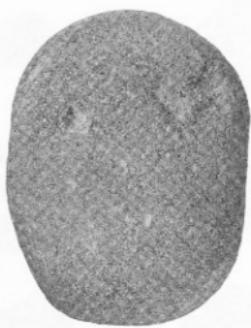
8023

8024



8025

写真図版71 出土遺物（古銭）



9001



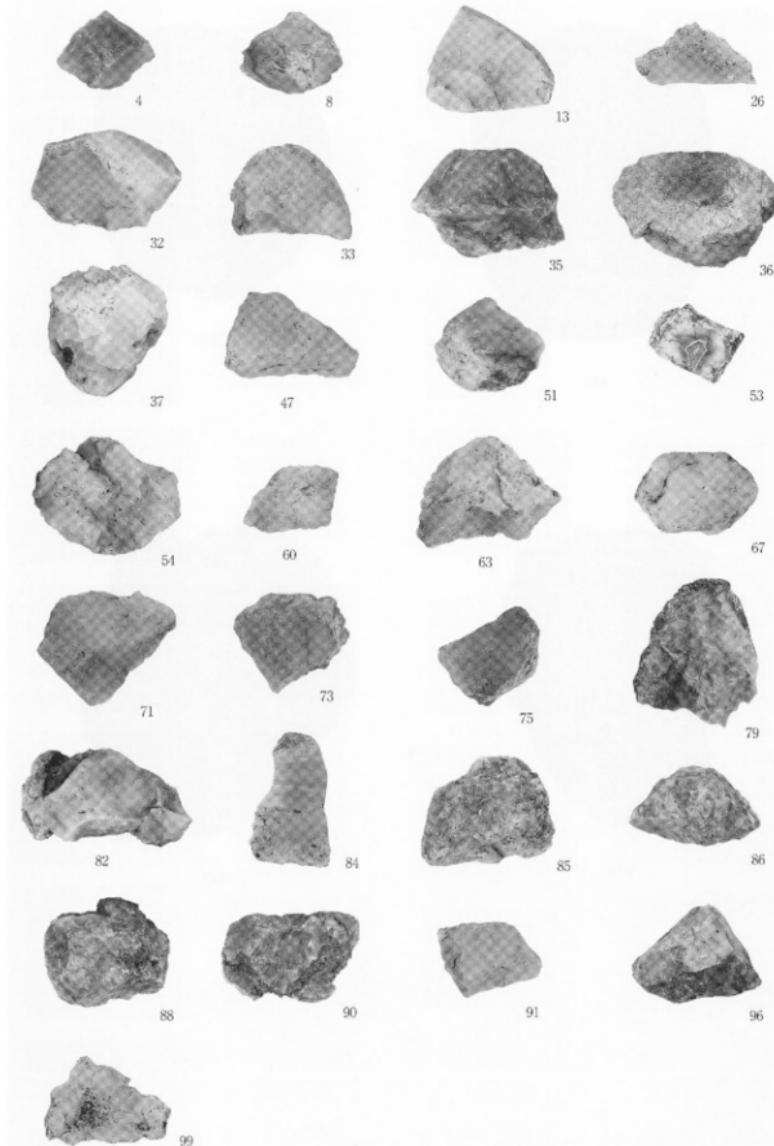
9002



9003



9004



写真図版73 出土遺物（火打ち石）

第2次調査
写 真 図 版



調査前の状況（西から）



調査終了時の状況（西から）

写真図版 II-1 調査区全景



ブルーシートと雑物の除去



同左



重機による雑物処理



検出作業（明るく見えるのが一次調査の柱穴）



池状遺構の状況（雑物除去前・北から）



同左（雑物除去後）



池状遺構付近の盛り土保護作業（人力）



同左（重機）

写真図版 II-2 調査再開時の状況



A地点の土層断面（南から）



段丘崖に沿って黒色帯となって現れた旧表土層（VI層）の落ち際（西から）
これより川側（右側）には洪水堆積層による新たな地形面が形成され、平安時代以降の遺跡の分水界となっている。
第一次調査の「池状遺構」は黒色土層の延長上、段丘崖と洪水堆積層の間に生じた自然の溢水帯に位置する。

写真図版II-3 基本土層（1）



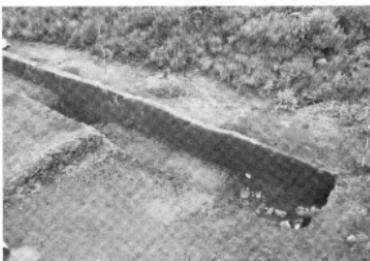
A地点（北から）



B地点（南東から）



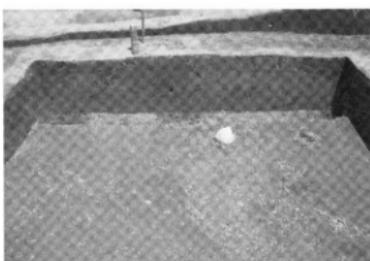
C地点（南東から）



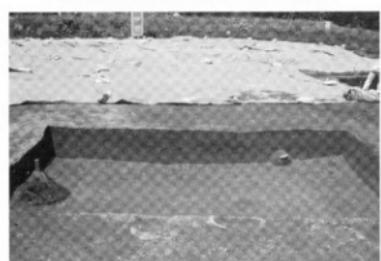
D地点（南東から）



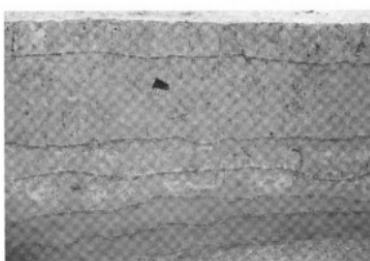
D点地東端〔「池状遺構」州浜とされる疊群付近〕



E地点（南から）



F地点（南から）



G地点（南から）

写真図版 II-4 基本土層 (2)



調査区西部柱穴群（調査区西端部の状況・西から）



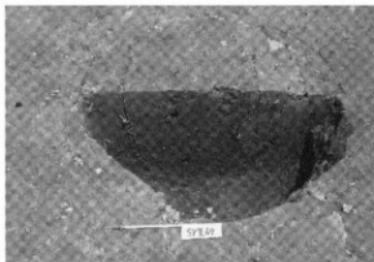
調査区西部柱穴群（池状遺構西縁部の状況・東から）



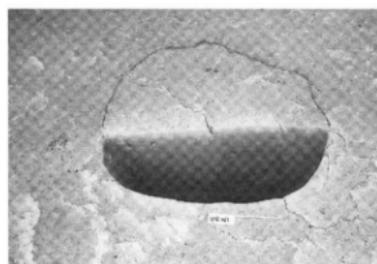
池東区建物跡（S B II 05～08）



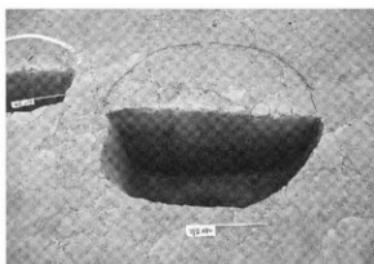
中央部柱穴群（B地点付近）



S P II 69断面



S P II 261断面



S P II 280断面

写真図版 II-6 建物跡・柱穴群（2）

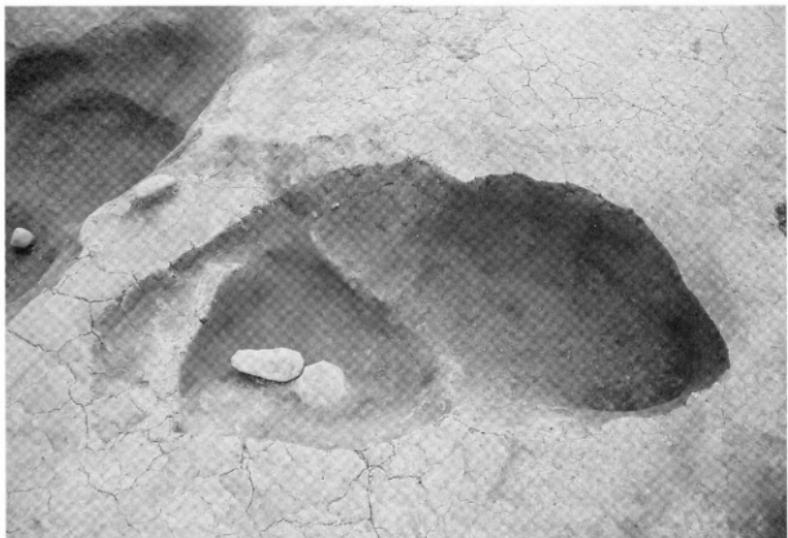


竪穴状遺構 S I II 01、土坑 S K II 01～07（東から）

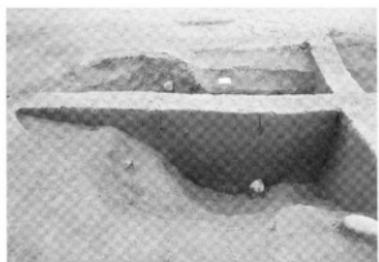


同上（西から）

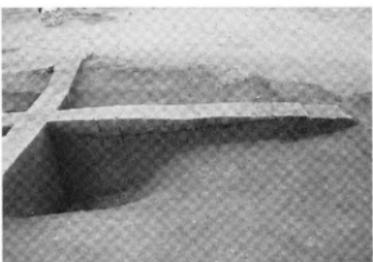
写真図版 II-7 竪穴状遺構 S I II 01 及び周辺土坑群



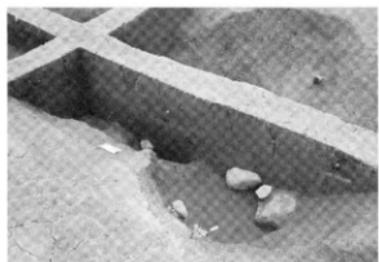
土坑SK II 03・04（東から）



共通断面a-a'（東半）



共通断面a-a'（西半）

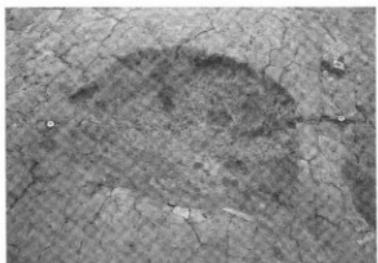


共通断面b-b'（東半）

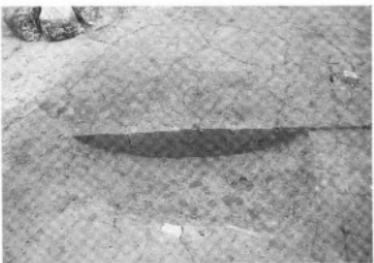


共通断面c-c'（北半）

写真図版II-8 穫穴状遺構S I II 01及び周辺土坑群（2）



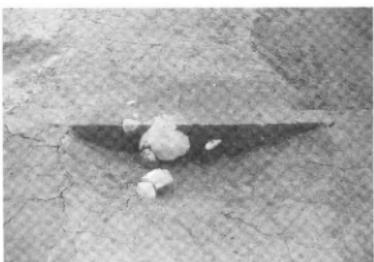
土坑SK II 01



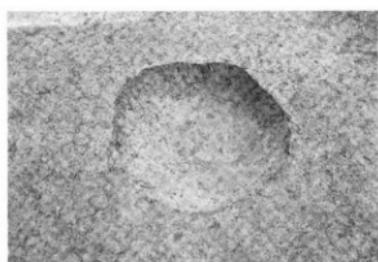
土坑SK II 01断面



土坑SK II 02



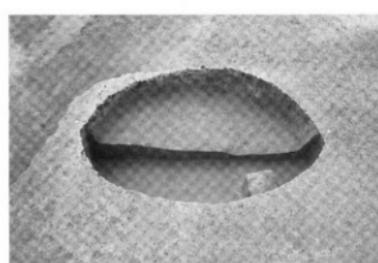
土坑SK II 02断面



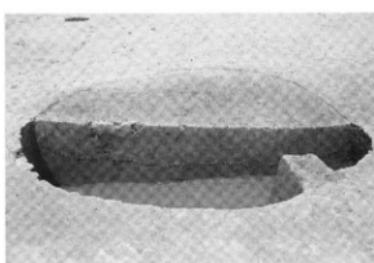
土坑SK II 10



土坑SK II 10断面



土坑SK II 09



土坑SK II 09断面

写真図版II-9 他の土坑



溝跡 SD II-01 (南東から)

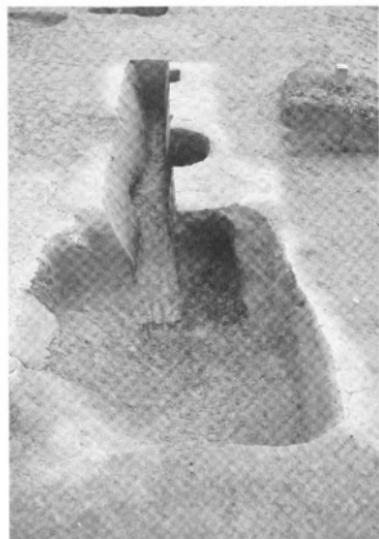


溝跡 SD II-02 (南東から)

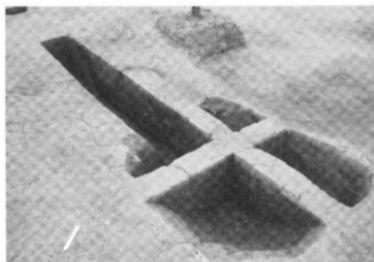
写真図版 II-10 溝跡 (1)



溝跡 S D II 02付近のかわらけ分布状況（東から）



カマド状造構 S N II 01

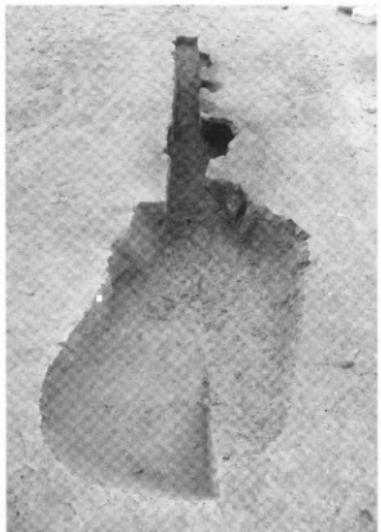


同左断面

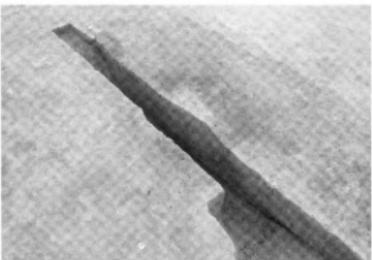


燃焼部～煙道部

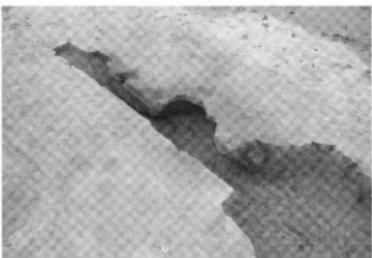
写真図版 II-11 溝跡（2）、カマド状造構（1）



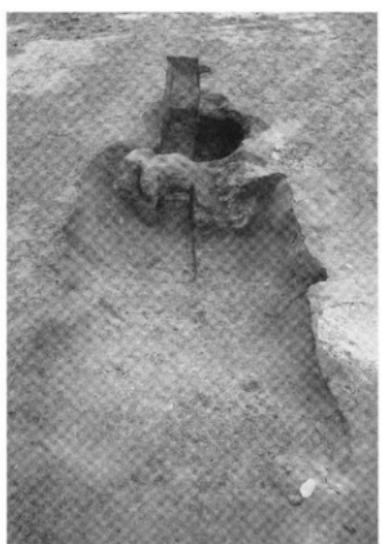
カマド状遺構 S N II-02



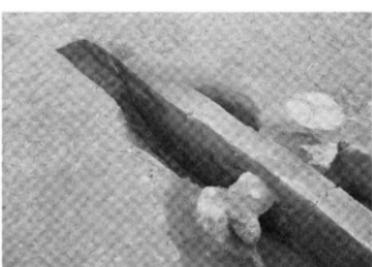
同左断面



同左燃焼部～煙道部



カマド状遺構 S N II-03

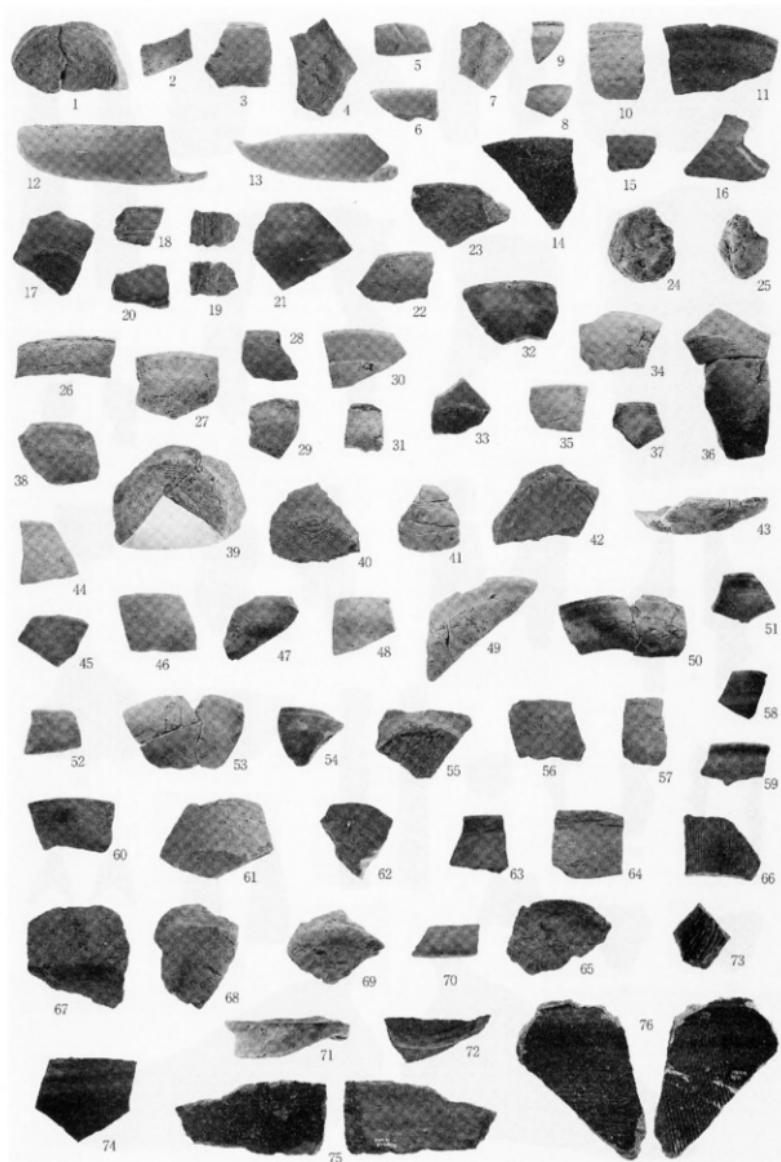


同左断面

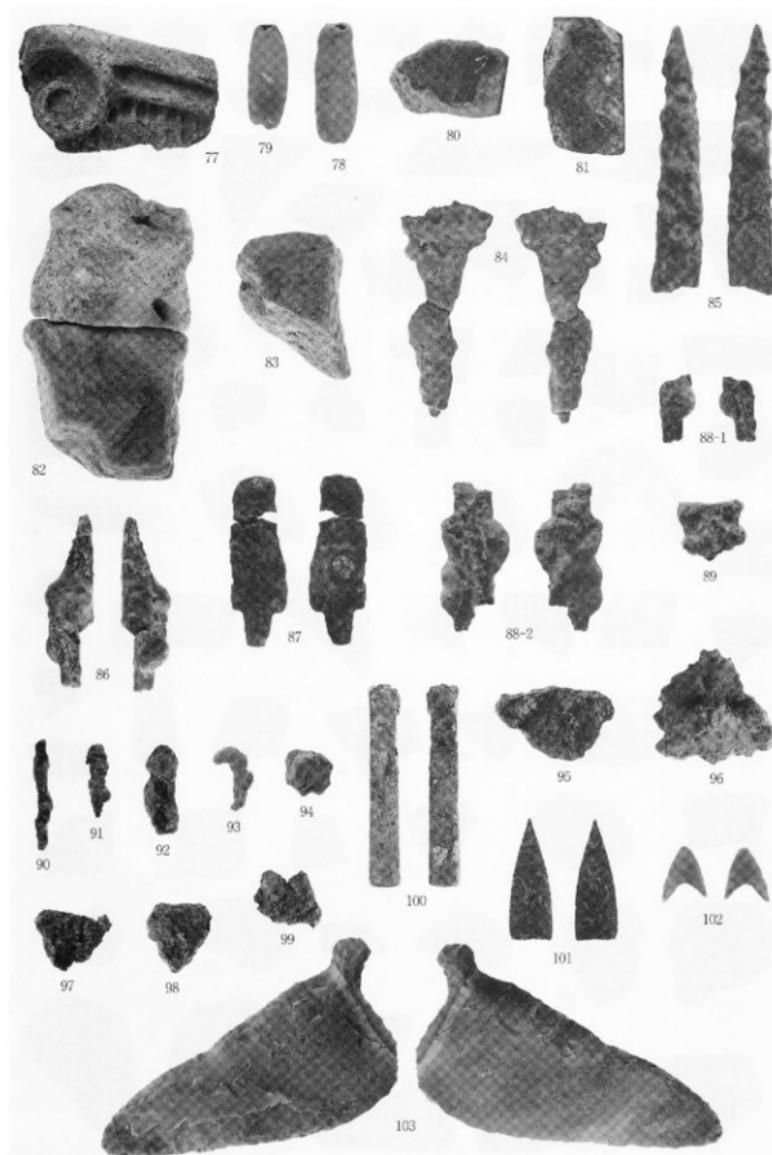


前庭部底面の火山灰出土状況

写真図版 II-12 カマド状遺構 (2)



写真図版 II-13 出土遺物 (1)



写真図版 II-14 出土遺物 (2)

報告書抄録

ふりがな	ころものせきみちいせきだいいち・にじはくつちょうさほうこくしょ						
書名	衣の関道遺跡第1・2次発掘調査報告書						
副書名	一関遊水地事業衣川左岸築堤工事関連遺跡発掘調査						
卷次							
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ番号	第550集						
編著者名	村上拓・福島正和・須原拓						
調査機関	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター						
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地 TEL (019) 638-9001						
発行年月日	2010年2月19日						
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号				
衣の関道遺跡 (第1・2次)	岩手県奥州市衣川 区下衣川字閑谷起 ほか	03215	NE65- 2351	39度 00分 18秒	141度 05分 55秒	2005.04.11~ 2005.11.14 2008.04.11~ 2008.07.22	14,800m ² 7,600m ²
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
衣の関道遺跡 (第1次)	集落跡	古代		土師器 須恵器 灰釉陶器			
		12世紀	池状遺構 テラス状遺構	1箇所 1箇所	かわらけ 国産陶器 中国産磁器		
		中・近世	掘立柱建物 墓域 カマド状遺構	5棟 6基 14基	陶磁器 石製品		
		時期不明	掘立柱建物 土坑 溝 柱穴	25棟 86基 12条 1209個		柱穴は古代～中・ 近世とみられる	
衣の関道遺跡 (第2次)	集落跡	縄文時代		縄文土器 石器			
		古代		土師器 須恵器			
		12世紀	土坑 溝	2基 2条	かわらけ		
		中・近世	土坑 溝 カマド状遺構	7基 1条 3基	陶器		
		時期不明	掘立柱建物 土坑 柱穴	20棟 1基 458個	鉄製品	柱穴は12世紀及び 中・近世とみられる	
要約	衣川左岸に立地する遺跡である。掘立柱建物、池状遺構などの遺構やかわらけ、国産陶器、中国産磁器等の遺物が出土した。						

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第550集
衣の関道遺跡第1・2次発掘調査報告書

一関遊水地事業衣川左岸築堤工事関連遺跡発掘調査

印 刷 平成22年2月15日

発 行 平成22年2月19日

編 集 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地
電話 (019) 638-9001

発 行 国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所
〒020-0066 岩手県盛岡市上田四丁目2-2
電話 (019) 624-3131

岩手県文化振興事業団
〒020-0023 岩手県盛岡市内丸13番地1号
電話 (019) 654-2235

印 刷 桃杜陵印刷
〒020-0122 岩手県盛岡市みたけ二丁目22番地50号
電話 (019) 641-8000
